

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第102集

# 矢 迫 遺 跡

2002

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

## 序

愛知県のはば中央に位置する豊田市では、古くから矢作川の恵みに育まれて人々は生活を続けてきました。これまでに旧石器時代から遺跡が存在していることが明らかとなっており、今日の工業都市としての繁栄は、こうした歴史的な蓄積の上に成り立っていたものと思われます。

今回、発掘調査を行いました矢迫遺跡でも、古墳時代から江戸時代までの長期にわたる遺構や遺物が確認されました。特に、東日本では初めて検出された古墳時代後期の「大壁建物跡」は渡来人との関係を考える上で貴重な成果となっています。また、鍛冶に関連する遺物が発見されたことも、金属加工技術の広がりを知る上で大いに参考となる資料となりました。こうした遺構や遺物の発見は、豊田市南部地域の豊かな歴史を明らかにしていく貴重な手がかりとなることでしょう。

本書で掲載された調査成果が様々な形で活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながっていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施に際して、地元住民の方々をはじめ、関係者および関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げる次第です。

平成14年8月

財団法人愛知県教育サービスセンター  
理事長 井上銀治

## 例言

- 1、本書は、愛知県豊田市鶯鶴町字矢追に所在する矢追遺跡（遺跡番号 63477）の発掘調査報告書である。
- 2、発掘調査は、日本道路公団が進めている第二東海自動車道建設工事に伴う事前調査として、日本道路公団から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財團法人愛知県埋蔵文化財センター（当時）が実施した。
- 3、調査期間は平成9年12月から平成10年3月まで、調査面積は3500m<sup>2</sup>である。
- 4、発掘調査は赤塚次郎（主査）、鈴木正貴（調査研究員）、加藤博紀（調査研究員：現蟹江高等学校教諭）の各調査研究員が担当した。
- 5、発掘調査に引き続き、平成13年度に報告書作成のための整理作業を、財團法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センターが実施した。遺構および出土遺物の整理は鈴木正貴が担当した。なお、金属関連遺物については、穴澤義功氏に多大なご教示を得て、藤山誠一（調査研究員）と共に整理作業を行った。
- 6、出土遺物の整理と報告書作成に関わる作業において以下の方々の協力を得た。  
神谷巳佳・土倉崇子（以上調査研究補助員）、秋田道子・阿辺山孔子・伊藤恵・奥本真由美・小倉明子・妹尾美佐穂・浜島奈保美・真崎千恵子（以上整理補助員）
- 7、遺構の写真撮影は各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は福岡栄氏の手を煩わせた。
- 8、本書の執筆と編集は鈴木正貴が行ったが、第3章第3節の一部を川添和暁（調査研究員）が分担し、第4章第1節については大澤正己氏、鈴木瑞穂氏（九州テクノリサーチ株式会社）にお願いした。
- 9、本書で使用した遺構の略記号は次の通りである。  
S A ……構列跡、S B ……建物跡、S D ……溝、S K ……土坑、S X ……その他
- 10、今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第Ⅷ系に基づくものであり、海拔標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。ただし、表記については、旧基準「日本測地系」とした。
- 11、本書で使用した土壤色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土壤色帳』に準じた。
- 12、発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係各機関・各位にご協力、ご指導を得た。  
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、豊田市教育委員会、鶯鶴公民館、穴澤義功、天野博之、尾野善裕、加藤安信、城ヶ谷和広、長谷川章、長谷川義雄、花田勝広、藤澤良祐、松井孝宗、森泰通（五十音順、敬称略）

# 目次

第1章 調査の概要.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 歴史的・地理的環境.....	1
第2章 遺構.....	7
第1節 基本層序と遺構の概要.....	7
第2節 竪穴建物跡.....	9
第3節 大壁建物跡.....	23
第4節 掘立柱建物跡.....	28
第5節 溝.....	43
第6節 土坑.....	45
第7節 その他の遺構.....	48
第3章 遺物.....	49
第1節 出土遺物の概要と分析方法.....	49
第2節 土師器・須恵器・陶磁器類.....	51
第3節 石器・石製品.....	63
第4節 鉄製品・鉄関連遺物.....	66
第4章 自然科学的分析.....	83
第1節 鍛冶関連遺物・鉄製品の金属学的調査.....	83
第5章 考察とまとめ.....	100
第1節 矢追遺跡の遺構変遷.....	100
第2節 矢追遺跡の大壁建物について.....	102
第3節 まとめ.....	104
参考・引用文献.....	105
報告書抄録.....	106
付表 遺構一覧表.....	107
遺物一覧表.....	118
図版 遺構図版.....	125
写真図版.....	136

## 挿図・挿表目次

第1図 矢追遺跡位置図（1）	1	第47図 石器・石製品実測図（1）	63
第2図 矢追遺跡位置図（2）	2	第48図 石器・石製品実測図（2）	64
第3図 矢追遺跡調査区位置図	3	第49図 石器・石製品実測図（3）	65
第4図 調査区周辺図（昭和38年）	4	第50図 石器・石製品実測図（4）	66
第5図 調査区周辺地籍図（明治17年）	5	第51図 鉄製品・鉄関連資料実測図（1）	68
第6図 調査区周辺地形分類図	6	第52図 鉄製品・鉄関連資料実測図（2）	69
第7図 基本土層断面図	7	第53図 分析資料観察表（1）	74
第8図 主要遺構配置図	8	第54図 分析資料観察表（2）	75
第9図 竪穴建物跡S B 01～S B 02遺構図	10	第55図 分析資料観察表（3）	76
第10図 竪穴建物跡S B 03遺構図	11	第56図 分析資料観察表（4）	77
第11図 竪穴建物跡S B 04遺構図	12	第57図 分析資料観察表（5）	78
第12図 竪穴建物跡S B 05遺構図	13	第58図 分析資料観察表（6）	79
第13図 竪穴建物跡S B 06遺構図	14	第59図 分析資料観察表（7）	80
第14図 竪穴建物跡S B 07遺構図	15	第60図 分析資料観察表（8）	81
第15図 竪穴建物跡S B 09遺構図	16	第61図 分析資料観察表（9）	82
第16図 竪穴建物跡S B 12遺構図	17	第62図 Fe-O系平衡状態図	90
第17図 竪穴建物跡S B 13遺構図	17	第63図 錫治津・粒状津の顕微鏡組織	91
第18図 竪穴建物跡S B 14遺構図	18	第64図 粒状津の顕微鏡組織	92
第19図 竪穴建物跡S B 15遺構図	19	第65図 錫造片の顕微鏡組織（1）	93
第20図 竪穴建物跡S B 16遺構図	20	第66図 錫造片の顕微鏡組織（2）	94
第21図 竪穴建物跡S B 17遺構図	21	第67図 鉄製品・錫治津の顕微鏡組織	95
第22図 竪穴建物跡S B 18遺構図	21	第68図 鉄製品の顕微鏡組織	96
第23図 竪穴建物跡S B 19遺構図	22	第69図 三角形鉄片・鉄製品の顕微鏡組織	97
第24図 竪穴建物跡S B 20遺構図	23	第70図 鉄製品のマクロ組織	98
第25図 大壁建物跡S B 08遺構図	24	第71図 錫治津鉱物相の反射電子量と定量分析値	98
第26図 大壁建物跡S B 10遺構図（1）	25	第72図 錫治津のX線回折プロファイル	99
第27図 大壁建物跡S B 10遺構図（2）	26	第73図 遺構変遷図	101
第28図 大壁建物跡S B 11遺構図	27	第74図 大壁建物跡の分類図	103
第29図 挖立柱建物跡S B 21～S B 32遺構図	29	第75図 古墳時代中後期の矢追遺跡周辺の復原案104	
第30図 挖立柱建物跡S B 33～S B 44遺構図	31	第76図 古墳時代中後期の豊田市南部域の復原案105	
第31図 挖立柱建物跡S B 45～S B 57遺構図	33		
第32図 挖立柱建物跡S B 58～S B 69遺構図	36	第1表 水洗篩別土量一覧表	49
第33図 挖立柱建物跡S B 70～S B 83遺構図	38	第2表 福年対比表	50
第34図 挖立柱建物跡S B 84～S B 94他遺構図	40	第3表 主要遺構遺物出土量一覧表	58
第35図 溝土層断面図	44	第4表 刃片出土量一覧表	65
第36図 土坑遺物等出土状態図	45	第5表 鉄製品・鉄関連資料構成一覧表	70
第37図 土坑土層断面図	47	第6表 粒状津一覧表	71
第38図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（1）	51	第7表 錫造片一覧表	72
第39図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（2）	52	第8表 金属学的調査対象資料一覧表	73
第40図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（3）	53	第9表 金属学的調査対象粒状津一覧表	73
第41図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（4）	55	第10表 金属学的調査対象錫造片一覧表	73
第42図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（5）	56	第11表 回折X線パターンによる定性分析結果	88
第43図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（6）	57	第12表 供資材の履歴と調査項目	89
第44図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（7）	60	第13表 供資材の組成	89
第45図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（8）	61	第14表 出土遺物の調査結果のまとめ	89
第46図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（9）	62	第15表 大壁建物跡一覧表	103

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

愛知県豊田市鷺鴨町字矢追地内では、第二東海自動車道が現東名高速道路と交わる豊田東ジャンクション建設工事が行われることとなった。この建設予定地内には、1995年作成の遺跡分布図（愛知県教育委員会1995）では遺跡の所在は記載されていなかった。しかし、豊田市と愛知県教育委員会が1997年に建設予定地内の遺跡有無確認調査を行った結果、鷺鴨町字矢追地内の碧海台地上で遺構の落ち込みや遺物の散布が認められたため、その地点に遺跡が存在することが明らかとなった。この地点は、古墳時代を中心とする著名な神明遺跡が隣接するものの、谷を隔てて神明遺跡とは異なる舌状台地に立地することや所在地名も異なることなどから、「矢追（やば）遺跡」（愛知県遺跡番号63477）

と命名されることとなった。

このため、平成9年度に日本道路公团から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた愛知県埋蔵文化財センターが矢追遺跡の発掘調査を実施することとなった。調査は平成9年12月8日から平成10年3月31日までの期間に3500m<sup>2</sup>を行った。調査に際して用いた遺跡名の略号はⅡPYB、調査区は97区である。発掘調査の結果、台地の両端部の一部が搅乱されていたこともあって台地端部では遺構や遺物を確認することができなかつたが、調査区中央部のみで遺構が確認された。古墳時代を中心に弥生時代後期から江戸時代までの遺構約600基と破片数で20000点弱の遺物が出土した。

## 第2節 歴史的・地理的環境

矢追遺跡は、愛知県豊田市鷺鴨町字矢追に所在する。豊田市は愛知県のほぼ中央部に位置し、現在は人口約35万人を擁する工業都市として発展している。鷺鴨町は豊田市南部にあり東に矢作川が流れている。矢追遺跡は鷺鴨町の南西部で舌状に伸びる碧海洪積台地上に立地している。旧地形で見ると、谷を隔てて東側にある

舌状台地上には、著名な神明遺跡や三味線塚古墳が立地している。現在は、矢追遺跡のすぐ北側に東名高速道路が走っている。遺跡の位置は北緯約35度1分25秒、東経約137度8分45秒で、現地形の標高は26～28mである。

豊田市域を南北に流れる矢作川は、長野県浪合村と平谷村の境にある大川入山上から愛知県西尾市までの総延長が約117km、流域面積は18300haの一級河川である。矢作川河口から約



第1図 矢追遺跡位置図（1）

## 矢追遺跡

32kmほど遡った地点に豊田市鷺鴨町は所在する。矢作川右岸には豊田市から西尾市にかけて洪積台地である碧海台地が広がっており、この台地端部に多くの遺跡が確認されている。矢追遺跡はこの碧海台地が舌状に伸びたその先端部に近い位置にあり、台地と沖積低地の比高差は約10mを測る。

現在の豊田市鷺鴨町の集落は碧海台地上に約1000世帯が集まっているが、矢追遺跡の所在する鷺鴨町南西部にはほとんど住宅ではなく、調査前は野菜類などが栽培される畑地であった。碧海台地の前面に広がる沖積低地の大部分は水田などが広がっている。

矢追遺跡がある鷺鴨町は古くは三河国碧海郡鷺鴨村であった。碧海郡とはいえ加茂郡と額田郡の郡境に近く、江戸時代においては領地が転変した経緯を持つ。古代における郷名については詳らかではないが、すぐ南に所在する敵部を「采女郷」に比定する説もある。ちなみに宝暦14(1764)年3月の年号が記された「參州碧海

郡上野西鷺鴨村繪図」には、矢追遺跡付近は耕作地として描かれている。

矢追遺跡の周辺には多くの遺跡が所在しており、しかも多くの遺跡で発掘調査が行われておらず、この地域（鷺鴨町や渡刈町周辺）の歴史はかなり考古学的に明らかになってきている。

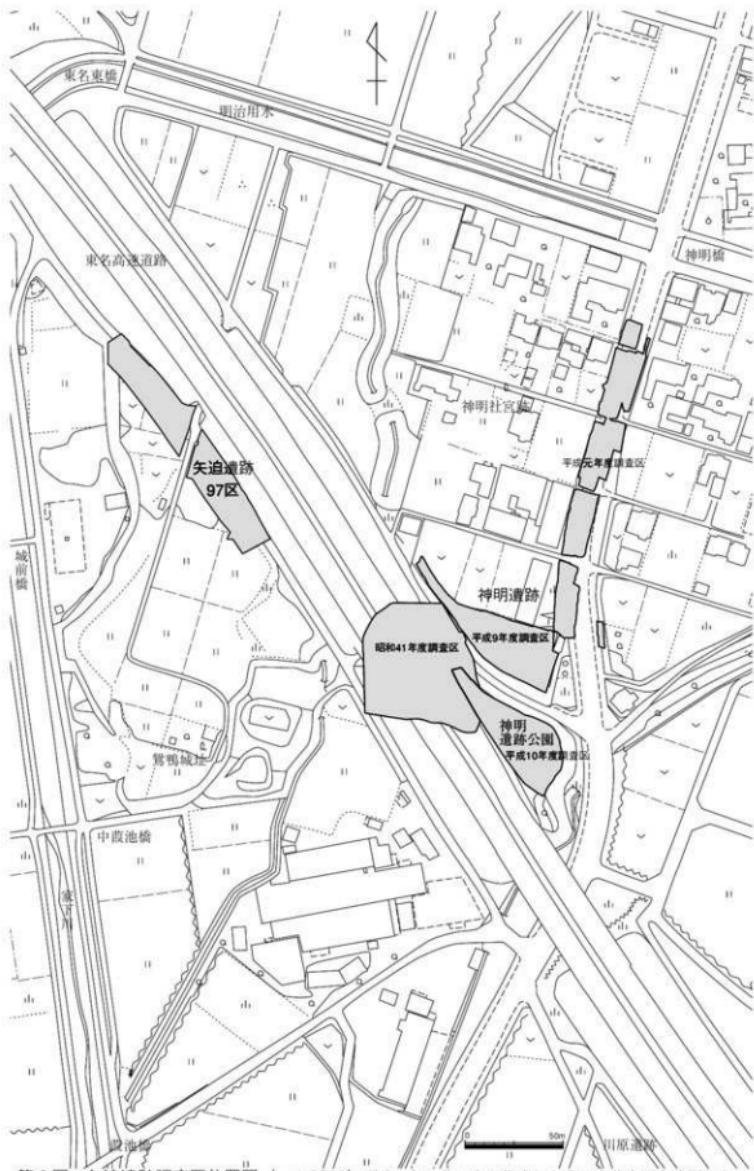
旧石器時代では、矢作川に面した碧海台地上の水入遺跡で後期旧石器時代の石器群が確認され、この地域では約20000年前から人々が居住していたことが判明した。続く縄文時代についても、西糟目遺跡や北田遺跡など多くの縄文時代遺跡が碧海台地端部に所在し、水入遺跡や今町遺跡では竪穴建物などの遺構も確認されている。弥生時代には、碧海台地上の神明遺跡の他に、沖積低地の川原遺跡でも西三河最大級の弥生時代集落が発見されている。川原遺跡では弥生時代中期中葉から墓域や居住城が営まれるようになり、神明遺跡では弥生時代後期から集落が展開した。また、南にある本川遺跡でも弥生時代中期の集落が発見されている。

古墳時代になると碧海台地上と沖積低地の両者で多くの遺跡が登場するようになる。古墳時



第2図 矢追遺跡位置図(2)

調査の概要



第3図 矢迫遺跡調査区位置図 (S=1:2500) 平成7年に豊田市が作成した豊田市基本図を改編した。

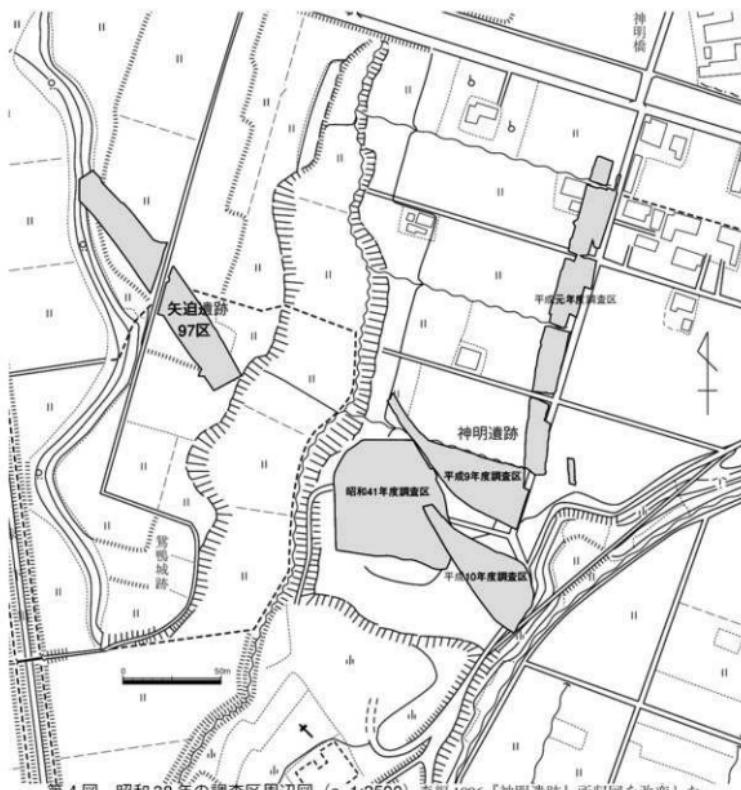
## 矢追遺跡

代中期に最盛期を迎える神明遺跡では豊田市教育委員会の発掘調査で多くの堅穴建物跡が検出され、これらは5世紀中葉から6世紀前葉と7世紀中葉以降にそれぞれピークを迎えている。神明遺跡以外にも、5世紀前半を中心とした集落遺跡である本川遺跡や5世紀代の遺構が確認された郷上遺跡・天神前遺跡などがあり、沖積低地での開発も盛んに行われるようになったといえる。さらには、矢追遺跡から谷を隔てた舌状台地先端に所在する5世紀中葉の三味線塚古墳を始め、車塚古墳、渡刈富士塚古墳、鳥刈塚古墳など周辺には多くの古墳も存在している。

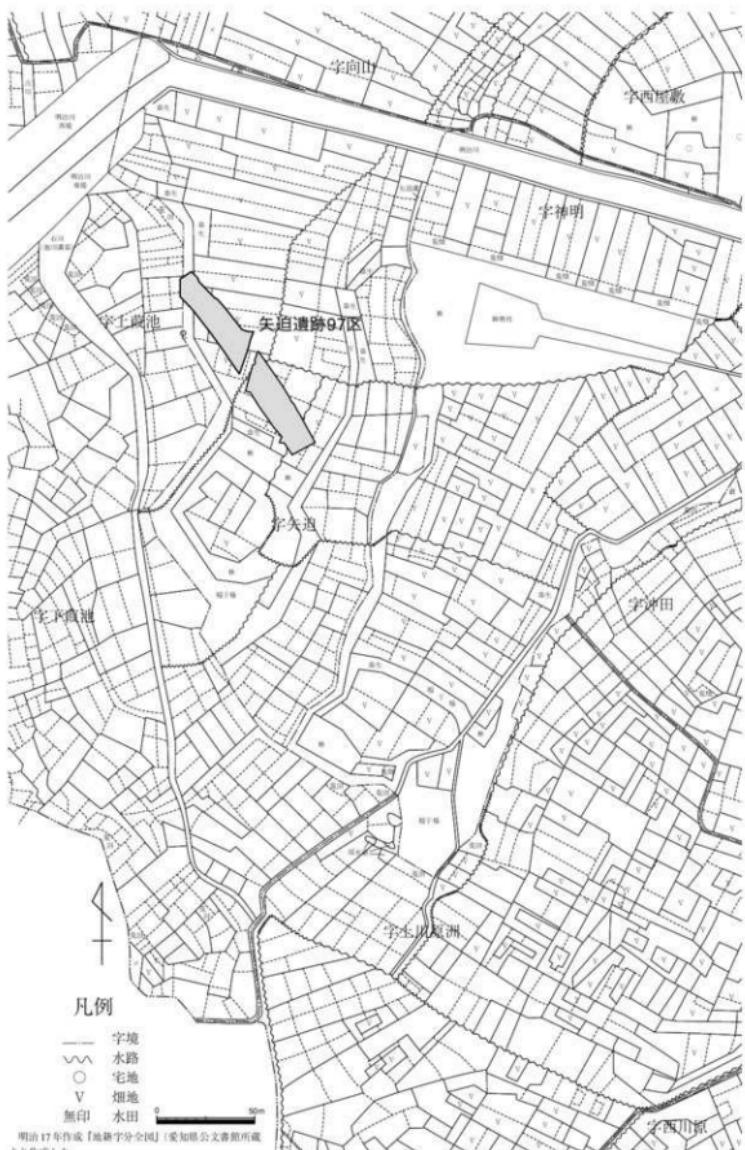
古代では、前述のように神明遺跡で集落が營まれる他に、100基以上の堅穴建物跡が発見さ

れた水入遺跡や今町遺跡、そして神明瓦窯などの遺跡が知られている。中世以降でも、数十区画の屋敷が確認された郷上遺跡を始め、天神前遺跡、本川遺跡、神明遺跡、今町遺跡などで居住域が、水入遺跡では墓域がそれぞれ展開している。戦国時代になると、矢追遺跡が所在する台地先端部には、天保年間作成の『鶴鳴城絵図』にも記述される鶴鳴城跡が築かれたと伝えられている。

このように、矢追遺跡の周辺では、台地の縁辺部や沖積低地の微高地上に遺跡が長期にわたりて展開していることが明らかになってきており、これらを総合した歴史像の構築を今求められているといえよう。

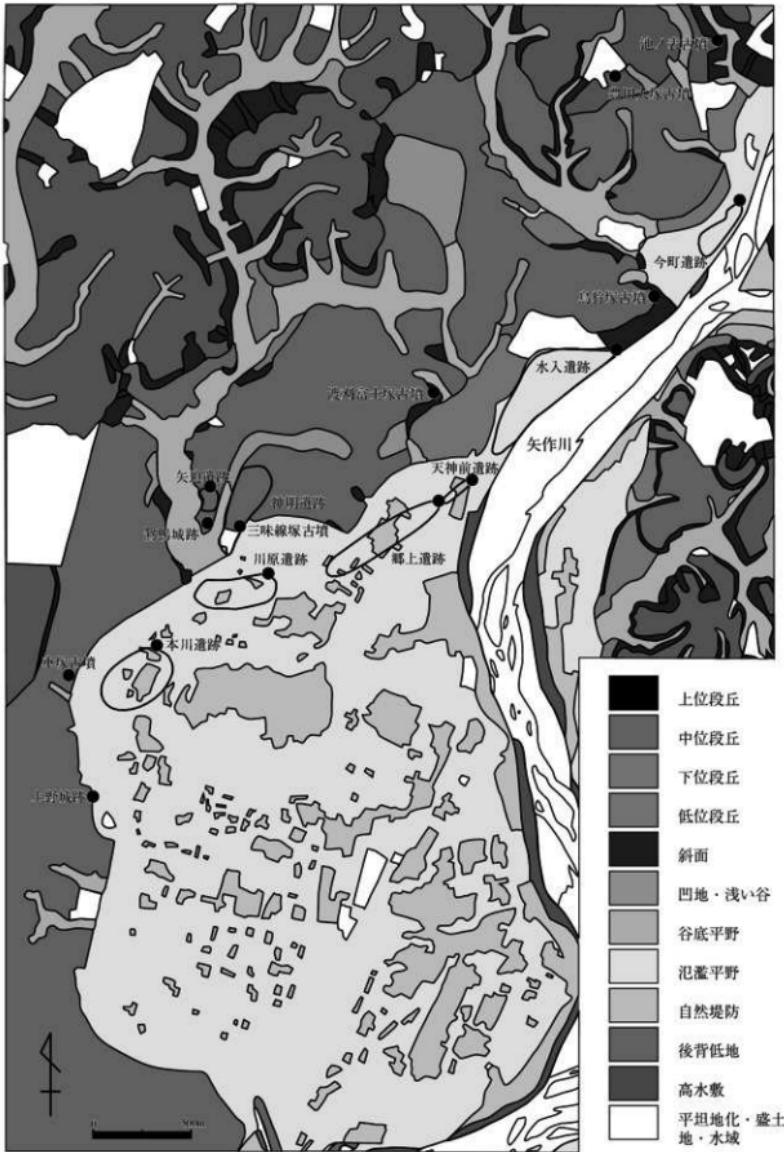


第4図 昭和38年の調査区周辺図 (s=1:2500) 森編1996『神明遺跡』所取図を改変した。



第 5 図 明治 17 年の調査区周辺地籍図 (s=1:3000)

矢迫遺跡



第6図 調査区周辺地形分類図 (s=1:25000) 森編 2001『神明遺跡Ⅱ』所収図を改変した

## 第2章 遺構

### 第1節 基本層序と遺構の概要

矢追遺跡は碧海台地上に立地する遺跡で、調査前は畠地または道路敷地となっていた。畠耕作土および道路を構成するアスファルトと砂利を除去するとすぐに遺構面に達する状態であった。部分的には調査に入る前から遺構面が露出している部分もあった。ここでは、調査区西半部の東壁に見られる土層堆積を中心に記述する（第7図）。

第1層は道路床の碎石層、第2層はくびい黄褐色シルトの畠耕作土で、これらは表土に当たる。第3層褐色シルトは厚さが20cm以下の包含層に相当するが、調査区全体の中ではほとんど認められない。第3層からは古墳時代から江戸時代までの多様な遺物が小破片の状態で出土したため、近世以降の堆積物と推定される。第4層は褐色粘質シルト、第5層は褐色シルト、第6層は褐色シルトで、これらは全て遺構埋土と考えられる。第7層の明褐色シルトは本遺跡の地山（ベース）と思われる土層で、碧海台地の表面を構成する堆積に相当する。東壁セクションで第7層上面の標高は約28.1mを測り、この地点が調査区内でのベースの最高地点に位置している。この第7層以下は明褐色粘土、橙色粘土などと堆積し、現地表下1~2mで礫層に至る。舌状台地の両側端部では礫層が部分的に露出していた。

遺構は大半が第7層（地山）上面から掘り込まれていたと考えられ、遺構検出は基本的に第7層上面で行った。この遺構面で、弥生時代から江戸時代までのあらゆる時代の遺構が確認された。確証はないが、堅穴建物跡の検出深さの状態からみて、標高が高い調査区中央付近では本来の遺構面が既にかなり削られていたのでは

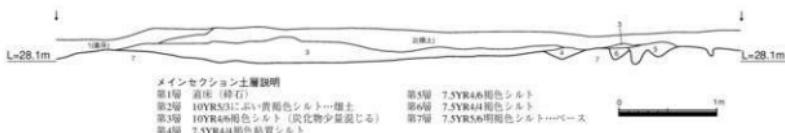
ないかと推測される。

さて、第7層明褐色シルト上面で検出された遺構には、堅穴建物跡17棟、大型建物跡3棟、掘立柱建物跡74棟、柵列、溝、土坑などがある。遺構の大部分は建物跡であることが判明したが、一部の溝を除き、屋敷や集落全体を囲む施設を確認することができなかった。

堅穴建物跡は、大半が長方形の平面プランをもつもので17棟確認された。これらは発掘調査段階からS B記号を付して調査を実施した。このうち、当初は堅穴建物跡として検出されたS B 08、10、11は、遺構掘削を開始した段階で後の耕作土などを認証したものと判明したため、調査時は欠番とし後に大型建物跡に番号を振り替えている。また、当初は溝として調査したS D 14は、後に形状が幅広い周溝を持つ堅穴建物跡と判断してS B 20に番号を振り替えている。

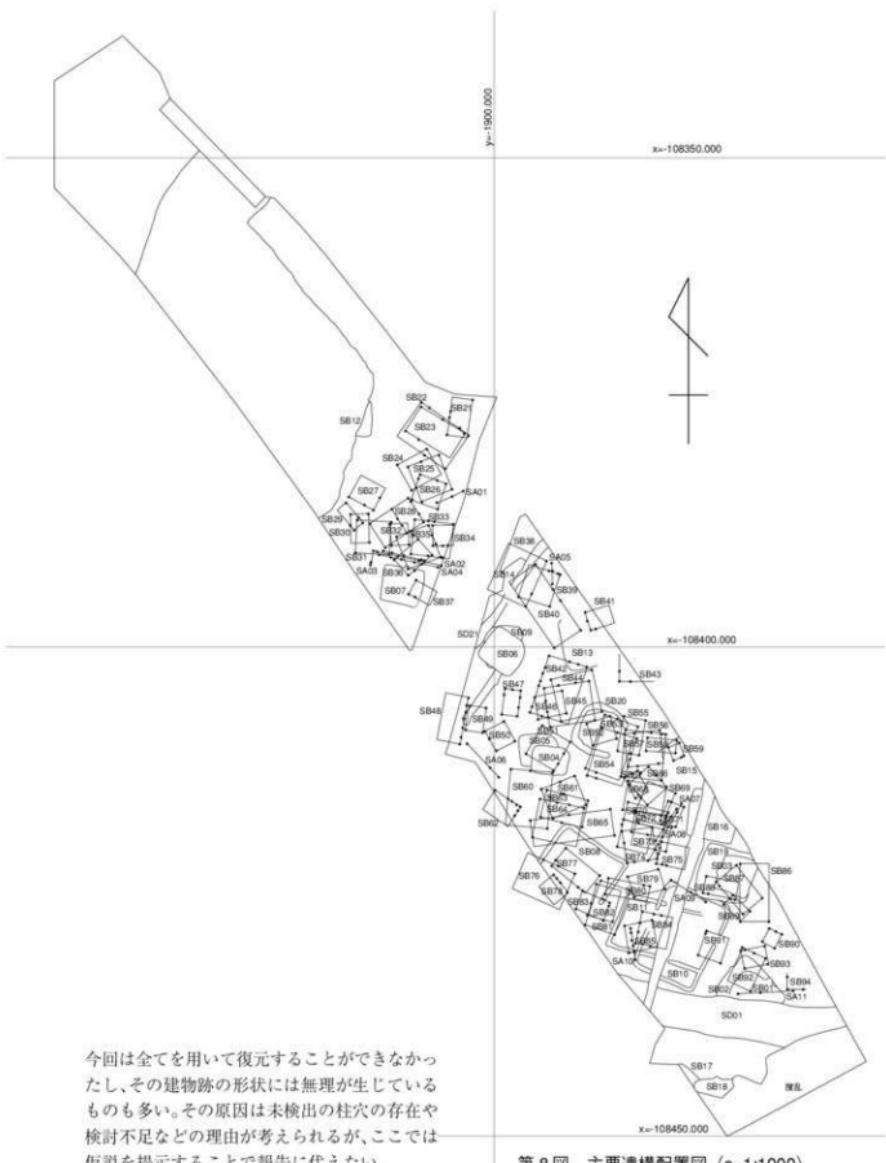
大型建物跡は、溝を掘削しその中に柱を埋設する建物跡で、確実なものが3棟確認された。当初は溝状遺構として調査を開始したため、調査時点の遺構記号は個々の溝ごとにSD記号を付したが、今回報告書を作成する段階で改めてS B記号を付けることとした。

掘立柱建物跡は、本書では暫定的に復元したものを報告する。その理由は、今回の調査で柱穴が約500基確認されその組み合わせにはいくつかの可能性が考えられるのだが、いずれも建物跡として確定するには至らないものばかりであったためである。柱穴状の土坑を掘立柱建物跡の柱穴と想定するならばそれを全部用いた形で掘立柱建物跡を復元しなければならないが、



第7図 基本土層断面図 (s=1:50)

## 矢迫遺跡



第8図 主要構造配置図 (s=1:1000)

## 第2節 壊穴建物跡

今回の調査の結果、壊穴建物跡は全部で17棟確認された。壊穴建物跡は全て隅丸方形または隅丸長方形の平面プランを持つもので、壊穴の深さは概して浅いものが多く、本来あった当時の地表面はかなり削り取られていたと考えられる。壊穴建物跡は付属する施設の有無と形状から5類に分類できる。

**壊穴建物跡A類**……壁面にカマド（カマドが存在した痕跡）が存在するもの。SB 01、SB 02、SB 03、SB 07、SB 18の5棟が該当する。

**壊穴建物跡B類**……地床炉が存在するもの。SB 06の1棟が該当する。

**壊穴建物跡C類**……幅狭い周溝が存在するもの。SB 09の1棟が該当する。

**壊穴建物跡D類**……幅広い周溝を持つもの。SB 16、SB 19、SB 20の3棟が該当する。

**壊穴建物跡E類**……カマド、地床炉、周溝などの付属施設を全く持たないもの。SB 04、SB 05、SB 12、SB 13、SB 14、SB 15、SB 17の7棟が該当する。

### （1）SB 01（第9図）

調査区南東端の台地縁辺部の緩斜面で検出された壊穴建物跡A類である。南半部はSD 01に切られるため正確な規模を知ることはできないが、5.3m×3.3m以上の隅丸方形の平面プランを持ち主軸方位はN-26°-Eと測定される。SB 02と重複しており調査時点ではSB 01の方が新しいと思われた。建物北東辺のほぼ中央で焼土塊の堆積している範囲が認められ、これがカマドの痕跡と考えられる。カマドの痕跡は北東辺が少し張り出す形で土坑状に掘り窪められ焼土混じりのシルトで床が充填されて作られていた。おそらく最初のカマドを壊して床及び壁面を整地した後に、痕跡が確認されたカマドを構築したものと推測される。再構築後の床面上層は火を受けており、その上には燃焼時に生じた炭や灰を含む黒褐色シルト、カマドの天井部が崩落したと推定される良く焼けた焼土の順に堆積していた。土坑状の落ち込み前面には焼土の盛り上がった部分が存在し、これがカマドの袖を構成していた可能性が考えられる。周溝

はカマドを除く残存する縁辺全体に幅約30cm、深さ約10cmで巡っている。その内側にも同様な規模の溝がもう1条巡っており、周溝から見てSB 01の建て替えが行われていたことが知れる。建物東端隅部にはSK 569、カマド推定地西隣にはP7という各々やや大きな土坑が存在しており、これが貯蔵穴になるかも知れない。柱穴は床面の大部分が欠損しているため十分に検討できないがP8及びP6が北端の柱穴になるとと思われる。遺物は周溝を中心に須恵器と土師器が出土しており、時期はB-4期（第5章第1節を参照、以下同様）に位置付けられるよう。

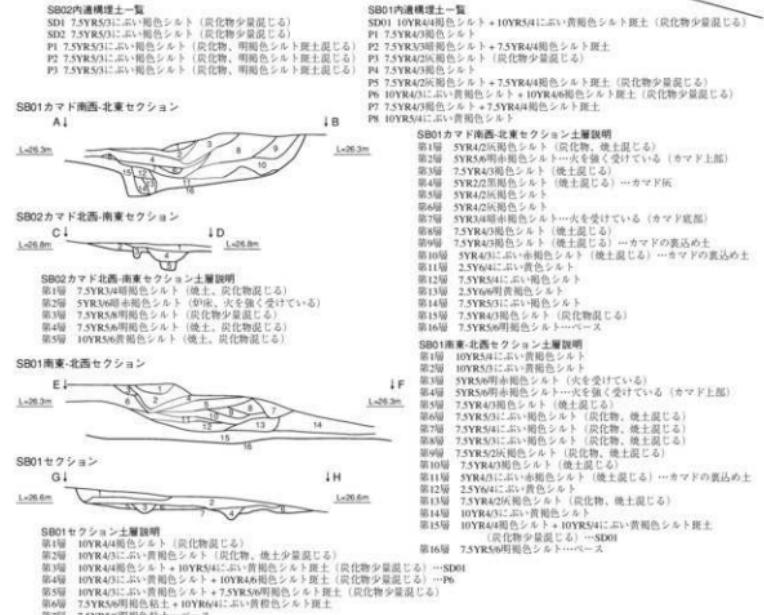
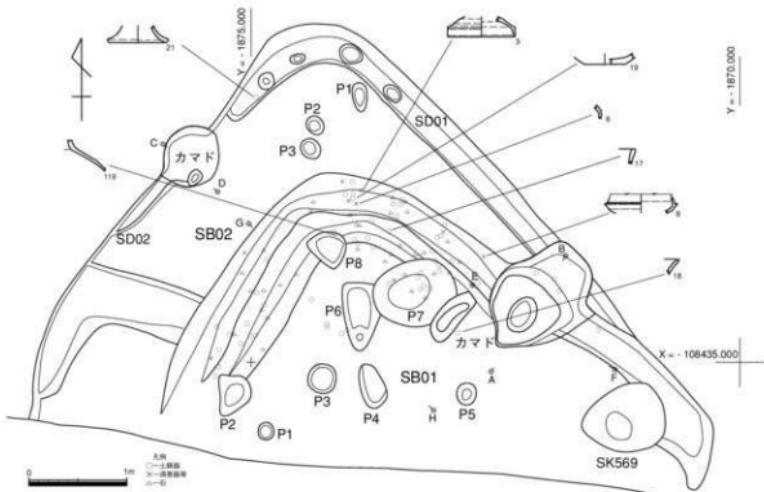
### （2）SB 02（第9図）

SB 01とは重複して検出された壊穴建物跡A類である。南半部は調査区外に広がるため正確な規模をすることはできないが、平面形は4.8m以上×5.0m以上の隅丸方形で、主軸方位はN-41°-Wと測定される。周溝のみが確認され、遺構覆土はほとんど残存していないかった。周溝の切り合い関係からみてSB 01の方が新しいと判断される。建物北西辺のほぼ中央部付近では、北西辺を少し張り出す形で土坑状に掘り窪められた床面が焼けており、その上位には焼土や炭化物が混入したシルトの堆積が見られたことから、これがカマドの破壊された痕跡と推測される。周溝はカマドを除く残存する縁辺のほぼ全体に巡っており、幅約35cm、深さ約4cmを測る。南部は別の溝状の落ち込みが存在して本来の壊穴建物跡の床面の状況を確認できなかった。主柱穴はP2のみを確認した。覆土が余り残存しないために出土遺物は非常に少ないが、須恵器と土師器の小片からみてB-3期と推測されよう。

### （3）SB 03（第10図）

調査区東部の北端で検出された壊穴建物跡A類である。北東部は調査区外に広がるため正確な規模は不明だが、3.9m以上×3.5mの隅丸方形の平面プランを持ち主軸方位はN-19°-Eを測る。SB 19と重複しており調査時点ではSB 03の方が新しいと思われた。西辺のほぼ中央で焼土塊が堆積している範囲がカマドの痕跡と考えられ、西辺から張り出す形で掘り窪められた落ち込みにシルトを埋めて作られていた。その上には灰や炭化物を含む褐色シルト、天井部

## 矢追跡

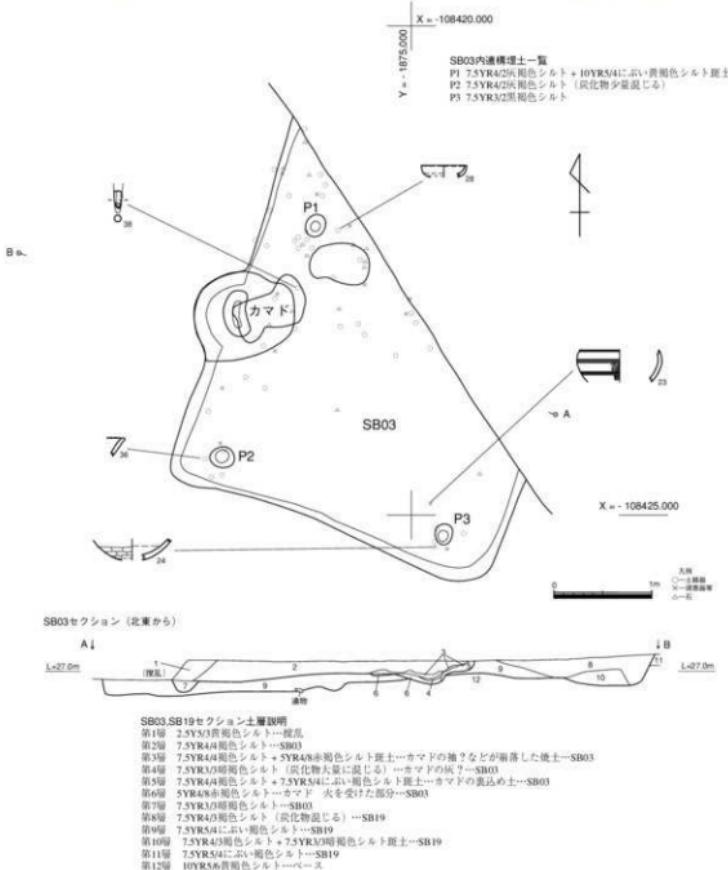


第9図 積穴建物跡 S B 01・S B 02 遺構図 (s=1:50)

が崩落したと思われる焼土の順に堆積していく。カマドの袖はその痕跡も確認できず、支脚も遺存しなかった。覆土は褐色シルトで一気に埋積され、床面は特に貼り床のような構造は持たず、周溝や地床炉などの施設は発見されなかつた。主柱穴はP1、P2、P3が該当し、北東隅の主柱穴は調査区外に存在すると考えられた。遺物は北西部に集中して須恵器と土師器が出土しており、時期はD期と考えられる。

#### (4) SB 04 (第 11 図)

調査区中央で検出された堅穴建物跡E類で、平面形は $3.6m \times 2.9m$ の隅丸長方形である。主軸方位はN- $6^{\circ}$ —Eを測る。SB 05と重複しており、調査時点ではSB 04の方が新しいと判断した。堅穴の深さは約10cmを測り、SB 05が下位に存在した部分では暗褐色シルトと褐色シルトの斑土による貼り床が施されていた。床面には周溝やカマド、地床炉などの施設は残らず、主柱穴はP1、P3、P5、P7が該当すると考えられる。遺物は須恵器と土師器などが遺



第 10 図 堅穴建物跡 SB 03 遺構図 (s=1:50)

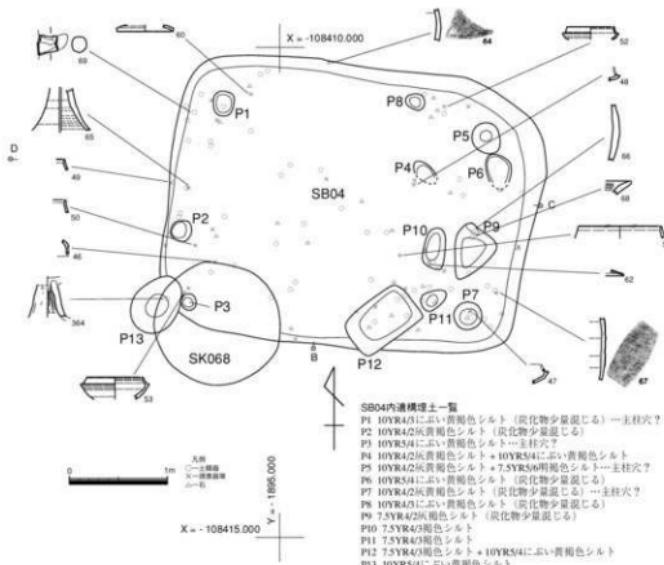
## 矢追遺跡

構全体に分布して出土しており、これらの遺物から時期はB—3期と考えられる。

### (5) SB 05 (第12図)

調査区中央で確認された竪穴建物跡E類である。SB 04と重複しているため柱穴などの内部

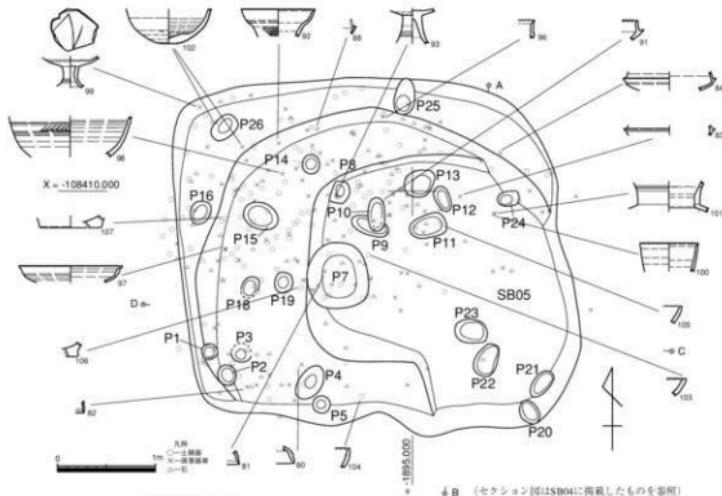
施設はSB 04のものが混在していると思われる。切り合い関係はSB 05の方が古い。平面形は4.1m×3.7mの隅丸方形で、南東部がやや崩



第11図 竪穴建物跡SB 04 遺構図 (s=1:50)

れた形状となっている。主軸方位はN-2°-Wと測定され、覆土は最深部で25cmほど残存していた。SB 05の床面は2段の浅い段差を持っており、調査で認識した重複関係以外にも建物跡の切り合いが存在した可能性がある。最上段は北辺から西辺にかけて幅約50cmのテラス状となっており、中段は北辺から西辺を経て南辺の中央部まで至る「コ」の字状の幅約1mのテラスとなっていた。各段の比高差は5~10cm程度のものであり、いわゆるベッド状遺構となる可能性がある。南東半の最深部の最下層は褐色シルトの斑土となっていてこれが貼り床となるかも知れない。床面から周溝やカマドおよび地床炉は検出されなかった。主柱穴は特定しにくいか、P 2、P 22、P 26をその候補にあげておきたい。**遺物**は北半で濃密に分布しており、時期はB-2期に属する。

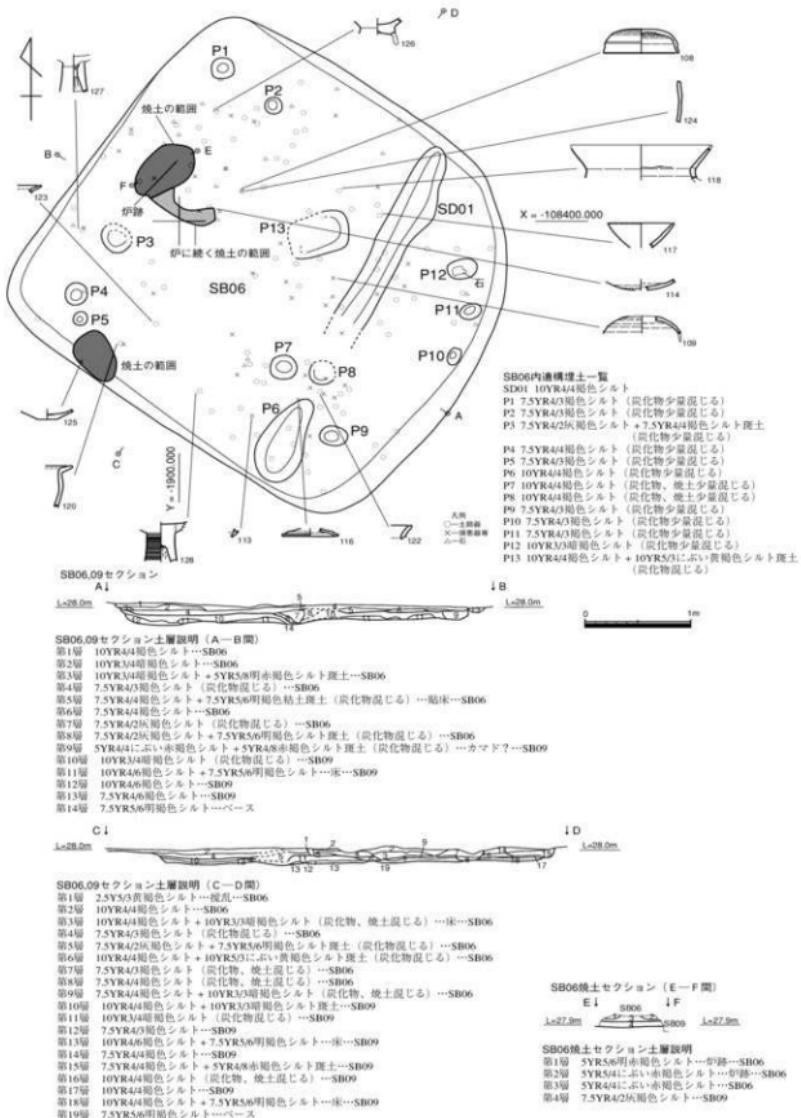
#### (6) SB 06 (第13図)



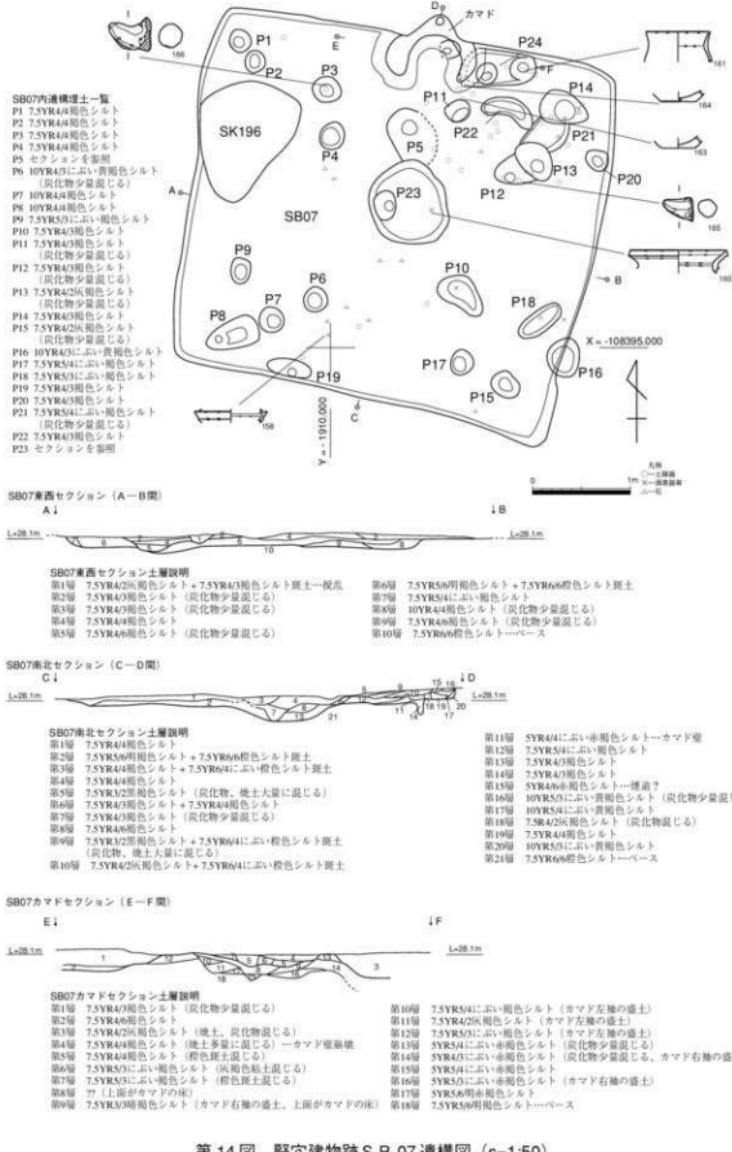
P1 7.SYR4/4褐色シルト	P14 7.SYR4/4褐色シルト
P2 7.SYR4/4褐色シルト	P15 7.SYR4/4褐色シルト
P3 7.SYR4/4褐色シルト	P16 7.SYR4/4褐色シルト
P4 7.SYR4/4灰褐色シルト	P17 欠査
P5 7.SYR4/4褐色シルト	P18 7.SYR4/4褐色シルト
P6 欠査	P19 7.SYR4/4褐色シルト
P7 10.SYR4/4褐色シルト(炭化物少量混じる)	P20 7.SYR4/2灰褐色シルト
P8 7.SYR4/4褐色シルト	P21 7.SYR4/2褐色シルト(炭化物少量混じる)
P9 7.SYR4/4褐色シルト(炭化物少量混じる)	P22 7.SYR4/2褐色シルト(炭化物少量混じる)
P10 7.SYR4/2褐色シルト(炭化物少量混じる)	P23 7.SYR4/2褐色シルト(炭化物少量混じる)
P11 7.SYR4/3褐色シルト	P24 7.SYR4/3褐色シルト
P12 7.SYR4/3褐色シルト	P25 7.SYR4/4褐色シルト
P13 7.SYR4/2/4褐色シルト	P26 7.SYR5/3に近い褐色シルト

第12図 突穴建物跡SB 05 遺構図 (s=1:50)

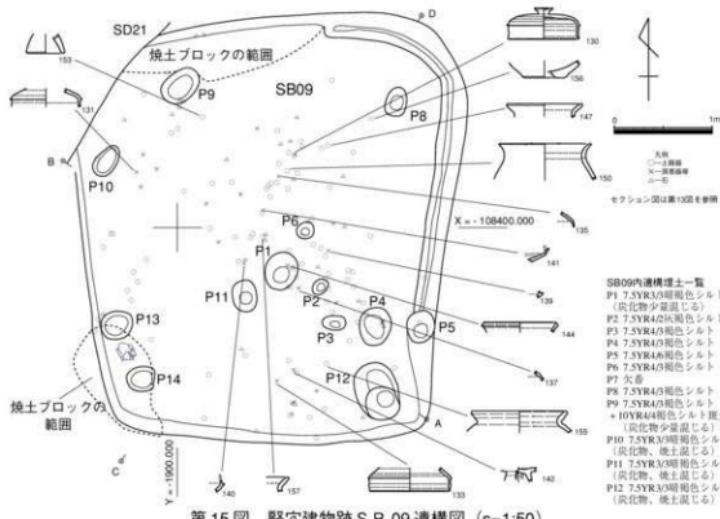
## 矢追遺跡



第13図 積穴建物跡 SB 06 遺構図 (s=1:50)



第14図 穴室建物跡 S B 07 遺構図 (s=1:50)



第15図 竪穴建物跡 SB 09 遺構図 (s=1:50)

た。P 1、P 4、P 9、P 12が主柱穴と考えられ、P 12からは石材（花崗岩）が出土した。P 6およびP 13は建物跡に伴う何らかの施設になる可能性がある。遺物はほぼ全域に分布しているが、主柱穴の周囲に片寄る傾向がある。須恵器と土師器など多くの遺物が出土しており、時期はB—3期と推定される。なお、SB 06の上位では現道に平行する形で杭が打ち込まれ、耕作に伴う擾乱も多く存在していた。

#### (7) S B 07 (第14図)

北側調査区南東端で検出された竪穴建物跡A類で、舌状台地のほぼ中央部に位置する。平面形は4.2m×3.7mの隅丸方形であるが、他の竪穴建物跡に比べると隅角部の屈曲が強くほぼ方形の形状となっている。主軸方位はN=10°—E、竪穴の深さは10~15cm程度を測り、他の竪穴建物跡とは重複しない。建物北辺のほぼ中央部でカマドが残存していた。カマドは北辺から少し張り出した位置で煙出しを設けその両側にはカマドの袖を以ぶい褐色シルトの盛土を行って作り上げている。両袖の内側は床が焼けておりその上位には褐色シルトとカマドの天井が崩落したと推測される焼土が多量に含まれる褐色シルトの順に堆積していた。今回の調査では最も残存状態の良好なカマドであったが、支

脚などは遺存していなかった。床面では地床炉及び周溝が確認されず、貼り床の痕跡も確認できなかった。全体の状況から見てSB 07は建て替えがなかったと思われる。カマド右隣に所在するP 24から土師器壺の破片が出土しており、これは貯蔵穴的なものになるかも知れない。主柱穴はP 2、P 8、P 14、P 15が該当すると思われる。建物跡のほぼ中央部に直径約85cmのほぼ円形の土坑が確認され、須恵器壺の口縁部分が出土した。出土遺物は全体に分布しているが、比較的カマドの南東部に集中する。出土した須恵器と土師器からB—1期に位置付けられる。

#### (8) S B 09 (第15図)

S B 06の下位で確認された竪穴建物跡C類で、舌状台地のほぼ中央に存在する。北西端部がSD 21により壊された他はほぼ全体が残存しており、平面形は4.4m以上×4.0m以上の少しいびつな隅丸方形を呈する。主軸方位はほぼ真北で、建物北辺部と南西隅部で焼土塊の堆積範囲が認められた。南西隅部の焼土ブロックの堆積の中から土師器壺が比較的まとまった状態で出土した。これらの焼土が直接地床炉あるいはカマドの痕跡になるとは考えにくい状態であるが、何らかの火炉が存在したことが想定される。

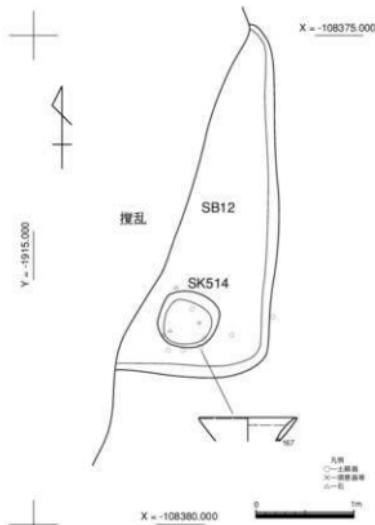
る。周溝は北辺中央部から東辺南端部にかけて幅約25cm、深さ約2cmの規模で巡るが、溝の底みは非常に浅く本来は全周していた可能性がある。床面は褐色シルトと明褐色シルトによる貼り床が施されており、豊穴の深さは5~7cmを測る。主柱穴はP8、P9、P12、P14が該当する。遺物は中央部から東寄りに分布しており、これらの遺物からB-1期に比定される。

#### (9) SB 12 (第16図)

北側調査区で検出された豊穴建物跡E類で、西半は擾乱によって大きく破壊されていた。正確な規模を不明だが、平面形は3.7m×1.6m以上の隅丸方形で、主軸方位はN-2°-Eを測る。他の豊穴建物跡と重複せず、SB 12覆土の上面からSK 514が掘り込まれていた。周溝やカマド、地床炉などは検出されず、貼り床の痕跡も発見されなかった。SK 514の存在のため主柱穴の存否も確認できない。遺物は覆土からは土師器の小片などが出土するのみで、時期は特定できない。

#### (10) SB 13 (第17図)

調査区中央部北端にある豊穴建物跡E類で、北東半部が調査区外に広がるために正確な規模は



第16図 豊穴建物跡 SB 12 遺構図 (s=1:50)



第17図 豊穴建物跡 SB 13 遺構図 (s=1:50)

## 矢追遺跡

不明だが、5.4m以上×3.1m以上の隅丸方形の平面形になると推定される。主軸方位はN—11°—Wと測定され、他の堅穴建物とは重複せず、堅穴の深さは約15cmを測る。床面では周溝、カマド、地床炉などの施設は検出されず、貼り床も検出されなかった。南西隅の主柱穴はP3と想定され、遺物は北半部に片寄って出土した。時期はB—1期と思われる。

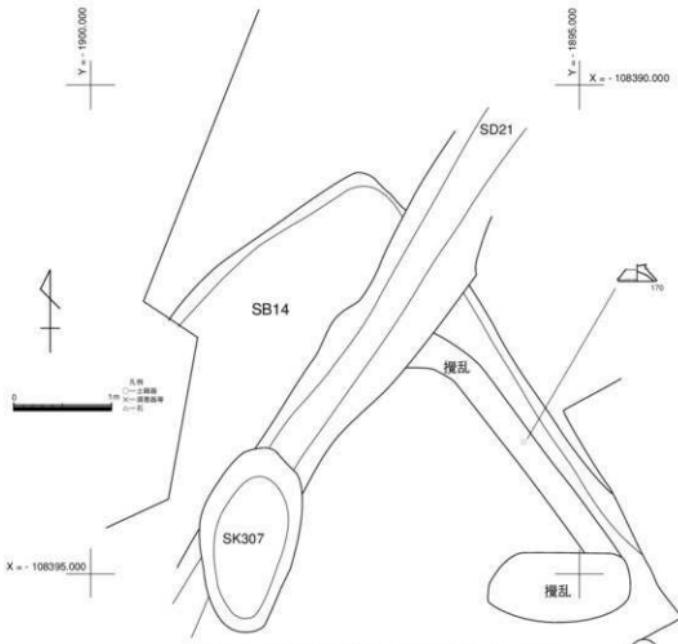
### (11) SB 14 (第18図)

南側調査区北端部の舌状に伸びる台地中央部で検出された堅穴建物跡E類である。残存する覆土は非常に薄く、堅穴の深さは約5cmを測るに過ぎない。南半部の各辺の掘形を検出できるために規模は不明だが、4.9m以上×2.7m以上の隅丸方形の平面形と推測される。主軸方位はN—36°—Wと測定され、他の堅穴建物とは重複しない。いくつかの擾乱やSD21などに切られており、床面はあまり残っていないかった。検出された範囲内では周溝、カマド、地床炉を

確認できず、柱穴も検出されなかった。遺物は須恵器杯と土師器台付甕脚部などが出土しており、これらの遺物からB—1期に位置付けられる。

### (12) SB 15 (第19図)

調査区中央部北端に所在する堅穴建物跡E類である。北東部は調査区外に広がり、南西部は溝状に広がる擾乱のため正確な規模を知ることはできない。また、南東辺については既に大きく削平を受けて掘形を検出することができなかった。結果として北西辺のみを検出したに過ぎないものもある。4.0m以上×2.6m以上の(隅丸?)方形の平面形を持つと考えられ、主軸方位はN—54°—Eを測る。他の堅穴建物とは重複せず、周溝やカマド、地床炉などの付属施設も残存しなかった。堅穴の深さは平均して約3cmを測る。主柱穴は平面プランを確定できないために特定できない。覆土が浅いためか遺物はあまり出土していないが、わずかに存在する



第18図 堅穴建物跡 SB 14 遺構図 (s=1:50)

須恵器の年代観からB—3期と推定される。

#### (13) S B 16 (第20図)

調査区東部北端で検出された竪穴建物跡D類である。北東部が調査区外に広がり、中央部付近で現代の配管による搅乱が存在するが、およそ $5.2m \times 4.9m$ の隅丸方形の平面形を持つといえる。主軸方位はN=10°—Eを測り、他の竪穴建物跡と重複しない。竪穴の深さは平均して約45cmを測り、今回確認された竪穴建物跡の中では最も深いものである。少なくとも北西部と南東部には幅広い周溝が巡っており、北西部では最大幅115cm、深さ約5cm、南東部では最大幅85cm、深さ約5cmを測る。南東部の周溝は隅角部で壁面と平行しない部分が存在する。S B 16床面中央部では南北方向に走る溝が1条走っているが、S B 16に直接関連するものとは考えにくくS B 16以前の遺構の一部が残存していたと推測される。南東部の主柱穴はP7が該当するとと思われる。覆土が比較的厚く残存していたためか、遺物は竪穴建物跡全体に分

布しているが、やや西側に片寄って出土している傾向がある。また南部の周溝からも多く遺物が出土した。須恵器や土師器壺の他に土錘や製塙土器なども出土しており、B—4期に位置付けられる。

#### (14) S B 17 (第21図)

調査区南端にある竪穴建物跡E類で、南西部が調査区外に広がるために正確な規模は不明。4.8m × 1.5m以上の隅丸方形の平面プランと想定され、主軸方位はN=38°—Eを測る。S B 18に切られ、周溝やカマド、地床炉などは発見されなかった。建物覆土は基本的に褐色シルトで、P2またはP3が主柱穴と考えられる。P1はS B 17に伴うものか疑問だが、ここでは貯蔵穴のような施設と考えたい。遺物は覆土東端部とP1周辺を中心に土師器が出土しており、特に土師器高杯などからA期（古墳時代前期）に属すると思われる。

#### (15) S B 18 (第22図)

調査区南端の碧海台地縁辺部に位置する竪穴



第19図 竪穴建物跡S B 15 遺構図 (s=1:50)

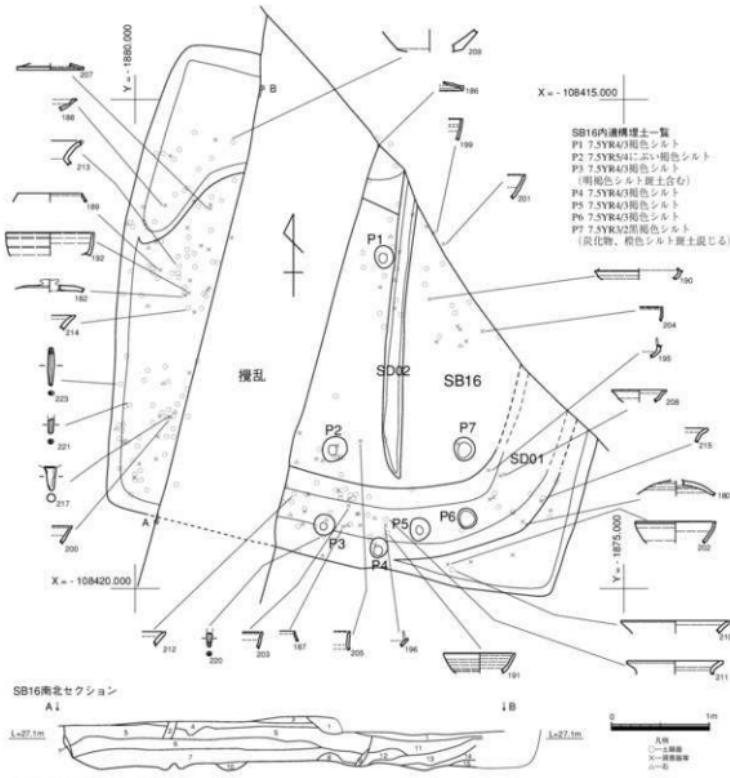
## 矢追遺跡

建物跡A類である。南側は大きく落ち込む谷を広げた擾乱によって破壊されていた。おそらく平面形は隅丸方形と推定され、4.1m以上×1.9m以上の規模を測り、主軸方位はN=2°—Eとなる。建物北辺のほぼ中央で縁辺を少し張り出しが焼土混じりのシルトが広がっており、これがカマドの痕跡と考えられる。カマドの残存状況は不良で、詳細な構造は不明である。周溝はカマドの東側に幅約14cm、深さ約6cmの規

模で伸びていたが、西側には存在しない。主柱穴はP2が該当すると思われ、S B 17を切る。覆土はにぶい褐色シルトが堆積しており、遺物はわずかに須恵器と土師器が出土したに過ぎない。B—3期に属する。

### (16) S B 19 (第23図)

調査区東半部北端に存在する竪穴建物跡D類で、北東部が調査区外に広がる。平面形は5.6m×5.5mの隅丸方形で、主軸方位はN=12°—



第20図 竪穴建物跡 S B 16 遺構図 (s=1:50)

Eを測る。S B 03がS B 19の覆土上に重なって検出されていた。周溝はほぼ全周し、幅は約40cm～105cm、深さは約12cmを測る。南西部には幅狭い溝がもう1条巡っており、S B 19と重複する別の堅穴建物跡の存在が予想される。主柱穴はP 3、P 6、P 9、P 19と考えられ、カマドや地床炉などの厨房施設は検出されなかつた。堅穴覆土はにぶい褐色シルトで充填されているが、床面には貼り床の構造は確認できなかつた。遺物は周溝を中心に須恵器と土師器が出土しており、C期に位置付けられる。特に周溝の北西端部で土師器壺体部の比較的大きな破片が重なって出土した。

#### (17) S B 20 (第24図)

調査区中央部で検出された堅穴建物跡D類で、堅穴覆土が残存しないために調査当時はこの字に屈曲する幅広い溝S D 14として掘削した。5.0m×5.2mの円形に近い隅丸方形を呈し、主軸方位はN-24°-Eと測定される。他の堅穴建物跡との重複は認めらず、周溝の堆積状態などから見ても建て替えが行われていないと推定される。周溝S D 14は幅約75cm、深さ約20cmを測る。カマドや地床炉などの施設はなく、主柱穴はS K 285、S K 479、S K 096が想定される。床面上資料は存在しないが、S D 14からは須恵器はそうなどが出土しており、時期はB-3期に比定される。

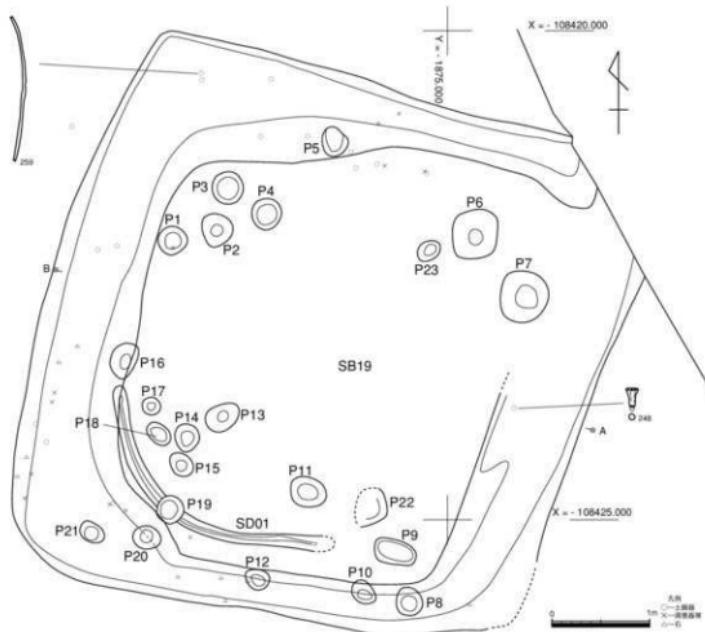


第21図 堅穴建物跡S B 17遺構図 (s=1:50)



第22図 堅穴建物跡S B 18遺構図 (s=1:50)

## 矢追遺跡



### SB19内遺構埋立一覧

- SD01 7.5YR4/0褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P1 7.5YR4/4褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P2 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P3 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P4 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P5 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、埋土混じる)
- P6 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P7 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P8 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P9 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P10 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P11 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P12 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P13 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P14 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P15 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P16 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P17 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P18 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P19 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P20 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P21 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P22 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P23 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)

- P13 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P14 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P15 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P16 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P17 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P18 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P19 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P20 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P21 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P22 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)
- P23 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物、棕色シルト埋土混じる)

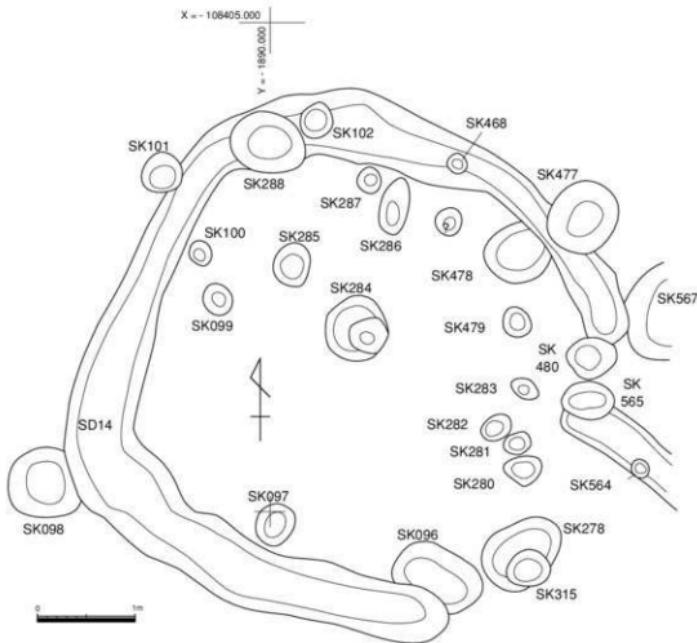
### SB19セクション



(セクションはSB03にあるものと同一)

- SB03.SB19セクション層別図
  - 第1層 2.5YR3/0褐色シルト……埋土
  - 第2層 7.5YR4/3褐色シルト……埋土
  - 第3層 7.5YR4/4褐色シルト + 3YR4/8赤褐色シルト埋土…カマドの灰 (?) などが落ちた焼土…SB03
  - 第4層 7.5YR3/0褐色シルト (炭化物大量に混じる) …カマドの灰 (?) …SB03
  - 第5層 7.5YR4/4褐色シルト + 7.5YR5/4に高い褐色シルト埋土…カマドの灰込み土…SB03
  - 第6層 5YR4/8赤褐色シルト…カマド 火を受けた部分…SB03
  - 第7層 7.5YR3/0褐色シルト…SB03
  - 第8層 7.5YR4/3褐色シルト (炭化物混じる) …SB19
  - 第9層 7.5YR4/3褐色シルト …SB19
  - 第10層 7.5YR4/3褐色シルト + 7.5YR3/0褐色シルト埋土…SB19
  - 第11層 7.5YR5/4に高い褐色シルト…SB19
  - 第12層 10YR5/6黄褐色シルト…ベース

第23図 積穴建物跡 S B 19 遺構図 (s=1:50)



第24図 穴建物跡 S B 20 遺構図 (s=1:50)

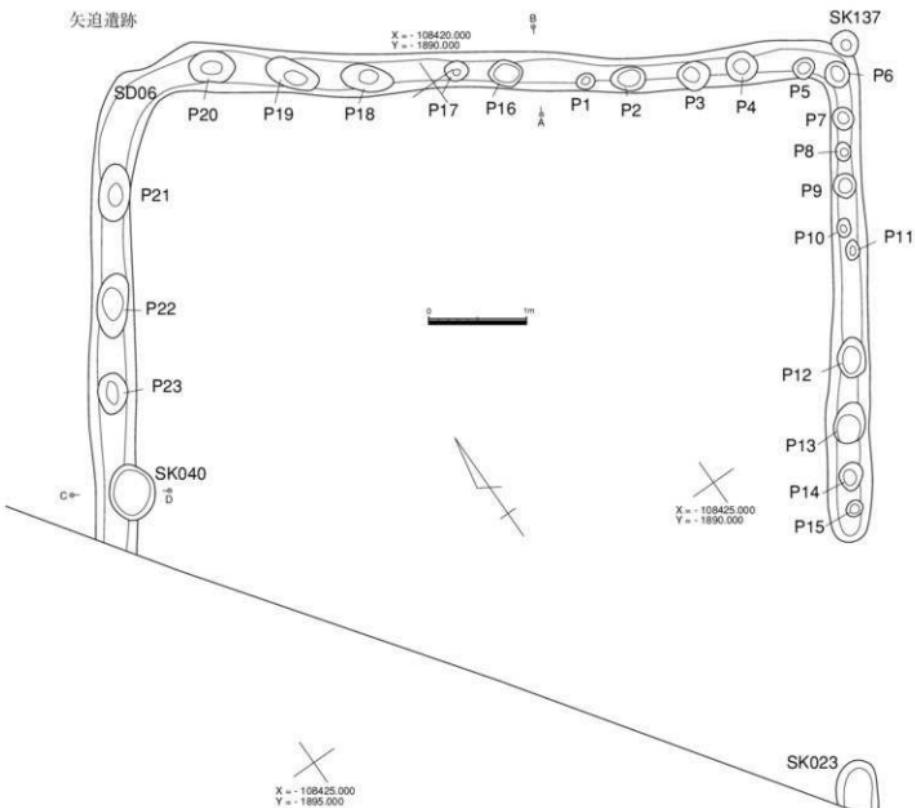
### 第3節 大壁建物跡

今回の調査の結果、**大壁建物跡**は全部で3棟確認された。矢追遺跡の大壁建物跡は隅丸長方形に巡る幅が0.35m～0.50mの溝の埋土中に柱穴が確認される遺構である。溝中に棟持柱や間柱を立てて上位に土壁をつくる建物遺構の基礎部分と考えられる。柱穴を伴う溝の他には、棟持柱や床構造、地床炉などの建物に関連する構造を確認することができなかった。このため床面は後世の削平などによって残存していないと考えられ、本遺構の時期を考えるのに重要な床面直上出土遺物は獲得できなかった。この大壁建物跡はこれまで愛知県下では類例が全く確認されない特異な遺構で、滋賀県を中心に全国でも数十例しか存在しないものである。矢追遺跡で確認された大壁建物跡は、全て溝の長辺中央部が途切れており、この点が他遺跡の大壁建物と比べて特徴的である（第5章第2節参照）。

#### (1) S B 08（第25図）

調査区中央部南寄りで検出された大壁建物跡で、S D 06、S D 13とS K 023によって構成されている。南西半部は調査区外に広がっているために正確な規模は不明だが、8.0m×7.9m以上の隅丸方形の平面プランを持ち、主軸方位はN=26°～Eを測る。建物の長辺（南東辺）の中央部と推測される一部分が約2.2mの長さで途切れており、これが出入り口部と考えられる。北西辺の途切れ部は調査区外に広がるために確認することができない。S D 06とS D 13は幅が0.40m～0.50m、深さが0.80m～0.95mを測り、コ字状に屈曲している。S K 023はS D 13の収束部から約2.2m離れた部分にある遺構で、調査区外に遺構が広がるために溝であると確定できないが、幅0.45m、深さ0.55mの規模を持つためS B 08の一部と判断した。溝の埋土

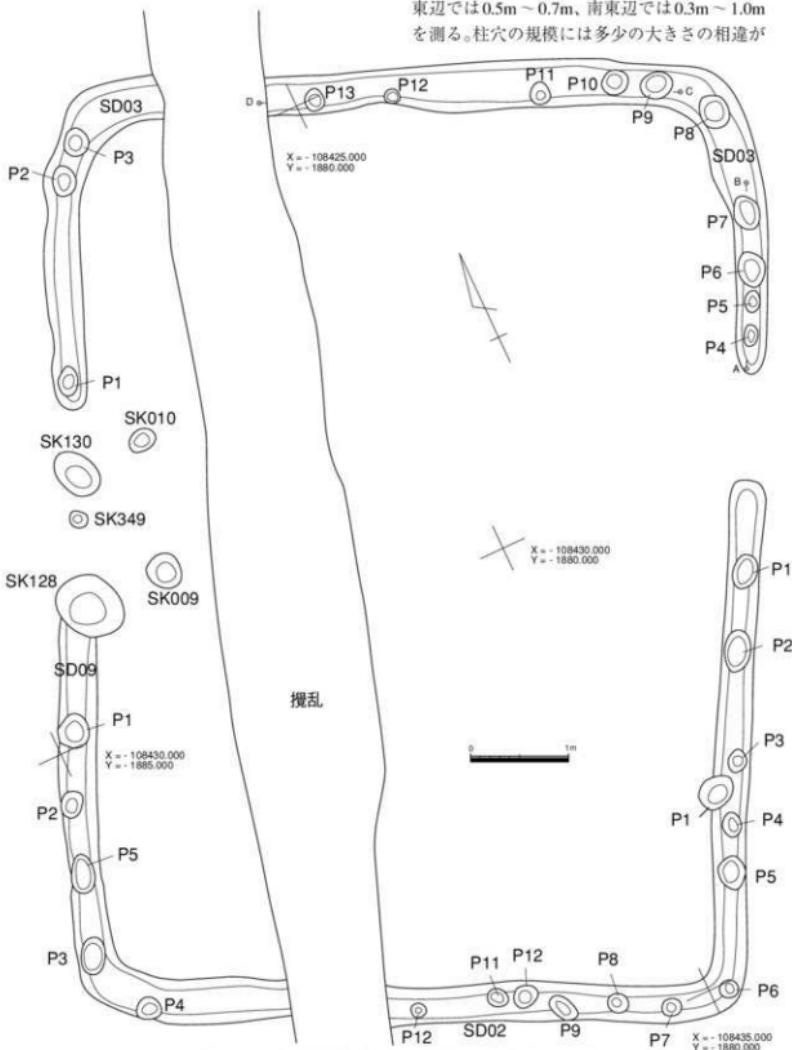
矢追遺跡



第25図 大壁建物跡 S B 08 遺構図 (s=1:50)

はにぶい褐色シルト斑土や灰褐色シルトが堆積しており、その埋土中に柱穴が確認される。柱穴の抜き取り穴や柱部分の裏込め土などを確認できなかったこともあり、建物の構築手順を確

定できなかった。柱穴は北西辺で4基、北東辺で10基、南東辺で10基が確認されており、多くは溝の掘形の床面以上の深さで掘削されていた。柱間の間隔は北西辺では1.0m～1.2m、北東辺では0.5m～0.7m、南東辺では0.3m～1.0mを測る。柱穴の規模には多少の大きさの相違が



第26図 大壁建物跡 S B 10 遺構図(1) (s=1:50)

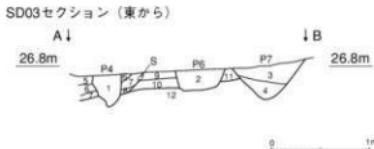
## 矢追遺跡

認められるものの、棟持柱と特定できる柱穴は確認できなかった。遺物は溝の埋土中から須恵器と土師器が出土しており、時期はB—3期と思われる。

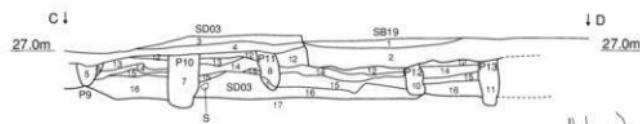
### (2) SB 10 (第26~27図)

調査区中央部南寄りにある大壁建物跡で、SD 02、SD 03、SD 04とSD 09によって構成されている。SB 08の南東に並列して所在しSB 11と重複する。SB 10のSD 03はSB 11のSD 08を切り、SB 10のSD 09はSB 11のSD 12を切り、そしてSB 10のSD 02はSB 11のSD 10を切っていることから、SB 10はSB 11よりも新しいと考えられる。9.8m×7.2mの隅丸方形の平面プランを持ち、主軸方位はN—28°—Eである。中央部に搅乱があり部分的に構造が不明となっているが、建物の長辺の中央部付近が途切れしており、この部分が出入り口部になるとと考えられる。SD 09の先端部がSK 128に切られているために途切れ部の正確な規模を特定できないが、北西辺は1.7m以上、南東

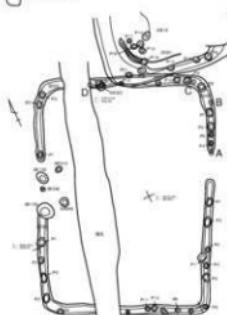
辺は約1.0mの長さを測る。SB 10を構成する溝は幅が0.35m~0.50m、深さが0.15m~0.55mを測り、コ字状に屈曲した溝が2本存在した形で展開している。溝の埋土はにぶい褐色シルトや褐色シルトの斑土が堆積しており、その埋土中で柱穴が確認されたが、特に抜き取り穴や柱部分の裏込め土などを確認できなかった。北東辺と南東辺を構成するSD 03の土層断面を観察すると、溝埋土は約10cmごとに層位を形成しその上から掘り込むような形で柱穴の埋土が堆積している状況が確認された。この情報のみでは建物の構築手順を確定できないが、現状では溝掘削後に柱を立てた状態で溝内にシルト斑土を徐々に充填させた可能性が考えられる。柱穴は北西辺で7基、北東辺で5基、南東辺で11基、南西辺で7基が確認され、多くは溝の掘形の床面以上の深さで掘削されていた。検出されなかつた柱穴があるためか柱間隔は規則的ではないが、おおむね0.5m~0.8mを測る。柱穴の規模には多少の相違があるものの、棟持柱



SD03セクション(東から)



- SD03セクション(北から) 土層説明  
 第1層 10YR4/4褐色シルト(灰化土、地表混じる)…SB19  
 第2層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト…SD03  
 第3層 7.5YR4/4褐色シルト…SD03  
 第4層 7.5YR4/3褐色シルト…SD03  
 第5層 7.5YR5/4にぶい褐色シルト…SD03  
 第6層 7.5YR4/2A褐色シルト…SD03  
 第7層 7.5YR4/2B褐色シルト(7.5YR5/4にぶい褐色シルト堅土混じる)…SD03  
 第8層 2.5YR4/2D灰質シルト(7.5YR4/2A褐色シルト堅土混じる)…SD03  
 第9層 2.5YR4/2D灰質シルト(7.5YR4/2A褐色シルト堅土混じる)…SD03  
 第10層 7.5YR4/2D褐色シルト(7.5YR5/4にぶい褐色シルト堅土混じる)…SD03  
 第11層 7.5YR4/2D褐色シルト(7.5YR5/4にぶい褐色シルト堅土混じる)…SD03  
 第12層 10YR4/4褐色シルト(地表少量混じる)…SD03  
 第13層 10YR4/4褐色シルト(10YR5/6にぶい黄褐色シルト堅土混じる)…SD03  
 第14層 10YR5/7にぶい黄褐色シルト(10YR4/4褐色シルト(灰化土少量混じる))…SD03  
 第15層 10YR5/6にぶい黄褐色シルト(10YR4/4褐色シルト(灰化土少量混じる))…SD03  
 第16層 10YR5/6にぶい黄褐色シルト(10YR4/4褐色シルト(灰化土少量混じる))…SD03  
 第17層 7.5YR6/4にぶい褐色シルト…ベース



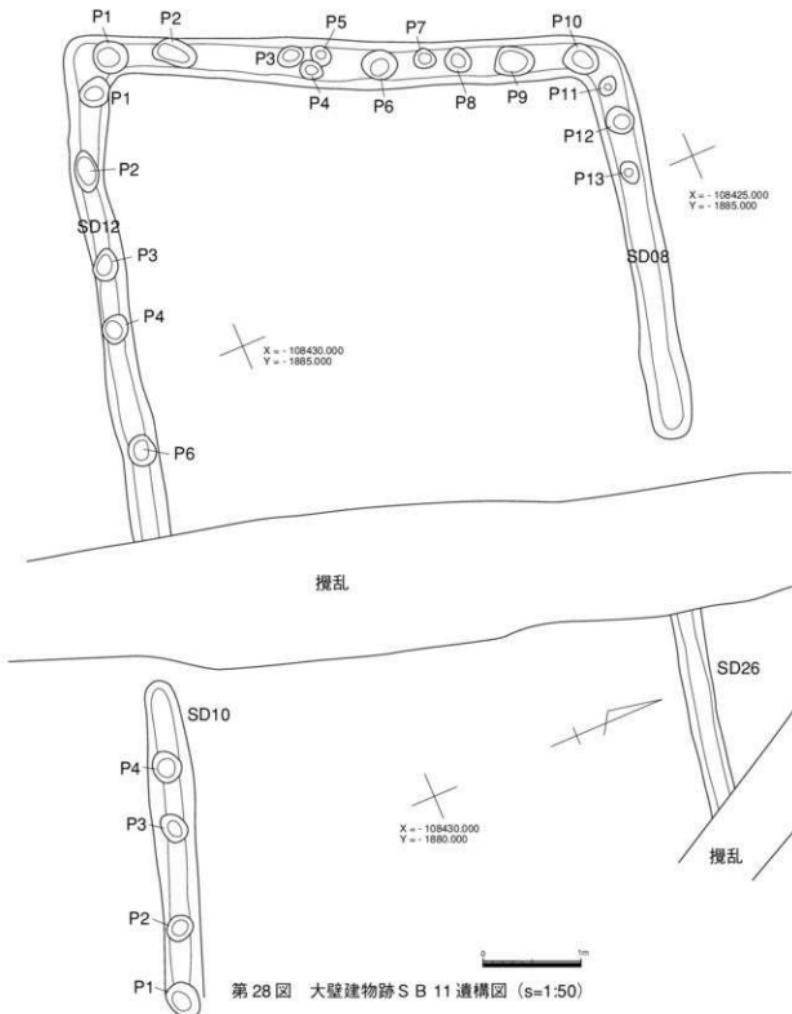
第27図 大壁建物跡SB 10遺構図(2)(s=1:50)

と特定できる柱穴は確認できなかった。遺物は溝の埋土中から須恵器と土師器が出土しており、時期はB—2期である。

### (3) S B 11 (第28図)

調査区中央部南寄りで検出された大壁建物跡で、SD 08、SD 10、SD 12とSD 26によっ

て構成されている。東端部は地盤が現状では緩やかに傾斜しており、溝SD 10とSD 26が途中で消滅している。遺構の一部が既に削平されてしまった可能性が考えられよう。このために正確な規模不明だが、5.8m×10.0m以上の規模を持ち、主軸方位はN—74°—Wを測る。平面



## 矢追遺跡

形は平行四辺形に少し歪んだ隅丸方形を呈しており、建物の長辺の中央部と推測される一部分が途切れていた。建物跡中央部に搅乱が存在しており、途切れ部の規模を特定できない。S B 11を構成する溝の幅は0.35m～0.45m、深さが0.10m～0.55mを測り、溝の埋土はにぶい褐色シルト斑土や灰褐色シルトが堆積していた。柱穴はその溝理土中で確認されたが、抜き取り穴や柱部分の裏込め土などを検出することはできなかった。柱穴は北西辺で3基、南西辺で10基、

南東辺で9基が確認されており、多くは溝の掘形の床面以上の深さで掘削されていた。北西辺についてはS D 08の東半部およびS D 26では柱穴が検出されなかった。柱間の間隔は0.2m～1.3mという具合に不規則となっていた。柱穴の規模には多少の相違が認められるが、棟持柱と特定できるものはなかった。遺物は溝の埋土中から須恵器と土師器が出土しており、時期はB-1期と推測される。

## 第4節 掘立柱建物跡

今回の調査では約500基の柱穴が検出されているが、これらの大半は掘立柱建物を構成していた柱穴と考えられる。ここではこれまでに筆者によって復元し得た掘立柱建物跡74棟について暫定的に報告するが、この復元案では同定できなかった柱穴が全体の約3割も存在することから必ずしも十分なものとはいえない。ここで報告する掘立柱建物跡については未だ仮説の域をでないことをあらかじめ断っておきたい。

本遺跡で確認された掘立柱建物跡は、柱穴のみが確認されたもので、この他の床構造や地床炉などの付属施設については全く確認することができなかった。床面は後世の削平などによつて全く残存していないと考えられ、本遺構の時期を考えるのに重要な位置付けとなる床面直上出土遺物は獲得し得なかった。従って、遺構の時期を決定する場合にも、わずかな切り合い関係と柱穴から出土する少量の遺物が参考になる程度であり、特定することが難しい。形状としては単純な長方形を呈するものが大半を占めており、総柱建物跡などは全く認められなかつた。比較的小規模なものばかりが目立つ状態となっている。

### (1) S B 21 (第29図)

北側の調査区北東端で検出された桁行3間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.9m×約2.1m、方位はN-8°-Eを測る。S K 423、S K 421、S K 411、S K 414、S K 416、S K 417によって構成され、北西隅の柱穴は搅乱があるため確認できなかつた。西辺の柱間間隔は北から約1.5m、約0.65m、約1.8mを測る。柱穴の規模はS K 411がやや大きい他はほぼ均一であつ

たため、棟持柱と特定できる柱穴は確認できなかつた。柱穴の埋土中から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明である。

### (2) S B 22 (第29図)

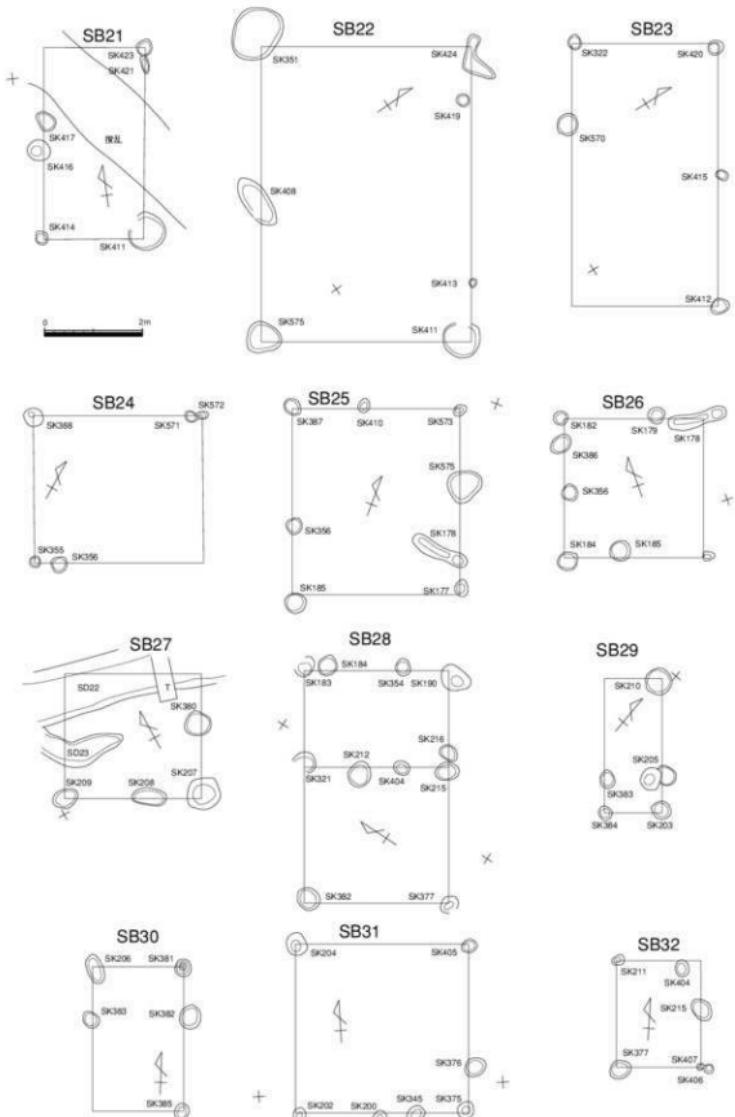
北側の調査区北東端で確認された掘立柱建物跡で、規模は約6.05m×約4.3mを測る。桁行2間×梁行1間と推定されるが、棟持柱は確認できなかつた。S K 351、S K 424、S K 413、S K 411、S K 575とS K 408によって構成され、主軸方位はN-36°-Eを測る。西辺の柱間間隔は北から約3.25m、約2.8mを測り、柱穴の規模は比較的大きいものが多い。柱穴から土師器小片がわずかに出土したのみで、時期は不明。

### (3) S B 23 (第29図)

北側の調査区北東端に位置する桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約5.35m×約3.0mを測る。S K 322、S K 420、S K 415、S K 412、S K 570によって構成されるが、南東隅の柱穴は確認できなかつた。方位はN-32°-Eで、東辺の柱間間隔はほぼ等間隔であった。柱穴の埋土中から須恵器杯蓋(358)などの遺物が出土しており、このことを重視すればB-1期に属すると推定される。

### (4) S B 24 (第29図)

北側の調査区東部にある掘立柱建物跡で、規模は約3.45m×約3.0mを測る。桁行1間×梁行1間で、S K 388、S K 571、S K 572、S K 356、S K 355からなり、方位はN-29°-Wである。南東隅の柱穴は検出されなかつた。S K 571とS K 572、S K 356とS K 355は近接することから建て替えが行われた可能性がある。柱穴から遺物は全く出土しておらず、時期を特定し得ない。



第29図 挖立柱建物跡 S B 21～S B 32 遺構図 (s=1:100)

## 矢追遺跡

### (5) S B 25 (第29図)

北側の調査区東部にある桁行2間×梁行2間の掘立柱建物跡で、規模は約3.85m×約3.4mを測る。S K 387、S K 410、S K 573、S K 575、S K 178、S K 177、S K 185とS K 356によつて構成され、方位はN—21°—Wを測る。南辺の間柱のみが検出されず、西辺の柱間間隔は北から約2.4m、約1.45mを、東辺は北から約1.65m、約1.5m、約0.65mを、北辺は西から約1.4m、約2.0mを測る。柱穴の規模は多少の相違があるが棟持柱は確認できなかった。柱穴から土師器小片がわずかに出土したのみで、時期を特定できない。

### (6) S B 26 (第29図)

北側の調査区東部で発見された掘立柱建物跡で、規模は約2.75m×約2.6mを測る。S K 182、S K 179、S K 178、S K 185、S K 184、S K 356とS K 386などによって構成され、主軸方位はN—18°—Eと測定される。棟持柱は確認されず、柱穴からは土師器小片がわずかに出土したのみで時期は不明。

### (7) S B 27 (第29図)

北側の調査区東部中央寄りで認められた掘立柱建物跡で、北辺部はS D 22によって遺存しない。規模は約2.85m×約1.45m以上を測り、柱間構成は桁行2間×梁行2間?となる。S K 380、S K 207、S K 208、S K 209によって構成され、方位はN—29°—Eとなる。南辺の柱間間隔は西から約1.8m、約1.05mを測る。柱穴から遺物は全く出土しておらず、時期を特定し得ない。

### (8) S B 28 (第29図)

北側の調査区東部で検出された掘立柱建物跡で、規模は約4.75m×約2.95mを測る。桁行2間×梁行1間で、中央部に東西方向の間仕切りが存在する。S K 183、S K 184、S K 354、S K 190、S K 216、S K 215、S K 377、S K 382、S K 321、S K 212、S K 404によって構成され、方位はN—56°—Eを測る。東西両辺の柱間間隔は北から約1.95m、約2.8mを測る。柱穴の規模に相違が認められるが棟持柱は確認でききない。遺物は柱穴から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

### (9) S B 29 (第29図)

北側の調査区東部中央寄りで確認された掘立柱建物跡で、約2.7m×約1.2mを測る。S K 210、S K 205、S K 203、S K 384、S K 383によつて構成され、西隅の柱穴が確認されなかつた。

桁行2間×梁行1間の柱間構成で、方位はN—50°—Eとなる。棟持柱は確認できず、遺物は全く存在しない。

### (10) S B 30 (第29図)

北側の調査区東部中央寄りで発見された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約2.95m×約1.85mを測る。S K 206、S K 381、S K 382、S K 385、S K 383によって構成され、方位はN—3°—Wと測定される。南西隅の柱穴は確認できなかつた。東西両辺の柱間間隔は北から約1.05m、約1.9mを測る。柱穴から遺物は全く出土せず、時期は不明。

### (11) S B 31 (第29図)

北側の調査区東部に所在する掘立柱建物跡で、規模は約3.55m×約3.45mを測る。S K 204、S K 405、S K 376、S K 375、S K 345、S K 200、S K 202によって構成され、主軸方位はN—3°—Eを測る。南辺は柱穴が多くその柱間間隔は西から約1.75m、約0.7m、約1.05mを測る。柱穴から遺物は全く出土せず、時期を特定し得ない。

### (12) S B 32 (第29図)

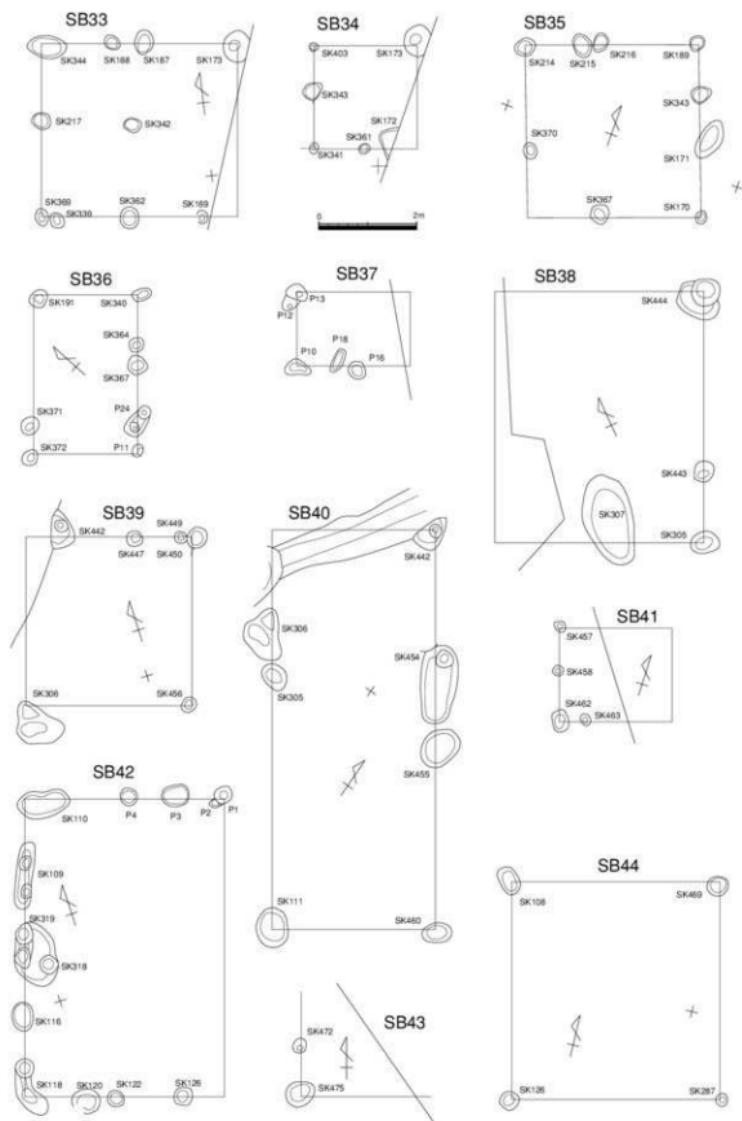
北側の調査区東部に存在する小規模な掘立柱建物跡で、約2.25m×約1.85mを測る。S K 211、S K 407、S K 377などからなり、北東隅の柱穴を確認することができなかつた。方位はN—4°—Wとなる。遺物は全く出土せず、時期は不明。

### (13) S B 33 (第30図)

北側の調査区東部で認められた掘立柱建物跡で、東端部は調査区外に広がる。規模は約4.0m×約3.55mと推定され、S K 344、S K 188、S K 187、S K 173、S K 169、S K 362、S K 339、S K 369、S K 217によって構成され、中央部にS K 342が所在する。方位はN—7°—E。北辺の柱間間隔は西から約1.4m、約0.65m、約1.95mを、西辺は北から約1.55m、約2.0mを、南辺は西から約0.3m、約1.5m、約1.5m、約0.7mを測る。棟持柱は確認できず、また柱穴からは土師器小片がわずかに出土したのみであり、時期は不明。

### (14) S B 34 (第30図)

北側の調査区南東部で検出された掘立柱建物跡で、桁行2間×梁行2間、規模は約2.1m×約2.05mを測る。S K 403、S K 173、S K 361、S



第30図 挖立柱建物跡 S B 33～S B 44 遺構図 (s=1:100)

## 矢追遺跡

K 341とSK 343によって構成され、南東隅の柱穴は調査区外にあって検出されなかった。主軸方位はN-1°-Wを測る。SK 173を除く柱穴の規模は比較的小さいことなどから、小屋のような建物跡と推定される。遺物が全く出土せず、時期は不明。

### (15) SB 35 (第30図)

北側の調査区南東部で確認された桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、規模は約3.55m×約3.5mを測る。SK 214、SK 215、SK 216、SK 189、SK 343、SK 171、SK 170、SK 367、SK 370によって構成され、南西隅の柱穴が検出されなかった。方位はN-21°-Wを、東辺の柱間間隔は北から約1.0m、約1.1m、約1.4mを、南辺は西から約1.45m、約2.1mを測る。柱穴の埋土中から土師器小片がわずかに出土したが、時期を特定できない。

### (16) SB 36 (第30図)

北側の調査区東部にある桁行3間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約2.25m×約2.2mを測る。SK 191、SK 340、SK 364、SK 367、SB 07内P 24、SB 07内P 11、SK 372とSK 371によって構成され、方位はN-49°-Eと測定される。南東辺の柱間間隔は西から約0.85m、約1.0m、約0.4m、約1.0mを測る。遺物は全くなく、時期は不明。

### (17) SB 37 (第30図)

北側の調査区南端で検出された桁行2間以上×梁行1間の掘立柱建物跡で、東半部は調査区外に広がって規模を特定できない。現状で約1.6m×2.2m以上を測る。SB 07内P 13、SB 07内P 10、SB 07内P 16によって構成され、方位はN-28°-Eである。SB 07内P 16はSB 07の覆土を切ることからSB 07よりは新しいが、遺物は全く出土しないのでこれ以上は時期を特定し得ない。

### (18) SB 38 (第30図)

南側の調査区北端に所在する掘立柱建物跡で、西半部は調査区外に広がっている。SK 444、SK 443、SK 305、SK 307によって構成され、規模は約5.2m×約3.3m以上を測る。方位はN-25°-Eである。柱穴は規模に相違が認められるが、棟持柱は確認できない。柱穴の埋土中から須恵器杯蓋(344)などが出土したからB-4期と考えることもできる。

### (19) SB 39 (第30図)

南側の調査区北端で確認された掘立柱建物跡で、約3.45m×約3.35mを測る。SK 442、SK 447、SK 449、SK 450、SK 456、SK 306によって構成され、北西隅の柱穴を検出することができなかった。方位はN-18°-Eとなる。遺物は全く出土せず、時期は不明。

### (20) SB 40 (第30図)

南側の調査区北端で検出された掘立柱建物跡で、規模は約8.15m×約3.25mを測る。SK 442、SK 454、SK 455、SK 460、SK 111、SK 305、SK 306によって構成され、主軸方位はN-26°-Wと測定される。柱穴から須恵器杯身(327)などが出土したことからB-1期に位置付けることも可能である。

### (21) SB 41 (第30図)

南側の調査区北端で検出された掘立柱建物跡で、北東部は調査区外に広がり規模は不明。方位はN-18°-Wを、規模は1.3m以上×約1.9mを測り、SK 457、SK 458、SK 462、SK 463によって構成される。西辺の柱間間隔は北から約0.9m、約1.0mを測る。柱穴から須恵器と土師器がわずかに出土している。

### (22) SB 42 (第30図)

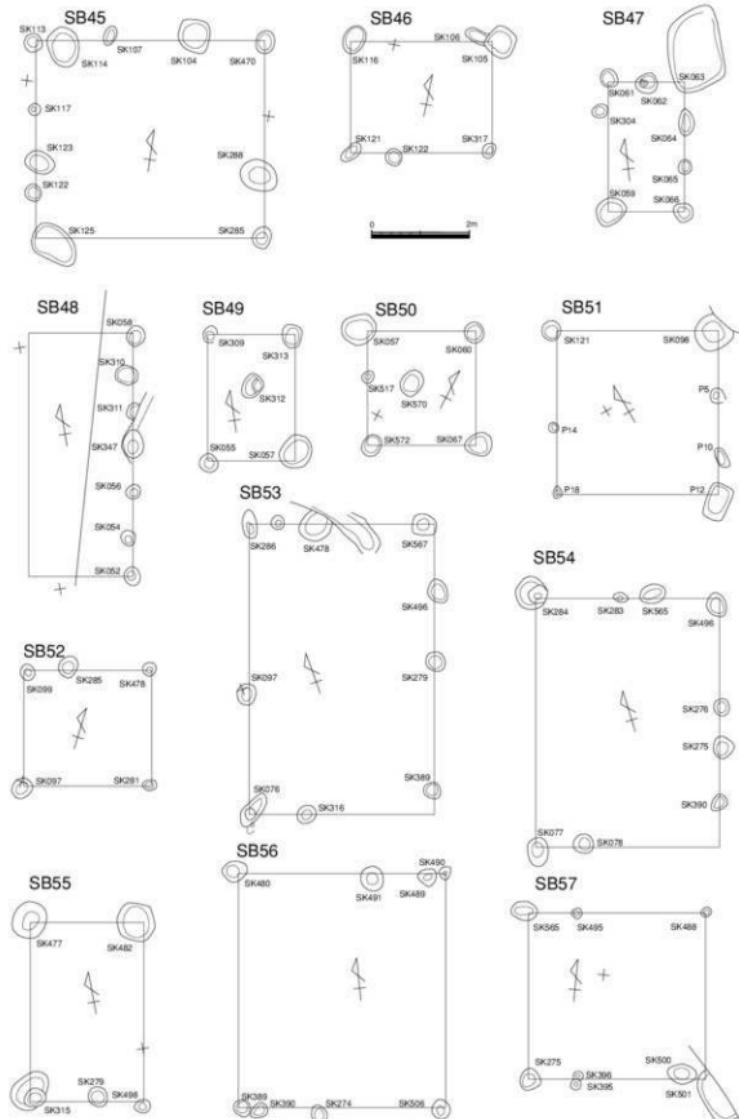
南側の調査区北部中央で確認された約6.15m×約4.1mを測る掘立柱建物跡である。SK 110、SB 13内P 4、SB 13内P 3、SB 13内P 1、SK 126、SK 122、SK 120、SK 118、SK 116、SK 319とSK 109によって構成され、方位はN-19°-Eと測定される。北西辺の柱穴は溝状の土坑の中に設置されたものがあり、柱穴の数量が多く柱間間隔が狭いことなどから、大壁建物跡であった可能性が考えられる。ただし他の辺では大壁建物跡らしき様子はうかがわれない。柱穴の埋土中から須恵器と土師器がわずかに出土しているが、時期は不明である。

### (23) SB 43 (第30図)

南側の調査区北端で検出された掘立柱建物跡で、北東半部が調査区外に広がっている。SK 472、SK 475によって構成され、方位はNと測定されるが、構造などの詳細は不明である。柱穴から須恵器高杯(347)などの遺物が出土したことからB-1期直前に位置付けられ得る。

### (24) SB 44 (第30図)

南側の調査区北部中央に存在する桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約4.4m×約4.3mを測る。SK 108、SK 469、SK 287、SK 126



第31図 掘立柱建物跡 S B 45～S B 57 遺構図 (s=1:100)

## 矢追遺跡

によって構成され、方位はN-14°-Wとなる。柱穴から土師器小片が出土したのみで時期は不明。

### (25) S B 45 (第31図)

南側の調査区北部中央にある掘立柱建物跡で、約4.7m×約4.05mを測る。SK 113、SK 114、SK 107、SK 104、SK 470、SK 288、SK 285、SK 125、SK 122、SK 123、SK 117によって構成され、北辺と西辺の状況を見ると桁行4間×梁行4間の掘立柱建物跡と判断される。主軸方位はN-7°-Wであり、北辺の柱間間隔は西から約0.55m、約0.95m、約1.75m、約1.45mを、西辺の柱間間隔は北から約1.35m、約1.05m、約0.65m、約1.0mを測る。南辺の間柱は確認されず、棟持柱も確認できない。柱穴から土師器壺(325)などが出土したことからB期に所属すると考えられる。

### (26) S B 46 (第31図)

南側の調査区北部中央で確認された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約2.9m×約2.35mを測る。SK 116、SK 105、SK 317、SK 122、SK 121によって構成され、方位はN-12°-Wを測る。南辺の柱間間隔は西から約0.9m、約2.0mを測る。須恵器と土師器がわずかにあるが、時期は不明。

### (27) S B 47 (第31図)

南側の調査区西端に所在する桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、規模は約2.9m×約1.65mを測る。SK 061、SK 062、SK 063、SK 064、SK 065、SK 066、SK 059とSK 304からなり、方位はN-7°-Eと測定される。北辺の柱間間隔は西から約0.75m、約0.9mを、東辺は北から約0.85m、約0.9m、約0.9mを測る。柱穴から出土した土師器壺(319)や土師器高杯(337)などから古墳時代中期と推定される。

### (28) S B 48 (第31図)

南側の調査区西端で発見された掘立柱建物跡で、西半部は調査区外に広がる。柵列跡の可能性もある。一辺が約4.9m(6間)を測り、方位はN-10°-Eであった。SK 058、SK 310、SK 311、SK 347、SK 056、SK 054とSK 052によって構成され、柱間間隔は北から約0.85m、約0.75m、約0.7m、約0.9m、約1.0m、約0.7mを測る。若干の須恵器と土師器が出土したが、時期は不明である。

### (29) S B 49 (第31図)

南側の調査区西端に位置する桁行1間×梁行1間の小規模な掘立柱建物跡で、約2.6m×約1.8mの規模を持つ。SK 309、SK 313、SK 057とSK 055によって構成され、中央にはSK 312がある。方位はN-9°-EでSB 48とほぼ平行する。須恵器杯身(320)と須恵器杯蓋(339)などが出土したことからB期前半の掘立柱建物跡に位置付けられる。

### (30) S B 50 (第31図)

南側の調査区西端で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約2.35m×約2.2mを測る。SK 057、SK 060、SK 067、SK 572、SK 517によって構成され、中央部にSK 570が存在する。方位はN-28°-W、南西辺の柱間間隔は西から約0.9m、約1.45mを測る。土師器小片が出土したが、時期は不明。

### (31) S B 51 (第31図)

南側の調査区西部で検出された掘立柱建物跡で、平面形は約3.35mのほぼ正方形である。桁行3間×梁行1間で、SK 121、SK 098、SB 04内P 5、SB 04内P 10、SB 04内P 12、SB 05内P 18、SB 05内P 14によって構成される。主軸はN-30°-Eの方位を測る。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

### (32) S B 52 (第31図)

南側の調査区中央部に存在する桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約2.55m×約2.4mを測る。SK 099、SK 285、SK 487、SK 281、SK 097などからなり、方位はN-15°-Wであった。柱穴から土師器がわずかに出土したが、時期を特定し得ない。

### (33) S B 53 (第31図)

南側の調査区中央部で確認された掘立柱建物跡で、約5.85m×約3.65mを測る。SK 286、SK 478、SK 567、SK 496、SK 279、SK 389、SK 316、SK 076、SK 097によって構成され、方位はN-26°-Eである。北辺や西辺からみて桁行2間×梁行2間と復元される。南東隅の柱穴は検出できず、柱穴から少量の須恵器と土師器が出土したが、時期を特定できない。

### (34) S B 54 (第31図)

南側の調査区中央部にある桁行4間×梁行3間の掘立柱建物跡で、約5.1m×約3.75mを測る。SK 284、SK 283、SK 565、SK 496、SK 276、SK 275、SK 390、SK 078とSK 077によって構成され、方位はN-16°-Eとな

る。南東隅の柱穴は検出されず、棟持柱は確認できなかった。東辺の柱間間隔は北から約2.2m、約0.85m、約1.1m、約0.95mを測る。須恵器高杯（321）が出土したことからB-1期に属する。

#### (35) S B 55（第31図）

南側の調査区中央部に所在する桁行1間×梁行2間の掘立柱建物跡で、規模は約3.65m×約2.3mを測る。S K 477、S K 482、S K 498、S K 279、S K 315によって構成され、北半部の柱穴の規模がやや大きく、方位はN-10°-Eを測る。柱穴の埋土中から近世陶器が出土しているため、江戸時代に所属する。

#### (36) S B 56（第31図）

南側の調査区中央部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約4.8m×約4.2mを測る。S K 480、S K 491、S K 489、S K 490、S K 506、S K 274、S K 390とS K 389によって構成され、方位はN-5°-Eを測る。北東隅と南西隅の柱穴には隣接してS K 489とS K 390があり隅柱を支える施設かも知れない。北辺の柱間間隔は西から約2.7m、約1.15m、約0.35mを、南辺は東から約2.65m、約1.15m、約0.40mを測り、両者は対称的な配置となっている。柱穴S K 490から須恵器杯身（348）が出土したことからB-1期に位置付けられる。

#### (37) S B 57（第31図）

南側の調査区中央部で発見された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.7m×約3.4mを測る。S K 565、S K 495、S K 488、S K 501、S K 500、S K 396、S K 395とS K 275によって構成され、方位はN-7°-Wであった。S K 396とS K 395は重複しており建て替えが行われた可能性がある。須恵器と土師器が少量出土したに過ぎず、時期は不明。

#### (38) S B 58（第32図）

南側の調査区中央部で確認された桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約3.05m×約1.35mで規模は小形である。S K 492、S B 15内P 1、S B 15内P 4とS K 499によって構成され、方位はN-5°-E。土師器がわずかに出土したが、時期を特定し得ない。

#### (39) S B 59（第32図）

南側の調査区中央部に位置する桁行1間×梁行1間の小規模な掘立柱建物跡で、約1.45m×約1.2mを測る。S B 15内P 3、S B 15内P 2、

S B 15内P 8、S B 15内P 7とS B 15内P 5によって構成され、中央部にS B 15内P 4が配置されている。方位はN-22°-Wで、S B 15の床面から確認されたことからS B 15よりも古い可能性が高い。柱穴からは全く遺物が出土していない。

#### (40) S B 60（第32図）

南側の調査区西部で検出された掘立柱建物跡である。桁行2間×梁行2間で、規模は約4.3m×約5.8mを測る。S K 047、S K 051、S B 04内P 13、S B 04内P 12、S K 303、S K 069、S K 298とS K 296によって構成され、南西隅は調査区外に展開する。方位はN-6°-Eで、柱穴の規模はS K 298とS K 303を除き直径約0.5m程度であることから、両者は本建物とは無関係の柱穴の可能性も考えられる。S B 04内P 13、S B 04内P 12はS B 04を切る造構で、S B 60はS B 04より新しいと判断される。柱穴の埋土中から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は特定し難い。

#### (41) S B 61（第32図）

南側の調査区中央部にある桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、約3.7m×約3.2mを測る。S K 156、S K 072、S K 074、S K 148、S K 291、S K 293、S K 295とS K 298によって構成され、方位はN-68°-Eである。柱間間隔は北辺が西から約2.1m、約1.6mを、南辺が西から約1.4m、約1.1m、約1.2mを、西辺が北から約1.9m、約1.3mを各々測る。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

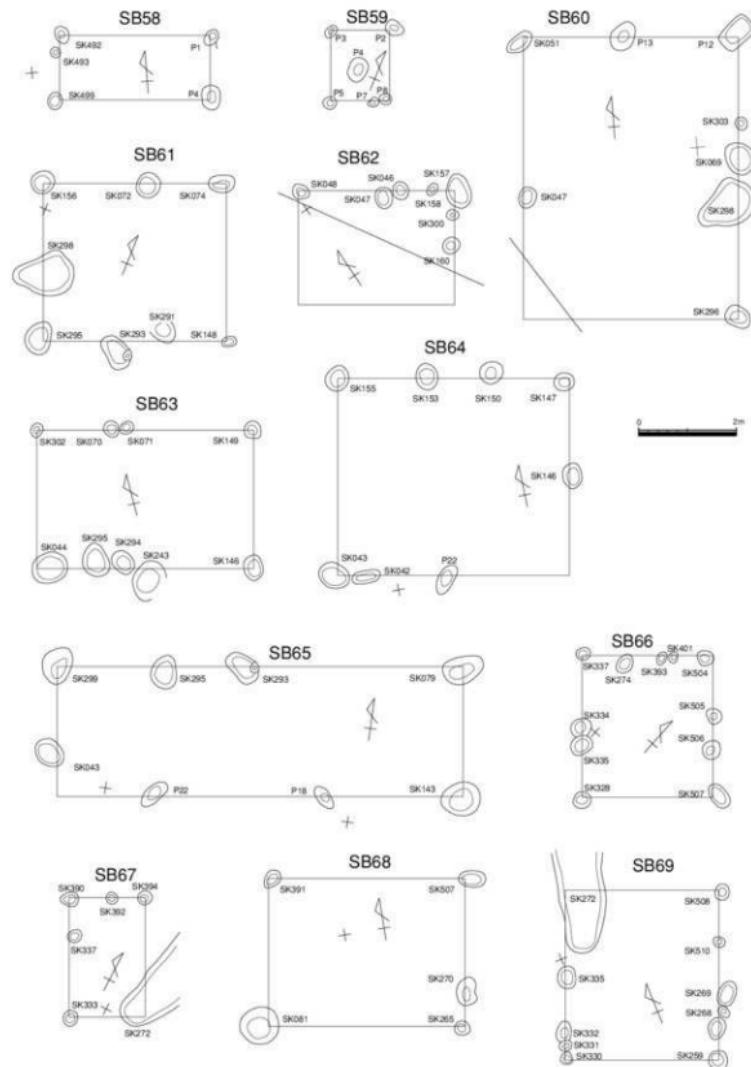
#### (42) S B 62（第32図）

南側の調査区西部で確認された約3.1m×1.15m以上の規模を持つ掘立柱建物跡である。南西半部は調査区外に展開し、桁行2間×梁行1間以上となる。S K 048、S K 047、S K 046、S K 158、S K 157、S K 300、S K 160によって構成されるが、このうちS K 047とS K 046とS K 158、そしてS K 300とS K 160は各々近接しているために同時に存在していない可能性が高い。主軸方位はN-32°-Eを測る。須恵器と土師器の小片が出土したが、時期の特定は難しい。

#### (43) S B 63（第32図）

南側の調査区中央部にある桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約4.35m×約2.6mを測る。S K 302、S K 070、S K 071、S K 149、

矢追遺跡



第32図 挖立柱建物跡 S B 58～S B 69遺構図 (S=1:100)

S K 146、S K 243、S K 294、S K 295とS K 044によって構成される。方位はN—12°—Eを測り、南辺の柱穴の規模は少しだ大きい。S K 070とS K 071は近接することから建て替えられた可能性がある。須恵器杯身（318）が出土したことからB—1期と推定される。

#### (44) S B 64（第32図）

南側の調査区中央部南寄りで検出された掘立柱建物跡で、約4.6m×約4.05mを測る。南東隅の柱穴は確認されなかつたが、桁行3間×梁行2間と復元される。S K 155、S K 153、S K 150、S K 147、S K 146、S D 06内P 22、S K 042とS K 043によって構成され、方位はN—12°—Eで、柱穴の規模は直径0.4m～0.5m、北辺の柱間間隔は西から約1.8m、約1.3m、約1.5mを、東辺は北から約2.0m、約2.05mを測る。柱穴からは須恵器と土師器がわずかに出土した。

#### (45) S B 65（第32図）

南側の調査区中央部南端に所在する桁行3間×梁行2間？の掘立柱建物跡で、規模は約8.35m×約2.7mを測る。S K 299、S K 295、S K 293、S K 079、S K 143、S D 06内P 18、S D 06内P 22、S K 043といった比較的大規模な柱穴からなり、方位はN—82°—Eである。S D 06内P 18とS D 06内P 22はS B 65とは無関係の可能性もあり、南西隅の柱穴は確認できなかつた。また、S K 295はS B 61の南西隅柱穴となっており、これもS B 65とは無関係の可能性がある。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

#### (46) S B 66（第32図）

南側の調査区中央部で確認された掘立柱建物跡で、規模は約2.9m×約2.7mを測る。桁行3間×梁行3間で、S K 504、S K 505、S K 506、S K 507、S K 328、S K 335、S K 334、S K 337、S K 274、S K 393とS K 401によって構成され、方位はN—48°—Eを測る。北隅の柱穴の位置は若干南西にずれて存在する。北東辺の柱間間隔は西から約1.2m、約0.7m、約1.0mを測る。土師器がわずかに出土しているが、時期を特定できない。

#### (47) S B 67（第32図）

南側の調査区中央部にある桁行2間×梁行2間の掘立柱建物跡で、約2.45m×約1.5mを測る。S K 394、S K 272、S K 333、S K 337、S K 390、S K 392によって構成され、方位はN

—28°—Wである。柱間間隔は比較的狭く、北辺と西辺では0.7m～1.65mを測る。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は特定しがたい。

#### (48) S B 68（第32図）

南側の調査区中央部にある掘立柱建物跡で、規模は約4.0m×約3.0mを測り、桁行1間×梁行1間となる。S K 391、S K 507、S K 270、S K 265、S K 081からなり、方位はN—11°—Eを測る。柱穴の規模は多少の相違が認められる。須恵器杯蓋（323）が出土したことからB—1期に位置付けられよう。

#### (49) S B 69（第32図）

南側の調査区中央部で検出された掘立柱建物跡で、約3.55m×約3.05mを測る。S K 272、S K 508、S K 510、S K 269、S K 268、S K 259、S K 330、S K 331、S K 332とS K 335からなり、東辺と西辺については多数の柱穴が検出されている。S K 272は規模が大きく柱穴とならない可能性がある。棟持柱は特定できず、主軸方位はN—22°—Eを測る。土師器がわずかに出土したが、時期を特定できない。

#### (50) S B 70（第33図）

南側の調査区中央部にある掘立柱建物跡で、規模は約4.7m×約4.3mを測る。S K 080、S K 328、S K 270、S K 269、S K 268、S K 255、S K 088、S K 085、S K 083、S K 082、S K 140、S K 139、S K 142によって構成され、主軸はN—13°—Eを測る。南東隅の柱穴が確認されなかつた。建物跡の北寄り部分で東西方向に間仕切りが認められた。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

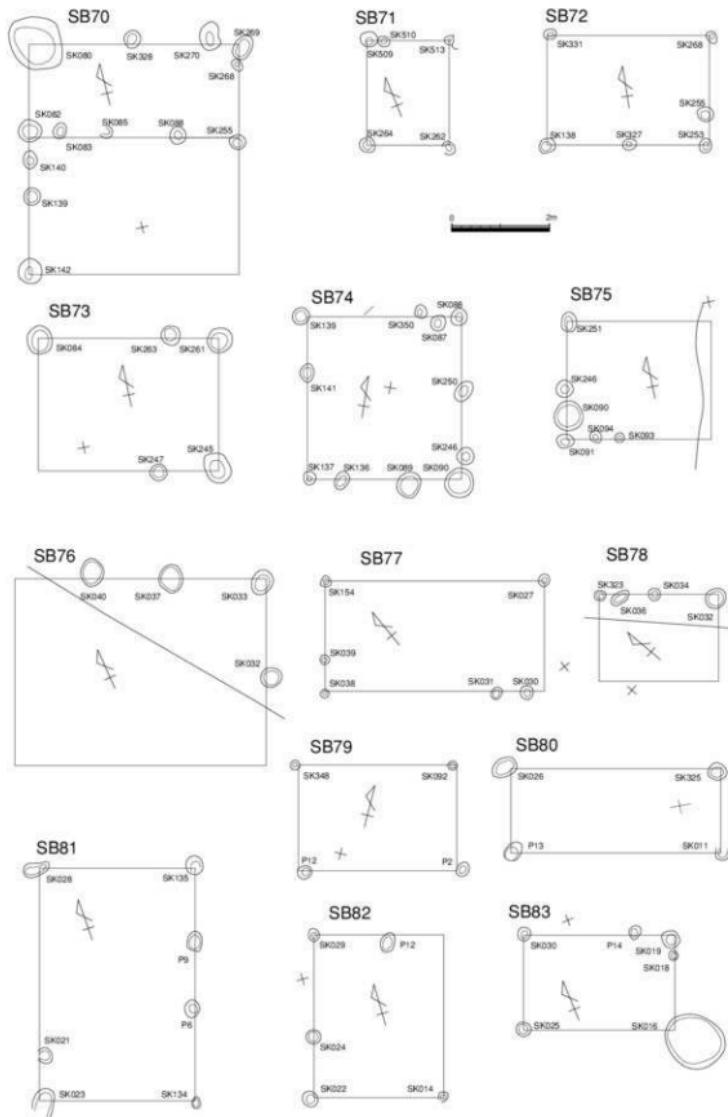
#### (51) S B 71（第33図）

南側の調査区中央部に存在する小形の掘立柱建物跡で、約2.2m×約1.7mを測る。桁行1間×梁行1間で、S K 509、S K 510、S K 513、S K 262、S K 264からなり、方位はN—22°—Eと測定される。遺物は土師器がわずかに出土したが、時期を特定できない。

#### (52) S B 72（第33図）

南側の調査区中央部で存在する掘立柱建物跡で、約3.2m×約2.3mを測る。桁行2間×梁行2間で、S K 331、S K 268、S K 255、S K 253、S K 327とS K 138によって構成される。方位はN—8°—Eで、南辺の柱間間隔は西から約1.65m、約1.55mを、東辺の柱間間隔は北から

矢追遺跡



第33図 挖立柱建物跡 S B 70～S B 83 遺構図 (S=1:100)

約1.55m、約0.75mを測る。須恵器杯身（326）や須恵器高杯（334）などが出土したことからB期後半に位置付けられる。

#### (53) S B 73（第33図）

南側の調査区中央部に位置する桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.65m×約2.6mを測る。S K 084、S K 263、S K 261、S K 245、S K 247によって構成されるが、南西隅の柱穴は検出されなかった。方位はN-13°-Eを測り、棟持柱は確認できなかった。北辺の柱間隔は西から約2.65m、約1.0mを、南辺の柱間隔は西から約2.5m、約1.15mを測る。柱穴から須恵器杯蓋（331）、須恵器無蓋高杯（329）と土師器壺（330）などが出土したことからB期に属する可能性がある。

#### (54) S B 74（第33図）

南側の調査区中央部で確認された桁行2間×梁行3間の掘立柱建物跡で、約3.3m×約3.15mを測る。S K 139、S K 087、S K 088、S K 250、S K 246、S K 090、S K 089、S K 136、S K 137とS K 141によって構成され、方位はN-82°-Eと測定される。南辺の柱間隔は西から約0.75m、約1.4m、約1.0mを測る。柱穴の規模は多少の相違があるが、棟持柱は確認できない。遺物は須恵器と土師器がわずかに出土した程度である。

#### (55) S B 75（第33図）

南側の調査区中央部で検出された掘立柱建物跡で、規模は2.8m以上×約2.3mを測る。S K 251、S K 093、S K 094、S K 091、S K 090、S K 246によって構成されるが、東部は擾乱によって不明である。方位はN-13°-Eとなる。須恵器と土師器が出土したが、時期は不明。

#### (56) S B 76（第33図）

南側の調査区中央部南寄りにある4.5m以上×3.1m以上を測る掘立柱建物跡である。桁行3間以上×梁行2間以上で、S K 040、S K 037、S K 033、S K 032によって構成され、方位はN-22°-Eを測る。S K 040はS D 06を切っており、S B 76はS B 08よりも新しいと判断される。柱穴の平面プランは直径約0.5mの円形で共通であり、多くの復元した掘立柱建物跡の中でも蓋然性の高い建物跡と評価できる。柱穴から須恵器杯蓋（315）などが出土したが、時期は特定できない。

#### (57) S B 77（第33図）

大壁建物跡S B 08の内側で検出された掘立柱建物跡で、桁行2間×梁行2間で、規模は約4.5m×約2.3mを測る。S K 154、S K 027、S K 030、S K 031、S K 038、S K 039によって構成され、南隅の柱穴が検出されなかつた。方位はN-52°-Wで、柱穴の規模は比較的小規模なものが多い。柱穴から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

#### (58) S B 78（第33図）

南側の調査区中央部南寄りに所在する桁行3間×梁行1間以上の掘立柱建物跡で、南西部の大半が調査区外に広がる。このため柵列の可能性も高い。規模は約2.4m×0.6m以上を測り、S K 323、S K 036、S K 034、S K 032によって構成される。主軸方位はN-41°-Wで、柱間隔は西から約0.4m、約0.7m、約1.3mを測り、棟持柱は確認できない。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

#### (59) S B 79（第33図）

南側の調査区中央部にある掘立柱建物跡で、約3.25m×約2.15mを測る。方位はN-17°-W、桁行1間×梁行1間で、S K 348、S K 092、S D 03内P 2、S D 08内P 12によって構成される。南辺の柱穴が大壁建物跡の溝内柱穴と重複することから、復元に無理があるかもしれない。遺物が全く出土せず、時期は不明。

#### (60) S B 80（第33図）

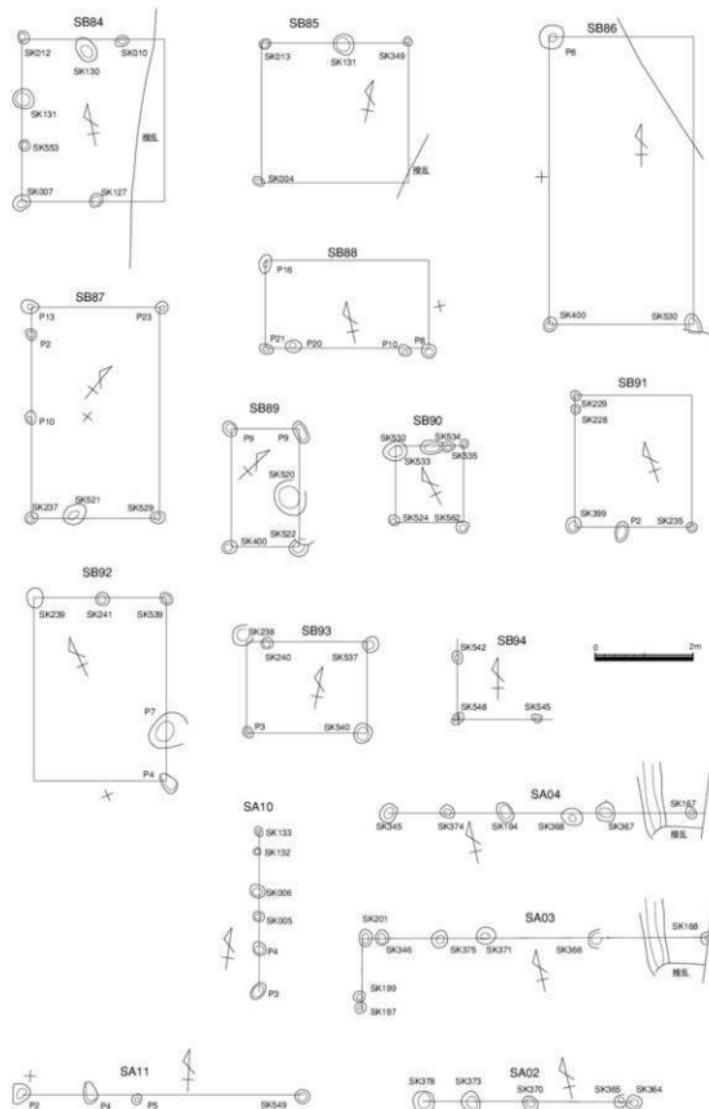
南側の調査区中央部で検出された桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約4.35m×約1.65mを持つ。S K 026、S K 325、S K 011、S D 09内P 13によって構成され、主軸方位はN-78°-Wと測る。長辺に間柱が確認されず、復元案に若干の疑問が残る。S K 011はS D 08に切られることから、S B 80は大壁建物跡S B 11よりも古いと判断される。須恵器と土師器がわずかに出土したに過ぎない。

#### (61) S B 81（第33図）

南側の調査区中央部にある桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約4.8m×約3.2mを測る。S K 028、S K 135、S K 134、S K 023、S K 021によって構成され、方位はN-20°-Eとなる。間柱となる柱穴は大壁建物S B 11の溝内ピットを採用すれば存在するが、現状ではなかったと考えたい。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

#### (62) S B 82（第33図）

矢追遺跡



第34図 挖立柱建物跡 S B 84～S B 94他遺構図 (s=1:100)

南側の調査区中央部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.35m×約2.6mを測る。S K 029、S K 014、S K 022、S K 024によって構成され、北東隅の柱穴と東辺の間柱は検出されなかった。方位はN—15°—Eを測り、柱穴の規模は比較的小さい。柱間の間隔は西辺で南から約1.3m、約1.05mとなる。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は特定し難い。

#### (63) S B 83 (第33図)

南側の調査区中央部で確認された掘立柱建物跡で、規模は約3.1m×約1.95mを、方位はN—19°—Eを測る。桁行1間×梁行1間で、S K 030、S K 019、S K 018、S K 016とS K 025によって構成される。柱穴の規模はS K 016が際立って大きい他はほぼ同一となる。柱穴から須恵器杯蓋(313)などが出土したことからB—2期に位置付けられよう。

#### (64) S B 84 (第34図)

南側の調査区南部に所在する桁行3間×梁行2間以上、約3.25m×2.7m以上を測る掘立柱建物跡で、東辺が調査区外に広がる。S K 012、S K 130、S K 010、S K 127、S K 007、S K 553とS K 131によって構成され、方位はN—12°—Eを測る。柱穴の規模は多少の相違があるが、棟持柱は確認できなかった。須恵器と土師器が出土したが、時期は特定し難い。

#### (65) S B 85 (第34図)

南側の調査区南部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、南東隅の柱穴は搅乱によって遺存しなかった。規模は約2.95m×約2.7mを測り、S K 013、S K 131、S K 349、S K 004によって構成される。方位はN—9°—Wである。S K 131はS B 84と共有しているためにS B 85とは無関係かもしれないが、これを間柱と考えると北辺の柱間間隔は西から1.6m、1.35mを測ることになる。若干量の土師器が出土したが、時期を特定し得ない。

#### (66) S B 86 (第34図)

南側の調査区東部で確認された掘立柱建物跡で、桁行1間×梁行1間、規模は約5.95m×約3.0mを測る。S B 03内P 6、S K 530、S K 400によって構成され、方位はN—1°—Wを測る。規模が大きい割に長辺の間柱が認められないものである。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

#### (67) S B 87 (第34図)

南側の調査区東部で検出された掘立柱建物跡で、桁行3間×梁行2間、約4.3m×約2.65mを測る。S B 19内P 23、S K 529、S K 521、S K 237、S B 19内P 10、S B 19内P 2、S B 19内P 13によって構成され、方位はN—38°—Wである。南西辺の柱間間隔は西から0.5m、1.75m、2.05mを、南東辺は西から0.8m、1.85mを測る。遺物が全くなく、時期は不明である。

#### (68) S B 88 (第34図)

南側の調査区東部にある桁行3間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.45m×約1.8mを測る。北東隅の柱穴を検出できなかったが、S B 19内P 16、S B 19内P 8、S B 19内P 10、S B 19内P 20、S B 19内P 21によって構成され、方位はN—12°—Eと測定される。南辺の柱間間隔は西から0.55m、2.25m、0.65mを測る。柱穴の埋土中から遺物は出土せず、時期を推定できない。

#### (69) S B 89 (第34図)

南側の調査区東部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約2.4m×約1.35mを測る。S B 19内P 9、S K 520、S K 522、S K 400、S D 03内P 9によって構成され、方位はN—47°—Wである。S K 520はその規模がやや大きいことから間柱ではないかもしれない。S B 19内P 9はS B 19床面で初めて確認された遺構であることを信用すれば、S B 19より古い可能性が高くなる。また、柱穴の埋土中から須恵器杯蓋(351、352)と土師器壺(353)などが出土していることから考えると、B期前半に位置付けられよう。

#### (70) S B 90 (第34図)

南側の調査区南東端で検出された非常に小規模な掘立柱建物跡である。桁行1間×梁行1間で、規模は約1.6m×約1.2mを測る。S K 532、S K 535、S K 562、S K 524からなり、方位はN—26°—Eである。S K 533、S K 534もこの建物跡に伴うかも知れない。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

#### (71) S B 91 (第34図)

南側の調査区南東端で検出された掘立柱建物跡で、約2.45m×約2.7mを測る。桁行1間×梁行1間で、S K 229、S K 235、S K 399によって構成され、北東隅の柱穴は検出できなかった。S K 228もこの建物跡に関連すると思われ、

## 矢追遺跡

東柱か建て替えによるものだろう。方位はN—19°—Eを測り、柱穴の規模は比較的小規模である。遺物はなく、時期を推定できない。

### (72) S B 92 (第34図)

南側の調査区南東端で検出された掘立柱建物跡で、規模は約3.7m×約2.25mを測る。桁行2間×梁行2間であり、SK 239、SK 241、SK 539、S B 01内P 7、S B 01内P 4によって構成され、方位はN—26°—Eを測る。S B 01内P 7はS B 01の内部施設の可能性が高く、本遺構に含めないで考えると桁行1間×梁行2間となる。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期の特定は難しい。

### (73) S B 93 (第34図)

南側の調査区南東端で検出された桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約2.5m×約1.8mを測る。SK 238、SK 240、SK 537、SK 540、S B 02内P 3によって構成され、方位はN—6°—Wを測る。棟持柱は確認できなかった。柱穴から全く遺物が認められないことから時期は不明である。

### (74) S B 94 (第34図)

南側の調査区南東端で検出された掘立柱建物跡で、南西部のみを確認した。規模は桁行1間以上×梁行1間以上で、約1.25m以上×約1.65m以上の大きさを測る。SK 542、SK 548、SK 545によって構成され、主軸方位は真北と測定される。柱穴の規模は比較的小さく、遺物が全く出土しない。

### (75) S A 01

S A 01は北側の調査区東端で検出された掘立柱欄列跡で、長さ約3.0m(2間分)が確認された。SK 410、SK 175などによって構成され、方位はN—65°—Eとなる。柱穴から全く遺物が出土していない。

### (76) S A 02 (第34図)

北側の調査区南東端で検出された掘立柱欄列跡で、S A 03とS A 04が近接して存在する。長さ約4.3m(3間分)が確認された。SK 378、SK 373、SK 370、SK 364によって構成され、方位はN—76°—Wを測る。全く遺物が出土せず、時期を特定できない。

### (77) S A 03 (第34図)

北側調査区南東端で検出された掘立柱欄列跡であり、西端部でL字に屈曲する。長さは合計で約8.6m以上(8間分以上)が確認された。S

K 197、SK 199、SK 201、SK 346、SK 375、SK 371、SK 366とSK 168によって構成され、方位はN—78°—Wである。柱穴から全く遺物が出土せず、時期は不明。

### (78) S A 04 (第34図)

北側調査区南東端で検出された掘立柱欄列跡で、長さ約6.2m以上(4間分以上)が確認された。SK 345、SK 374、SK 194、SK 368、SK 367、SK 167によって構成され、方位はN—78°—Wと測定される。全く遺物が出土していないことから時期を特定できない。

### (79) S A 05

南側の調査区北西端で検出された掘立柱欄列跡で、長さは約2.2m(2間分)である。SK 445、SK 446、SK 454によって構成され、方位はN—2°—Eである。柱穴からは土師器小片が出土したが、時期は不明である。

### (80) S A 06

南側の調査区西端で検出された掘立柱欄列跡で、長さは約4.7m(2間分)を測る。SK 053、SK 050、SK 049によって構成され、方位はN—42°—Wと測定される。柱穴の埋土中から須恵器が出土したが、時期の特定は難しい。

### (81) S A 07

南側の調査区中央部で検出された掘立柱欄列跡で、長さ約3.9m(3間分)が確認された。SK 514、SK 267、SK 259、SK 250によって構成され、方位はN—22°—Eを測る。須恵器などが出土したが、詳細な時期は不明。

### (82) S A 08

南側の調査区中央部で検出された掘立柱欄列跡で、長さ約6.7m(5間分)が確認された。SK 511、SK 516、SK 260、SK 252、SK 247、SK 089によって構成され、方位はN—21°—Eと測定される。須恵器杯A(332)や須恵器杯身(333)が出土したことから、時期はB期と推定される。

### (83) S A 09

南側の調査区中央部で検出された掘立柱欄列跡で、長さは約4.3m(2間分)である。SK 326、SK 222、SK 220によって構成され、方位はN—63°—Wを測る。柱穴から須恵器などが出土したが、時期は不明。

### (84) S A 10 (第34図)

南側の調査区南部で検出された掘立柱欄列跡で、長さ約3.3m(5間分)が確認された。SK

133、SK 132、SK 006、SK 005、SD 12内P 4とSD 09内P 3によって構成され、方位はN-9°-Wとなる。全く遺物が出土していないことから時期を特定できない。

#### (85) S A 11 (第34図)

南側の調査区南東端で検出された掘立柱柵列

## 第5節 溝

今回の調査では約30条の溝が検出されている。このうち、堅穴建物跡の周溝や大壁建物跡に伴うものなどを除くと、検出された溝の数は15条となる。本遺跡で確認された溝は、SD 01を除くと検出状態では非常に規模が小さいものが多く、全て素掘り溝である。これらは堅穴建物跡の周溝など建物遺構に付属する可能性も残されているが、多くの事例は性格が不明なものである。ここでは、個別に事例報告する。

#### (1) SD 01 (第35図)

調査区南端で検出された幅3.6m~4.4mの規模を持つ溝である。両端部は調査区外へ伸びており全長を特定できないが、確認された長さは24m弱を測る。北西から南東へ落ちる斜面に掘削されており、北肩からの深さは60cm程度、南肩からの深さは30cm程度を計測する。方位はN-75°-Wと測定され、溝自体は西から東へ傾斜している。溝の最深部南寄りでさらに一段深く幅約60cmで深さ約10cmの規模の浅い溝が同じような方向で走っており、一連の遺構と理解される。北側でSB 01とSB 02を切っており、溝内には褐色シルトなどが堆土状で堆積していた。溝の傾斜がやや急であるため、流水はあったと推測されるが、これを示す堆積物を確認することはできなかった。溝埋土から17世紀前半に位置付けられる土師器内耳鍋や瀬戸美濃窯産陶器皿などが出土していることから、近世初頭の段階である程度埋没した遺構であると考えられる。

この溝は本遺跡の中では格段に大きな規模を持つ新しい時期の遺構であることから、矢追遺跡が存在する舌状台地の先端部に所在する応永2(1468)年から永禄年間の城と言われる鶴城跡に関連するものかもしれない。もしそうだとすれば、SD 01は台地先端にある鶴城跡の背後を遮断する遺構であった可能性が考えられる。ただしこの仮説は、遺構が埋没した時期が

跡で、長さは約5.7m(3間分)を測る。SK 549、SB 01内P 5、SB 01内P 4とSB 01内P 2によって構成され、方位はN-86°-Eで、柱穴から全く遺物が出土していないことから時期を特定できない。

やや下ること、台地を遮断する遺構としては特に深さの面で規模が小さいこと、SD 01の方位が台地を遮断する方向と少し歪んでいることなど、多くの難点も残されている考え方もある。

#### (2) SD 04

南側の調査区で検出された幅約0.3mの溝である。東端部がSB 10に切られる形で検出されたが、SB 10に付属する施設であった可能性も考えられる。SB 10には南辺西端部でも南方方向に伸びる同規模の溝が存在するが、ここでは別遺構と言う立場で報告することにしたい。溝埋土から須恵器や土師器の小片が出土していることから、ここではB期の遺構であると推測しておく。

#### (3) SD 05

SD 04の北側に所在するの溝で、幅0.5mを測る。東端部は搅乱によって状態を明らかにすることができなかったが、溝自体は西から東へ傾斜している。方位はN-65°-Wと測定される。溝埋土からは須恵器や土師器に混ざって埴し瓦片も出土していることから近世の溝と考えられる。

#### (4) SD 16

SB 07を切る形で検出された幅0.5mの規模を持つ土坑状の溝である。溝埋土から須恵器や土師器の小片が数点出土しているが、時期は特定し難い。

#### (5) SD 17

北側の調査区東端にある溝で、L字状に屈曲している。溝の北側部分は東方向に調査区外に伸び、南側部分は搅乱によって破壊され形状は不明である。南側も東に屈曲して「コ」字状に巡る可能性も考えられ、この場合は堅穴建物跡の周溝であったかもしれない。溝埋土からは遺物が全く出土していないことから時期を特定できない。

#### (6) SD 18 (第35図)

## 矢追遺跡

北側の調査区中央部に存在する溝で、L字状に屈曲している。西端部は搅乱で大きく破壊されており形状は不明だが、幅はところどころで太くなったり狭くなったりして不定形な平面形を呈しており、屈曲部ではテラスを持っている。SD 22に切られているが、溝埋土から近世の陶器小片が出土していることから江戸時代以降の遺構であろう。

### (7) SD 20

幅1.1m、深さ0.1m以下の規模を持つ溝で、南側の調査区西端で発見された。遺構検出状態ではSB 09などに切られており、溝の北部はSB 09の床面で検出されたSB 09内SD 01に連続する可能性がある。溝埋土からは須恵器と土師器のみが確認されることからも、古い時期の溝であるといえよう。

### (8) SD 21

南側の調査区北端で検出された幅0.75m前後の規模を持つ溝である。両端部は調査区外へ伸びており、全長は特定できない。方位はN=30°→Wと測定され、深さは30cm程度を計測する。SB 14などの遺構を切っており、溝埋土から近世陶器の小片などが出土していることから、江戸時代の遺構と考えられる。

### (9) SD 22 (第35図)

北側の調査区に存在する溝で、幅1.0m~1.7mの規模を持つ。西端部は搅乱で壊されており、全長は不明である。SD 18を切ることから少なくとも江戸時代以降の遺構であると推定される。北側にはSD 28が平行して走っており、両者で道状遺構を形成するかもしれない。方位や配置を明治17(1894)年作成の地籍図と対比してみると、江戸時代以降の耕作地(水田など)に関する可能性が考えられる。

### (10) SD 23

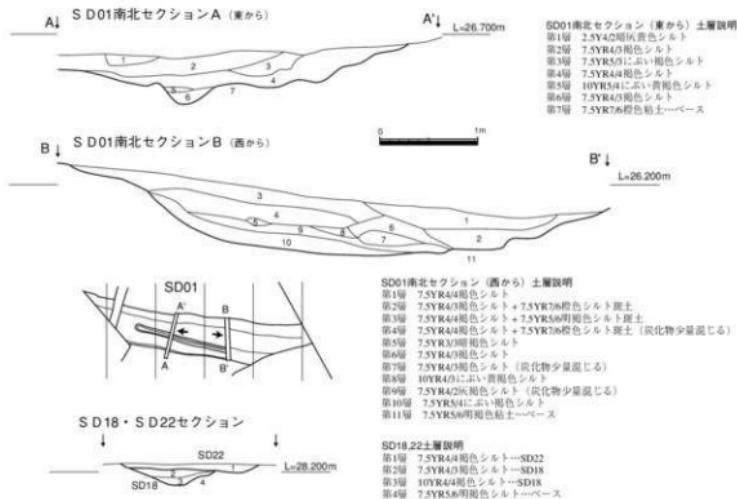
北側の調査区にあり、SD 22に北端が切られる遺構である。規模は小さく遺物も全く出土していないため、時期や性格は不明である。

### (11) SD 24

北側の調査区北東端に位置する幅0.3mの溝で、L字状に屈曲する。溝埋土から須恵器と土師器が少量出土しているに過ぎない遺構である。竪穴建物跡の周溝の可能性も考えられる。

### (12) SD 25

南側調査区の南端で発見された小規模な溝で、L字状に屈曲する。SB 02に南端が切られている形で遺構は検出された。溝埋土から須恵器と土師器が少量出土しており、竪穴建物跡の



第35図 溝土層断面図 (s=1:50)

周溝の可能性がある。

#### (13) S D 27

北側の調査区南端で検出された非常に小規模な溝である。出土遺物はなく、時期や性格は不明である。

#### (14) S D 28

北側の調査区北東端に位置する幅0.7m前後の溝で、南側にはS D 22が平行して走っている。江戸時代以降の遺構である可能性が高い。

なお、この遺構は実際の調査ではS D 26の遺構番号で調査されている。

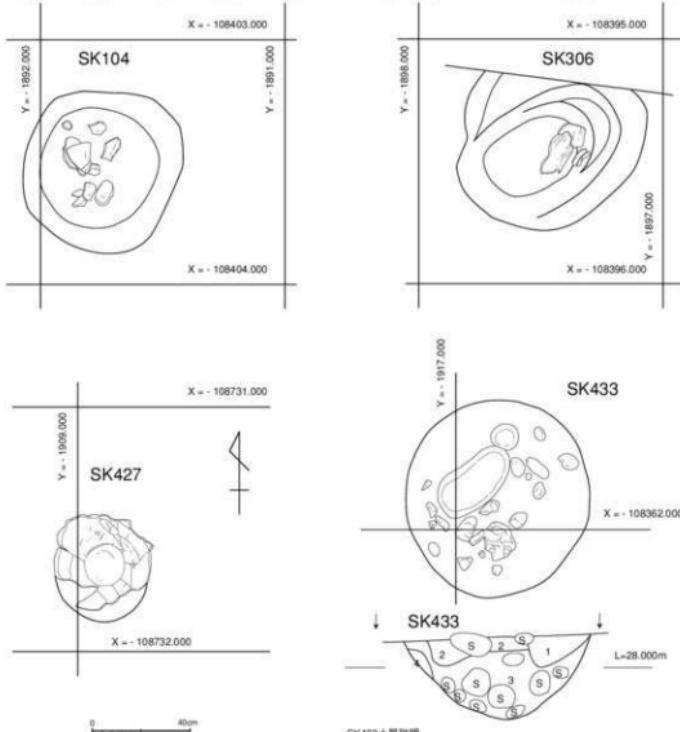
#### (15) S D 29

南側の調査区の南部で検出された幅0.7m前後の溝で、東端は調査区外へ伸びる。遺構の時期は特定し難いが、遺構の配置からみてS D 05の延長部分であった可能性が考えられる。なお、この遺構も実際の調査ではS D 26の遺構番号で調査されている。

## 第6節 土坑

今回の調査では、柱穴などのビットも含めた土坑状の遺構が570基以上確認された。これら

は堅穴建物跡や大壁建物跡の内部に所在する遺構を含んでいないため、実際にはこの数値より



第36図 土坑遺物等出土状態図 (s=1:20)

- SK433土壤説明  
 第1層 7.SYR3/3暗褐色シルト（炭化物混じる）  
 第2層 7.SYR4/4暗褐色シルト（炭化物少量混じる）  
 第3層 7.SYR2/2黒褐色シルト（石、礫、炭など大量に混じる。石を下層に散ぐ）  
 第4層 10YR4/4暗褐色シルト（炭化物混じる）  
 第5層 7.SYR6/6暗褐色シルト……ベース

## 矢追遺跡

多くの遺構が発見されているといえる。こうした土坑は、本遺跡の場合、大半は柱穴と考えられており、実際本章第4節ではこれらの遺構を用いて復元案を作成した掘立柱建物跡の報告が行われている。ただし、この掘立柱建物跡の報告は現状で筆者が想定した案に過ぎないものであり、本来検出された状態はあくまで土坑状の遺構以上ではないものである。本節では、柱穴などのピットも含めた土坑状の遺構を単体で取り上げるが、本文に触れる遺構は柱穴とは確實にいえない特殊な遺構と、柱穴の代表的なもののみに止めておきたい。取り上げなかつた個別の遺構については巻末に掲載した付表に情報を記述したので、これを参照されたい。

### (1) SK 032 (第37図)

SK 032は掘立柱建物跡S B 76およびS B 78を構成する柱穴の一つである。土層断面を観察すると、検出面から約15cmまでは後世の堆積層になると考えられ、これより下層では柱が存在した痕跡を確認することができた。柱の裏込めにはオリーブ褐色シルトの斑土が充填されていた。土師器と須恵器の小破片が出土した。

### (2) SK 033 (第37図)

SK 033は掘立柱建物跡S B 76を構成する柱穴の一つである。土層断面から柱の痕跡を明瞭に見い出すことはできなかった。断面形は箱堀状となっている。土師器と須恵器の小破片が出土した。

### (3) SK 037 (第37図)

SK 037は掘立柱建物跡S B 76を構成する柱穴の一つである。SK 032と同様に、上位では後世の堆積層が見られ、下位では柱の痕跡とその裏込め土を観察することができた。土師器と須恵器の小破片が出土しており、このうち須恵器蓋(315)は尾野編年のⅢ期中段階に比定される資料である。

### (4) SK 040 (第37図)

SK 040は掘立柱建物跡S B 76を構成する柱穴の一つである。SD 06(大壁建物S B 08)を切る形で検出された柱穴で、上位は後世の堆積層、下位は柱の痕跡とその裏込め土が確認された。土師器と須恵器の小破片が出土しており、このうち須恵器高杯？(316)は尾野編年のⅢ期新段階からⅣ期古段階に属するものである。

### (5) SK 067 (第37図)

SK 067は掘立柱建物跡S B 50を構成する柱穴の一つである。土層断面を観察しても分かることおり、実際には柱穴が2つ重複しており、各々の柱穴で柱の存在した痕跡を見て取ることができる状態であった。遺物は土師器小片がわずかに出土したが、どちらの柱穴に属する遺物を特定するには至らなかった。

### (6) SK 104 (第36図)

SK 104は掘立柱建物跡S B 45を構成する柱穴の一つである。埋土から土師器壺の比較的大きな口縁部破片(325)が出土した。状況から見て、柱が機能しなくなった後に遺物が埋没したものと考えられる。

### (7) SK 125 (第37図)

SK 125は掘立柱建物跡S B 45を構成する柱穴の一つである。土層断面を観察すると、6層程度に分層されるおよそ平行な堆積層が確認され、柱の痕跡を看取ることができなかつた。土師器と須恵器の小破片が出土している。

### (8) SK 187 (第37図)

SK 187は掘立柱建物跡S B 33を構成する柱穴の一つである。比較的規模が小さめの土坑で、土層断面では柱の痕跡を発見することができなかつた。出土遺物も認められなかつた。

### (9) SK 192 (第37図)

SK 192は北側の調査区に存在する土坑で、直径0.3mの規模を持つ。土層断面の観察から、柱の痕跡とその裏込め土が確認された。土師器の小破片が1点出土したが、時期は特定できない。

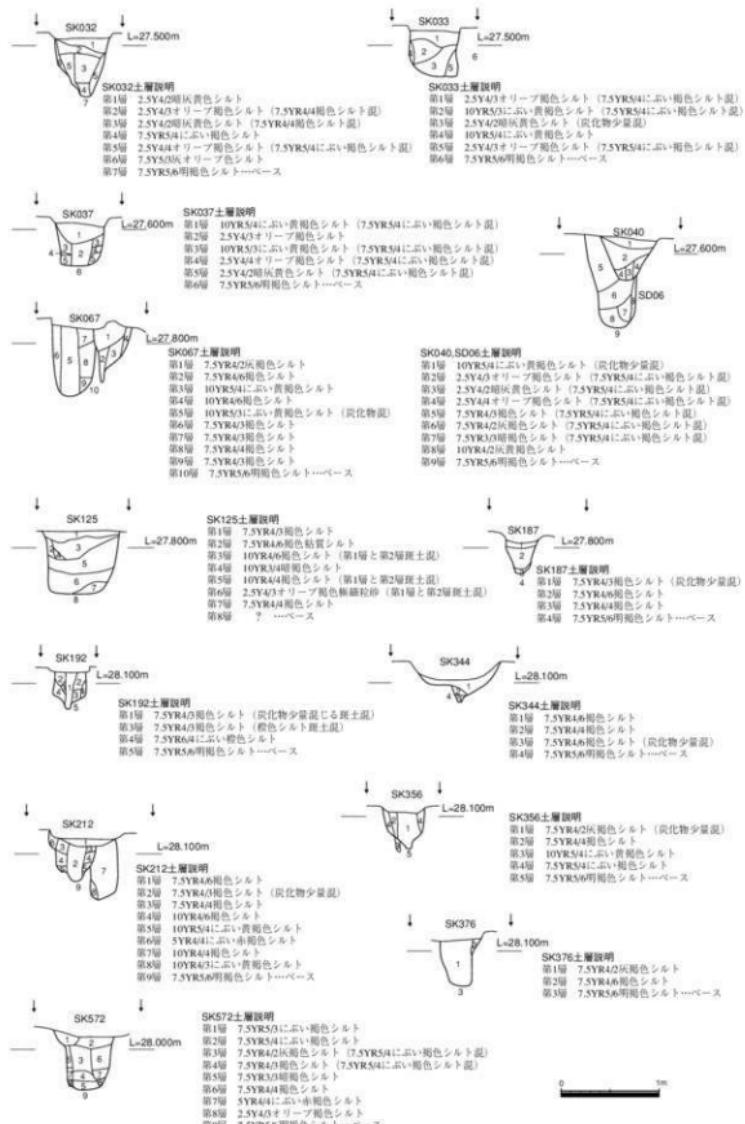
### (10) SK 212 (第37図)

SK 212は掘立柱建物跡S B 28を構成する柱穴の一つである。実際には柱穴が2つ重複しており、新しく切っている方の柱穴で、柱の存在した痕跡を見て取ることができる状態であった。遺物は土師器と須恵器の小片がわずかに出土しているが、時期は特定できない。

### (11) SK 306 (第36図)

SK 306は掘立柱建物跡S B 39およびS B 40を構成する柱穴の一つである。埋土から土師器壺の比較的大きな口縁部破片(341)が出土した。これは柱が機能しなくなつた後に遺物が埋められたものと考えられる。

### (12) SK 344 (第37図)



第37図 土坑土層断面図 (s=1:50)

## 矢追遺跡

S K 344は掘立柱建物跡 S B 33を構成する柱穴の一つである。上位が柱を抜き取ったためか大部分が甕土で埋積されており、最下部で柱の痕跡らしき小規模な凹みを検出することができた。遺物は土師器小片が出土した。

### (13) S K 356 (第37図)

S K 356は掘立柱建物跡 S B 25およびS B 26を構成する柱穴の一つである。土層断面を見て分かる通り、柱の痕跡と裏込めの堆積層が確認された。土師器小片が出土したが、時期は特定できない。

### (14) S K 376 (第37図)

S K 376は掘立柱建物跡 S B 31およびS B 32を構成する柱穴の一つである。土層断面で観察しても、柱の痕跡を顕著な形で確認できなかつた土坑である。土師器小片が出土した。

### (15) S K 427 (第36図)

S K 427は北側の調査区の北部で検出された直径0.46～0.48mのほぼ円形の平面プランを持

つ土坑である。掘肩に密着するような状態で常滑窯産陶器の赤色の壺の下半部(418)が出土しており、壺の内部にはにぶい赤褐色極細砂が堆積していた。江戸時代の水溜め用の埋め壺遺構と推定される。

### (16) S K 433 (第36図)

S K 433は北側の調査区の北部で発見された直径約0.9mの円形土坑である。断面形はU字状を呈しており、掘肩に貼付くような形で円礫が敷かれており、内部は円礫と多量の炭化物が充填されていた。円礫の多くは被熱痕や焼けた状態のもので、石材は花崗岩やチャートが認められた。出土遺物は全く存在しないが、状況から見て比較的新しい時期の遺構と推測される。

### (17) S K 572 (第37図)

S K 572は掘立柱建物跡 S B 24を構成する柱穴の一つである。土層断面で、柱の痕跡とその裏込め土を観察することができた。出土遺物は全く存在しない。

## 第7節 その他の遺構

ここでは建物跡、溝、土坑に属さない遺構を一括して取り扱う。多くは不定形な浅い落ち込みまたは整地層のような堆積層などである。

### (1) S X 01

S X 01は南側調査区に所在する平面形が不定形な浅い落ち込みである。この落ち込みを掘削すると、その下位から多くの遺構が検出されている。遺物は江戸時代のものまで含むことから時期は新しいと考えられ、何らかの目的を持って掘削されたものとは考えにくい状態である。このため、本書では遺構図に平面形を図示していないが、遺物が相当数出土したので記述のみで紹介しておく。

### (2) S X 02

S X 02もS X 01と同様、南側調査区に所在する平面形が不定形な浅い落ち込みである。出土遺物は江戸時代のものまで含むことから時期は新しいと考えられる。図示はしていない。

### (3) S X 03

S X 03は南側調査区の中央部に所在する、平面形が長方形となる浅い落ち込みである。遺物

は戦国時代のものまで含有しており、時期は少なくとも戦国時代までは下る遺構である。

### (4) S X 04

S X 04は南側調査区の中央部に所在する、平面形が不定形となる浅い落ち込みである。遺物は戦国時代のものまで含んでいる。図示はしていない。

### (5) S X 05

S X 05はS B 16西側付近に所在する平面形が不定形となる浅い落ち込みである。遺物は土師器と須恵器の小片のみで、時期は特定できない。

### (6) S X 06

北側の調査区北部で確認された落ち込みで、南側の掘形平面形は直角に屈曲しているが、北側は自然に消滅するような形となっている。堅穴建物跡の可能性も考えられるが、内部に柱穴らしい遺構がほとんど存在しないことから、性格不明の落ち込みと考えた遺構である。土師器の小片のみが出土した。

## 第3章 遺物

### 第1節 出土遺物の概要と分析方法

今回の調査で矢追跡から出土した遺物は全部で、27リットル入りコンテナで約30箱が出士した。その内訳は須恵器や土師器などの土器・陶磁器類、石器・石製品、金属製品・金属関連遺物などに区分することができるが、木製品などは碧海洪積台地上の立地条件などの理由のためか全く出土しなかった。

遺物の採取の方法は、隣接する神明遺跡でいくつかの堅穴建物跡から多くの石製白玉が出土していることを考慮して、矢追跡の堅穴建物跡については埋土の全てを2mm以下の箇別洗浄を実施した。その結果、**石製白玉や金属関連遺物**などの微細な遺物の検出に成功している。ただし、堅穴建物跡内の築造（溝、ピットなど）や包含層については細心の注意を払いながら掘削を行うに止め、土壤の箇別作業は行わなかった。なお、堅穴建物跡の埋土を箇別洗浄した概略の土量は、第1表に示した通りである。

さて、このような方法で採取した土器・陶磁器類の出土量は、粘土塊なども含めると接合前破片数で17564点を数える。大部分は古墳時代後期から奈良時代にかけての土師器と須恵器が占めているが、この他にも弥生時代から江戸時代までの2000年間弱に及ぶ時期の遺物が存在しており、その内容は多種多様な状況を呈している。古墳時代後期から奈良時代を除くと遺物の出土量はそれほど多くないため確実な証明はできないものの、時期的にはおおよそ間断のない状態で遺物が継続して出土していると推測されよう。

遺物の出土傾向は、表土および包含層の厚さが非常に薄いために遺構から出土したものが多くなっており、特に堅穴建物跡から良好な一括資料を得ることができた。ただし、これは遺構掘削後に判明したことであるが、実際には堅穴建物跡を切るピットなどいくつか存在する場合が多く、これを識別できない状態で遺物や遺構埋土を取り上げたケースが多々存在すると推測される。実際に堅穴建物跡の時期に所属する

とは考えにくい遺物が混入しており、厳密な意味で遺物の一括性を限定できない状況があることをあらかじめ断っておく。

このような遺物の出土状態から、整理作業では、1) 比較的豊富な出土量を持つ堅穴建物跡出土資料を始めとする遺構出土資料の図化と、2) 1)で取り上げられなかった種類の遺物の中で比較的に良好な残存状態を持つ包含層出土遺物の図化、および3) 遺構別の遺物の出土量の計測を行い、そこで得られた成果を遺物の報告としてまとめるとした。中でも、遺構出土資料は可能なものをできるだけ図化していくように配慮したつもりである。

出土量の計測に用いた分類の方法は、図化資料以外の資料は器種などを特定し難い細片が多いために、非常に大雑把な分類に止めた。具体的な器種構成については、全く正確な数値では

遺構番号	1mm篩別	2mm篩別
SB01	3	7
SB02	3	8
SB03	3	71
SB04	4	77
SB05	3	185
SB06	3	150
SB07	3	132
SB09	3	93
SB12	—	—
SB13	6	55
SB14	5	14
SB15	—	—
SB16	6	87
SB17	3	7
SB18	6	14
SB19	6	14

単位は土糞袋数であり正確な土量ではない。

第1表 水洗篩別土量一覧

## 矢追遺跡

ないが、図化資料の分量がおよその傾向を表しているものと推測することも可能であろう。実際に使用した大区分は、1 弥生土器、2 古墳時代以降の土師器、3 須恵器、4 古代以降の陶

磁器類、5 不明、6 粘土塊などである。このうち2古墳時代以降の土師器は壺と高杯と製塩土器とその他に、3須恵器は杯身と杯蓋と高杯と壺壺類と不明に細分してカウントした。

時代区分	推定暦年代	愛知県		畿内
弥生時代中期後葉		高藏式		IV様式 V様式
弥生時代後期		山中式	【赤塚編年】	
弥生時代終末期	2C後半～3C前半	欠山式	廻間I式 (川原上層Ⅲ式)	庄内式
古墳時代前期	3C後半	元屋敷式(古)	廻間II式	
	4C前半	元屋敷式(新)	廻間III式	布留式
古墳時代中期	4C後半		松河戸I式	【陶邑窯編年】
	5C前半	【尾野編年】	松河戸II式 【猿投窯編年】	TG-232 TK-73
	500年期	470年	古段階 500年	H-111・218 TK-216・208
			中段階	城山2・3 H-11
			新段階	H-10 TK-47 MT-15
			560年	
古墳時代後期	550年期	590年	古段階	H-61 TK-10
		530年	瘦ヶ池	MT-85
		620年	中段階	H-6 TK-43 TK-209
	600年期	620年	新段階	H-44
		650年		H-15 TK-217
		650年		
奈良時代	700年期	680年	古段階	H-16 TK-46 TK-48
		710年	中段階	I-17
		740年	新段階	C-2 MT-21
	750年	770年	古段階	
平安時代	800年期	770年	中段階	NN-32
		800年	新段階	O-10 IG-78 K-14
		800年		

ゴシック字体は神明遺跡報告書で用いられた編年。  
本図は「神明遺跡II」14頁に掲載されたものを写したものであるが、年代の配置などについては微妙に差が生じているかもしれない。

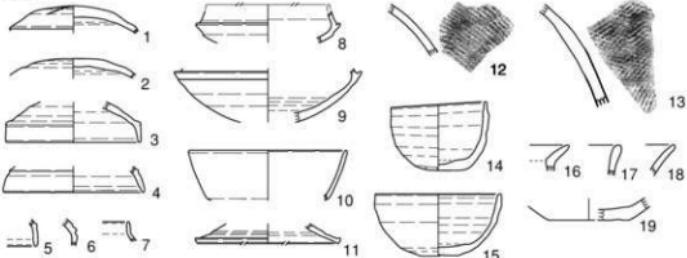
第2表 編年対比表

## 第2節 土師器、須恵器、陶磁器類

本遺跡から出土した焼物（土師器・須恵器・陶磁器類）は、遺構内出土遺物と遺構外出土遺物を合わせて接合前破片数で17547点が出土している。弥生時代から江戸時代に至る幅広い時期の遺物があるが、大半が古墳時代後期から奈良時代に属するものである。ここでは、遺構内出土資料を中心に紹介を進めていきたい。

なお、出土遺物の大半を占める古墳時代後期から古代にかけての遺物の時期については、本書では第2表のように森泰通氏が使用した年代観（森編2001）を踏襲することとする。これは、特に猿投窯系須恵器の編年については、尾野氏の編年に大きく依拠した時期区分を行っているものであり、森氏自身が指摘しているように、

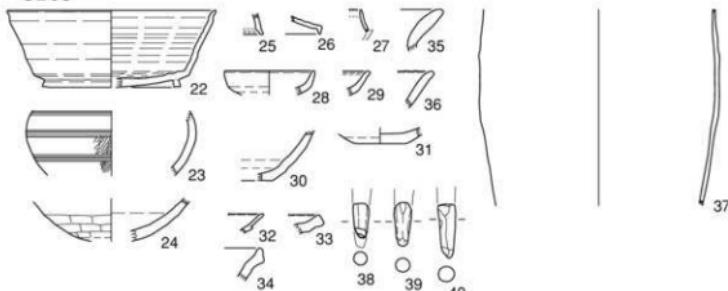
SB01



SB02



SB03



第38図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（1）（s=1:4）

## 矢追遺跡

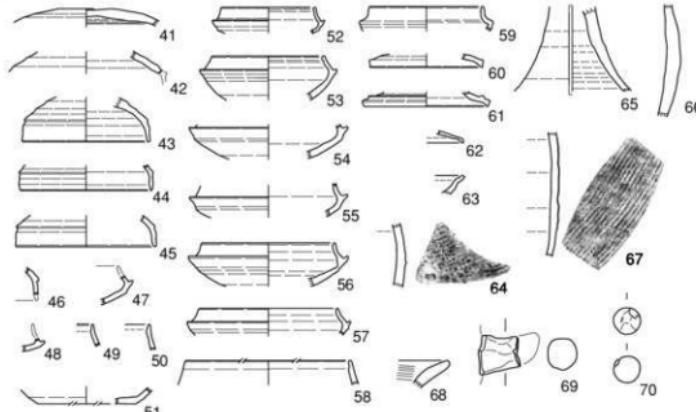
を考えている(このため西暦の表記は両者を併用している)。

### (1) SB 01出土遺物 (第38図1~19)

SB 01からは土師器小片595点と須恵器小片160点など818点の焼物が出土した。この中には戦国時代や江戸時代の遺物が合計7点存在する。

るが、これらは何らかの理由で混入したものと考えられる。須恵器には杯蓋(1~5)、杯身(6~10)、高杯(11)、壺(12, 13)、碗A(14, 15)、土師器には壺(16~19)などがある。14は猿投窯系須恵器には見られない形状を呈しており、近在する別の窯の製品の可能性が指摘され

SB04

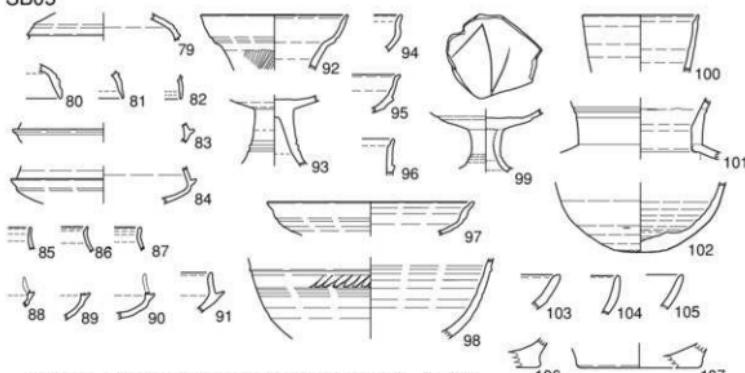


SB04,05



0 10cm

SB05

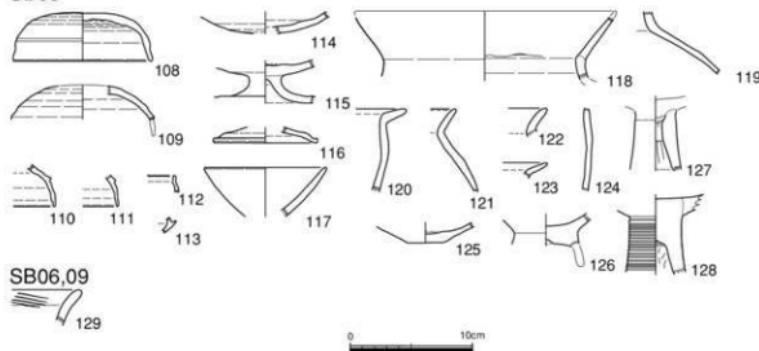


第39図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図(2)(S=1:4)

ている他は須恵器は全て猿投窓系と思われる。

須恵器のうち10、11、15は尾野編年IV期古段階～中段階に位置付けられる最も新しい資料である。7世紀末葉（尾野7世紀後葉～8世紀初頭）

### SB06

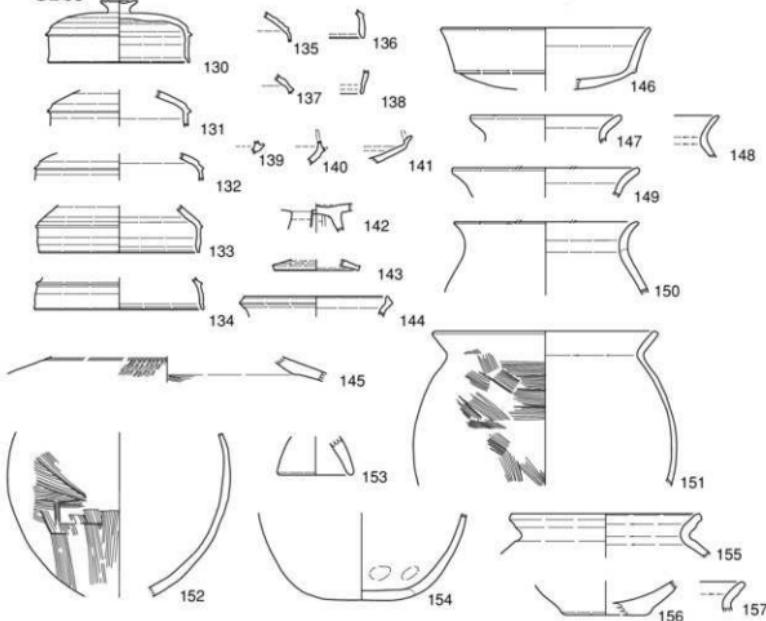


に位置付けられる。

### (2) S B 02 出土遺物（第38図20～21）

S B 02からは土師器と須恵器が合計113点出土した。須恵器は尾野編年IV期古段階に位置付

### SB09



第40図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（3）（s=1:4）

## 矢追遺跡

けられる高杯（20）などがあり、土師器には高杯脚部（21）などがある。7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）に位置付けられる。

### （3）S B 03出土遺物（第38図22～40）

S B 03からは土師器と須恵器の他に山茶碗や江戸時代の陶器など1033点の破片が出土した。このうち、瀬戸美濃窯産陶器擂鉢（34）などの新しい遺物は混入資料と推測される。須恵器には杯蓋（25、26）、杯身（22、27）、高杯（28、29）、鉢か広口短頸壺（24、30）、はそう（32）、壺（33）などがあり、土師器には壺（35～37）の他に製塙土器の脚部（38～40）も3点存在する。須恵器では22と26が尾野編年V期新段階に位置付けられる最新資料であり、これらから時期は8世紀末葉（尾野/9世紀前葉）の時期が考えられる。

### （4）S B 04出土遺物（第39図41～70）

S B 04からは土師器と須恵器などの遺物が1938点出土した。このうち上層を中心に灰釉陶器、山茶碗、陶丸（70）や土師器皿（51）などの小破片が145点出土しており、このことから新しい段階まで凹地になっていたか新しい時期に切りあつた遺構内の遺物が含まれていた可能性が考えられる。須恵器には杯蓋（43～46）、杯身（47～50、52～58）、短頸壺（59）、高杯（60、61、65）、はそう（63）、壺か壺（64、67、68）などが、土師器には壺（66）や瓶（69）などがある。須恵器では43～45や48などが尾野編年IV期古段階に位置付けられる最新資料であり、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）が考えられる。

### （5）S B 04・05出土遺物（第39図71～78）

ここではS B 04・S B 05の東西および南北ベルトから出土した資料を取り扱う。調査の都合上、各遺物の所属する堅穴建物跡の特定ができなかったために項目を改めて紹介することとした。須恵器には杯蓋（71～73）、高杯（75）、短頸壺（74、76）が、土師器には壺（77、78）などが存在する。

### （6）S B 05出土遺物（第39図79～107）

S B 05からは土師器、須恵器や粘土塊などが1601点出土した。須恵器には杯蓋（79～82）、杯身（83～91）、高杯（93～99）、はそう（92）、平瓶（100）、壺（101）、フラスコ瓶（102）な

どがあり、他の遺構出土資料に比べ高杯の占める割合が高い点に特徴が認められる。高杯は無蓋高杯（95～98）も含まれており、これは口縁部外面下部に小さな突帯が巡るものである。土師器には壺または壺の口縁部（103～105）や平底の壺底部（106、107）などがある。須恵器では80などが尾野編年IV期古段階に位置付けられる最新資料であるが、大部分は尾野編年III期中～新段階に属する資料で占められている。このことから時期は7世紀前葉（尾野/7世紀中葉）に位置付けられる。

### （7）S B 06出土遺物（第40図108～128）

S B 06からは土師器と須恵器などが2307点出土した。このうち山茶碗や江戸時代の陶器が4点認められたが、これらは混入資料と判断されよう。須恵器には杯蓋（106～111）、杯身（112～113）、高杯（115、116）、高杯か短頸壺の蓋（114）などがある。土師器には壺の口縁部（118～123）、台付壺の脚部（126）、小型壺（117）などがある。この他に弥生中期後葉の高杯（128）も存在する。須恵器では108、113、115、116などが尾野編年IV期古段階に位置付けられる最新資料であることから、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）に位置付けられる。

### （8）S B 09出土遺物（第40図130～157）

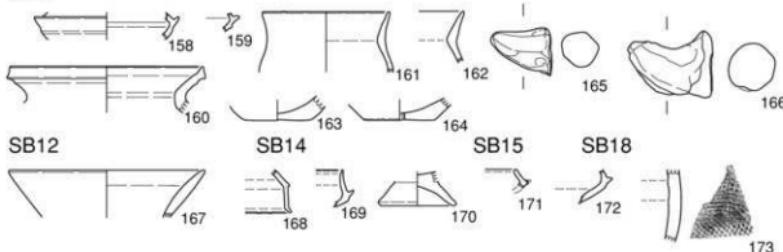
S B 09からは土師器と須恵器、粘土塊が2068点出土した。須恵器には杯蓋（130～138）、杯身（139～141）、高杯（142、143）、横瓶（144）などがある。土師器には高杯（146）、壺の口縁部（147～151、55、157）、台付壺の脚部（153）、小型壺（117）などがある。146は杯部の体部と口縁部の境界部に突帯状の稜線が残るものである。壺は体部から口縁部にかけて緩やかに屈曲するタイプ（147～150）と明瞭に屈曲するタイプ（151）、口縁部が段を持つタイプ（155、157）に分けることができる。須恵器には、本遺跡では最も古いタイプである尾野編年II期新段階～III期古段階に位置付けられるもの（130～132）が存在する一方、140と143のように尾野編年IV期古段階のものまで含まれる。IV期古段階のものは上位のS B 06に所属する資料が混入したと考えれば、尾野編年III期古段階～中段階のものが多いため、時期は6世紀後葉（尾野/7世紀前葉）に位置付けられる。

### （9）S B 07出土遺物（第41図158～166）

S B07からは土師器と須恵器などが963点出土しているが、このうち山茶碗1点は混入資料と認められる。須恵器には杯身(158、159)、壺

か壺(160)、瓶か鍋(165)などが、土師器には壺(161~164)、瓶(165)などがある。土師器壺の口縁部は屈曲の角度が比較的緩いタイプ(161、162)であり、底部は平底となるもの(163、

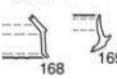
SB07



SB12



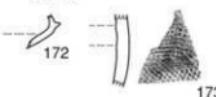
SB14



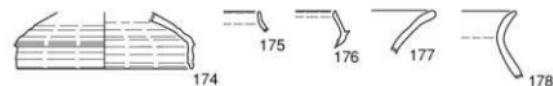
SB15



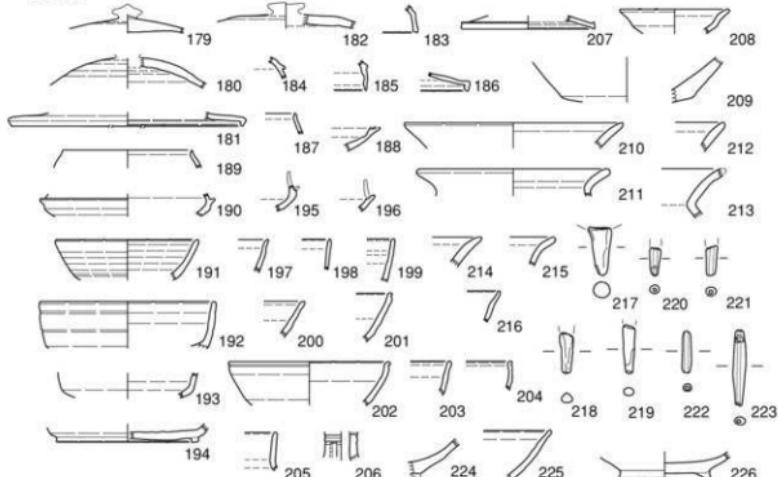
SB18



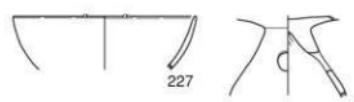
SB13



SB16



SB17



第41図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図(4)(s=1:4)

## 矢追遺跡

164)である。須恵器では158は尾野編年Ⅲ期中段階、159はⅡ期新段階～Ⅲ期古段階に位置付けられる。時期は6世紀後葉（尾野/7世紀前葉）が考えられる。

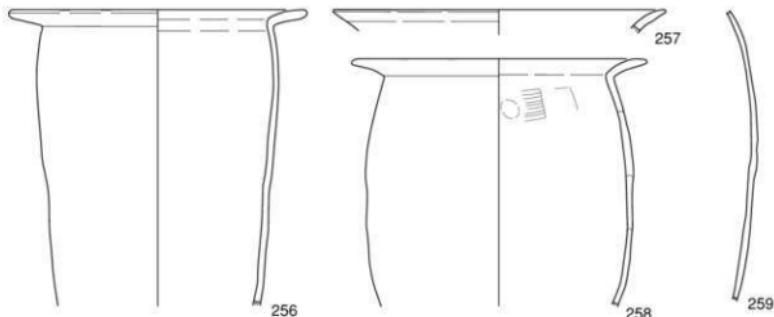
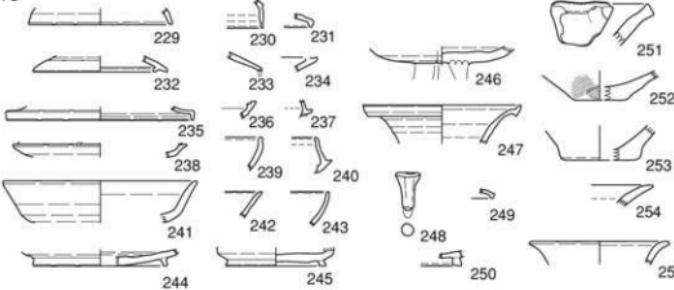
### (10) S B 12 出土遺物（第41図167）

S B 12からは土師器と須恵器などが36点出土し、このうち山茶碗1点が混入した。図化可能な資料は土師器甕口縁部（167）1点のみである。逆ハ字状に直線的に長く伸びるタイプである。

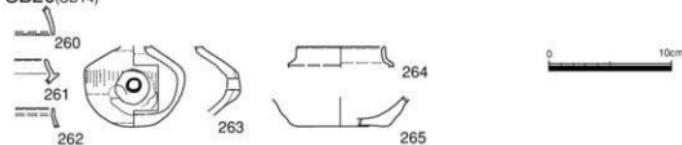
### (11) S B 14 出土遺物（第41図168～170）

S B 14からは土師器と須恵器が79点出土し

**SB19**



**SB20(SD14)**



第42図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図（5）(s=1:4)

た。須恵器には杯蓋（168）、杯身（169）などがある。土師器には台付甕の脚部（170）などがある。須恵器は尾野編年Ⅲ期古段階に属し、6世紀中葉（尾野/6世紀後葉）に位置付けられる。

### (12) S B 15 出土遺物（第41図171）

S B 15からは土師器と須恵器など88点が出土したが、このうち混入資料と思われる山茶碗2点が含まれている。図化可能な資料は須恵器杯身（171）1点のみであり、これは尾野編年Ⅳ期古段階に位置付けられる。のことから、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）に位置付けられる。

## (13) SB 18 出土遺物 (第41図 172~173)

SB 18 からは須恵器杯身(172)、と横瓶と推測される体部破片(173)の他に土師器の小片などが合計で62点出土した。172は尾野編年Ⅳ期古段階に相当し、時期は7世紀中～後葉(尾野/7世紀中葉～後葉)と考えられよう。

## (14) SB 13 出土遺物 (第41図 174~178)

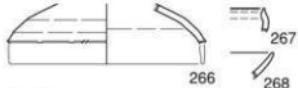
SB 13 からは土師器壺(177、178)と須恵器杯蓋(174)、須恵器杯身(175、176)など283点が出土した。須恵器は大半が尾野編年Ⅲ期中段階に位置付けられることから、時期は6世紀後葉(尾野/7世紀前葉)に位置付けられる。土師器壺は口縁部が長く聞くタイプ(177)と緩やかに屈曲するタイプ(178)の二者がある。

## (15) SB 16 出土遺物 (第41図 179~226)

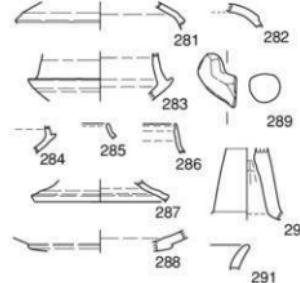
SB 16 からは山茶碗7点が混入する1518点が出土しており、土師器が1191点、須恵器が

297点存在する。須恵器には杯蓋(179~181、184~186)、蓋杯の杯身(187~190)、杯A(192、193、197~200)、台付碗(183、191)、高杯(203、206、207)、鉄鉢(201、202、204)、広口短頸壺(205)、はそう(208)などがある。土師器には高杯(209)と壺の口縁部(210~215)の他に、製塩土器脚部(216~219)、土錘(220~223)などがある。178は擬宝珠タイプの摘みが付く須恵器杯蓋であり、須恵器鉄鉢は口縁部を玉縁状に丸めたものである。209の土師器高杯は杯部の口縁部と体部の境界部に稜を持つタイプで建物の時期よりも古いものと考えられる。土師器壺は口縁部がぐくの字状に屈曲して逆ハ字状に伸びるタイプが多い。216は器壁が薄く口縁端部がやや内彎するもので、製塩土器の口縁部片である可能性が高い。製塩土器脚部は全て先端が尖った棒状脚で立松分類の知多式4類

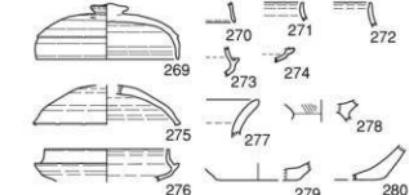
SD02



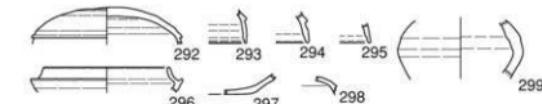
SD09



SD03

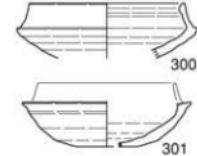


SD06

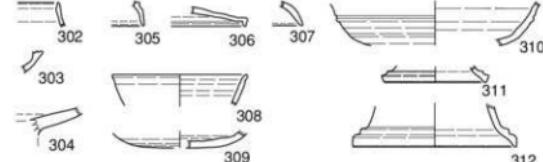


0 10cm

SD08



SD26



第43図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図(6)(s=1:4)

## 矢追遺跡

(立松1994)に相当するだろう。須恵器は192や193などが尾野編年IV期中段階に位置付けられていることから、時期は7世紀末葉(尾野7世紀後葉～8世紀初頭)が考えられよう。224～

226は尾張型山茶碗の底部または口縁部で、混入資料と推定されるものである。

### (16) S B 17出土遺物(第41図227、228)

S B 17からは土器小片が60点と須恵器片や

遺構番号	土師器					須恵器					その他	総合計	
	合計	甕口縁部	甕底部	高杯	製塙土器	合計	杯合計	杯身	杯蓋	高杯	壺底類		
SB01	595	4	1	0	0	160	135	27	13	4	19	戰國・江戸時代7点、 粘土塊6点など	818
SB02	93	1	0	2	0	20	19	0	4	1	0		113
SB03	770	0	2	0	3	251	228	29	25	4	17	中世・江戸時代2点、 粘土塊1点など	1033
SB04	1458	5	2	1	0	248	221	32	21	6	20	灰陶壺14点・山茶碗111 点、粘土塊86点など	1938
SB05	1216	2	3	1	0	380	335	36	46	16	26	土師器2点、 粘土塊5点など	1601
SB06	1981	21	1	3	1	236	200	14	21	6	30	中世・江戸時代4点、土師器各 7点、粘土塊1点など	2307
SB07	207	4	3	0	0	17	14	3	0	0	2	粘土塊7点など	963
SB09	713	41	15	30	0	117	100	16	16	2	15	粘土塊123点など	2068
SB12	32	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	山茶碗1点、 粘土塊1点など	36
SB13	243	14	0	2	17	23	14	2	7	0	9		283
SB14	57	0	1	0	0	21	19	1	1	0	2	粘土塊1点など	79
SB15	62	0	0	0	0	24	22	2	3	1	1	山茶碗2点など	88
SB16	1191	8	1	2	7	297	267	28	22	7	20	山茶碗4点、土師4点、 粘土塊12点など	1518
SB17	53	0	0	10	0	1	1	1	0	0	0		54
SB18	59	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	粘土塊1点など	62
SB19	640	52	2	3	1	137	108	17	11	7	21	山茶碗1点、常滑1点 粘土塊1点など	790
SB20	53	0	5	0	0	24	19	2	3	0	3		77
SB08合計	91	0	0	0	0	31	25	1	7	1	2		133
SD06	89	0	0	0	0	28	24	1	7	1	2		128
SK023	2	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0		5
SB10合計	198	3	4	6	0	71	61	12	14	1	8		272
SD02	23	0	1	0	0	11	9	2	2	0	2	江戸時代1点など	35
SD03	85	2	2	1	0	31	25	6	9	0	6	弥生土器2点など	118
SD09	90	1	1	5	0	29	27	4	3	1	0	土師器底1点など	119
SB11合計	159	0	0	2	0	72	60	9	5	4	8		233
SD08	23	0	0	1	0	15	13	4	1	0	2		38
SD10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
SD12	25	0	0	0	0	9	7	0	0	0	2	弥生土器1点、 粘土塊1点など	34
SD26	109	0	0	1	0	48	40	5	4	4	4		159
SD01	165	1	2	1	0	102	72	4	15	7	19	中世・江戸時代10点、 粘土塊3点など	280
総合計	11810	218	52	69	31	3103	2605	381	317	107	363	弥生土器29、灰陶陶器36、 山茶碗169、戦国時代35、 江戸時代80など	17547

第3表 主要遺構遺物出土量一覧表

粘土塊が各1点出土した。須恵器片は混入資料の可能性が高いと言えよう。土師器には高杯(227、228)と甕部片などが存在する。227は被然のため赤色化し表面が著しく剥離した状態となっているので、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。228は円形透かしが1箇所確認されるもので、形状からみて有段高杯になると見られる。これらの遺物から建物跡の時期は川原上層Ⅲ式期(欠山式期)に行に属すると推定される。

(17) S B 19 出土遺物 (第42図229~259)

S B 19からは土師器と須恵器などが790点出土しており、このうち山茶碗1点などが混入資料として含まれている。須恵器には杯蓋(229~233、235)、蓋杯杯身(234、236~240)、杯B(244、245、250)、高杯(246、249)、長頸瓶(247)、台付長頸瓶(255)などが、土師器には杯(243)や甕(252~254、256~259)の他に製塙土器(248)などがある。土師器甕は口縁部が比較的水平に開くタイプ(256~258)が多く、これらは体部は直立して長胴形となるもの(256、258、259)となるようである。須恵器では235と245と247が尾野編年V期古段階に所属しており、時期は8世紀中葉(尾野編年8世紀中葉)が考えられる。

(18) S B 20 出土遺物 (第42図260~265)

S B 20は周溝(S D 14)から土師器と須恵器が77点出土した。須恵器には杯蓋(260)、蓋杯杯身(261、262)、はそう(263)、短頸甕(264)などが、土師器には甕(265)などがある。263は頸部が欠損するはそう下半部で肩がやや張る形状となっており、265は土師器甕底部で平底となるものである。須恵器では261と264が尾野編年IV期古段階に属しており、時期は7世紀中~後葉(尾野/7世紀中葉~後葉)に位置付けられる。

(19) S B 10 出土遺物 (第43図266~279)

S B 10を構成する溝からは272点の遺物小破片が出土した。S D 02から江戸時代の陶器片が1点、S D 03から弥生土器が2点混入する他は、全て土師器と須恵器である。須恵器には杯蓋(266、270、275、281、282)、蓋杯杯身(267、271~274、276、283~286)、杯B(244、245、250)、高杯(287)、短頸蓋(269)などが、土師器には杯(288、290)や甕(277~280、291)の他に甕(289)などがある。278は台付甕の脚

部で外面に荒いハケ調整が残存する。288は杯縁部に粘土貼付突帯を持たない古墳時代中期の有段高杯で、290はこの種の高杯の脚部と想定される。土師器甕底部は平底となっている(279、280)。須恵器では271や284などが尾野編年Ⅲ期新段階~Ⅳ期古段階に位置付けられ、7世紀前葉(尾野/7世紀中葉)が考えられる。なお、268は中世土師器皿である。

(20) S B 08 出土遺物 (第43図280~299)

S B 08を構成する溝からは土師器と須恵器の小破片が133点出土した。大部分はS D 06から出土した資料である。須恵器には杯蓋(292~295、298)、蓋杯杯身(296)、甕(299)などがある。須恵器は294~296が尾野編年Ⅲ期新段階~Ⅳ期古段階に所属しており、時期は7世紀中~後葉(尾野/7世紀中葉~後葉)が考えられる。

(21) S B 11 出土遺物 (第43図300~312)

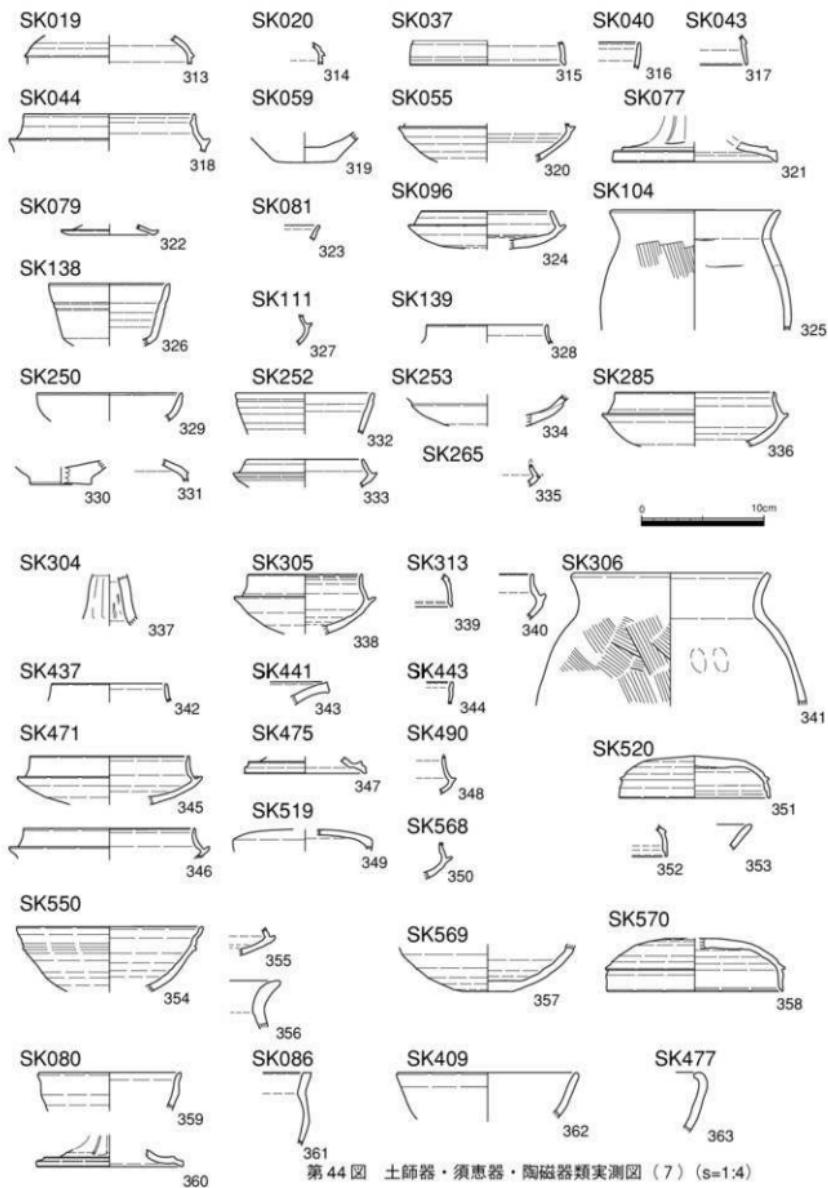
S B 11を構成する溝からは土師器と須恵器などが233点出土した。多くの遺物はS D 26から出土したが、S D 26出土資料については誤つて大壁建物跡以外の資料を含めてしまっている可能性も残されるものである。須恵器には杯蓋(305、306)、蓋杯杯身(301~303、309)、椀A(308)、高杯(311、312)、無蓋高杯(310)、壺蓋(307)などが、土師器には高杯(304)などがある。須恵器では306や308が尾野編年V期新段階~6期古段階に位置付けられる新しいもので、大壁建物跡以外の資料と考えられる。これ以外はおおよそ尾野編年Ⅲ期古段階~中段階に位置付けられており、時期は6世紀後葉(尾野/7世紀前葉)に位置付けられる。

(22) 土坑出土遺物 (第44~45図313~368)

ここでは570基以上存在する土坑出土資料について概要を紹介する。

313はS K 019から出土した須恵器杯蓋で体部上位にヘラケズリ調整が残存する。315はS K 037から出土した須恵器杯蓋で尾野編年Ⅲ期中段階に位置付けられる。316はS K 040から出土した須恵器高杯口縁部であるが、大壁建物跡S B 08(S D 06)所属遺物の可能性も捨てきれない資料である。318はS K 044出土須恵器杯身で口縁端部内面に明瞭な稜を持つ。319はS K 059から出土した土師器甕底部で平底と

矢追遺跡

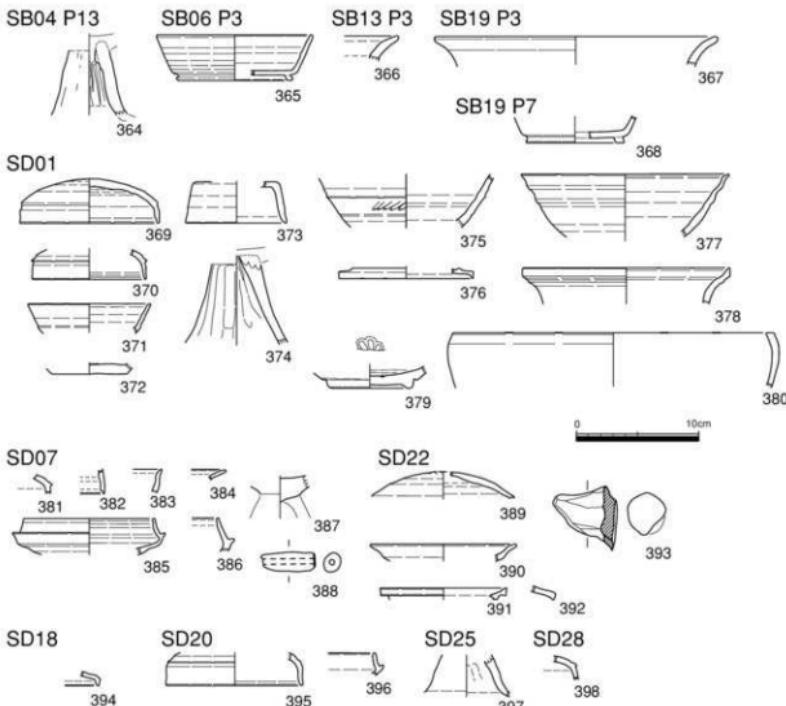


第44図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図(7) (s=1:4)

なっている。320はS K 055出土須恵器杯身体部片でヘラケズリ調整が残存する。321はS K 077から出土した透かしを持つ須恵器高杯脚部で、尾野編年Ⅲ期古段階に位置付けられる。322はS K 079から出土した土師器で高杯と推定されるが今一つ器種が確定できない資料である。比較的の焼成は堅敏である。324はS K 096から出土した須恵器杯身で尾野編年Ⅳ期古段階に所属する。325はS K 104出土土師器甕で体部から口縁部が緩やかに屈曲するタイプである。体部外面上位に荒いハケ調整の痕跡が残っている。326はS K 138出土須恵器杯Aと推測される遺物で、尾野編年Ⅳ期中段階に位置付けられる。

329～331はS K 250から出土した遺物群で、329は尾野編年Ⅳ期古段階に属する須恵器平蓋

高杯、330は平底の土師器甕底部、331は尾野編年Ⅲ期中段階～新段階に属する須恵器杯蓋である。332と333はS K 252から出土した須恵器杯Aおよび蓋杯身である。334はS K 253出土土師器高杯杯部で杯稜部に段を有するものである。336はS K 285出土須恵器杯身で尾野編年Ⅲ期古段階に位置付けられる。337はS K 304出土土師器高杯脚部で内面にヘラケズリ痕が明瞭に残存する。338はS K 305出土須恵器杯身で内傾する口縁部の上位が直立する尾野編年Ⅲ期新段階に位置付けられるものである。340と341はS K 306から出土した須恵器杯身と土師器甕である。後者は比較的直立する口縁部を持ち体部外面に多くのハケ調整が残存するものである。343はS K 441出土須恵器甕の口縁部で尾野編年Ⅳ期に属する。345と346はS K 471出



第45図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図(8)(s=1:4)

## 矢追遺跡

土須恵器杯身両者とも尾野編年Ⅲ期古段階～中段階に位置付けられる。347はS K 475出土須恵器高杯脚部で尾野編年Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階に位置付けられる本遺跡では古い須恵器資料である。349はS K 519から出土した須恵器台付長頸瓶の肩部で尾野編年Ⅳ期に属する。

351～353はS K 520から出土した資料で、351と352は各々尾野編年Ⅲ期新段階とⅢ期中段階に属する須恵器杯蓋、353は壺口縁部と推測される土師器口縁部片である。薄手で直線的に伸びている。354～356はS K 550から出土した遺物である。354は尾野編年Ⅲ期新段階の無蓋高杯で口径は15cm以上を測る。355は須恵器杯身、356は土師器壺口縁部で、後者は器壁が厚手で緩やかに外反する。357はS K 569出土須恵器壺類底部で平底となっている。358はS K 570出土須恵器杯蓋で尾野編年Ⅲ期中段階に位置付けられる。

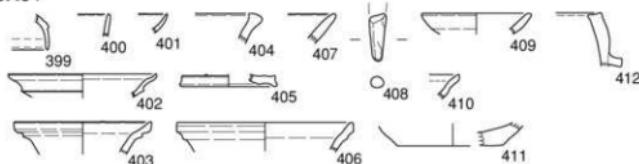
359と360はS K 080出土遺物で、359は大窓前半に相当する瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗である。361はS K 086出土土師器内耳鍋である。胎土は赤味が強く外面に多量の煤が付着しており、内彫形内耳鍋に分類されるものである。時期は16世紀前半か？362はS K 409出土尾張型山茶碗、363はS K 477出土瀬戸窯産陶器こね鉢であり、後者は江戸時代後期に属する資料である。

364はS B 04内P 13から出土した土師器高杯脚部で内面には絞り痕跡が残存する。古墳時代の屈折脚を持つ高杯と思われる。365はS B 06内P 03から出土した須恵器杯Bで尾野編年Ⅳ期古段階～中段階に位置付けられる。368はS B 19内P 07から出土した須恵器杯Bで尾野編年Ⅳ期新段階に位置付けられる。

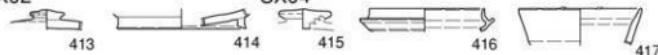
### (23) S D 01 出土遺物 (第45図370～380)

S D 01からは280点の遺物が出土している。

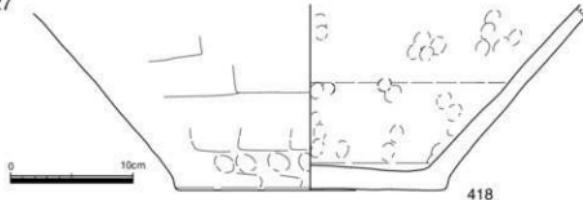
SX01



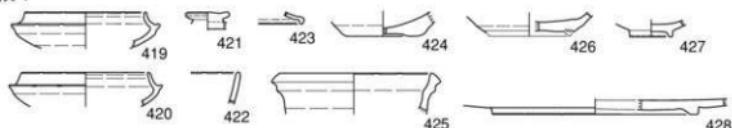
SX02



SK427



検 I



第46図 土師器・須恵器・陶磁器類実測図(9) (s=1:4)

その大部分は古墳時代の土師器と須恵器であるが、山茶碗や江戸時代の遺物も10点出土している。ここでは出土状況などからみて江戸時代初期の遺物が遭構の時期を反映していると判断し記述を進める。須恵器には杯蓋（369、370）や杯身の他にはそう（371）、短頸壺蓋（373）、無蓋高杯（375、377）などが存在する。新しい時期の遺物としては尾張型山茶碗類の小皿（372）、瀬戸美濃窯産陶器鉄釉輪禿皿（379）、土

師器半球形内耳鍋（380）などがあり、379は17世紀前半に、380は16世紀後半～17世紀前半に所属するものと考えられる。

#### (24) S K 427 出土遺物 (第46図418)

S K 427 からは常滑窯産陶器壺の下半部（418）が出土した。焼成が甘い「赤物」の製品で時期は江戸時代に属するが、口縁部が残存しないため詳細には特定し得ない。

### 第3節 石器・石製品

石器・石製品には、管玉、白玉、砥石、石錐、石錐、使用痕剥片などが存在する。これらのうち、本書では全形を伺い知ることのできる43点を図化して報告を行う。

#### (1) 管玉 (第47図429、469)

管玉はS B 05とS B 06から1点ずつが出土した。両者とも水洗篩別作業で発見された資料であり、出土層位を特定することはできない。429はS B 05から出土し一部欠損している。469はS B 06から出土したほぼ完形品で表面がよく研磨されている。

#### (2) 白玉 (第47図430～440、470、471)

白玉はS B 04から1点（470）、S B 05から4点（430～432、471）、S B 07から6点（435～440）、S B 09から2点（433、434）の合計13点が出土した。篠原分類（篠原1995）をもとにして行った志賀公園遺跡分類（宮腰2001）で区分すると、側面の形状は全て彎曲する2類に属しており、さらに高さが直径の1/3以上かつ1/1以下のA 2類（430～435、438～440、471）と、高さが直径の1/3より小さなC 2類（436、437、470）に分けることができる。

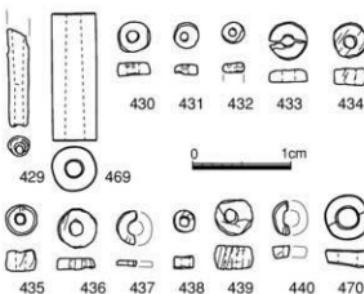
矢追遺跡に隣接する神明遺跡では、主要遭構について篩別作業が実施され、5世紀前半から8世紀前葉の竪穴建物跡の白玉などの石製模造品の出土量が算出されており、矢追遺跡との比較が可能である。神明遺跡では5世紀中葉～後葉にかけて10数点から数十点白玉が出土する事例が存在するものの、それ以外の時期では白玉出土数は数点に止まっている。矢追遺跡では5世紀代の遭構がほどなく、その他の時期の竪穴建物では白玉は数点に止まっていることは、神明遺跡とそれほど相違はないものと理解されよう。なお、矢追遺跡から出土した石製模

造品には管玉と白玉のみが存在し、その他の形状の製品は全く存在しない。

#### (3) 砥石 (第48～49図441～455)

矢追遺跡の竪穴建物跡からは少なくなく花崗岩の円礫がいくつか出土したが、このうち研磨痕や被熱痕が残存するものについては、砥石として報告することとした。これらは形状から、扁平な円碟状の石材の上下面に使用痕が残存するA類、細長い円碟状の石材の上下面に使用痕が残存するB類、直方体状の磨耗した碟の上下面に使用痕が残存するC類、円碟にランダムな面に使用痕が残存するD類に分けることが可能である。

S B 01出土砥石はA類が4点（441、443～445）、C類が1点（442）、D類が1点（446）の合計6点存在する。S B 03出土砥石はD類が1点（447）が、S B 04はC類が1点（448）がある。S B 05出土砥石はA類が2点（449、450）とD類が1点（451）、S B 06出土砥石はA類が1点（454）とB類が2点（452、453）、S B 09出土砥石はB類が1点（455）が存在する。449



第47図 石器・石製品実測図(1) (s=2:1)

## 矢追遺跡

と454の側面端部には敲打痕が存在し、454には灰色に変色した被熱痕が認められる。(鈴木正貴)

### (4) 石鎌 (第50図456~462)

石鎌は、形態から大きく3群に分類できる。凹基鎌(456~458)・有茎鎌(459~461)・円基鎌(462)で、前者は後二者に比べ小型で薄手、さらに軽量ある。表面に残された剥離のあり方に問しても、前者は後二者に比べ、剥離面を大きくなりあう形で調整を行っており、差は明瞭である。

凹基鎌は平面形状が三角形を呈する。457においては、凹基の度合いが若干深く見られる。有茎鎌は平面形状が五角形を呈する。厚手であり、461では長胴化の傾向が見られる。459・460では、平面中央部に、瘤状に剥離されないで残存している部分が見られ、460ではその部分に原石の躍面が残されている。462は円基鎌とし

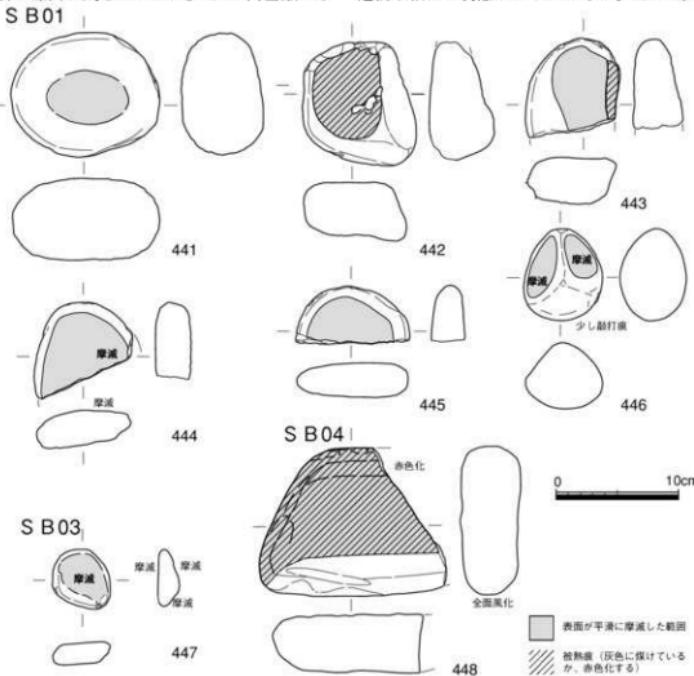
て、石鎌の一群に入れた。厚みが片側に寄っており、縁辺の一部には片面のみの剥離調整しか行われていないなど、456~461と比べ若干相違が見られるものである。石材はすべてチャートである。

### (5) 石錐 (第50図463~465)

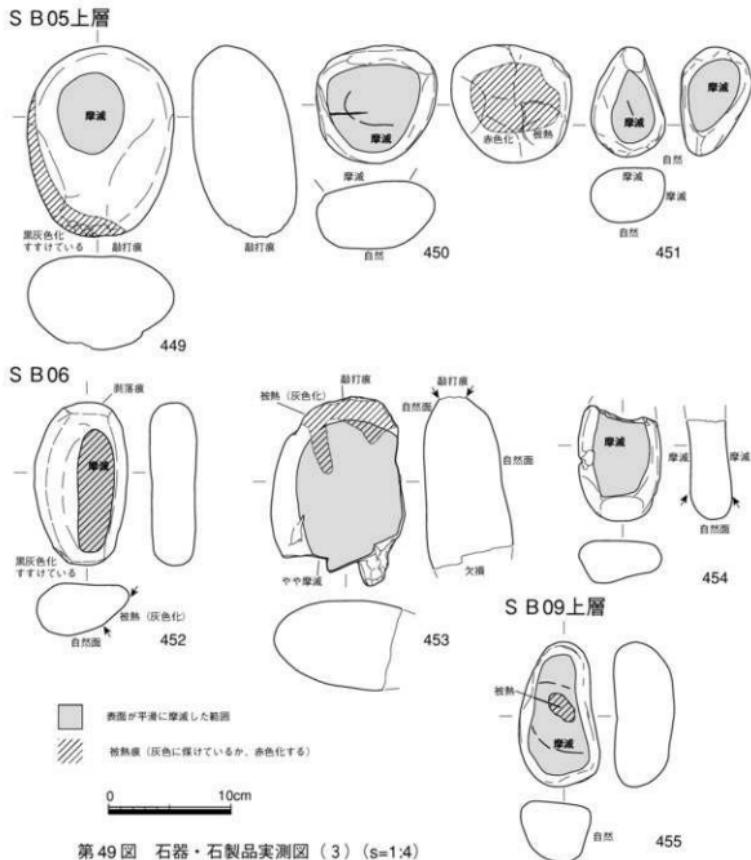
463は、先端部が欠損しているものの、先細りに調整が加えられた痕跡が確認できたものである。剥離調整のあり方は、剥離面の大きな切り合いで見られ、凹基鎌により近いものである。464は細身の形状を呈し、とくに片側の先端部にかけて細かい調整を加え先細りにしている。465は頭部が大きく、片面先端部には、細かい不連続な剥離がみられる。石材は463・465がチャートで、464がサスカイトと考えられる。

### (6) 使用痕剥片 (第50図466~468)

剥片の一辺に使用時についたと考えられる不連続な細かい剥離がみられるもの。466は砂岩



第48図 石器・石製品実測図(2) (s=1:4)



第49図 石器・石製品実測図(3)(S=1:4)

遺構番号	出土剥片重量表									計	
	チャート	下呂石	サスカイト	黒曜石	石英	長石	砂岩	泥岩	黒雲母	白雲母	
SB01	14.850	0.912	0.276	0.035	0.118	0.384		0.265			16.84
SB02	1.277			0.013	1.352						2.642
SB03	6.411	0.113	0.346		0.019	0.015					6.904
SB04	11.944		0.017	0.436	0.116						0.008 12.521
SB05	25.947	1.286		0.98	3.3	0.309		0.296			32.118
SB06	4.516	1.07		1.186							6.772
SB07	4.334	0.909		0.265		0.233	0.117				5.858
SB09	2.373			0.467	0.081		9.95				12.871
SB12	0.046										0.046
SB13	4.046	0.047	0.215	0.079		0.162					4.549
SB14	2.338			0.053		0.137			0.016		2.544
SB16	1.004		0.187	0.164		1.722					3.077
SB17	0.447		0.023								0.47
SB18	2.669										2.669
SB19	0.559	0.239			0.067						0.865
計	82.761	4.576	1.064	3.678	5.053	2.962	10.067	0.561	0.016	0.008	110.746
%	74.73	4.131	0.96	3.321	4.562	2.675	9.09	0.506	0.014	0.007	99.996

第4表 剥片出土量一覧表

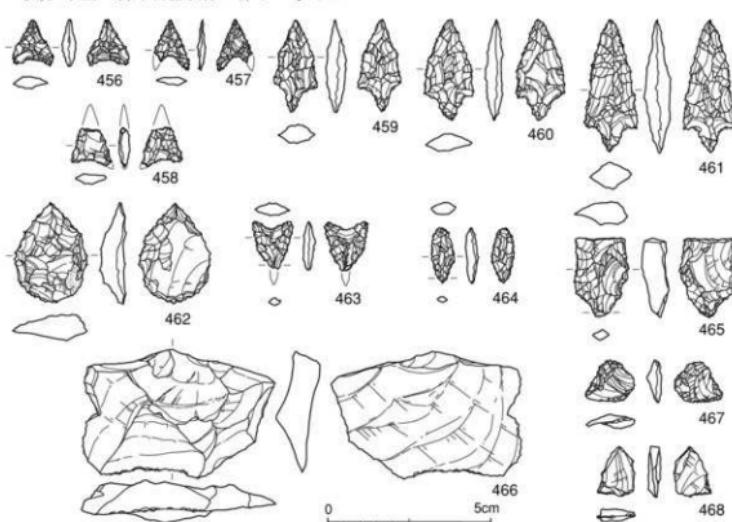
## 矢追遺跡

製、467・468はチャート製である。

石器の形態および剥離技術より、凹基錐(456～458)と石錐(463)、そして有茎錐(459～461)と円基錐(462)という2つのグループに分けることができる。両者の差は、時期差による形態・および剥離技術の差と考えられ、前者は縄文時代に属する一方、後者は縄文時代晩期中葉以降、弥生時代までの時期に属するものと想定される。

住居跡埋土中からは剥片が若干出土した(第4表)。小型の剥片石器製作に伴うと考えられ

る石材としては、チャート・下呂石・サヌカイトと考えられるもの・黒曜石・石英が想定され、チャートに圧倒的優位性が見られる。今回の調査では下呂石・黒曜石・石英製の石器は出土しなかったものの、存在していたと考えられる。下呂石は断片であるため特定が難しいが、確実に角礫といえるものは見られなかった。礫器などに使用されると考えられる砂岩も若干見られた。(川添和曉)



第50図 石器・石製品実測図(4) (s=2:3)

## 第4節 鉄製品・鉄関連遺物

ここでは、本遺跡から出土した鉄製品および鉄関連遺物を取り上げる。鉄関連遺物には、椀型鉄滓、粒状滓、鍛造剥片などの鉄滓類等が存在する。

### (1) 検出作業の経緯と分析の方法

本遺跡では多くの古墳時代後期から奈良時代の竪穴建物跡が確認された。既に谷を隔てて隣接する神明遺跡では、同様の時期の竪穴建物跡が発見されており、綿密な調査が行われている。神明遺跡では、白玉などの石製模造品の数量的な分析を行なうために、白玉が出土す

る竪穴建物跡について覆土全部の篩別作業を実施して成果を上げていた(森編2001)。こうした研究状況の中で、矢追遺跡でも白玉などの石製模造品を確実に抽出する作業が求められていた。

そこで、調査の過程で排出される遺構覆土を土糞に入れて作業場に移動し、覆土を1mmまたは2mmメッシュの篩で水洗篩別(フローテーション)作業を行った。実際には1mmメッシュの篩では作業時間を多大に必要とするため、大部分は2mmメッシュの篩により作業を行い、こ

の結果全部で12点の白玉を検出することができた。この他に土師器や須恵器の極細かな片断や剥片の他に微小な鉄関連遺物も含まれていることが、作業の過程で判明してきた。このことを受けて、選別した土砂などを肉眼で分別作業を行う他に、市販の磁石（磁力等は不明）を使用して選別を行うこととした。このようにして得られた資料の中には、鍛造剥片や粒状滓と思われる微小遺物が含まれていると判断されたため、選別作業が終了して整理報告書を作成作業に着手する段階で、穴澤義功氏に指導を仰ぎ、分類と記録作業を実施した。

このような経過を経ているため、堅穴建物跡覆土の採取方法は極めて粗雑で、選別作業も十分とは言えない状態である。加えて、遺構や遺物の細かな整理を進めていく過程で、当初の予定よりもかなり多くの中世や近世の新しい時期の遺構（掘立柱建物跡）などが存在したことが明らかとなった現在では、微小な遺物を取り扱う場合に、このような混入の恐れが大きい資料は評価に大きな危険を伴うものとなっている。しかし、問題が多いとは言え、鉄関連遺物が堅穴建物跡などから出土したことはそれほど過ちではないとここでは判断し、報告を進めていきたい。

ここで、作業手順を整理しておく。1) 覆土は原則として全量をビニール製土袋に一旦収納する。2) 水洗場で土袋のまま水に漬け土砂を柔らかくした後、木製枠で金属網の篩を用いて水洗篩別作業を行う（1mmと2mmの篩の内訳は第1表の通りである）。3) 選別された土砂などを乾燥させた後にビニール袋などに入れ、その後肉眼観察で焼物、剥片、石製模造品、鉄製品などを抽出、市販の磁石を用いて着磁したものを見分ける。4) 穴澤義功氏の指導のもと、着磁したものを鉄関連遺物や着磁鉱物などに分類し、鉄関連遺物について記録化した。5) この中で、特に注目される資料（9点）については、九州テクノリサーチに金属学的な調査を依頼した。

資料採取上の問題点はいくつか存在するが、1) 堅穴建物跡以外の覆土が混入した可能性が否定できること 2) 遺構単位で土砂を取り上げたため分布に関する分析ができないこと、3) 水洗篩別作業が要所で十分に細かくなく金

属網を使用したことでも問題があることなどをあげることができる。

## (2) 鉄関連遺物の分類

磁着選別で検出された全ての資料について観察、分類を行った結果、まず磁着鉱物（地山中に含まれる磁性を持つ鉱物）と鉄関連遺物に区分され、後者はさらに下記のように区分された。

- a) 鉄製品………鉄で作成された製品またはその破片で、赤錆色または黒色を呈する。その形状から釘、刀子、釣針状、針金状、針状、棒状、環状、板状、ヘラ状などに分類できる。
- b) 鉄片…………赤錆色または黒色の鉄資料で、製品とは判断できない板状のものである。
- c) 鐵治滓…………鍛冶工程の際に炉底などに溜る滓の総称である。
- d) 粒状滓…………鍛錬鍛冶の初期の段階で、鉄塊酸化防止のために塗布された粘土汁と鉄が反応して、表面張力によって球状化したり、鍛打の際に表面から飛散したものである。
- e) 鍛造剥片………鍛造剥片は鉄塊や鉄板などを鍛打する際に鉄素材の表面から鉄中の不純物が酸化皮膜として薄板状に剥離したものである。

- f) 炉壁溶解物………炉壁が溶融したと考えられる粘土溶解物であり、石などをかみ込むものが多い。

今回報告する資料は総数で89点（項目）である。極微細なものを除き実測図を掲載し（第51・52図など）、個別の観察データを表にまとめた（第5表など）。この中で金属学的な分析をえた9点については、遺物の破壊を伴うため詳細な観察表を付した（第53～61図）。金属学的な分析結果は第4章で示した通りである。

本文では個別資料の紹介を避け、遺構単位で概要を記述するに止めたい。

### (3) S B 01 出土遺物（1～4）

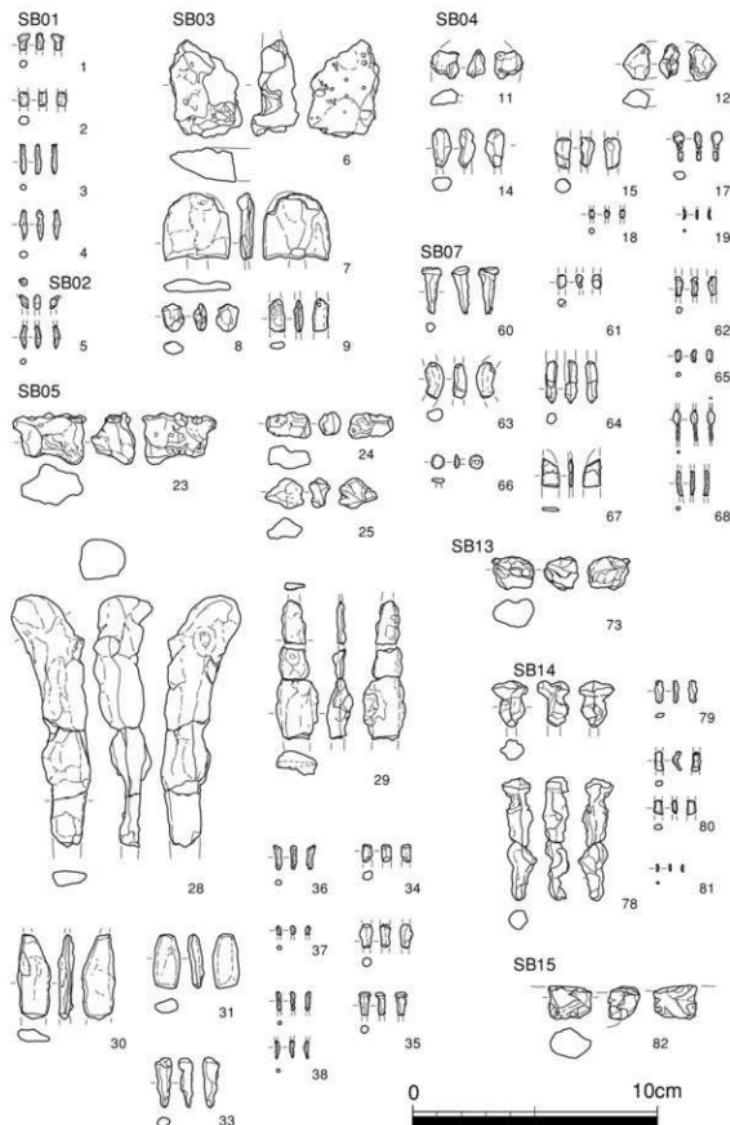
釘、針または針金状の鉄製品のみが出土した。この資料からは鉄器生産の痕跡は認められない。

### (4) S B 03 出土遺物（6～9）

形状が詳らかでない鉄製品と炉壁溶解物が出土した。炉壁溶解物が存在するものの、それ以上は鉄器生産の痕跡は認められない。

### (5) S B 04 出土遺物（10～21）

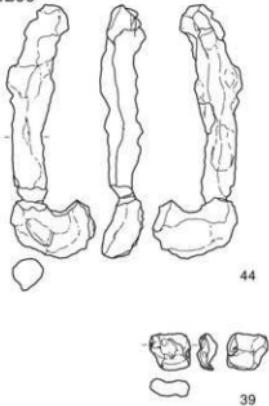
矢追遺跡



第51図 鉄製品・鉄関連遺物実測図（1）(s=1:2)

釘状や針状などの鉄製品の他に、鍛治滓、粒状滓、鍛造剥片などの資料が揃って出土した。粒状滓は11点確認され、比較的大きさがバラバラで、直径が1.0mm～3.0mmを測る。鍛造剥片は18点存在し、厚さは0.14～0.38mmと比較的厚めのものが多い。工程の進行により厚いものから薄いものへ変化するというが、これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す資料群と考えられる。

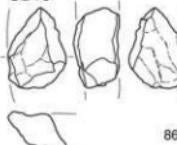
## SB06



## SB09



## SB16

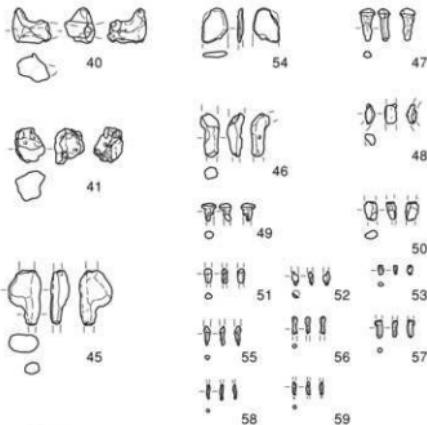


## (6) S B 05 出土遺物 (22～38)

釘、刀子、針状などの鉄製品の他に、鍛治滓、粒状滓、鍛造剥片などの資料が揃って出土した。粒状滓4点と鍛造剥片6点は金属学的な調査を行い、一連の鍛錬鍛冶作業が行われたことが言及された。鉄製品には断面が五角形状の針状製品が多く存在する。

## (7) S B 06 出土遺物 (39～59)

釘や針状、棒状、環状などの鉄製品の他に、



第52図 鉄製品・鉄関連遺物実測図(2) (s=1:2)

## 矢追遺跡

遺物No.	遺物名	地図名	遺構名	遺物記述			参考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
1	鉄製品(刃又は鉗子)	9715	S001型六角住垣棒	0.65	0.3	0.25	1
2	鉄製品(刃又は鉗子)	9715	S001型六角住垣棒	0.6	0.4	0.32	1.31
3	鉄製品(刃又は鉗子)	9715	S001型六角住垣棒	1.2	0.2	0.25	0.085
4	鉄製品(刃又は鉗子)	9715	S001型六角住垣棒	1.2	0.3	0.25	0.116
5	鉄製品(刃又は鉗子)	9715	S001型六角住垣棒	(1.85)	0.25	0.25	0.129
6	鉄製品(刃又は鉗子)	9715	S001型六角住垣棒	2	—	—	—
7	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	2.8	0.2	0.25	0.173
8	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	2.8	0.2	0.25	0.203
9	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.1	0.8	0.25	0.052
10	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.35	0.6	0.35	0.086
11	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	2.5	0.7	2	0.067
12	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.2	1.1	0.7	0.79
13	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.5	1.05	0.8	1.722
14	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.6	0.8	0.7	0.846
15	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.6	0.8	0.7	0.846
16	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.75	0.6	0.55	0.091
17	鉄製品(ハサウエー)	9715	S001型六角住垣棒	1.25	0.3	0.3	0.711
18	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	1.2	0.45	0.3	0.134
19	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.35	0.2	0.2	0.026
20	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.4	0.1	0.1	0.008
21	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
22	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
23	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	2.45	2.1	1.5	8.4
24	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	2.85	2.1	1.8	7.722
25	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.75	1.1	0.9	3.849
26	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.45	1.35	0.8	1.726
27	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
28	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
29	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
30	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
31	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	2.2	1.05	0.5	2.226
32	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.9	0.9	0.5	0.233
33	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	2	0.65	0.5	0.804
34	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.95	0.4	0.247	3
35	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.97	0.4	0.24	3
36	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.95	0.4	0.24	3
37	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.95	0.4	0.24	3
38	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.95	0.4	0.24	3
39	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	0.95	0.4	0.24	3
40	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	1.4	1.4	1.05	2.304
41	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	1.45	1.2	1.2	1.479
42	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
43	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
44	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	10.4	3.2	1.45	40.53
45	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	2.2	3.3	0.75	3.348
46	鉄製品(刃状手鉤)	9715	S001型六角住垣棒	2.3	0.45	0.45	0.877
47	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.3	0.5	0.45	0.358
48	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.7	0.6	0.5	0.19
49	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.8	0.5	0.35	0.166
50	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.8	0.4	0.45	0.144
51	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.6	0.3	0.25	0.092
52	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.55	0.25	0.2	0.042
53	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.4	0.25	0.35	0.028
54	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.4	1	0.5	0.51
55	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.75	0.25	0.25	0.083
56	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.7	0.2	0.25	0.096
57	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.7	0.25	0.25	0.091
58	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.6	0.13	0.1	0.031
59	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.55	0.15	0.15	0.038
60	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.55	0.15	0.15	0.038
61	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	3.9	0.8	0.7	0.888
62	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.55	0.55	0.2	0.096
63	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.8	0.3	0.25	0.095
64	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.8	0.7	0.5	0.381
65	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.8	0.8	0.5	0.404
66	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.55	0.25	0.3	0.079
67	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	0.5	0.25	0.2	0.046
68	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.3	0.7	0.2	0.28
69	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.3	0.3	0.35	0.073
70	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	1.05	0.35	0.35	0.07
71	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
72	鉄製品(刃)	9715	S001型六角住垣棒	—	—	—	—
73	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	0.47	0.14	0.14	0.016
74	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	3.6	3.3	1.35	4.379
75	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	—	—	—	—
76	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	—	—	—	—
77	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	—	—	—	—
78	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	1.9	1.45	1.3	1.992
79	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	5.05	1.35	1.05	4.301
80	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	0.9	0.35	0.2	0.091
81	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	0.75	0.35	0.2	0.121
82	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	0.55	0.35	0.2	0.092
83	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	0.9	0.3	0.3	0.096
84	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	1.75	0.35	1.2	3.317
85	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	—	—	—	—
86	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	—	—	—	—
87	鉄製品(刃)	9715	S011型六角住垣棒	—	—	—	—
88	鉄製品(刃)	9715	S012型住垣棒	4.75	3.2	1	4.057
89	鉄製品(刃)	9715	SK3132型住垣棒	4.6	4.2	2.7	37.372

第5表 鉄製品・鉄関連資料構成一覧表

番号	径 (mm)	光沢	気泡、凹み、凹凸	突起	色調	重量 (g)
20-1	1.3	あり	小さい凹みが散在	なし	黒色	0.002
20-2	2.2	あり	大小の凹みが散在	小突起あり	黒褐色	0.017
20-3	2.4	なし	不明	なし	褐色	0.019
20-4	1.8	あり	大小の凹みが散在	小突起あり	黒色	0.008
20-5	2.2×1.5	あり	小さい凹みが散在	なし	黒色、銀色光沢部	0.010
20-6	1.6	なし	不明	小突起あり	褐色	0.007
20-7	1.1	なし	不明	なし	褐色	0.005
20-8	1.2	なし	なし	なし	黒褐色	0.005
20-9	1.0	なし	なし	なし	褐色	0.005
20-10	3.0	なし	なし	なし	褐色	0.033
20-11	1.7	なし	不明	小突起あり	灰褐色	0.006
42-1	1.4	なし	気泡あり	なし	黒灰色	0.006
42-2	1.1	なし	なし	なし	黒褐色	0.006
42-3	1.3	なし	なし	なし	茶黒色	0.004
42-4	1.0	なし	凹凸あり	小突起あり	黒色	0.004
42-5	1.3	なし	表皮剥離	なし	黒色	0.005
42-6	1.3	なし	表皮剥離	なし	褐色	0.004
42-7	1.2	なし	大小の凹みが散在	小突起あり	褐色	0.003
42-8	1.6	なし	なし	なし	黒色	0.002
42-9	1.6	なし	なし	なし	褐色	0.004
42-10	1.3	なし	なし	なし	灰褐色	0.003
42-11	1.2	なし	小さい凹みが散在	なし	黒褐色	0.004
42-12	1.3	なし	なし	なし	黒褐色	0.005
42-13	1.3	なし	なし	なし	褐色	0.007
42-14	1.4	なし	なし	なし	黒褐色	0.006
42-15	1.2	なし	なし	なし	黒色	0.002
42-16	1.2	なし	なし	なし	黒褐色	0.004
42-17	1.5	なし	なし	なし	黒褐色	0.002
42-18	1.2	なし	なし	なし	褐色	0.001以下
42-19	1.1	なし	大きい凹みが散在	小突起あり	黒褐色	0.001以下
42-20	1.1	なし	気泡あり	気泡化した突起あり	黒色	0.001
42-21	1.2	なし	小さい凹み 1ヶあり	なし	黒色	0.001以下
42-22	1.5	なし	大きい凹みが散在	なし	黒色	0.005
42-23	1.3	なし	表皮剥離	なし	黒色	0.002
42-24	1.1	なし	表皮剥離	なし	黒色	0.001以下
42-25	1.5	なし	なし	なし	黒色	0.003
42-26	1.3	なし	表皮剥離	なし	黒灰色	0.002
42-27	1.6	なし	小さい凹みが散在	小突起あり	褐色	0.002
42-28	1.5	少しあり	なし	なし	黒褐色	0.005
42-29	1.6	なし	表皮剥離	なし	黒色 (表皮は褐色)	0.001
42-30	1.5	なし	なし	小突起あり	黒褐色	0.002
42-31	1.5	なし	なし	なし	黒色	0.004
42-32	1.5	あり	気泡あり	小突起あり	黒色	0.006
69-1	1.9	なし	小さい凹み 2ヶあり	なし	黒色	0.013
74-1	1.2	なし	なし	なし	黒色	0.004
74-2	1.8	なし	小凹みが多数散在、表皮剥離部あり	なし	褐色	0.008
74-3	1.5	あり	なし、表皮剥離部分あり	なし	黒色 (光沢は緑色)	0.004
74-4	1.1	なし	なし	小突起あり	黒褐色	0.001
74-5	1.3	なし	気泡あり、小さい凹み少しあり	なし	黒褐色	0.001
74-6	1.3	なし	半分欠損、表皮に土付着	なし	黒色	0.003
76-1	2.7	あり	白色の石をかみ込む、気泡あり	なし	黒色	0.017
76-2	1.6	なし	表皮に土付着	なし	黄黒色	0.007
76-3	1.2	なし	表皮剥離	なし	暗灰色	0.005?
76-4	2.2	なし	なし、大部分表皮剥離	なし	黒褐色	0.012
76-5	1.7	なし	表皮に土付着	なし	黄灰色	0.008
76-6	1.5	あり	白色の石をかみ込む、気泡あり	小突起あり	黒灰色	0.006
76-7	1.1	なし	なし	なし	黒褐色	0.005
76-8	1.1	なし	大小の凹みが散在	なし	黒色	0.004
83-1	2.9	なし	なし	なし	黒色	0.019
83-2	1.5	なし	なし	なし	黒褐色	0.006
83-3	1.3	なし	小さい凹み少しあり	なし	黒色	0.005
83-4	1.5	あり	大きい凹みあり	小突起あり	黒色	0.003
83-5	1.2	なし	凹凸が散在、クレータ状	なし	黒色	0.002
83-6	1.3	なし	なし	なし	褐色	0.003

第6表 粒状津一覧表

矢追跡

番号	(mm)	(mm)	(mm)	(g)	表	裏	縫着	色調
21-1	4.80	4.00	0.17	0.020	平滑、微粒面状の部分あり	光沢を持つ波状	強	黒褐色
21-2	4.50	2.40	0.38	0.019	平滑、気孔が散在	やや光沢を持つ波状	強	黒褐色
21-3	1.60	1.35	0.17	0.003	光沢ややあり、微粒面的	光沢を持つ小波状	弱	黒褐色
21-4	3.28	1.85	0.18	0.006	平滑、微粒面的になる所あり	平滑で光沢を持つ	弱	黒褐色
21-5	2.09	1.49	0.18	0.003	平滑	やや光沢を持つ、平滑だが小波部点在	強	黒褐色
21-6	2.09	1.65	0.18	0.003	やや皿状	気孔が散在、光沢あり	強	黒褐色
21-7	2.30	1.89	0.18	0.005	平滑	平滑、光沢部あり	強	黒褐色
21-8	2.82	1.64	0.19	0.003	平滑	小波状に凹凸	強	黒褐色
21-9	2.12	1.95	0.18	0.005	平滑、気孔1ヶあり	光沢を持つ、平滑で気孔散在	強	黒褐色
21-10	1.58	1.19	0.15	0.000	平滑	小波状でやや光沢を持つ	弱	黒褐色
21-11	1.72	1.50	0.21	0.002	平滑、層状の重なり	波状でやや光沢を持つ	強	黒褐色
21-12	2.08	1.64	0.14	0.005	平滑	光沢をもつや小波状	弱	黒褐色
21-13	1.48	0.98	0.38	0.002	微粒面状	平滑	強	黒褐色
21-14	2.25	1.10	0.24	0.003	微粒面状	気孔あり	弱	黒褐色
21-15	1.32	1.28	0.22	0.003	平滑、層状の重なり	光沢あり	強	黒褐色
21-16	1.52	1.20	0.17	0.003	やや微粒面的	光沢部あり、鋸部分あり	弱	黒褐色
21-17	1.18	1.17	0.17	0.001	平滑、ややざらつく	光沢部が点状、やや小波状	弱	黒褐色
21-18	1.90	1.22	0.16	0.007	平滑	やや光沢がある、やや小波状	強	黒褐色
70-1	2.65	1.60	0.18	0.003	平滑な皿状	やや光沢を持つ平滑	弱	黒褐色
70-2	2.25	1.40	0.15	0.002	平滑、気孔が散在	点状の光沢部分、やや小波状	弱	黒褐色
70-3	2.29	1.48	0.17	0.003	平滑	やや光沢を持つ小波状	弱	黒褐色
70-4	1.74	1.55	0.18	0.002	平滑、やや光沢を持つ	光沢を持つ、波状	強	黒褐色
75-1	2.17	1.89	0.15	0.004	平滑、微隆起部あり	光沢を持つ平滑	弱	黒褐色
75-2	1.95	1.90	0.20	0.002	やや光沢を持つ、小波状	やや光沢を持つ、小波状、気孔あり	強	黒褐色
75-3	2.39	0.95	0.17	0.000	平滑	やや光沢を持つ、小波状	強	黒褐色
75-4	1.52	0.98	0.13	0.000	平滑、層状の重なり、気孔がある	やや光沢を持つ、波状、小突起あり	強	黒褐色
43-1	1.62	1.55	0.09	0.003	皿状、微粒子面的	光沢を持つ、平滑、ヒビ割れがある	強	黒褐色
43-2	1.77	1.69	0.09	0.001	平滑、やや微粒面的	光沢を持つ、波状	弱	黒褐色
43-3	2.49	1.92	0.08	0.001	皿状、微粒子面的	点的に光沢を持つ、小波状、鋸部あり	強	黒褐色
43-4	1.91	1.78	0.26	0.000	微粒子面的、波状	波状、気泡散在	弱	黒褐色
43-5	2.27	2.10	0.09	0.003	やや皿状、平滑、気孔が散在	波状、やや光沢を持つ	弱	黒褐色
43-6	2.10	1.35	0.13	0.000	平滑	波状、点的光沢を持つ	強	黒褐色
43-7	2.40	1.70	0.21	0.004	平滑、やや微隆起部あり	小波状、気孔あり	弱	黒褐色
43-8	2.50	2.20	0.18	0.004	皿状、微粒子面的、土付着	小波状	弱	黒褐色
43-9	2.49	1.55	0.16	0.005	平滑	小波状	弱	黒褐色
43-10	2.40	1.95	0.14	0.004	やや皿状、平滑	やや光沢あり、波状	弱	黒褐色
43-11	1.99	1.70	0.22	0.002	波状、やや光沢を持つ	やや光沢を持つ、波状	弱	黒褐色
43-12	2.58	1.70	0.19	0.000	平滑、気孔が散在	やや光沢を持つ、小波状、微粒子面的	強	黒褐色
43-13	1.99	1.15	0.18	0.000	平滑、気孔が散在	波状、気孔あり	弱	黒褐色
43-14	2.60	1.84	0.22	0.005	平滑、気孔あり	小波状、気孔点在	弱	黒褐色
43-15	1.30	1.00	0.08	0.000	皿状、微粒子面的	平滑、気孔点在	弱	黒褐色
43-16	2.65	1.53	0.22	0.005	平滑、気孔が散在	小波状、凹凸している	弱	黒褐色
43-17	2.20	1.42	0.17	0.003	平滑、気孔が散在	やや光沢を持つ、綾い波状	弱	黒褐色
43-18	2.00	1.82	0.14	0.000	皿状、平滑	平滑	強	黒褐色
43-19	1.78	1.10	0.50	0.004	平滑	やや光沢を持つ、鋸部あり	弱	黒褐色
43-20	1.18	0.95	2.24	0.000	小波状、微粒子面的部分あり	小波状	弱	黒褐色
43-21	2.40	2.20	0.18	0.000	平滑、気孔が少しあり	波状、やや光沢を持つ、凹凸している	強	黒褐色
43-22	2.50	1.60	0.21	0.001	皿状、平滑	小波状、やや凹凸している	弱	黒褐色
43-23	2.48	1.50	0.18	0.000	平滑	やや光沢を持つ、少しあく立つ	強	黒褐色
43-24	2.04	1.20	0.18	0.002	微粒子面的	小波状	強	黒褐色
43-25	1.28	1.08	0.14	0.000	平滑	平滑	強	黒褐色
43-26	2.12	1.50	0.18	0.003	微粒子面的、気孔散在	小波状、気孔1ヶ	弱	黒褐色
43-27	2.18	2.05	0.25	0.004	皿状、気孔点在	波状、光沢を持つ	弱	黒褐色
43-28	1.93	1.45	0.29	0.003	平滑、やや微粒子面的	平滑、点的な光沢	弱	黒褐色
77-1	2.23	1.58	0.16	0.003	平滑、気孔少しあり	点状に光沢を持つ、波状	強	黒褐色

第7表 錫造剥片一覧表

第8表 金属学的調査対象資料一覧表

資料番号	遺構名	構成番号	遺物種類	重量(g)	着目度	分析	分類	マクロ組織	ミクロ組織	X線回折	火度	耐火度	耐火度	分析	分析部位	分析指定期	採集方法	試験方法	前モルタル層	中モルタル層	後モルタル層	X射線回折	時
1-97	SB059穴住居跡	22	鐵治溝	8.4	なし	溶接全	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	26	利休溝(6.6)	—	なし	利休溝として	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3-97	SB059穴住居跡	27	鐵治溝(6.6)	0.2	△	鐵治溝として	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4-97	32	鐵製品(形状不明)	—	なし	鐵製品焼成部を中心とする	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5-97	10	鐵治溝	9.2	なし	溶接全	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6-97	13	鐵製品(?)	0.8	△	鐵製品焼成部を中心とする	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7-97	16	鐵製品(?)	0.2	△	鐵製品焼成部を中心とする	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8-97	71	三角形鉄片(切り跡)	0.5	△	鐵製品焼成部を中心とする	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9-97	72	鐵製品(?)	-0.1	△	鐵製品焼成部を中心とする	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第9表 金属学的調査対象粒状滓一覧表

番号	直径(mm)	色	表面及び表面	表面及び表面	延長	気孔	重量
2-1-1	2.3	黒褐色	心部に石英質の石粒を含む。やや光沢があり。	外皮の欠落部分あり。	弱	少しあり	0.014g
2-1-2	1.1	黒褐色	光沢あり。	表面に若干の凹凸みあり。	強	なし	-0.001g
2-1-4	2.1	黒褐色	表面に光沢が散在し、フレーター状。	—	強	なし	0.003g
2-1-2	1.1	黒褐色	表面に光沢が散在し、フレーター状。	—	強	あり	0.013g

第10表 金属学的調査対象鍛造剥片一覧表

番号	長軸(mm)	短軸(mm)	厚さ(mm)	色	表面	裏	延長	気孔	重量
3-1-1	3.0	2.8	0.23	黒褐色	平滑、気孔が散在。	やや淡黄、鋸刃、鋸強い。	弱	あり	0.010g
3-1-2	3.0	2.1	0.23	黒褐色	平滑、わずかに欠落あり。	光沢を持つ淡黄。	弱	ややあり	0.009g
3-1-3	2.2	1.7	0.12	黒褐色	平滑、橋状。	光沢を持つ淡黄。	弱	なし	-0.001g
3-1-4	2.6	1.6	0.28	黒褐色	やや凹凸、欠孔が散在。	光沢あり、やや凹凸あり。	強	なし	0.002g
3-1-5	3.5	2.5	0.12	黒褐色	光沢があり、断続的。	小窓状で先端部点在。	強	なし	0.003g
3-1-6	3.1	1.8	0.06	黒褐色	平滑、微細的。	青黒く、光沢あり。	強	なし	-0.001g

## 矢追遺跡

資料番号 1

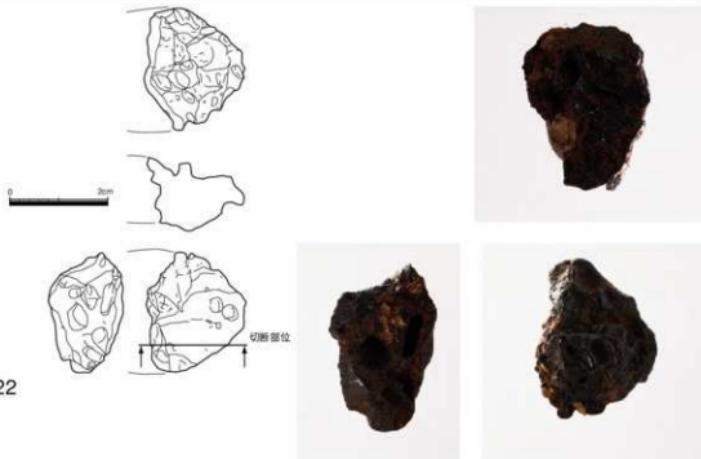
出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括		分	項目	津	メタル
出土位置	SB05堅穴住居跡	時期・根拠	7世紀初頭？：出土土器					マクロ 被 破 度 CMA X線剖析 化 耐火度 カラリー 放射化 X線透視	○	○
試料番号 試料番号 遺物種類 (名称)	検 級：YAH-1 化 学：— 放射化：—	法 量	長径 2.45 cm 短径 2.0 cm 厚さ 1.5 cm	色 調 磁着度	暗褐色～青黒色 青黒色	遺存度 破面数	析			
	鍛治渾		重量 8.4 g		2	前含浸				
			メタル度		なし	断面樹脂				

### 観察所見

平面、不整台形をした小さな鍛治渾の破片である。同一袋中に2片が収められているが、直接の接合関係は不明である。上・下面と側面の半分以上が生きており、右側面4面が破面である。小さいながらもやや楕円の断面形を示し、側面から下面是青光りしている。上面は緩やかな山形に盛り上がり、表面には数ミリ大の木炭痕が散在する。部分的に酸化物が薄く固着し、錆色となっている。左寄りの側面から下面是、炉底土のかみ込みにより、やや凹凸が激しい。光沢も顕著である。炉底土はやや砂質で、灰色に被熱している。右側面に残る破面は上下で質感が異なり、下半部の渾は結晶が発達し、キラキラと青光りしている。上半部の渾は気孔が大ぶりで、密度が低い。また、中間層に石英質の石片を3ヶ所ほどかみ込んでいるのも特徴である。色調は表面が暗褐色から青黒色、地は光沢を持った青黒色である。もう一つの小破片も、色調や津質に加えて、石のかみ込みも確認されるため、ほぼ同一資料の破片としてみてよいものであろう。

分析部分 長軸端部1/5を直線状に切断し、津部を分析に用いる。試料量が足りれば小破片側を分析に用いること。  
備 考 残材追加。

一般にいう楕円形鍛治渾ほど、大きさ・量ともまとまっていない。小さな鍛治渾片である。鍛冶炉中の木炭層で、遊離したまま形成された鍛治渾であろう。分析資料No. 5もSB04堅穴住居跡出土品ながら、やはり似た資料である。両者の関係に注目しておきたい。なお、本遺跡では通常の形態を持つ楕円形鍛治渾は1点も確認されていない。



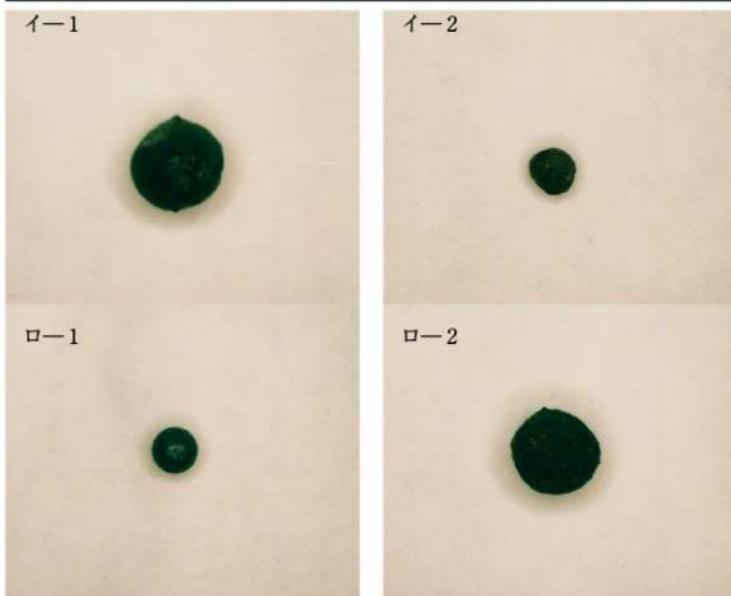
資料番号 2

出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括			分 析	項目	津	メタル
出土位置	SBO5堅穴住居跡			時期・根柢	7世紀初頭?：出土土器						
試料番号	検 筛：YAH-2	法 量	長径	— cm	色 調	—	遺存度	—	分析	マクロ 様 様	○
	化 学：—		短径	— cm		—	破面数	—		種 度	○
	放射化：—		厚さ	— cm	磁着度	—	前含浸	—		CMA X線回折 化 学 解水度 カロリ 放射化 X線透	
遺物種類 (名称)	粒状滓 (4点)		重量	— g	メタル度	な し	断面樹脂	—			

観察所見  
SBO5堅穴住居跡の覆土（深さ10～25cm厚さ）をメッシュによらず、一括で採取した土砂中からの抽出物である。全体として鍛治関連遺物の出土量は極めて少ないが、比較的、同一袋中でまとまりそうな資料群として、分析資料No.2・3を選択し、構成したものである。磁着傾向により、強弱に大きく二分した上で、代表的なサイズを各々2点ずつ選択した。2-イ-1と2は磁着弱で、2-ロ-1と2は磁着強である。粒径は2ミリ大と1ミリ大からそれぞれ選択した。詳細は別表参照。

分析部分 必要品を選択し、粒状滓として分析に用いる。残材返却。

備 考  
覆土一括資料のため、分析資料としては時期の点で今一つ確実性に欠ける資料である。但し、分析資料No.1の鍛治滓とNo.2の粒状滓、No.3の鍛造片は、時期の問題を除けば関連性が濃厚な資料群である。



第54図 分析資料観察図表（2）

## 矢追遺跡

資料番号 3

出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括		分 析	項目	津	メタル
出土位置	SB05堅穴住居跡			時期・根据	7世紀初頭？：出土土器				○	○
試料番号	検 簡：YAH-3 化 学：— 放射化：—	法 量	長径 短径 厚さ	— cm — cm — cm	色 調 — 磁着度 —	— — 前含浸 —	遺存度 — 破面数 —	—		
遺物種類 (名称)	鍛造剥片 (6点)		重量	— g	メタル度 なし	断面樹脂	—			

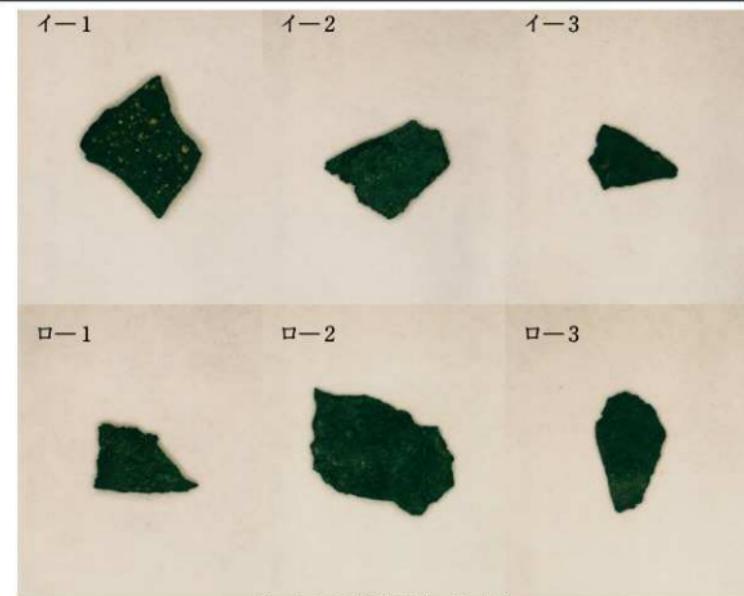
### 観察所見

SB05堅穴住居跡の覆土（深さ10~25cm厚さ）をメッシュによらず、一括で採取した土砂中からの抽出物である。全体として鍛冶関連遺物の出土量は極めて少ないが、比較的、同一袋中でまとまりそうな資料群として、分析資料No.2・3を選択し、構成したものである。磁着傾向により、強弱に大きく二分した上で、代表的な鍛造剥片の厚みごとに分析資料を選択した。3-イ-1から3は磁着弱で、3-ロ-1からは磁着強である。厚みは3-イ-1が0.39mm、3-イ-2が0.23mm、3-イ-3が0.12mmである。3-ロ-1は0.28mm、3-ロ-2が0.12mm、3-ロ-3が0.06mmである。相対的に磁着弱より強の方が薄くなっていることになる。詳細は別表を参照。

分析部分 必要品を選択し、鍛造剥片として分析に用いる。残材返却。

### 備 考

覆土一括資料のため、分析資料としては時期の点で今一つ確実性に欠ける資料である。但し、分析資料No.1の鍛治滓とNo.2の粒状滓、No.3の鍛造剥片は、時期の問題を除けば関連性が濃厚な資料群である。



第55図 分析資料観察図表（3）

資料番号 4

出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括			分	項目	津	メタル
出土位置	SB05堅穴住居跡	時期・根柢	7世紀初頭？：出土土器								
試料番号	検 篩：YAH-4 化 学：— 放射化：—	法 量	長径 短径 厚さ	0.9 cm 0.5 cm 0.5 cm	色 調	黄褐色 黒褐色	遺存度 破面数	破片			
遺物種類 (名称)	鉄製品 (釘状不明)	重量	0.2 g	メタル度	磁着度	3	前含浸	—	分析 試験	マクロ 鏡 視 度 CMA X線試験 化 学 酸欠度 カロリ 放射化 X線透進	(○)

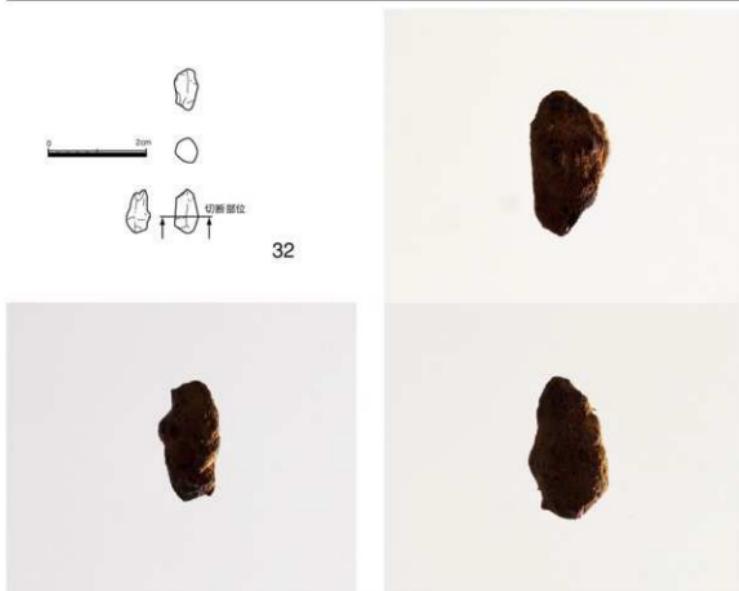
## 観察所見

極めて小さな鉄製品の破片である。外周部に酸化土跡がやや厚く、形状も今一つはつきりしないため、現状では釘状不明品としておく。長軸の一方がはっきりした破面で、もう一方も破面の可能性があり、破面数は2とみておく。太い方の端部からみると断面がやや方形に見え、逆の細い方からみると、径3.3mmほどの丸棒状の外観を示す。無面片側の中央部付近と太い方の先端部には小さな突起がみられ、一種の彎折れ釘の頭部様の外観を示す。ただし、釘とすれば頭部の大半が欠落している可能性がある。全体に錆化が進み、メタル部は残っていない。表面の大半は薄皮状の酸化物に覆われている。色調は表面が茶褐色。地は黒褐色である。

分析部分 全量を使用し、鉄製品の錆化部を中心に分析に用いる。残材あれば返却。

## 備 考

出土位置も覆土一括資料のためはつきりせず、遺物名としても確定しにくい資料である。本遺跡では同様の遺物名の明らかでない用途不明の鉄製品の破片が、大半の堅穴住居跡の覆土中から出土しており、時期が異なると考えられる遺構からも形態のよく似た小さな鉄製品の破片がかなり数多く確認されているという問題点がある。このため、分析資料No.1~3の鑛冶関連資料に比べて、鉄製品の破片類は遺構との関連性や時期について今一つ不安な面を持つ遺物である。



第56図 分析資料観察図表（4）

## 矢追遺跡

資料番号 5

出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括			分	項目	津	メタル
出土位置	SB04堅穴住居跡			時期・根掘	7世紀後半? : 出土土器				マクロ 痕 跡 度	○	
試料番号	検 鏡: YAH-5 化 学: 一 放射化: 一	法 量	長径 短径 厚さ	2.5 cm 1.7 cm 2.0 cm	色 調	茶褐色~青黒色 青黒色	遺存度 破面数	破片	CMA X線回折 化 学 耐火度 カラリー 酸化化 X線通過		
遺物種類 (名称)	鍛治滓		磁着度 重量	1 9.2 g	前含浸	—	—	—			

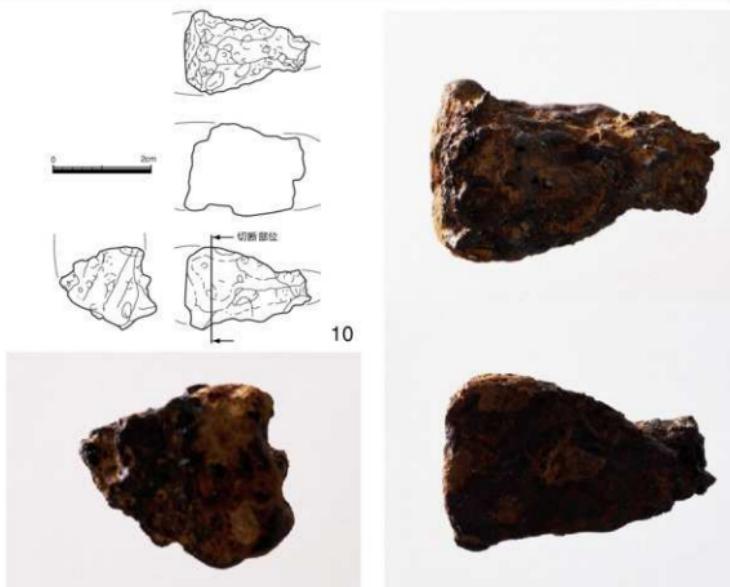
### 観察所見

平面、長手の不整台形をした、小さな鍛治滓である。上・下面と側面の一部が生きており、側面3面がシャープな破面である。上面は緩やかな波状で、凹部は小さな木炭痕である。生きている肩部の平面形は緩やかな弧状で、底面にかけて全体的に小さな凹凸により覆われている。一部の雀み中にては鍛冶炉の炉床土が確認され、凹凸そのものが鍛冶炉の炉床土を寫したものである可能性が高い。破面はかなり結晶の発達した緻密な滓層で、部分的にキラキラした光沢を持つ。また一部に、斜め上方にのびる細長い気孔も確認できる。破面の上端寄りには石英質の石粒が確認できるが、これは付着したものではなく、巻き込まれている可能性が高い。資料全体の外観は、まとまりの悪い鍛治滓の肩部破片と推定される。色調は表面が茶褐色から青黒色、底は青黒色である。

分析部分 長軸端部1/5を直線状に切断し、滓部を分析に用いる。残材返却。

### 備 考

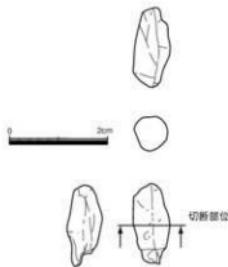
出土遺構は異なるが、分析資料No.1の鍛治滓とかなり似た外観の滓資料である。まとまりの悪い遊離した鍛治滓であろう。なお、結晶の発達が両資料とも目立ち、外観的には鉱石系原料の鍛治滓の可能性が大と推定される。周辺地域では近江北部で6世紀後半から鉱石製錬が開始されており、時期や地域的にはこれらとつながる可能性も想定されよう。さらに愛知県小牧市狩戸山遺跡においても複数個の箱形炉が調査されており、これらとの関連性も疑われる資料である。



第57図 分析資料観察図表（5）

資料番号 6

出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括			分	項目	津	メダル				
出土位置	SB04堅穴住居跡			時期・根柢	7世紀後半? : 出土土器										
試料番号 化 学 : 一 放射化 : 一	検 鏡 : YAH-6	法 量	長径 短径	1.6 cm 0.8 cm	色 調	茶褐色	遺存度	破片	分析 試料	マクロ 機 械 強 度 CMA X線衍射 化 学 解水度 カロリ一 放射化 X線透進	(○)				
			厚さ	0.7 cm		黒褐色	破面数	2							
	遺物種類 (名称) 鉄製品 (釘?)		重量	0.8 g	磁着度	3	前含浸	—							
観察所見															
径2.9mm前後の横幅を持つ、方柱状の鉄製品の破片である。外周部はやや厚い酸化土砂に覆われている。鉄製品そのものは外周部が厚さ0.75mm程度の被膜状の酸化物となっている。芯部は錆化が進み、径1.7mm前後の中空部となり、内部に明るい茶褐色の酸化物(土砂?)が詰まっている。色調は表面が茶褐色、地は黒褐色である。															
分析部分 長軸端部1/2を直線状に切断し、鉄製品錆化部を中心に分析に用いる。残材返却。 備 考															
細身の角釘または鉄錐の軸部に相当する小破片と考えられる。外見的には完全に錆化しており、錆着も弱めである。外周部の酸化土砂が厚く、実際の鉄製品そのものより外見上は太くなっている。															



13



第58図 分析資料観察図表（6）

## 矢追遺跡

資料番号 7

出土状況 試料番号	遺跡名 出土位置	矢追遺跡		遺物No. 時期・根拠	一括			分 析	項目 マクロ 機械 硬度 CMA X線屈折 化 耐火度 カロリー 放射化 X線透過	津 ○ (○)	メタル
		SB04堅穴住居跡			茶褐色～暗褐色 黒褐色	遺存度 破面数	破片				
検鏡：YAH-7 化 学：— 放射化：—	法 量	長径 1.25 cm 短径 0.5 cm	色 潤	茶褐色～暗褐色 黒褐色	遺存度 破面数	2	破片				
遺物種類 (名称) 鐵製品 (釣針状)		厚さ 0.3 cm 重量 0.2 g	磁着度 メタル度	2 △	前含浸 断面樹脂	—	—				

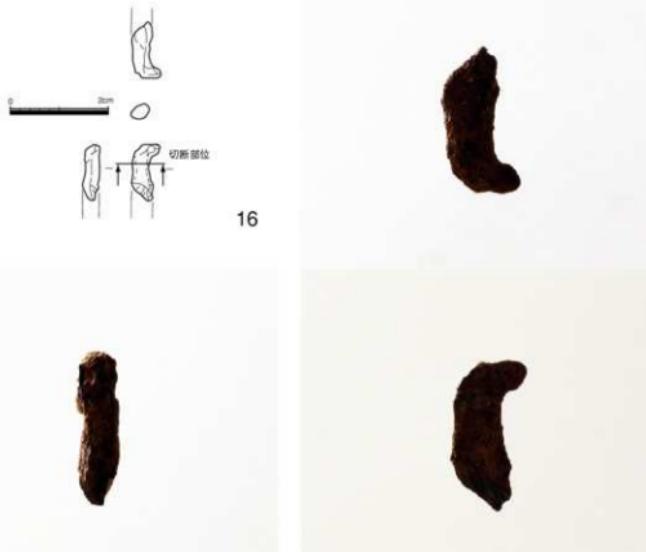
観察所見

鉤状に曲がった先端部を持つ小さな鉄製品の破片である。酸化皮沙がやや厚く、見かけはやや大きいが、鉄製品そのものは径1.9mm前後の円形断面を持つ釣針状の遺物である。破面数は2を数える。断面形が円形であるという点で、釣の足部側の曲がったものではないと考えられる。鉄部は錆化が進み、内部は径0.7mmほどの中空部となっており、外周部は厚さ0.35mm前後の薄皮状の鉄錆化物である。色調は表面が茶褐色から暗褐色、地は黒褐色である。

分析部分 長軸端部を2/3を直線状に切断し、鉄製品の錆化部を中心に分析に用いる。残材返却。

備 考

内眼観察では、小型の釣針の体部から先端部に相当する破片かと推定される。鉤状に折れ曲がった部分は長さ2.5mmほどで途切れしており、先端部そのものは欠落している可能性があろう。なお、棘（かえし）部は現状では確認されない。



第59図 分析資料観察図表（7）

資料番号 8

出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括			分	項目	津	メダル
出土位置	SB09堅穴住居跡			時期・根柢	7世紀初頭?：出土土器						
試料番号 化 学：— 放射化：—	検 鏡：YAH-8	法 量	長径 短径	1.3 cm 1.0 cm	色 調	茶褐色 黒褐色	遺存度	ほぼ完形	分析 値	マクロ 機械 強度 CMA X線回折 化 学 解灰度 カロリ 放射化 X線透進	(○)
	厚さ		0.4 cm		磁着度	3	前含浸	—			
	遺物種類 (名称)		三角形鉄片 (切り削)	重量 0.5 g	メタル度	△	断面樹脂	—			

観察所見

平面、長手の不整三角形をした、小さなごく薄い三角形鉄片である。表面はやや厚く酸化土砂が固着し、淡緑色の石片らしきものも含まれている。端部一ヶ所が欠けて、黒褐色の内部の鉄製品の錫化物が露出している。この部分から見る限り、鉄地本来の厚みは0.9mm強と、極めて薄い。また、中心部が部分的に中空状になっており、その外側に鉄錫化部が0.3mmほどの錫化被膜状に残っている。全体的にわずかに反り返っている印象を受けるが、酸化土砂の影響もあり確實とは言いかたい。いわゆる切り屑に相当する可能性が高い遺物である。色調は表面が茶褐色、地は黒褐色である。

分析部分 長軸端部1/2を直線状に切断し、鉄製品の錫化部を中心に分析に用いる。残土返却。

備 考

極めて薄い削片状の三角形鉄片である。もう少し大きければ無頭の三角錐にもなるが、小さすぎる個体である。ただし、この種の薄手で小さな三角形鉄片(切り削)が比較的多く出土する事例は、5世紀代から7世紀代頃の鎌治遺跡に目立つということは指摘できよう。本資料と分析No.1~3・5をトータルに見た場合、年代的には古墳時代に通る可能性のある鎌治関連遺物として、括ることができる遺物群かもしれない。



第60図 分析資料観察図表（8）

## 矢追遺跡

資料番号 9

出土状況	遺跡名	矢追遺跡		遺物No.	一括			分	項目	津	メタル
出土位置	SB09堅穴住居跡	時期・根柢	7世紀初頭？：出土土器		茶褐色	遺存度	ほぼ完形		マクロ 構 成 部 分 CMA X線回折 化 耐火度 カラリー 放射性 X線透視	○	(○)
試料番号	検 簡：YAH-9 化 学：— 放射化：—	法 量	長径 0.47cm 短径 0.14cm 厚さ 0.14cm	色 調 ----- 黒褐色	破面数 2	前含浸 —	—	析			
遺物種類 (名称)	鉄製品 (針状)	重量 0.1 g	メタル度 △	断面樹脂	—						

### 観察所見

極めて細い針又はハリガネ状の鉄製品の破片である。長軸の両端部が欠落しており、破面数は2を数える。現状の長さは0.47mmで、芯部の鉄部は錆化して部分的に中空になっており、元の鉄部は中空部の外側に0.2mm前後の厚さの酸化物として残されている。長軸の片側の径は1.0mm大で、もう一方の端部が0.6mm前後である。いずれも横断面形状は円形で、長軸片側は丸棒状、もう一方は徐々にすぼまっていることになる。なお、長軸方向に向かってわずかに弧状である。色調は表面が茶褐色、地は黒褐色である。

分析部分 鉄製品の錆化部を中心に全量を分析に用いる。残材があれば返却。

### 備考

本遺跡では、時期の異なる堅穴住居跡の覆土からも、本資料と同じような形状の、極めて細い鉄製品の破片が数多く確認されている。いずれも針または針金状の外観を示し、時期的には判断の難しい資料である。ごく新しい金網などをも視野に入れて慎重に検討する必要があろう。



第61図 分析資料観察図表（9）

た。この資料からは鉄器生産の痕跡は認められない。

### (9) S B 09 出土遺物 (69~72)

針状鉄製品、三角形状鉄片、粒状滓、鍛造剥片が出土した。粒状滓は1点確認され、直径が1.9mmを測る。小さな凹みが認められた。鍛造剥片は4点存在し、厚さは0.15~0.18mmと比較的均一で、光沢を持つものが多い。これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す可能性があるが、鍛冶滓が存在しないことや粒状滓や鍛造剥片が少ないとなど、疑問な点も多い。

### (10) S B 13 出土遺物 (73~75)

鍛冶滓、粒状滓、鍛造剥片などの資料が出土した。粒状滓は6点確認され、直径が1.1mm~1.9mmの大きさに分布する。表皮が剥離したりするものが多い。鍛造剥片は4点存在し、厚さ

は0.13~0.20mmを測る。これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す資料群と考えられる。

### (11) S B 14 出土遺物 (76~81)

針や棒状、環状、針状の鉄製品、粒状滓、鍛造剥片が出土した。粒状滓は8点確認され、直径が1.1mm~2.7mmを測るものである。表皮に土砂が付着するものが存在する。鍛造剥片は1点存在し、厚さは0.16mmである。これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す可能性があるが、鍛冶滓が存在しないことや粒状滓や鍛造剥片が少ないとなど、疑問な点も多い。

### (12) S B 16 出土遺物 (85~86)

覆土上層から鍛冶滓と粒状滓が出土した。粒状滓は6点確認され、直径が1.2~2.9mmを測る。

# 第4章 自然科学的分析

## 第1節 鍛冶関連遺物・鉄製品の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TACセンター

大澤正己・鈴木瑞穂

### 1. いきさつ

矢追遺跡は愛知県豊田市鶯鴨町矢追に所在し、碧海台地の縁辺部に立地する。第2東海自動車道に伴う発掘調査の結果、古墳時代後期～奈良時代の遺構として、堅穴建物17棟、掘立柱建物12棟以上、大壁建物3棟以上が検出された。また鍛冶遺構は確認されなかつたが、鉄滓・鍛造剥片・砥石などの鍛冶関連遺物が出土しているため、当遺跡における鉄器生産の実態を検討する目的から金属学的調査を実施する運びとなつた。

### 2. 調査方法

#### 2-1. 供試材

Table.1に示す。出土鍛冶関連遺物・鉄製品計9点の調査を行つた。

#### 2-2. 調査項目

##### (1) 肉眼観察

遺物の肉眼観察所見。これらの所見をもとに分析試料採取位置を決定する。

##### (2) マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが<sup>5</sup>、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の10倍もしくは20倍で撮影したものと指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

##### (3) 顕微鏡組織

切り出した試料をベーカライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンド粒子の3μと1μで仕上げて光学顕微鏡観察を行つた。なお金属鉄は5%ナイタル（硝酸アルコール液）で、腐食（Etching）している。

##### (4) ピッカース断面硬度

鉄滓の鉱物組成と、金属鉄の組織同定を目的として、ピッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行つた。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもつたダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもつて、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

#### (5) EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査

分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

#### (6) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C)、硫黄 (S) : 燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素 (SiO<sub>2</sub>)、酸化アルミニウム (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K<sub>2</sub>O)、酸化ナトリウム (Na<sub>2</sub>O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>)、酸化クロム (Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、五酸化磷 (P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、バナジウム (V)、銅 (Cu) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分光分析。

#### (7) 粉末X線回折 (X-ray Diffractometer)

X線回折とは、「単結晶、または粉末試料にX線を照射すると、それぞれ固有のX線が回折する」現象をいう。X線回折分析法は、この回折角と回折強度から物質を同定する方法である。この分析法の基本は、状態分析法であり、

物質中の構成元素を求めるものではなく、あくまでも形態と、その量を知ることである。試料調整は、分析用に粉碎したサンプルを更にメノウ乳鉢で細粒化(325メッシュの篩を通る程度)している。鉱物組成の同定には、ASTMカードと比較する方法がとられる。ASTMカードは、ASTM X-ray Powder Data Fileと呼ばれ、ASTM(American Society for Testing Materials)から発行されている。

### 3. 調査結果

#### (1) SB05 穫穴住居跡出土遺物

##### YAH-1 錫治滓

①肉眼観察：2片の小型(8.4 g)の錫治滓である。直接接合はないものの、同一個体の可能性が高い。上面には数mm大の木炭痕が散在する。側面から下面では灰色に被熱した砂質の炉床土を呑み込んでいる。また滓の上半部は気孔が大ぶりで密度が低い。滓の下半部は光沢が強く、鉱物結晶の成長が予想される。なお、大きい方の破片を顕微鏡観察・ピッカース断面硬度・EPMA調査・化学組成分析の供試材、小さい方の破片を粉末X線回折の供試材に用いた。

②顕微鏡組織：Photo.1 ①～⑤に示す。①～③のように広い範囲で、素地の暗黒色ガラス質滓中に発達した淡灰色木ずれ状結晶ファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)、及び微細な白色樹枝状結晶ヴスタイト(Wüstite: FeO)が晶出する。また④⑤のように、局部的に白色粒状結晶ヴスタイト(Wüstite: FeO)が凝集して晶出する個所がある。

③ピッカース断面硬度：Photo.1 ①に淡灰色木ずれ状結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は689Hvであった。ファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)に同定される。(注1)

④E P M A 調査：Photo.8 に鉱物相のCOMP(反射電子像)を示す。1の番号をつけた素地のガラス質部分の定量分析値は41.3%SiO<sub>2</sub> - 19.8%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> - 3.5%CaO - 2.1%Na<sub>2</sub>O - 25.8%FeOであった。珪酸塩に鉄分を固溶する。2の番号をつけた淡灰色木ずれ状結晶の定量分析値は70.4%FeO - 30.0%SiO<sub>2</sub>であった。ファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)に同定される。3の番号をつけた白色結晶の定量分析値は98.2%

FeOであった。ヴスタイト(Wüstite: FeO)に同定される。また4の番号をつけた白色結晶内の微細な晶出物の定量分析値は72.3%FeO - 26.5%SiO<sub>2</sub>であった。周囲のヴスタイトの影響が及ぼされているがファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)に同定される。

⑤化学組成分析：Table.2 に示す。全鉄分(Total Fe) 48.03%に対して、金属鉄(Metallic Fe) 0.06%、酸化第1鉄(FeO) 57.47%、酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 4.72%の割合であった。ガラス質成分(SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O)は36.56%と高値で、このうち塩基性成分(CaO + MgO)は1.09%である。砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)は0.22%、バナジウム(V) < 0.01%であった。また酸化マンガン(MnO)は0.07%、銅(Cu)は0.01%であった。純度の高い原料鉄の錫治加工で排出された滓である。

⑥粉末X線回折：Fig.1 及びTable.3に示す。主要鉱物相はファイアライト(Fayalite: FeSiO<sub>4</sub>)である。

当試料はファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)を主要鉱物とする錫滓である。始発原料(鉄鉱石ないしは砂鉄)に由来する微量元素(Cu, Cr, Mn, Ti, Vなど)はいずれも低値であるため、鉄器製作の鍛錬鍛冶工程での派生物の可能性が高い。なお当試料の調査結果のみから、始発原料が鉱石か砂鉄か判断することは難しい。周辺地域で出土した錫治関連遺物の金属学的調査事例の蓄積が望まれる。

##### YAH-2：粒状滓(注2)

###### YAH-2：イー1 2.3mm 径 (磁着：弱)

①肉眼観察：色調はやや光沢のある青黒色である。やや歪な球状を呈する。表面には刺状の小さな突起が複数認められ、微細な気孔が僅かに散在する。

②マクロ組織：Photo.1 ⑥に示す。表層に白色で薄膜状の固着物が複数確認される。また内部には約0.01～0.9mm 大の気孔が散在する。

③顕微鏡組織：Photo.1 ⑦～⑨に示す。表層の固着物は薄膜状の鉄酸化物で、微細な鋸造剥片の可能性が高い。また試料本体では微細な白色樹枝状結晶ヴスタイト(Wüstite: FeO)、淡灰色木ずれ状結晶ファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)が晶出する。

**YAH-2：イ-2 1.1mm 径（磁着：弱）**

①肉眼観察：色調は無光沢の黒褐色である。歪な球状を呈し、表面には細かい凹凸がある。

②マクロ組織：[Photo.2](#)①に示す。内部には約0.01～0.5mm大の気孔が散在する。

③顕微鏡組織：[Photo.2](#)②～④に示す。微細な白色樹枝状結晶ヴスタイト（Wüstite : FeO）、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）が晶出する。

**YAH-2：ロ-1 2.1mm 径（磁着：強）**

①肉眼観察：色調は光沢のある青黒色である。きれいな球状を呈し、表面は比較的滑らかである。

②マクロ組織：[Photo.2](#)⑤に示す。酸化土砂中に微細な砂粒が散在する。

③顕微鏡組織：[Photo.2](#)⑥に示す。試料の大部分が、鱗片状の粘土鉱物であった。当試料は粒状滓ではなく、土砂が微細な球状に固まつものであった。磁着強は理解に苦しむ。

**YAH-2：ロ-2 1.1mm 径（磁着：強）**

①肉眼観察：色調は光沢のない黒褐色である。やや歪な球状を呈する。表面にはごく小さな突起や、気孔が散在する。

②マクロ組織：[Photo.2](#)⑦に示す。中央には不定形の空隙が存在する。またその周囲には約0.01～0.3mm大の気孔が散在する。

③顕微鏡組織：[Photo.2](#)⑧～⑩に示す。白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite : FeO）が凝集して晶出する。磁着強はヴスタイト凝集組織に由来するのであろう。

**YAH-3：鍛造剥片（注3）**

YAH-3：イ-1 3.0×2.8×0.39mm（磁着：弱）

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は平滑で、気孔が散在する。裏面はやや波状で、錯が強い。

②マクロ組織：[Photo.3](#)①に示す。表裏面とも凹凸による厚みの変動が著しい。また内部には気孔が散在する。

③顕微鏡組織：[Photo.3](#)②に示す。王水腐食により、鉄酸化物としての外層ヘマタイトと中

間層マグネタイトの層構造が不明瞭である。内層ヴスタイトは粒状を呈する。全面的に鍛造剥片といいきるには一抹の不安を覚える剥片である。鍛造剥片であれば鍛打工程前半の派生物である。

**YAH-3：イ-2 3.0×2.1×0.23mm（磁着：弱）**

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は平滑で僅かに気孔がある。裏面は光沢を持ち、波状を呈する。

②マクロ組織：[Photo.3](#)③に示す。中央部が厚手で、両端部がやや薄くなる形状を呈し、気泡を多発する。

③顕微鏡組織：[Photo.3](#)④～⑥に示す。王水腐食により鉄酸化物の層構造らしきものが確認された。外層ヘマタイトは不明瞭ながら中間層マグネタイトは健全である。内層ヴスタイトは凝集するが、粒状の結晶の痕跡を留める。鍛造剥片であればやはり鍛打工程前半の派生物の可能性が高い。

**YAH-3：イ-3 2.2×1.7×0.12mm（磁着：弱）**

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は比較的平滑であるが、筋状の凹凸がみられる。裏面は光沢を持つ波状である。

②マクロ組織：[Photo.3](#)⑦に示す。薄手で、ほぼ平坦な剥片である。気泡も少ない。

③顕微鏡組織：[Photo.3](#)⑧～⑩に示す。鉄酸化物の3層構造が明瞭に確認された。外層ヘマタイトは極く微厚で不明瞭であるが中間層と内層の鑑別は可能。王水腐食により、中間層マグネタイトと内層ヴスタイトの境界がより鮮明になったが、内層ヴスタイトの腐食による黒変度が少ない。風化の影響が大きいため磁着度は弱となった。全体に非晶質化が進んでいる。鍛打工程後半段階の派生物と推定される。

**YAH-3：ロ-1 2.6×1.6×0.28mm（磁着度：強）**

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面はやや皿状で、気孔が散在する。裏面は光沢を持ち、やや凹凸がある。

②マクロ組織：[Photo.4](#)①に示す。表裏面の

## 矢追遺跡

凹凸による厚み変動が僅かに認められる。

③顕微鏡組織：Photo.4 ②に示す。鉄酸化物の層構造が確認された。外層ヘマタイトと中間層マグнетタイト、内層黒変ヴスタイトが鑑別できる。内層ヴスタイトは全体に非晶質化が進んでいる。鍛打工程後半段階の派生物である。エッティング効果が現れて磁着強と結びつく。

**YAH-3：ロ-2 3.5×2.5×0.12mm (磁着度：強)**

①肉眼観察：色調は黒褐色である。やや光沢があり、微細な粒状の凹凸がある。裏面は小さく波状を呈する。また光沢を持つ部分が点在する。

②マクロ組織：Photo.4 ③に示す。波打つように湾曲する剥片である。鉄酸化物の3層構造は明瞭である。

③顕微鏡組織：Photo.4 ④～⑥に示す。鉄酸化物の3層構造が明瞭である。王水腐食で内層ヴスタイトは黒変化して磁着度は強となる。内層ヴスタイトは非晶質化が進んでいる。鍛打工程後半段階の派生物と推定される。

**YAH-3：ロ-3 3.1×1.8×0.06mm (磁着度：強)**

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は比較的平滑であるが、微細な粒状の凹凸がある。裏面は青黒く、光沢がある。

②マクロ組織：Photo.4 ⑦に示す。薄手で平坦な剥片である。気泡の発生はほとんど無し。

③顕微鏡組織：Photo.4 ⑧～⑩に示す。王水腐食で鉄酸化物の3層構造がより明瞭に確認された。内層ヴスタイトに結晶粒界を残す。鍛打工程中間段階の派生物の可能性が高い。

分析した鍛造剥片は、内層ヴスタイトの状態から1、粒状：イー1、2、凝聚：イー2→ロー3、3、非晶質化：イー3・ロー1・2の順に派生したと推定される。

**YAH-4：鉄製品（針状、不明）**

①肉眼観察：細い針状ないしは針金状の鉄製品の小破片である。長軸の両端部が欠損している。鉄化により芯部は空洞化する。

②マクロ組織：Photo.8 に示す。横断面はやや歪んだ方形もしくは五角形を呈する。

③顕微鏡組織：Photo.5 ①～③に示す。鉄化が進行し、ゲーサイト (Goethite:  $\alpha - \text{FeO} \cdot \text{OH}$ ) となり金属鉄は残存していない。また金属組織の痕跡も確認できなかった。

## 小結

当遺跡内では鍛冶遺構は確認されていないが、YAH-1～3は、7世紀初頭に比定されるSB05 穫穴住居跡覆土中の一括した鍛冶関連遺物で、比較的強い関連性が窺えるため、鍛冶作業の実態を検討するうえで最も注目される遺物群である。

鍛治滓 (YAH-1) は鍛錬鍛治滓の可能性が高い。また粒状滓 (YAH-2)・鍛造剥片 (YAH-3) の調査から、一連の鍛錬鍛治作業が行われたことは言及できよう。

鉄製品 (YAH-4) は完全に鉄化しており、鍛冶関連遺物との関連性を検討するための情報は得られなかった。また鍛造品に現れる展伸状の介在物やその痕跡及び層状の剥離痕跡などが明瞭に認められなかつた。古代の鉄製品の破片である可能性はあるが、より新しい時代の混入品の見方も看過できまい。

## (2) SB04 穫穴住居跡出土遺物

### YAH-5 鍛治滓

①肉眼観察：外観は YAH-1 鍛治滓に類似した、まとまりの悪い小型 (9.2 g) の鍛治滓片である。上下面と側面の一部が生きており、側面3面が破面である。上面は緩やかな波状で、小さな木炭痕が散在する。下面は全体に小さな凹凸がみられ、一部鍛冶炉の炉床土が固着する。破面は緻密で光沢が強く、鉱物結晶の発達が窺える。また一部斜め上方に伸びる細長い気孔が確認される。

②顕微鏡組織：Photo.5 ④～⑧に示す。④は表層部で淡灰色木ずれ状結晶ファイライド (Fayalite:  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ) が晶出する。⑤は試料内部で、発達した淡灰色盤状結晶ファイライド (Fayalite:  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ )、及び微細な白色粒状結晶ヴスタイト (Wüstite:  $\text{FeO}$ ) が晶出する。また⑥は端部で、僅かに1個所ヴスタイト (Wüstite:  $\text{FeO}$ ) が凝聚する部分である。また全体に微細な金属鉄粒や、鉄化鉄が散在する。

③ビッカース断面硬度：Photo.5 ⑦⑧に硬度

測定の圧痕を示す。⑦の淡灰色盤状結晶の硬度値は675Hvであった。ファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)に同定される。また、⑧の白色粒状結晶の硬度値は460Hvであった。ヴスタイト(Wüstite: FeO)に同定される。

当試料もYAH-1鍛治滓と同様に、ファイアライト(Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>)を主要鉱物とする鉄滓である。やはり鍛錬鍛冶工程で酸化防止に粘土汁を多用した派生物の可能性が高いと考えられる。

#### YAH-6: 鉄製品(釘?)

①内眼観察: 方柱状の鉄製品の破片である。外周は褐色の酸化土砂に厚く覆われる。一辺の径は2.9mm程度で、芯部は錆化により空洞化する。

②顕微鏡組織: Photo.6①~⑤に示す。錆化が進行し、ゲーサイト(Goethite: α-FeO·OH)化して金属鉄は残存していない。また金属組織の痕跡も確認できなかった。

#### YAH-7: 鉄製品(釘針状)

①内眼観察: 先端部が鉤状に曲がる小型の鉄製品の破片である。両端は破面で、断面は径1.9mm程度の円形を呈する。小型の釘針片の可能性がある。

②顕微鏡組織: Photo.6⑥~⑧に示す。断面は外周輪郭の半分程度を残した錆化鉄である。金属鉄は残存しない。しかしフェライト素地に少量バーライトが析出する亜共析組織痕跡が残存する。炭素含有量は約0.15%以下の極軟鋼と推定される。

#### 小結

YAH-5~7は7世紀後半に比定されるSB04堅穴住居跡覆土中の一括遺物である。

鍛治滓(YAH-5)はSB05堅穴住居跡出土鍛治滓(YAH-1)と酷似する鉱物組成の鉄滓であった。やはり鍛錬鍛冶滓の可能性が高い。

鉄製品(YAH-6・7)は完全に錆化している。このうち釘針状の鉄製品(YAH-7)には金属組織痕跡が残存し、極軟鋼が原料と判明した。しかし鍛治関連遺物との関連性を検討するための情報は得られなかった。共に折り返し鍛錬の痕跡は不明瞭で、確実に古墳時代の遺物

であるか判断が難しい。より新しい時期の混入物の可能性もある。

#### (3) SB09 堅穴住居跡出土遺物

##### YAH-8: 三角形鉄片(切り屑)

①内眼観察: 平面は不整三角形をした小型の鉄片である。厚みは0.9mm程度で板めて薄い。鍛冶作業で派生した切り屑の可能性が高い。

②マクロ組織: Photo.8に示す。大きく2片に割れる。左側の破片は彫れを生じ、右側は本来の厚みを残す。本来は0.7~0.8mm程度の厚みを有した薄板状の鉄片である。

③顕微鏡組織: Photo.7①~⑤に示す。該品も錆化が進行し、金属鉄は残存しない。しかし微かにバーライト組織痕跡が残存する。炭素含有量は約0.1~0.2%程の軟鋼であったと推定される。また試料断面に存在する点列状の黒色部のうち、一部は鍛打に展伸した介在物が剥落した痕跡らしきもあるが定かでない。

#### YAH-9: 鉄製品(針状)

①内眼観察: 細い針状の鉄製品である。長軸の両端は破面である。錆化により、芯部は空洞が生じている。

②顕微鏡組織: Photo.7⑥~⑧に示す。断面は不整梢円形状で中核部は空洞化し、全体に錆化が進行し、金属鉄は残存していない。また金属組織の痕跡も確認できなかった。新しい金網などの錆化物とみなすのが妥当であろう。

#### 小結

YAH-8・9は7世紀初頭に比定されるSB09堅穴住居跡覆土中の一括遺物である。どちらも完全に錆化している。ただし三角形鉄片(YAH-8)には金属組織痕跡が残存し、軟鋼と推定される。また展伸状の介在物剥落らしき痕跡が存在し、他の調査を実施した鉄製品よりも折り返し曲げ鍛接の様相を残す。これに対し針状の鉄製品(YAH-9)は鍛錬の痕跡が不明瞭で、0.9mm径の梢円形状を古墳時代の遺物とするには抵抗をおぼえる。より新しい時期の混入物の可能性を提示しておく。

#### 4.まとめ

今回矢追遺跡で出土した鍛冶関連遺物は、

## 矢追遺跡

堅穴住居跡の覆土の一括遺物であるため年代的な問題が残るもの、まとまった鍛冶関連遺物群の調査結果が得られた。金属学的調査事例に乏しい、周辺地域の鉄器生産を検討するうえで貴重な成果となった。

矢追遺跡出土鍛冶滓2点(YAH-1・5)は、ともに発達したファイヤライト(Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )を主要鉱物とする。従来の調査事例をみると、ファイヤライトを主要鉱物とする鉄滓は、鉄鉱石が始発原料の製鉄～鍛冶遺跡での確認例が多い。

ファイヤライト(Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )主体の鍛冶滓と、発達したヴスタイト(Wüstite:  $\text{FeO}$ )結晶とファイヤライト(Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )で構成される鍛冶滓では、生成要因にどのような差があるかは今後の検討課題である。また今後周辺地域で出土した鍛冶関連遺物の調査事例を蓄積して、鉄素材の始発原料と供給先の問題について検討していく必要がある。

当地域周辺では近江北部が6世紀後半から鉄鉱石を原料とした製鉄が行われており、供給先の候補地の一つとして注目される地域である。(注4)

愛知県内では唯一狩山戸遺跡(注5)で、排溝坑を両側に持つ縦置きの長方形箱形炉が確認され、炉形態から古代の製鉄炉に比定されている。一方、遺跡周辺で採取された炉外流出滓の分析結果によると、チタンの含有量が低く( $\text{TiO}_2$ : 0.31%)、周辺地域に賦存する砂鉄( $\text{TiO}_2$ : 30.39%)とは成分的に一致しないため、鉄鉱石を原料にした可能性が指摘されている。(注6)

現在までの所、東海地域の製鉄・鍛冶遺跡の調査報告例はごく僅かで、地域の鉄・鉄器生産

に關しても不明瞭であり、今後の発掘調査事例と金属学的調査の蓄積が望まれる。

なお、岐阜県各務原市所在で古墳出土の鉱石製鍛冶滓の出土例がある。中部方面の鉄生産の事例の裾野を広げる資料と考えられるので蛇足ながら付記しておく。(注7)

(注)

(1) 日刊工業新聞社「焼結鉱組織写真および識別法」1968 当刊行物にはヴスタイトの硬度値は450～500Hv、マグネタイト500～600Hv、ファイヤライトが600～700Hvとある。

(2) 粒状滓は鍛冶作業において凹凸を持つ鉄素材が鍛冶炉の中で赤熱状態に加熱されて、突起部が溶け落ちて酸化され、表面張力の関係から球状化したり、赤熱鉄塊に酸化防止を目的に塗布された粘土計が酸化膜と反応して、これが鍛打の折に飛散して球状化した微細な遺物である。

(3) 鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものと指す。俗に鉄肌(金肌)やスケールとも呼ばれる。鍛冶工程の進行により、色調は黒褐色から青味を帯びた銀色(光沢を発する)へと変化する。粒状滓の後続派生物で、鍛打作業の実証と、鍛冶の段階を押える上で重要な遺物となる。(注8)

鍛造剥片は酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト(Hematite:  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )、中間層マグネタイト(Magnetite:  $\text{Fe}_3\text{O}_4$ )、大部分は内層ヴスタイト(Wüstite:  $\text{FeO}$ )の3層から構成される。このうちのヘマタイト相は1450°Cを越えると存在しなく、ヴスタイト相は570°C以上で生成されるのは  $\text{Fe}-\text{O}$  系平衡状態図から説明される。(注9)

鍛造剥片を王水(塩酸3:硝酸1)で腐食すると、外層ヘマタイト(Hematite:  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )は腐食しても侵されず、中間層マグネタイト(Magnetite:  $\text{Fe}_3\text{O}_4$ )は黒変する。内層のヴスタイト(Wüstite:  $\text{FeO}$ )は黒変する。鍛打作業前半段階では内層ヴスタイト

第11表 (Table.3) 回折X線パターンによる定性分析結果

試料名	化学式	鉱物名
鍛冶滓 YAH-1	$\text{Fe}\cdot\text{SiO}_4$ (Iron Silicate)	Fayalite

### 目的 試物成分調査のため

使用機器 マックスサイエンス社製 MXT3VAHF22型

測定条件	X線発生装置	: 3k w	管電流	: 30.0mA
	線源	: Cu	データ範囲	: 10.020～90.000 $\text{d}^{-1}\text{g}$
	波長	: 1.54056Å	データ点数	: 4000
	管電圧	: 40.0 kV	スキャン速度	: 1.000 $\text{d}^{-1}\text{g}^{-1}\text{m}^{-1}$

第12表 (Table.1) 供試材の履歴と調査項目

番号	通路名	出土位置	遺物名称	指定年代	計測値	調査項目				備考
						大きさ(m m)	重量(g)	磁気度	マクロ 相組織	
YAH-1	矢道	SBD05穴住居跡	器物	7c前後?	24.5×20×15	8.4	2.なし	○	○	
YAH-2	矢道	粘土窯(4点)	粘土窯(4点)	7c前後?	-	-	-	なし	○	○
YAH-3	矢道	粘土窯(6点)	粘土窯(6点)	7c前後?	-	-	-	なし	○	○
YAH-4	矢道	粘土窯(形状不明)	粘土窯(形状不明)	7c前後?	9×5×5	0.2	3.球化(△)	○	○	
YAH-5	矢道	SBD04穴住居跡	器物	7c前後?	25.5×17×20	9.2	1.なし	○	○	
YAH-6	矢道	粘土窯(1点)	粘土窯(1点)	7c前後?	16.5×8×7	0.8	3.球化(△)	○	○	
YAH-7	矢道	粘土窯(約1点)	粘土窯(約1点)	7c前後?	12.5×5×3	0.2	2.球化(△)	○	○	
YAH-8	矢道	SBD06穴住居跡	三角形片(刃付)	7c前後?	13.5×10×4	0.5	3.球化(△)	○	○	
YAH-9	矢道	粘土窯(1点)	粘土窯(1点)	7c前後?	4.7×14×1.4	~0.1	1.球化(△)	○	○	

第13表 (Table.2) 供試材の組成

件号	調査名	出土位置	遺物名	指定年代	測定結果				測定項目	測定値
					Si	Al	Mn	Fe		
YAH-1	矢道	SBD05穴住居跡	器物	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	T-Fe	48.01
YAH-2	矢道	粘土窯(4点)	粘土窯(4点)	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	T-O	1.09
YAH-3	矢道	粘土窯(6点)	粘土窯(6点)	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	Mn/O	0.22
YAH-4	矢道	粘土窯(形状不明)	粘土窯(形状不明)	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	Si/Al	0.07
YAH-5	矢道	SBD04穴住居跡	器物	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	Al/Fe	36.56
YAH-6	矢道	粘土窯(1点)	粘土窯(1点)	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	Si/Mn	0.07
YAH-7	矢道	粘土窯(約1点)	粘土窯(約1点)	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	Si/Fe	0.07
YAH-8	矢道	SBD06穴住居跡	三角形片(刃付)	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	T-Mn	0.07
YAH-9	矢道	粘土窯(1点)	粘土窯(1点)	7c前後?	0.25	0.25	0.25	0.25	T-Fe	0.07

第14表 (Table.4) 出土遺物の調査結果のまとめ

件号	調査名	出土位置	遺物名	指定年代	測定結果				測定項目	測定値
					T-Fe	T-O	Mn/O	Ca/Mg		
YAH-1	矢道	SBD05穴住居跡	器物	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	T-Fe	48.01
YAH-2	矢道	粘土窯(4点)	粘土窯(4点)	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	T-O	1.09
YAH-3	矢道	粘土窯(6点)	粘土窯(6点)	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	Mn/O	0.22
YAH-4	矢道	粘土窯(形状不明)	粘土窯(形状不明)	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	Si/Al	0.07
YAH-5	矢道	SBD04穴住居跡	器物	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	Al/Fe	36.56
YAH-6	矢道	粘土窯(1点)	粘土窯(1点)	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	Si/Mn	0.07
YAH-7	矢道	粘土窯(約1点)	粘土窯(約1点)	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	Si/Fe	0.07
YAH-8	矢道	SBD06穴住居跡	三角形片(刃付)	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	T-Mn	0.07
YAH-9	矢道	粘土窯(1点)	粘土窯(1点)	7c前後?	4.04	4.04	0.25	0.25	T-Fe	0.07

F-Trendelenburg's

W-Wilcoxon's

## 矢追遺跡

(Wüstite : FeO) が粒状化を呈し、鍛打仕上げ時になると非晶質化する。鍛打作業工程のどの段階が行われていたか推定する手がかりともなる。

(4) 穴澤義功氏の遺物観察表の指摘（資料番号 5）

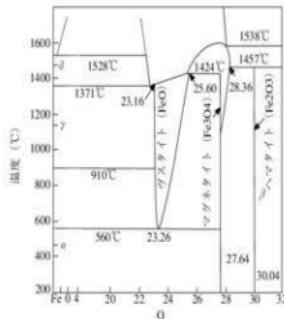
(5) 『桃花大沿線開発事業地区内発掘調査概要書（2）』小牧市教育委員会 1986

(6) 横井時秀「4. 濃尾の古い鉄文化と歴史」『社会鉄鋼部会 2000 年度秋季シンポジウム論文集 人間・社会・環境との新しい調和を求めて—XII 本州中央部における鉄文化の展開』社会法人日本鉄鋼協会 学会部門 社会鉄鋼部会編 2000

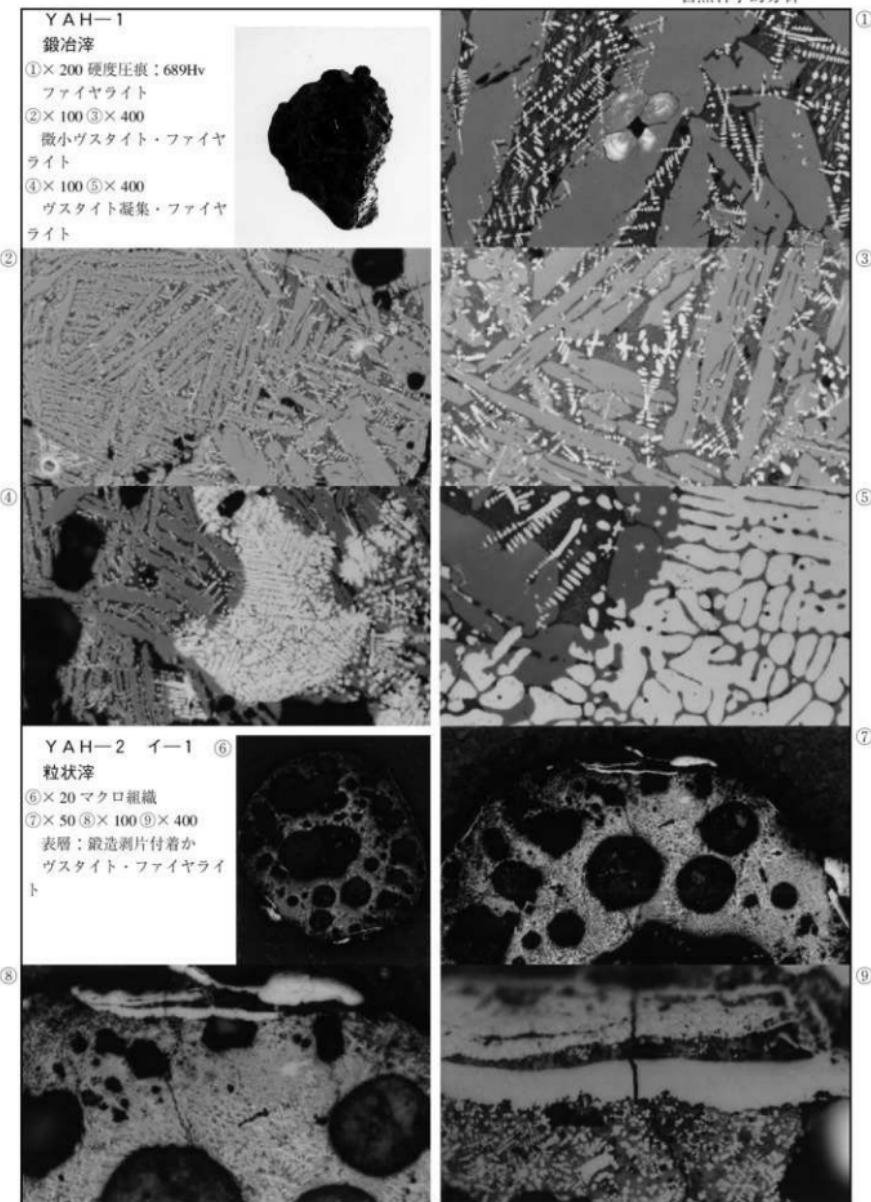
(7) 大澤正己「各務原市内出土鉄滓の金属学的調査」『蘇原東山遺跡群発掘調査報告書』（各務原市文化財調査報告第26号）各務原市埋蔵文化財調査センター 1999.3

(8) 大澤正己「房総風土記の丘実験試料と発掘試料」『千葉県立房総風土記の丘 年報 15』（平成 3 年度）千葉県房総風土記の丘 1992

(9) 森岡ら「鉄鋼腐食科学」「鉄鋼工学講座」11 朝倉書店 1975



第62図 Fe-O系平衡状態図



第63図 錫治滓・粒状滓の顕微鏡組織

矢追遺跡

YAH-2 イ-2

粒状滓

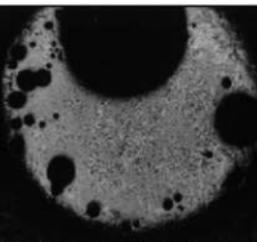
- ①×20 マクロ組織  
 ②×50 ③×100 ④×400  
 表層：鍛造剥片付着か  
 ヴスタイト・ファイヤライ

ト

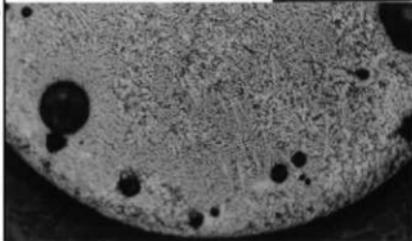
①



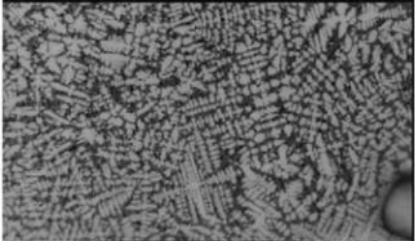
②



③



④



YAH-2 ロ-1

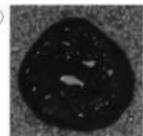
擬似粒状滓

(微細酸化土砂粒)

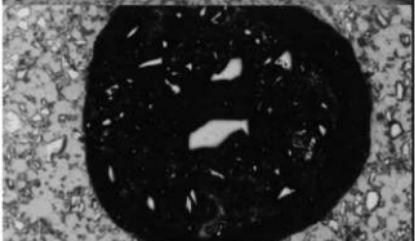
- ⑤×20 マクロ組織  
 ⑥×50 粘土鉱物

混入鉱物（砂粒）

⑤



⑥

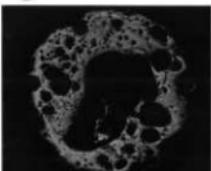


YAH-2 ロ-2

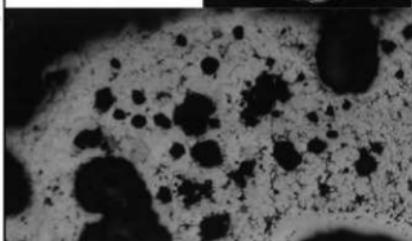
粒状滓

- ⑦×20 マクロ組織  
 ⑧×50 ⑨×100 ⑩×400  
 ヴスタイト凝集

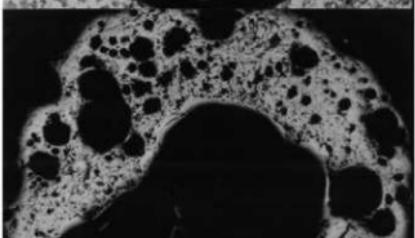
⑦



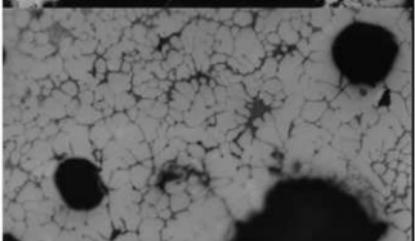
⑨



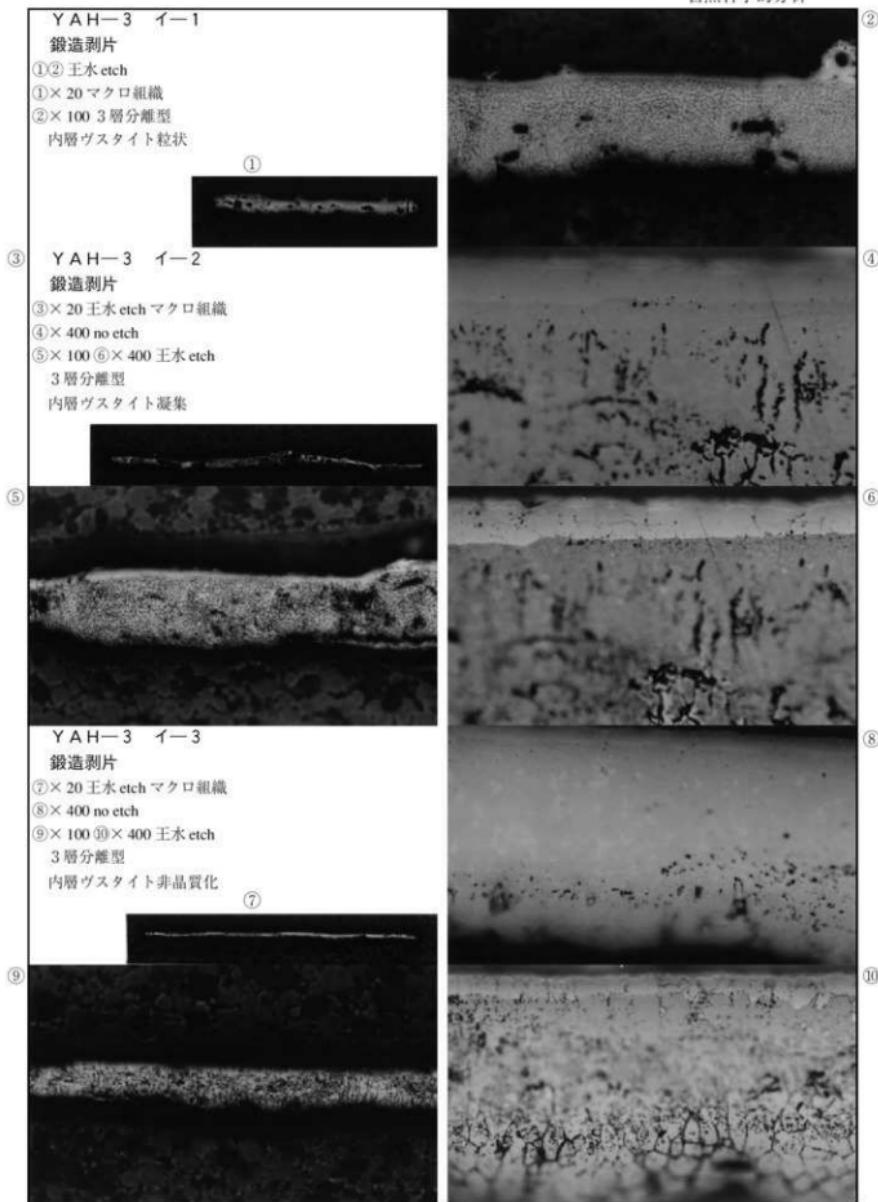
⑧



⑩



第64図 粒状滓の顕微鏡組織



第65図 鍛造剥片の顕微鏡組織（1）

矢追遺跡

YAH-3 口-1

鋳造剥片

①② 王水 etch

①×20 マクロ組織

②×100 3層分離型

内層ガストサイト非晶質化

①



YAH-3 口-2

鋳造剥片

③×20 王水 etch マクロ組織

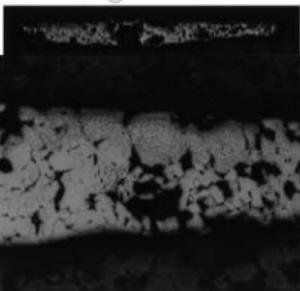
④×400 no etch

⑤×100 ⑥×400 王水 etch

3層分離型

内層ガストサイト非晶質化

③



YAH-3 口-3

鋳造剥片

⑦×20 王水 etch マクロ組織

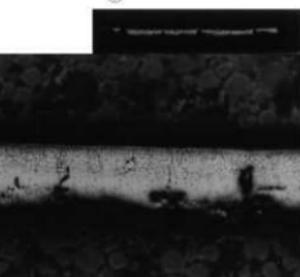
⑧×400 no etch

⑨×100 ⑩×400 王水 etch

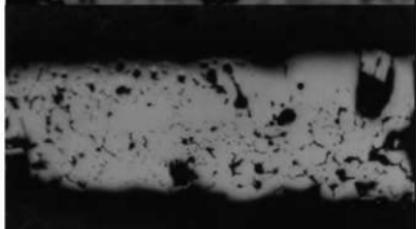
3層分離型

内層ガストサイト凝集

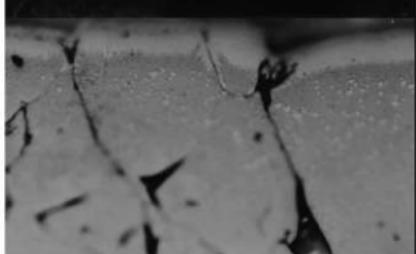
⑦



②



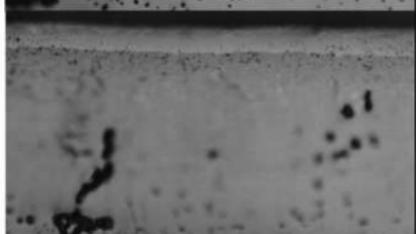
④



⑥

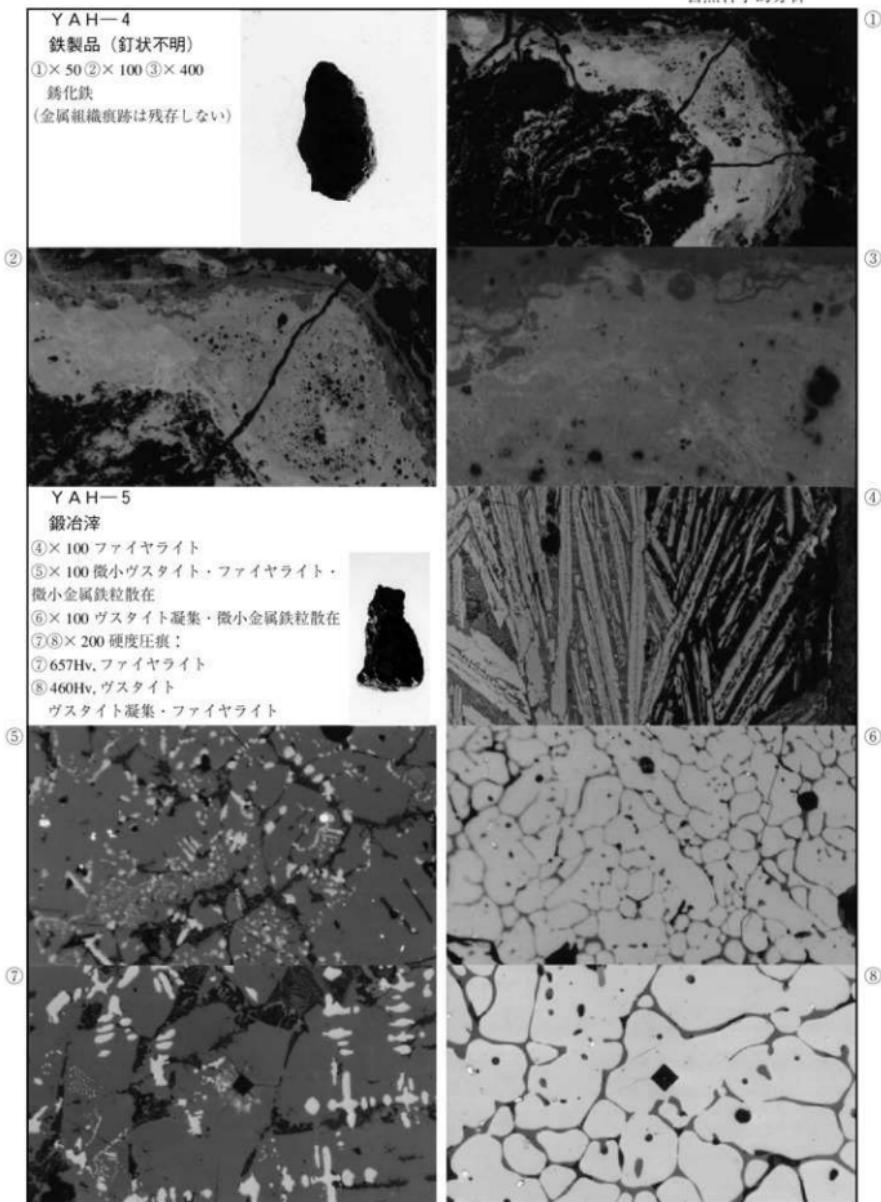


⑧



⑩

第66図 鋳造剥片の顕微鏡組織（2）



第67図 鉄製品・鍛冶滓の顕微鏡組織

矢追遺跡

YAH-6

鉄製品（釘？）

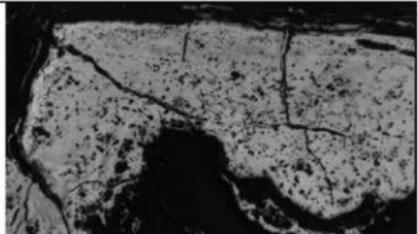
①×50 ②×100 ③×400 角

部：

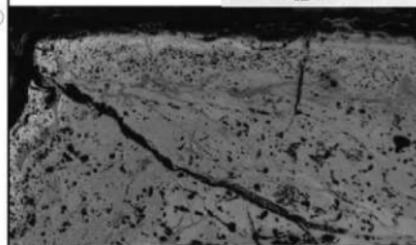
錆化鉄

④×100 ⑤×400 錆化鉄

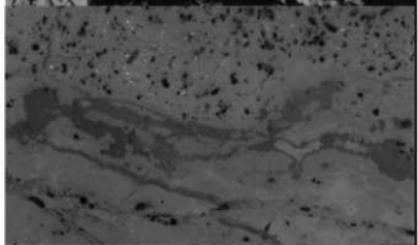
（金属組織痕跡は残存しない）



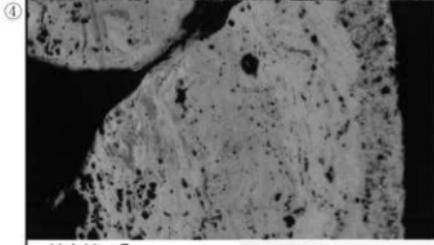
①



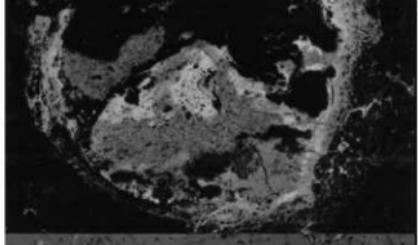
②



③



④



⑤

YAH-7

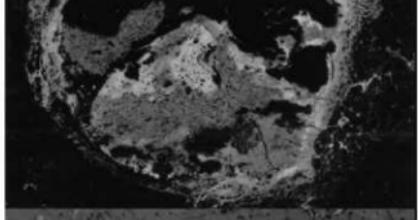
鉄製品（釘針状）

⑥×50 ⑦×100 ⑧×400 錆化鉄

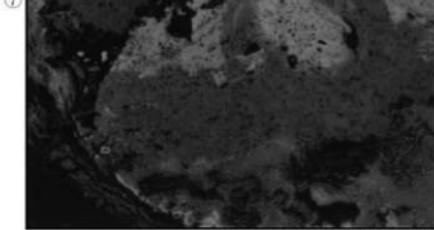
フエライト・少量バーライト

ト

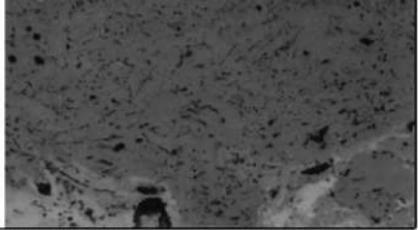
亜共析組織痕跡



⑥

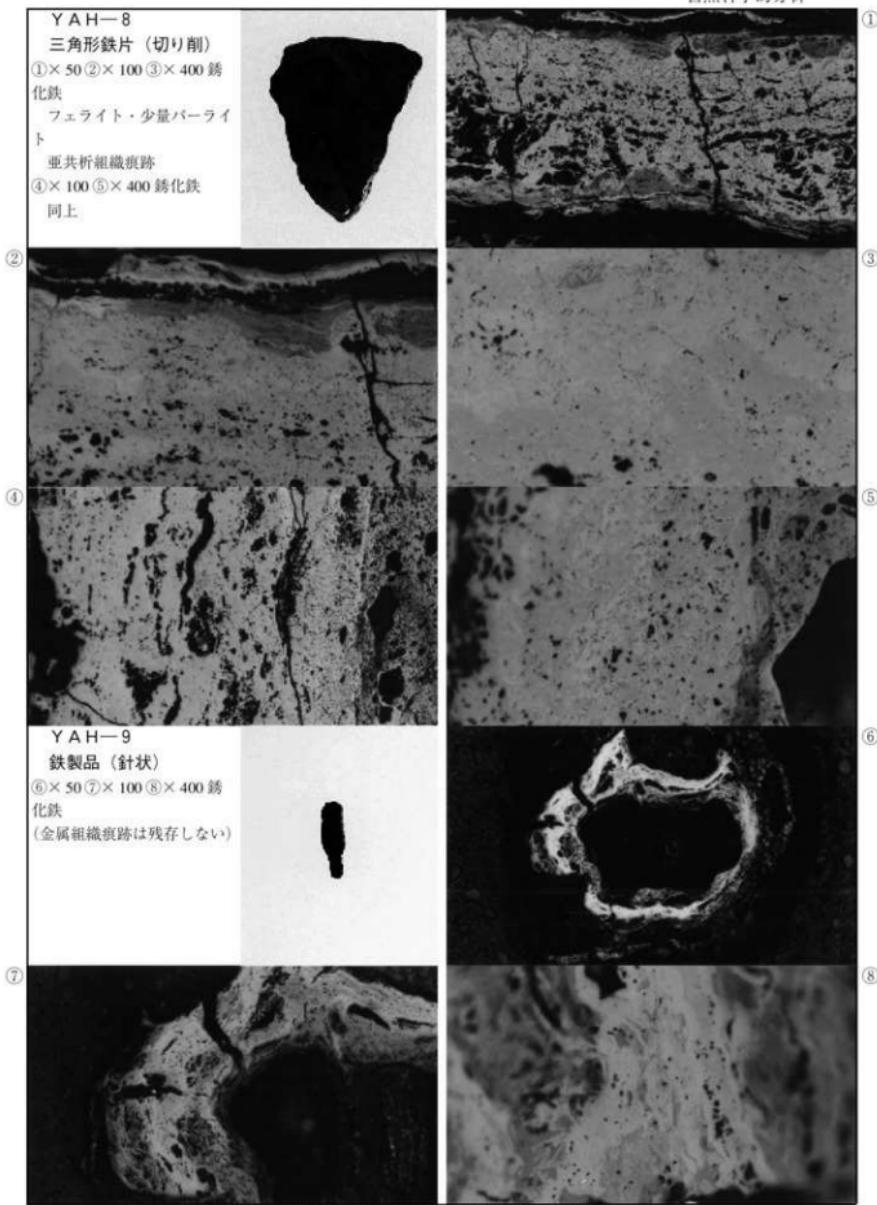


⑦

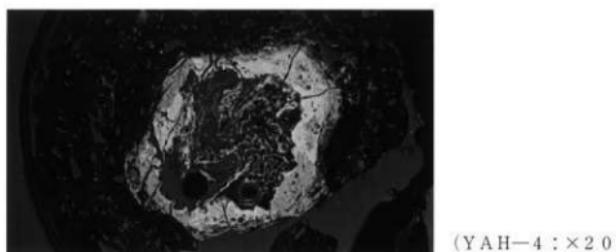


⑧

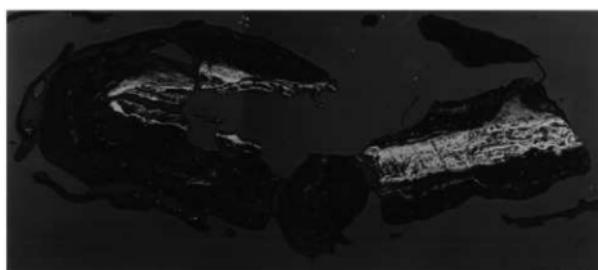
第68図 鉄製品の顕微鏡組織



第69図 三角形鉄片・鉄製品の顕微鏡組織



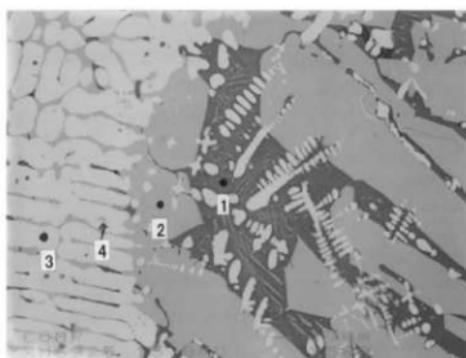
(YAH-4 :  $\times 20$ )



(YAH-8 :  $\times 10$ )

第 70 図 鉄製品のマクロ組織

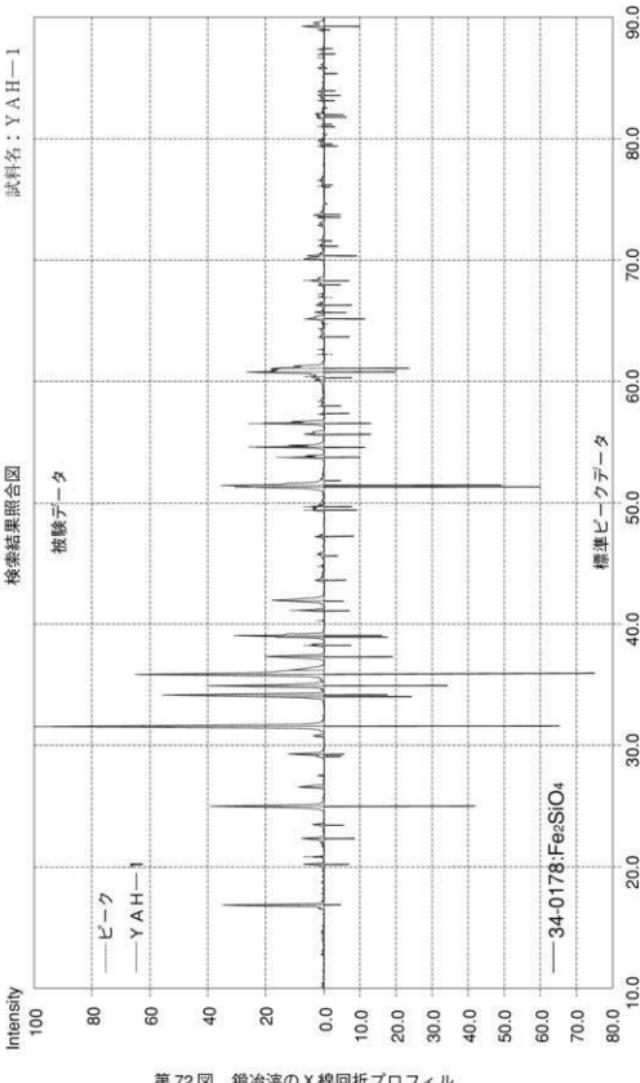
COMP  
× 500



Element	1	2	3	4
FeO	25.829	70.367	98.175	72.333
F	—	—	—	—
Na <sub>2</sub> O	2.082	0.002	0.058	—
MgO	0.010	0.426	0.079	0.567
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	19.826	0.316	0.432	0.465
SiO <sub>2</sub>	41.250	29.988	0.329	26.527
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.023	0.014	0.010	—
S	—	—	0.010	—
K <sub>2</sub> O	12.999	0.011	—	—
CaO	3.548	0.208	—	—
TiO <sub>2</sub>	0.013	0.008	0.034	—
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	—	0.036	0.040	—
MnO	—	0.126	—	0.072
ZrO <sub>2</sub>	0.003	0.025	0.011	—
BaO	0.157	—	0.032	0.022
V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.063	0.017	0.072	—
Total	105.803	101.544	99.280	99.986

第 71 図 鋼冶滓 (YAH-1) 鉱物相の反射電子量と定量分析値

Fig. 1 鋼治津 (YAH-1) のX線回折プロファイル



第72図 鋼治津のX線回折プロファイル

## 第5章 考察・まとめ

### 第1節 矢迫遺跡の遺構変遷

ここでは矢迫遺跡の遺構変遷を整理しておきたい。矢迫遺跡からは堅穴建物跡、大壁建物跡、掘立柱建物跡などの多数の建物遺構が確認された。このうち掘立柱建物跡については床面出土遺物や柱穴出土遺物が少ないため時期の特定が難しい側面がある。こうした事情から、本節では堅穴建物跡と大壁建物跡を中心に遺構変遷を整理しておきたい。

今回の調査で発見された遺構は6期9段階区分が可能である。

**A期：古墳時代前期（3世紀：川原下層Ⅲ式期）**

この時期はSB17のみが確認されている。これ以外にも台付甕脚部などの遺物が散見されることから、近隣にもう少し遺構が展開している可能性が考えられる。

**B期：古墳時代後期（6世紀中葉～7世紀）**

この時期が、矢迫遺跡で最も遺構や遺物が多く認められる時期である。B期はさらに4段階に細分される。

**B-1期：6世紀中葉～後葉（尾野/6世紀後葉～7世紀前葉：猿投窓系須恵器編年のⅢ期古段階～中段階）**

この時期はSB07、SB09、SB13、SB14、SB11が確認された。このうちSB14は須恵器編年のⅢ期古段階に収まる遺構で若干先行する可能性がある。調査区全体からはこれまで以前の猿投窓系須恵器編年のⅡ期新段階の遺物が出土したことから、近隣にもう少し遺構が展開している可能性が考えられる。大壁建物跡はこの段階で東西方向に長いタイプのSB11が現れる。建物跡の主軸方位には特に規格性は認められない。

**B-2期：7世紀前葉（尾野/7世紀中葉：猿投窓系須恵器編年のⅢ期後段階）**

この時期はSB05とSB10が確認されている。堅穴建物跡の検出棟数は見た目上は減少しているが、依然として前段階と同様に集落が営まれていたと考えられる。大壁建物跡SB11は

一旦廃絶し、改めて南北方向に向きを変えてSB10が構築された。

**B-3期：7世紀中葉～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉：猿投窓系須恵器編年のⅣ期古段階）**

この時期はSB02、SB04、SB06、SB15、SB18、SB20、SB08が確認されており、最も遺構が多い時期に該当する。この段階に大壁建物跡はSB08が現れるが、大壁建物跡SB10と並立して存在したか否かは確定的ではない。SB08とSB10の出土遺物は須恵器の観察から型式学的な変化を認めることができるのであるが、遺構配置からみると並立して存在した可能性が捨てきれないでのある。

**B-4期：7世紀末葉（尾野/7世紀末葉～8世紀初頭：猿投窓系須恵器編年のⅣ期中段階）**

この時期はSB01、SB16が確認されている。遺構の数は減少し、調査区全体の出土遺物も少なくなっている。大壁建物跡はこの段階にはなくなり、堅穴建物跡（と掘立柱建物跡）で構成される集落景観が復元される。

**C期：奈良時代（8世紀中葉：尾野/8世紀中葉：猿投窓系須恵器編年のⅤ期古段階）**

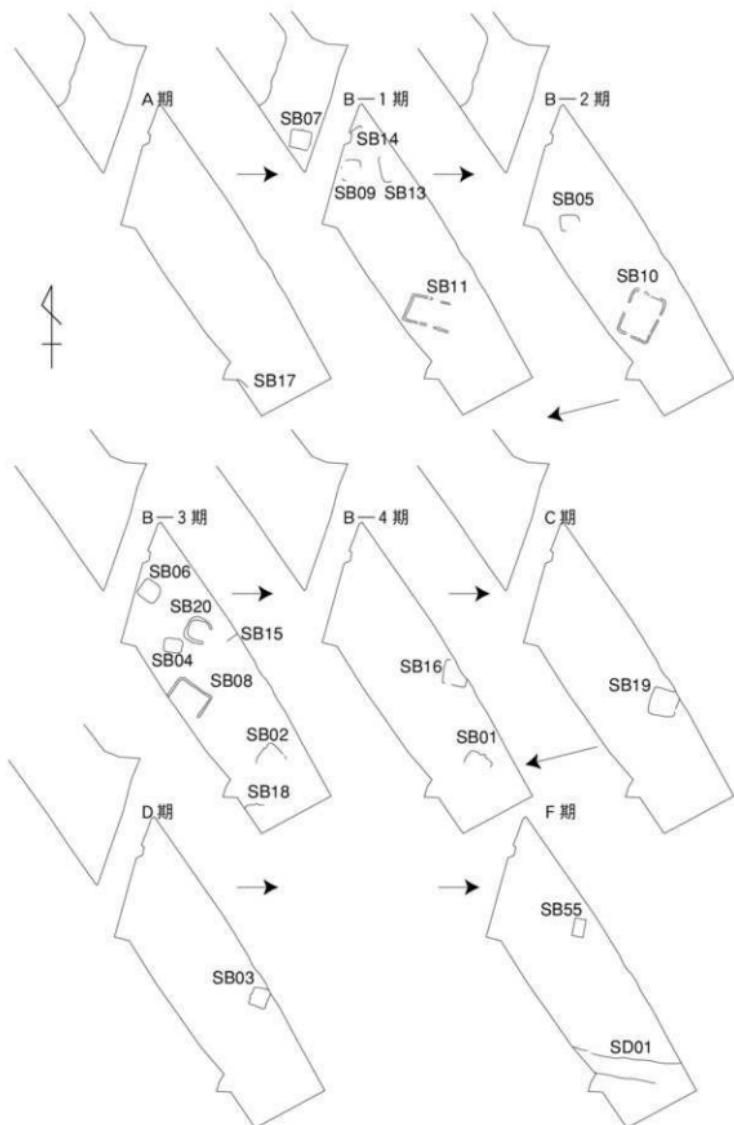
この時期はSB19のみが確認されている。これ以外にも須恵器などの遺物が散見されることから、近隣にもう少し遺構が展開している可能性が考えられる。

**D期：平安時代（8世紀末葉：尾野/9世紀前葉：猿投窓系須恵器編年のⅤ期新段階）**

この時期はSB03のみが確認されている。これ以外にも遺物が散見されるが数は極めて少ない。

**E期：鎌倉～室町時代（12世紀～15世紀）**

柱穴から山茶碗などの遺物がある程度出土していることから、この段階は掘立柱建物跡を中心とした集落が存在していたことが想定される。検出された掘立柱建物跡の多くがこの段階に該当するとすれば相当数の建物が存在していたこととなる。また、本報告の復元案が正しいとすれば、相当数の建替えが行われたことが考



第73図 遺構変遷図

## 矢迫遺跡

えられ、連綿と掘立柱建物が建て続けられていたことが想定される。

### F期：戦国～江戸時代（16世紀～）

柱穴から近世陶磁器などの遺物が出土したもののがいくつか存在することから、E期に引き続き掘立柱建物跡を中心とした集落が存在している。

たことが想定される。これに加えて、調査区南東部に堀状の溝が検出されており、これが鷺鴨城に関連する遺構である可能性が高い。したがって、検出された掘立柱建物跡のうち一部は鷺鴨城関係の遺構が存在した可能性も想定し得る。

## 第2節 矢迫遺跡の大壁建物跡について

### （1）はじめに

大壁建物跡は、1960年代後半に滋賀県で初めて発見され、当時は性格不明の「圓溝」として紹介された。これ以降、類例が滋賀県下の各遺跡で確認され、1982年松浦俊和氏が墓地あるいは村の祭祀場、家畜の飼育施設などの可能性を指摘した。また、林博通氏と宮本長一郎氏らによって「切妻大壁住居」と命名され特殊な建物と位置付けられた。その後、花田勝広氏や大橋信弥氏によって歴史的な背景が論じられることとなった。

当初は、近江を中心に発見してきた大壁建物跡は、その後の調査の進展で大和、山城、揖津、播磨などの地区でも事例が確認され、矢迫遺跡の事例は東日本では初めて確認された事例として注目された。

ここでは、矢迫遺跡の大壁建物跡の特徴を明らかにするため、これまでに発見された大壁建物跡を集成、整理したい。そのことにより、さらに矢迫遺跡の大壁建物を巡る歴史的な背景の一端を明らかにすることができればよいと考えている。

### （2）大壁建物跡の定義と分類

ここで取り扱う大壁建物跡は、花田勝広氏が用いた定義を使用する。花田氏は、「大壁建物は、方形または長方形の平面形を呈し、圓溝を掘り、棟持柱・間柱によって壁をつくる掘立柱大壁造りで、屋根は切妻・寄棟と推定される」という。

さらに、花田氏は大壁建物の分類作業を行い、対置する溝中央部に大きい掘方に棟持柱を一对有するタイプ（B1タイプ）と、棟持柱を持たないタイプ（B2タイプ）と、大壁建物に類似して圓溝を有するタイプ（B3タイプ）に区分した。B1タイプは切妻大壁建物、B2タイプは宝形造り大壁建物と推定され、矢迫遺跡

の大壁建物跡はB2タイプであると分類された。

上記の成果を踏まえ、ここでは遺構の平面プラン、特に矢迫遺跡で特徴的に認められた途切れ部に着目して分類作業を行いたい。

1類：方形または長方形の平面形を呈し、圓溝が完全に全周するもの。

2類：方形または長方形の平面形を呈し、圓溝の隅角部が途切れるもの。隅角部は四隅全部が途切れるものと1～2箇所途切れるものが存在するが、遺構の残存状況の問題もあってここでは細分はしないこととした。

3類：方形または長方形の平面形を呈し、圓溝のうち一辺の中央部が途切れるもの。

4類：長方形の平面形を呈し、圓溝のうち対置する二辺の中央部が途切れるもの。

### （3）各類の分布と矢迫遺跡の大壁建物跡

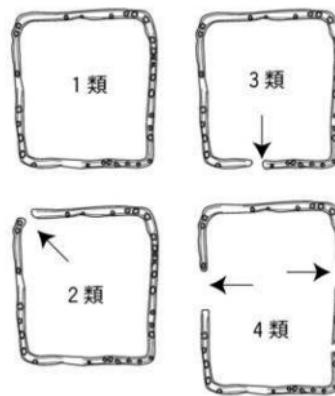
さて、この分類をもとにして、全国各地で確認された大壁建物を分類すると以下のようとなる。この結果、圓溝が全周する1類が全体の半数を占めており、この他に圓溝が部分的に途切れる2類と3類が存在する様子が判明した。特に一辺の中央部が途切れるものは近江を中心にいくつかの事例が認められるが、これに対し、圓溝が対置する二辺の中央部で途切れるものは、確実な事例としては矢迫遺跡しか存在しないことが明らかとなった。

矢迫遺跡の大壁建物跡は花田分類のB2タイプで、平面プランが長方形であるために宝形造り大壁建物と言えるかについては疑問だが、寄棟造りである可能性は高いだろう。そして圓溝の途切れ部を出入り口施設であると仮定するならば、矢迫遺跡で発見された大壁建物は長辺に対置した形で出入り口を持つ特殊な寄棟建物を想定せざるを得なくなる。このようにみていくと、矢迫遺跡の大壁建物跡は、近江で見られる

大壁建物跡と全く同一ではなく、三河において変型した建物跡であることが予想される。

#### (4) 大壁建物跡の発見の意義

大壁建物跡は検出された遺跡の地域や背景などから渡来人の居住施設または渡来系の施設と考えられてきた。花田氏は、掘立柱建物跡や礎石建物跡、堅穴建物跡などの建物跡を総体として、渡来系集落を検討すべきであると論じているが、矢迫遺跡でも大壁建物跡単独の集落の時代は存在せず、少なくとも堅穴建物跡と並存して集落が營まれてきたことが明らかとなつた。このように、矢迫遺跡の建物配置からみて渡来系集落として位置付けることは可能であるが、先に見たように近江などで確認された大壁建物跡と全く同一ではない点に、純粋な意味で渡来系と断定できるか否かは疑問が残る状態であろう。矢迫遺跡では、他の文物に渡来系を窺わせる資料が全く存在しないことも指摘することができ、この点からも他の大壁建物跡が発見された遺跡と同列に並べることが適切か否かはなお検討を要する。



第74図 大壁建物跡の分類図（模式図）

国名	遺跡名	遺構名	花田分類	鈴木分類
近江	穴太A地区	大壁101	B 1	1類
近江	穴太A地区	大壁102	B 1	1類
近江	穴太A地区	大壁103	B 2	1類
近江	穴太A地区	大壁104	B 2	3類
近江	穴太A地区	大壁201	B 3	1類
近江	穴太A地区	大壁202	B 3	1類
近江	穴太A地区	大壁203		
近江	穴太A地区	大壁204		
近江	穴太C地区	大壁1	B 3	?
近江	穴太C地区	大壁2	B 3	?
近江	穴太・寺田	大壁1	B 2	1類
近江	穴太・赤田	大壁1	B 2	2類
近江	穴太・赤田	大壁2	B 2	2類
近江	穴太・赤田	大壁3		?
近江	穴太・下大門	大壁1		1類
近江	穴太・B P	大壁1	B 2	
近江	穴太・B P	大壁2	B 2	
近江	穴太・B P	大壁3	B 2	
近江	穴太・確認	大壁1		
近江	穴太・弥生町	SB1	B 1	3類
近江	穴太南	SB21		
近江	穴太南・V D	2号圓溝	B 2	1類
近江	穴太南・V D	4号圓溝	B 2	3類
近江	滋賀里・V A	18号圓溝	B 2	1類
近江	滋賀里・見世A	大壁1	B 1	1類
近江	滋賀里・見世B	大壁4棟		1類
近江	滋賀里・見世C	大壁1		1類
近江	滋賀里・見世D	大壁1	B 1	1類
近江	滋賀里・南生水	SB6	B 1	3類?
近江	滋賀里・南生水	SB7	B 2	3類
近江	大谷南	大壁1	B 2	3類?
近江	南道賀	大壁1	B 2	1類
近江	上高砂B P	大壁1	B 1	?
近江	上高砂B P	大壁2		?
近江	上高砂B P	大壁3		?
近江	上高砂・市道	大壁3棟		
近江	北大津	大壁1		1類
近江	苗鹿	大壁1		
近江	高相寺	大壁1	B 2	3類
近江	高月南	大壁2棟		
近江	なますず	大壁1	B 1	3類
近江	木曾	1号	B 3	?
近江	木曾	2号	B 3	?
大和	南郷柳原	SD1	B 1	1類
大和	南郷生家	SB1	B 2	1類
大和	南郷生家	SB2	B 2	1類
大和	南郷安田	SB1	B 1	2類?
大和	南郷安田	SB2		?
大和	南郷井柄	大壁	B 1	1類
大和	井戸大田台	SB1	B 3	1類
大和	井戸大田台	SB2	B 3	4類?
大和	佐田	SB18		
河内	大堀	溝	B 2	1類?
和泉	大園	方形周溝状	B 3	2類
山城	森垣外	639	B 2	1類
攝津	上沢	大壁2棟		
播磨	寒風	SB-40	B 3	1類
播磨	寒風	SB-41	B 3	1類
三河	矢迫	SB08	B 2	4類
三河	矢迫	SB10	B 2	4類
三河	矢迫	SB11	B 2	4類
信濃	上の城?	1棟	B 3	
信濃	千廣頭北	17号	B 3	
伯耆	夏谷	1号大壁	B 2	1類
豊前	小石原泉	2棟		

第15表 大壁建物跡一覧表

## 第3節 まとめ

今回の矢追遺跡の発掘調査で得られた成果をまとめておく。

1、古墳時代後期から奈良時代にかけての特色のある集落遺跡であることが確認された。特に、**大壁建物跡**の検出は東海地方では唯一でその評価が問題である。基本的には、大壁建物跡は近江を中心とする渡来系集落と目される遺跡から多く確認されており、矢追遺跡の古墳時代後期も渡来系の集落が存在した可能性は否定できない。ただし純粋な形で渡来系の文物が導入されたか否かについては疑問点もあり、さらに論議を深めていく必要があるものと思われる。

2、これと関連する形で、古墳時代後期から奈良時代にかけての竪穴建物跡から**鉄器生産**に関連する遺物が抽出された点も注目される。これらの遺物には、古墳時代や古代まで遷ることができるか否かについて、厳密な意味で確証がない点が最大の問題となっている。この点を除けば、**金属学的調査**成果も加えると、鍛造鍛冶工程が調査区周辺で行われていたことが想定されよう。今後は、資料の採取方法を慎重にした上で調査を進めていく必要があろう。そして、今回確認された鉄関連遺物が、古墳時代後期の鍛冶関連遺物であると仮定するならば、先

の大壁建物跡と合わせて鉄器生産技術を導入した人々の存在がさらにクローズアップされてくると言える。

3、整理作業を進めていく過程で、新たに中世以降の**掘立柱建物跡**の存在が明らかとなつた。時期を詳細に特定できない点や、遺構変遷やそれに伴う歴史像を具体化することができないのは残念であるが、少なくとも中世の遺跡と認知されていない場所でこのような成果が得られた点は注目される。

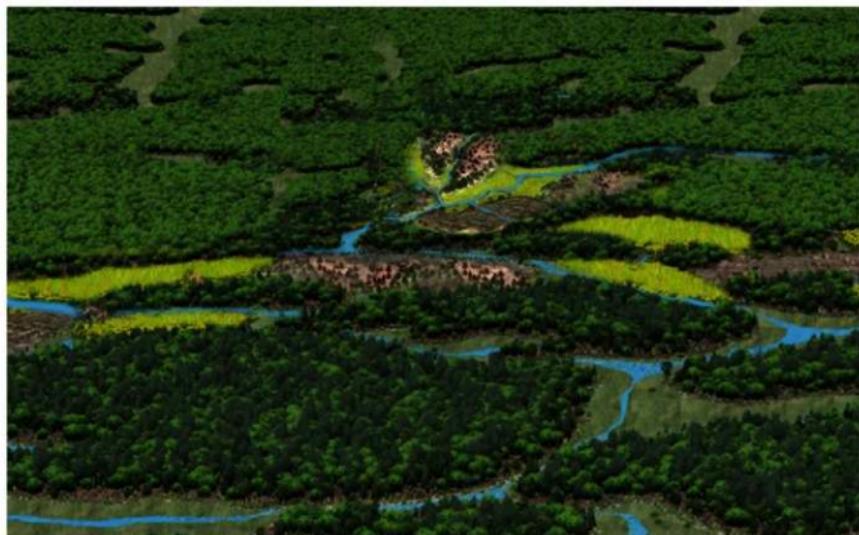
4、隣接する神明遺跡との関連についても重要な成果が得られた。神明遺跡では6世紀後半から7世紀前半の遺構が激減し、前後の時期に集落が営まれていたことが明らかとなっており、この間の空白をどのように理解するのかが問題となっていた。今回の矢追遺跡からは、神明遺跡の空白となる時期に遺跡のピークを迎えていることが判明し、しかもその段階で大壁建物跡が出現するというのである。単純に神明遺跡から矢追遺跡そして神明遺跡へ人々が移動したか否かについては判断を避けたいが、矢追遺跡を考える上で神明遺跡の位置付けはなくてはならない要素の一つであると言える。



第75図 古墳時代中後期の矢追遺跡周辺の復原案（（有）宮塚文化財研究所の作成）

## 参考・引用文献

- 愛知県教育委員会 1995 「愛知県遺跡分布地図(II) 知多・西三河地区」
- 赤塚次郎 2001 「川原上層I・II・III式の設定」「川原遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第91集
- 天野博之編 1999 「南山畠遺跡」 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
- 大橋信弥 1995 「近江における渡来氏族の研究—志賀漢人を中心にして—」『青丘学術論集』第6集
- 尾野善裕 1998 「中・後期古墳時代暦年代観の再検討」『土器・墓が語る』東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会
- 尾野善裕 1999 「古墳時代猿投窓編年の再検討」「古墳時代の猿投窓と湖西窓一分類・編年・西暦年代の再検討」第4回三河考古合同研究会資料 三河考古刊行会
- 尾野善裕 2000 「猿投窓(系)須恵器編年の再構築」「須恵器の出現から消滅」東海土器研究会
- 三田敦司編 2001 「三味鐘塚古墳」 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
- 藤原裕一 1995 「臼玉研究私論」「研究紀要」第3号 財團法人柄木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 立松彰 1994 「愛知県」「日本土器製造研究」青木書店
- 花田勝広 1993 「渡来人の集落と墓域」「考古学研究」第29卷第4号 考古学研究会
- 花田勝広 1995 「渡来人の住居」「東大阪市文化財協会ニュース」Vol.6 No.3 東大阪市文化財協会
- 花田勝広 2000 「大堀建物集落と渡来人」「古代文化」第52卷第5・7号
- 林博通 1983 「渡来系集団の集落跡」「滋賀文化財だより」73号 滋賀県文化財保護協会
- 藤澤良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」「研究紀要3」三重県埋蔵文化財センター
- 松浦俊和 1982 「滋賀里遺跡発掘調査報告」「滋賀里・穴太地区遺跡群発掘調査報告書」大津市教育委員会
- 宮能健司 2001 「石製模造品」「志賀公園遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第90集
- 宮本長二郎 1996 「日本原始古代の住居建築」中央公論美術出版
- 森泰通編 1996 「神明遺跡」 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集
- 森泰通 1999 「東海地方における5世紀後半における諸相」「渡来文化の受容と展開—5世紀における政治的・社会的变化の具体相(2)—」埋蔵文化財研究会
- 森泰通編 2001 「神明遺跡II」 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集



第76図 古墳時代中後期の豊田市南部域の復原案 ((有)宮塚文化財研究所の作成)

## 報告書抄録

ふりがな	やばいせき							
書名	矢迫遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第102集							
編著者名	鈴木正貴、川添和暁、大澤正己、鈴木瑞穂							
編集機関	愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田西方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2002年 8月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	。	。			
やばいせき 矢迫遺跡	豊田市鶯鶴町 字矢迫	23211	63477	35度 1分 25秒	137度 8分 45秒	19971208 ～ 19980331	3500m <sup>2</sup>	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
矢迫遺跡	集落	古墳時代 ～ 奈良時代	堅穴建物跡17棟、 大壁建物跡3棟、 掘立柱建物跡、 溝、土坑など	土師器、 須恵器、 灰釉陶器、 山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 石器・石製品、 金属製品および その関連遺物など	古墳時代後期の大壁建物跡	鍛冶関連遺物の 検出	戦国時代の鶯鶴 城関連遺構？	
		鎌倉時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡、 柵列、溝、 土坑など					

遺構一覧表(1)

矢追遺跡

遺構番号	グリッド	長 幅	幅 幅	深さ	平面形	層 土	出 土 遺 物	備 考
SA01	Ⅴ A17.s.1b6	300						樹立柱建物
SA02	Ⅴ A19e,s	430						樹立柱建物
SA03	Ⅴ A19e,s	■ 860						樹立柱建物
SA04	Ⅴ A19e,s	■ 620						樹立柱建物
SA05	Ⅴ B19e	220						樹立柱建物
SA06	Ⅴ A12.c,V B2a	470						樹立柱建物
SA07	Ⅴ B4d,5d	390						樹立柱建物
SA08	Ⅴ B4d,5d	670						樹立柱建物
SA09	Ⅴ B5d,6e	430						樹立柱建物
SA10	Ⅴ B6c,7c	330						樹立柱建物
SA11	Ⅴ B6e,f,g	570						樹立柱建物
SB01	Ⅴ B7e,f,8e,f	530	■ 330	10	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB02	Ⅴ B7e,f,8e,f	■ 500	■ 480	4	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB03	Ⅴ B5e,f,6e,f	■ 390	350	12	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB04	Ⅴ B3a,b	360	290	10	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB05	Ⅴ B2a,b,3a,b	410	370	25	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB06	Ⅴ A20,Ⅴ B1a組	430	400	10	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB07	Ⅴ A19e,s,20e,s	420	370	15	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB08	Ⅴ B4b,c,5a,b,c,6b,c	800	■ 780		隅丸長方形	本文参照		人面遺物
SB09	Ⅴ B20,Ⅴ B1a組	■ 440	■ 400	13	隅丸長方形	本文参照		本文参照
SB10	Ⅴ B5d,e,d,e,7c,d,e	980	720		隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB11	Ⅴ B6c,d,e,7c,d,e	■ 1000	580		隅丸長方形	本文参照		人面遺物
SB12	Ⅴ A15c,16e	370	■ 160	12	隅丸長方形	本文参照		人面遺物
SB13	Ⅴ B20b,V B1b組	■ 540	■ 310	15	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB14	Ⅴ B19a,b	■ 490	■ 270	5	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB15	Ⅴ B2d,3d,e,4e	■ 400	■ 260	3	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB16	Ⅴ B5c,d,e	520	490	45	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB17	Ⅴ B9d,e	480	■ 150	20	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB18	Ⅴ B9e,10e	■ 410	■ 190	15	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB19	Ⅴ B5e,f,6e,f	560	550	40	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB20	Ⅴ B2a,b,3b,c	520	500	20	隅丸長方形	本文参照		堅穴遺物
SB21	Ⅴ A15e,16e	390	210		長方形			樹立柱建物
SB22	Ⅴ A16c,17f,a	605	430		長方形			樹立柱建物
SB23	Ⅴ A16c,17g,z	535	300		長方形			樹立柱建物
SB24	Ⅴ A16c,17z	345	300		長方形			樹立柱建物
SB25	Ⅴ A17,s,1b6	385	340		長方形			樹立柱建物
SB26	Ⅴ A17,s,1b6	275	260		長方形			樹立柱建物
SB27	Ⅴ A17,s,1b6	285	■ 145		長方形			樹立柱建物
SB28	Ⅴ A17,s,1b6,s	475	295		長方形			樹立柱建物
SB29	Ⅴ A18g,r	270	120		長方形			樹立柱建物
SB30	Ⅴ A18,r	295	185		長方形			樹立柱建物
SB31	Ⅴ A18,r,19e	355	345		長方形			樹立柱建物
SB32	Ⅴ A18,r,a	225	185		長方形			樹立柱建物
SB33	Ⅴ A18,s,19z,s	400	355		長方形			樹立柱建物
SB34	Ⅴ A18,s,t	210	205		長方形			樹立柱建物
SB35	Ⅴ A18,s,19e	355	350		長方形			樹立柱建物
SB36	Ⅴ A18,s,19w	225	220		長方形			樹立柱建物
SB37	Ⅴ A19,20e	■ 230	160		長方形			樹立柱建物
SB38	Ⅴ B1a,19a,b,20a	520	330		長方形			樹立柱建物
SB39	Ⅴ B1a,b,20a,b	345	335		長方形			樹立柱建物
SB40	Ⅴ B1a,b,20a,b	815	325		長方形			樹立柱建物
SB41	Ⅴ B20b,c	■ 130	190		長方形			樹立柱建物
SB42	Ⅴ B1a,b,2a,b	515	410		長方形			樹立柱建物
SB43	Ⅴ B1c				長方形			南竪柱建物
SB44	Ⅴ B1b,c,2b,c	440	430		長方形			樹立柱建物
SB45	Ⅴ B1b,2b	470	405		長方形			樹立柱建物
SB46	Ⅴ B1a,b,2a,b	290	235		長方形			樹立柱建物
SB47	Ⅴ B1a,2a	290	165		長方形			樹立柱建物
SB48	Ⅴ A1a,2i	490			長方形			樹立柱建物
SB49	Ⅴ A2i	260	180		長方形			樹立柱建物
SB50	Ⅴ B2a,3a,Ⅴ B2i,3i	235	220		長方形			樹立柱建物
SB51	Ⅴ B2a,b,3a,b	335	335		方形			樹立柱建物
SB52	Ⅴ B2b,c,3c	255	240		長方形			樹立柱建物
SB53	Ⅴ B2c,3b,c	585	365		長方形			樹立柱建物
SB54	Ⅴ B2c,3b,c	510	375		長方形			樹立柱建物
SB55	Ⅴ B2d,e,3c,d	365	230		長方形			樹立柱建物
SB56	Ⅴ B2d,e,3c,d	480	420		長方形			樹立柱建物
SB57	Ⅴ B2d,e,3c,d	370	340		長方形			樹立柱建物
SB58	Ⅴ B2d,3d	305	135		長方形			樹立柱建物
SB59	Ⅴ B2d,3d	145	120		長方形			樹立柱建物
SB60	Ⅴ B3a,b,4a,b	580	430		長方形			樹立柱建物
SB61	Ⅴ B3a,b,4b	370	320		長方形			樹立柱建物
SB62	Ⅴ B3a,4a	310	■ 115		長方形			樹立柱建物
SB63	Ⅴ B3b,4a,b	435	260		長方形			樹立柱建物

遺構一覧表(2)

付表

遺構番号	グリッド	長 帰	短 帰	面 さ	平 面 形	用 土	出 土 譲 物	備 考
S064	V B4a,b	460	405		長方形			縹々柱建物
S065	V B4a,b,c	335	270		長方形			縹々柱建物
S066	V B3c,d-4c,d	290	270		長方形			縹々柱建物
S067	V B3c,d-4c,d	245	190		長方形			縹々柱建物
S068	V B3c,d-4c,d	400	300		長方形			縹々柱建物
S069	V B3d-4c,d	335	305		長方形			縹々柱建物
S070	V B4c,d,S <sub>c</sub> ,d	470	430		長方形			縹々柱建物
S071	V B4d	220	170		長方形			縹々柱建物
S072	V B4c,d	320	230		長方形			縹々柱建物
S073	V B4c,d,S <sub>c</sub> ,d	365	260		長方形			縹々柱建物
S074	V B4c,d,S <sub>c</sub> ,d	330	315		長方形			縹々柱建物
S075	V B4d,5d	*280	230		長方形			縹々柱建物
S076	V B3a,b	*430	*310		長方形			縹々柱建物
S077	V B5b,c,6c	450	230		長方形			縹々柱建物
S078	V B5a,b,6b	240	*60		長方形			縹々柱建物
S079	V B5c,d,6c,d	325	215		長方形			縹々柱建物
S080	V B5c,d,6c,d	435	165		長方形			縹々柱建物
S081	V B5c,6b,c	400	320		長方形			縹々柱建物
S082	V B5c,6b,c	335	260		長方形			縹々柱建物
S083	V B5b,6b,c	310	195		長方形			縹々柱建物
S084	V B5c,d,7c,d	325	*270		長方形			縹々柱建物
S085	V B5c,d,7c,d	295	270		長方形			縹々柱建物
S086	V B5f,6f	595	300		長方形			縹々柱建物
S087	V B5e,f,6e,f	430	265		長方形			縹々柱建物
S088	V B5e,6e	345	180		長方形			縹々柱建物
S089	V B5e,f	240	135		長方形			縹々柱建物
S090	V B6t,7t	160	120		長方形			縹々柱建物
S091	V B6e,7e	270	243		長方形			縹々柱建物
S092	V B7e,f,8f	370	225		長方形			縹々柱建物
S093	V B7T	250	180		長方形			縹々柱建物
S094	V B7T,g,8T,g	*125	*165		長方形			縹々柱建物
S095	V B7c,d,8c,d,e,f,g	*2000	430			セクション図あり	土師器165頭忠器137中界5云井2	
S096	V B7d,c,8d,e					7SYR4/4シルト	土師器23頭忠器41	SB10
S097	V B5d,c,6d,e					セクション図あり	土師器45頭忠器31枚	SB10
S098	V B5d,c,6d,e	130	30	23		10YR4/4シルト	土師器30頭忠器2	
S099	V B5b,c,6b,c,6b	1350	50	13		7SYR4/4シルト+7SYR5bシルト	土師器37頭忠器6匹世1	
S100	V B4b,c,5a,b,c,6b					セクション図あり	土師器89頭忠器20山系綱10	SB08
S101	16化4-7F					10YR4/4シルト	土師器28頭忠器20	
S102	V B6c,d					セクション図あり	土師器23頭忠器45	SB11
S103	V B6d,7c,d					セクション図あり	土師器90頭忠器29	SB10
S104	V B7d,a					7SYR4/4シルト	土師器2	SB11
S105	16化4-7F					10YR4/4シルト	忠器5	
S106	V B7c,d					10YR4/3シルト	土師器25頭忠器9	SB11
S107	V B7c,d					10YR4/3シルト	土師器25頭忠器9	SB11
S108	V B7c,d					7SYR4/4シルト	忠器1	
S109	V B7c,d,3b,c	520	500	14		セクション図あり	土師器53頭忠器24	SB20
S110	16化4-7F					10YR4/4シルト	土師器35頭忠器4	
S111	V A20s	243	50	6		10YR4/4シルト	土師器35頭忠器4	
S112	V A18ts,19n	1020	55	4		10YR4/4シルト	土師器35頭忠器4	
S113	V A17q,t,18n,19r	1200	160	4		セクション図あり	土師器4頭忠器4近世1	
S114	16化4-7F					7SYR4/4シルト		
S120	V B18,a,19n,20a	1420	110	8		7SYR4/4シルト	土師器35頭忠器28	
S201	V A20n,19	600	75	18		10YR4/4シルト	土師器42頭忠器6匹世1	
S202	V A17q,t,8	960	170	13		セクション図あり	土師器19頭忠器13	
S203	V A17r	190	45	3		7SYR5bシルト		
S204	V A15s,16c	210	30	10		7SYR4/4シルト	土師器3頭忠器4	
S205	V B7e,f	120	30	12		7SYR4/4シルト	土師器3頭忠器4	
S206	V A16e,17r,a					7SYR4/4シルト	土師器109頭忠器48枚	SB11
S207	V B6f	190	35	2		10YR5/4シルト		
S208	V B6f,7f,g	170	35	3		7SYR4/2シルト	土師器2頭忠器1	
SK001	V B7c	17	16	9 円		7SYR4/4シルト		
SK002	V B7c	27	27	10 円		7SYR4/4シルト		
SK003	V B7c	23	23	22 円		7SYR4/4シルト		
SK004	V B7c	25	17	10 穴円		7SYR4/6シルト		SB85
SK005	V B7c	20	19	10 円		7SYR4/6シルト		SA10
SK006	V B6c,V B7c	29	25	17 穴円		10YR4/4シルト		SA10
SK007	V B7c	36	31	18 穴円		7SYR4/4シルト		SB84
SK008	欠番							
SK009	V B6d	35	33	25 円		10YR4/4シルト		
SK010	V B6d	28	23	13 穴円		7SYR4/5シルト	忠器4	SB84
SK011	V B6d	30	*22	14 穴円		7SYR4/5シルト	忠器2	SB80
SK012	V B6d	26	19	10 穴円		10YR4/4シルト		SB84
SK013	V B6c	22	21	25 円		7SYR4/4シルト	忠器2	SB85
SK014	V B6c	20	18	11 穴円		7SYR4/4シルト	忠器1忠器1	SB82
SK015	V B6c	18	18	12 円		7SYR4/6シルト		

遺構一覧表(3)

矢追跡

遺構番号	グリッド	長 埼	幅 埼	深 さ	平田形	理 土	出 土 貨 物	備 考
SK016	V B6c	122	102	56	稚円	7.SYRA4シルト	土細器6	SB83
SK017	V B6c	19	17	23	稚円	7.SYRA4シルト		
SK018	V B6c	19	15	29	稚円	7.SYRA4シルト	須世器1	SB83
SK019	V B6c	35	33	33	円	10YRA4シルト	e291土細器4須世器	SB83
SK020	V B6b,V B6c	59	23	13	稚円	10YRA4シルト	e292	
SK021	V B6b	31	27	24	稚円	7.SYRA4シルト		SB83
SK022	V B6b	29	28	22	円	10YRA4シルト		SB83,SB83
SK023	V B6b	*56	40	55	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	土細器2須世器3	SB83
SK024	V B6b,V B6c	27	27	36	円	10YRA4シルト		SB82
SK025	V B6b	30	22	17	稚円	10YRA4シルト		SB83
SK026	V B5c	49	35	20	稚円	7.SYRA4シルト炭化物少量混	土細器7須世器3	SB80
SK027	V B5c	20	20	16	円	7.SYRA4シルト		SB77
SK028	V B5c	38	21	19	稚円	7.SYRA4シルト		SB81
SK029	V B5c	22	21	17	円	7.SYRA4シルト		SB82
SK030	V B5b,V B6b	28	22	16	稚円	7.SYRA4シルト		SB77-SB83
SK031	V B5b	25	24	25	円	10YRA4シルト	土細器1須世器4	SB77
SK032	V B5b,V B6b	45	40	43	稚円	10YRA4シルト炭化物少量混	土細器3須世器2	SB76-SB78
SK033	V B5b	48	45	40	稚円	10YRA4シルト炭化物少量混	土細器6	SB76
SK034	V B5b	24	24	18	円	10YRA4シルト	須世器1	SB78
SK035	V B5b	14	14	6	円	10YRA4シルト		
SK036	V B5b	40	18	38	稚円	10YRA4シルト	土細器1	SB76
SK037	V B5b	30	46	38	円	10YRA4シルト炭化物少量混	e293土細器1	SB76
SK038	V B5b	16	16	10	円	10YRA4シルト		SB77
SK039	V B5b	20	18	18	円	10YRA4シルト		SB77
SK040	V B5a,V B5b	54	44	35	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	土細器7須世器2	SB76
SK041	V B4b	42	28	15	稚円	7.SYRA4シルト		
SK042	V B4a	55	20	26	稚円	7.SYRA4シルト	土細器1須世器1	
SK043	V B4a	65	39	36	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	e294土細器3須世器1	SB64-SB65
SK044	V B4a,V B4b	68	60	38	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	e295土細器5	SB63
SK045	V B4a	33	26	24	稚円	7.SYRA4シルト		
SK046	V B4a	35	26	14	稚円	7.SYRS4シルト		SB62
SK047	V B4a	40	30	39	稚円	10YRA4シルト炭化物少量混	土細器2	SB66-SB62
SK048	V A3c,V B4a	30	30	12	円	7.SYRA4シルト		SB62
SK049	V B5a	50	35	38	稚円	10YRA4シルト	土細器3須世器2	SA06
SK050	V B3c	52	40	6	稚円	10YRS5シルト		SA06
SK051	V B3a	53	28	42	稚円	10YRA4シルト	土細器3	SB60
SK052	V A2r,V A3t	32	30	22	円	10YRA4シルト	土細器3須世器1	SB48
SK053	V A2r,V A3t	34	30	39	円	10YRA4シルト炭化物少量混	土細器2	SA06
SK054	V A2t	28	26	16	円	10YRS4シルト	土細器1	SB48
SK055	V A2t	32	32	13	円	10YRA4シルト	e296須世器1	SB49
SK056	V A2t	27	25	24	円	10YRA4シルト		SB48
SK057	V A2t	70	50	54	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	土細器2	SB49-SB50
SK058	V A2t	35	34	17	円	10YRA4シルト炭化物少量混		SB48
SK059	V B2a	60	57	45	円	10YRA4シルト炭化物少量混	e297土細器6	SB47
SK060	V B2a	38	38	42	円	10YRA4シルト炭化物少量混	土細器1	SB50
SK061	V B1a	33	32	31	円	7.SYRA4シルト		SB47
SK062	V B1a	40	40	16	三角	10YRS4シルト		SB47
SK063	V B1a	160	112	8	稚円	10YRS5シルト	土細器2須世器2	SB47
SK064	V B2a	30	30	28	稚円	10YRA4シルト	土細器3	SB47
SK065	V B2a	28	25	22	稚円	10YRA4シルト炭化物混	土細器2	SB47
SK066	V B2a	33	33	22	円	10YRA4シルト炭化物少量混	須世器3	SB47
SK067	V B2a	50	35	52	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	土細器3	SB50
SK068	回文セザ	126	120	8	円	7.SYRA4シルト	土細器1須世器4	
SK069	B4a	71	59	56	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	土細器6須世器4	SB60
SK070	V B3a,V B4b	30	30	18	円	10YRA4シルト		SB70
SK071	V B3a,V B4b	25	25	27	円	10YRA4シルト	土細器1	SB65
SK072	V B3b	50	50	36	稚円	10YRA4シルト	土細器2須世器5	SB65
SK073	V B3b	*33	30	47	稚円	10YRA4シルト	土細器3	
SK074	V B3b	52	37	14	稚円	10YRA4シルト	須世器1	SB61
SK075	V B3b	25	22	9	円	10YRA4シルト		SB70
SK076	V B3b	83	36	38	稚円	7.SYRA4シルト	土細器2	
SK077	V B3b	52	40	38	稚円	10YRA4シルト炭化物少量混	e298土細器7須世器2	SB54
SK078	V B3c	40	38	25	円	10YRS5シルト		SB54
SK079	V B4c	80	52	19	稚円	7.SYRA4シルト	e436土細器5	SB53-SB65
SK080	V B4c	120	103	17	稚円	10YRA4シルト	戰国296-300-301土細器17須世器7	
SK081	V B4c	77	75	14	円	10YRA4シルト炭化物混	e301土細器19須世器5	SB68
SK082	V B4c	42	35	33	稚円	10YRA4シルト+7.SYRA4シルト	土細器11	SB70
SK083	V B4c	29	28	39	円	10YRA4シルト	須世器2	SB70
SK084	V B4c	55	50	15	稚円	7.SYRA4シルト	土細器4須世器1	SB73
SK085	V B4c	28	*20	23	稚円	10YRA4シルト	土細器2須世器1	SB70
SK086	V B4c	60	60	8	円	7.SYRA4シルト	戰国302土細器4	
SK087	V B4d	29	29	20	円	10YRA4シルト	土細器1須世器1	SB74
SK088	V B4d	28	25	23	稚円	10YRA4シルト炭化物混		SB74-SB70
SK089	V B5d	43	43	46	円	10YRA4シルト炭化物混	須世器2	SA08-SH74

遺構一覧表(4)

付表

遺構番号	グリッド	長 軸	短 軸	面 さ	平 面 形	埋 土	出 土 遺 物	備 考
SK090	V B5d	58	58	5	円	7.5YR4/4シルト	頭部器1	SB74
SK091	V B5d	30	28	32	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2原忠翁1	SB75
SK092	V B5d	20	18	21	円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器2	SB79
SK093	V B5d	20	20	16	円	10YR4/4シルト	土師器2頭忠翁2	SB75
SK094	V B5d	25	23	18	円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器2	SB75
SK095	V B5d	18	18	15	円	10YR4/4シルト		SB75
SK096	V B3c	100	66	17	椭円	10YR4/4シルト	e303土師器7頭忠翁2	
SK097	V B2b-c, V B3c	47	37	35	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器5	SB52,SB53
SK098	V B2b, V B3b	73	73	12	円	10YR4/4シルト	土師器5原忠翁1	SB51
SK099	V B2b	22	17	18	椭円	10YR4/4シルト	土師器4	SB52
SK100	V B2b	22	18	15	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器4	
SK101	V B2b	37	34	18	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量化		
SK102	V B2c	33	30	10	円	7.5YR4/2シルト		
SK103	V B2b	50	*17	2	半円	10YR4/4シルト		
SK104	V B1b	60	60	12	四角	10YR4/4シルト炭化物少量混	e374頭忠翁1	SB45
SK105	V B1b	57	56	45	四角	10YR4/4シルト	土師器3	SB46
SK106	V B1b	*40	23	12	椭円	10YR5/4シルト	土師器4原忠翁5	
SK107	V B1b	37	17	10	椭円	7.5YR4/4粘質シルト	土師器4	SB45
SK108	V B1b	55	38	45	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器2	SB44
SK109	V B1a, V B1b	110	30	13	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器6	SB42
SK110	V B1b	100	47	45	椭円	10YR4/4シルト	土師器13頭忠翁3	SB42
SK111	V B2b, V B1b	75	70	10	椭円	7.5YR4/4シルト	e304	SB40
SK112	V B1a, V B1b	40	35	8	四角	10YR4/4シルト		
SK113	V B1a, V B2a	130	85	5	椭円	7.5YR4/4粘質シルト	土師器1原忠翁1	
SK114	V B1b	80	70	9	円	10YR5/4シルト	土師器4原忠翁1	SB45
SK115	V B2b	260	95	6	椭円	10YR5/4シルト	土師器2	SB42,SB46
SK116	V B1a, V B2a	50	40	28	椭円	10YR5/4シルト	土師器6	SB42
SK117	V B2b	22	19	15	円	10YR4/4シルト		SB45
SK118	V B2a	110	30	26	椭円	10YR4/4シルト	土師器4原忠翁3	SB42
SK119	V B2a	45	21	7	椭円	10YR5/4シルト		
SK120	V B2a, V B2b	58	46	8	椭円	10YR4/4シルト		
SK121	V B2a, V B2b	33	32	24	円	10YR5/3シルト	土師器1原忠翁1	SB46,SB51
SK122	V B2b	30	30	13	円	10YR4/4シルト	土師器2	SB42,SB45,SB46
SK123	V B2b	52	35	50	椭円	10YR4/4シルト	土師器5	SB45
SK124	[6化水]F	33	*19	12	椭円	10YR4/4シルト		
SK125	V B2b	96	65	58	椭円	セクリョン団あり	土師器20頭忠翁8	SB45
SK126	V B2b	35	33	24	円	10YR4/4シルト		SB44,SB42
SK127	V B5d	18	17	8	円	10YR4/4シルト		SB84
SK128	V B6d	72	61	18	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2原忠翁2	
SK129	[0化水]F	*40	40	16	椭円	10YR4/4シルト		
SK130	V B6d	60	40	13	椭円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器4	SB84
SK131	V B6c, V B6d	42	40	26	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB44,SB85
SK132	V B6c	16	14	5	円	7.5YR5/4シルト		SA10
SK133	V B6c	18	17	8	円	7.5YR4/4シルト		SA10
SK134	V B6c	24	18	10	椭円	10YR4/4/シルト		SB81
SK135	V B5c, V B6c	37	36	20	円	10YR4/4シルト		SB81
SK136	V B6c	36	25	45	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混	既生土器74	SB74
SK137	V B6c	23	22	20	円	7.5YR4/4シルト		SB74
SK138	V B6c	30	28	42	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e305土師器4	SB72
SK139	V B6c	33	32	52	円	10YR4/4シルト炭化物混	e305土師器3	SB74,SB70
SK140	V B6c	26	22	15	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SB70
SK141	V B4c, V B5c	30	23	23	椭円	10YR4/4シルト炭化物混		SB74
SK142	V B5c	50	45	19	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器3原忠翁1	SB70
SK143	V B6c	74	62	8	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SB65
SK144	V B4b, V B4c	30	28	12	円	10YR4/4シルト		
SK145	V B4b, V B4c	27	27	10	円	7.5YR4/4シルト		
SK146	V B4b	48	35	38	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/4シルト		SB63,SB64
SK147	V B4b	40	33	30	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器3	SB64
SK148	V B4b	24	18	9	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB61
SK149	V B4b	32	32	16	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB63
SK150	V B4b	45	42	20	円	10YR4/4シルト	頭忠翁4	SB64
SK151	V B4b	60	60	38	円	10YK3/3シルト炭化物少量混	土師器2原忠翁2	
SK152	V B4b	34	33	15	円	10YR4/4シルト		
SK153	V B4b	50	45	22	椭円	10YR4/4シルト		SB64
SK154	V B5b	20	20	12	円	10YR4/4シルト		SB77
SK155	V B4a	44	44	45	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器5	SB64
SK156	V B3a	45	45	55	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2原忠翁1	SB61
SK157	V B4a	64	45	22	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB62
SK158	V B4a	26	16	7	椭円	10YR4/4シルト		SB62
SK159	V B4a	27	27	14	円	7.5YR4/4シルト	土師器4	
SK160	V B4a	31	29	14	円	7.5YR4/4シルト		SB62
SK161	IV A20s	*117	79	15	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器2原忠翁5	
SK162	IV A20s	*111	*50	8	椭円	10YR4/6シルト	現代1原忠翁1	
SK163	IV A20s, IV A20n	*120	71	7	椭円	10YR4/2シルト		

遺構一覧表(5)

矢追跡

遺構番号	グリッド	長 埴	幅 埴	深さ	平面形	地	土	出 土 貨 物	備 考
SK164	矢番								
SK165	Ⅴ A12b	28	28	2	円	10YR5/4シルト			
SK166	Ⅴ A19b	28	27	3	円	7.5YR4/4シルト			埋瓦
SK167	Ⅴ A19b	19	17	5	円	7.5YR4/4シルト			SA04
SK168	Ⅴ A19b	18	*15	6	円	7.5YR4/4シルト			SA03
SK169	Ⅴ A19b	22	26	4	円	7.5YR4/4シルト			SB31
SK170	Ⅴ A19b	20	20	5	円	7.5YR4/4シルト			SB35
SK171	Ⅴ A18a	87	*37	8	半円	10YR4/4シルト			SB35
SK172	Ⅴ A18a	*76	*40	9	三角	7.5YR4/4シルト			SB34
SK173	Ⅴ A18a	54	54	30	円	7.5YR4/4シルト			SB33-SB34
SK174	Ⅴ A17b,Ⅴ A18a	*100	65	38	椭円	7.5YR4/4シルト		土師器1	
SK175	Ⅴ A17b	18	18	7	円	10YR4/4シルト			SA09
SK176	Ⅴ A17b	25	25	16	円	10YR4/4シルト			SB26
SK177	Ⅴ A17b	*40	20	8	椭円	7.5YR4/4シルト			SB25
SK178	Ⅴ A17b,Ⅴ A17b	*95	20	3	椭円	7.5YR4/4シルト			SB26-SB25
SK179	Ⅴ A17b	30	30	24	円	10YR4/4シルト		土師器1	
SK180	Ⅴ A17b	30	27	13	円	10YR4/4シルト			SB26
SK181	Ⅴ A17b	*26	15	15	椭円	10YR4/4シルト			
SK182	Ⅴ A17b	27	27	14	円	7.5YR4/4シルト			SB26
SK183	Ⅴ A18a	45	*27	16	半円	7.5YR4/4シルト			SB26
SK184	Ⅴ A17a,Ⅴ A18a	40	38	12	円	10YR4/4シルト			SB26-SB26
SK185	Ⅴ A18a	42	38	11	円	7.5YR4/4シルト			SB26-SB25
SK186	Ⅴ A18a	130	65	10	椭円	7.5YR4/4シルト		土師器3	
SK187	Ⅴ A18a	50	40	33	椭円	10YR4/4シルト			SB33
SK188	Ⅴ A18a	33	26	20	椭円	10YR4/4シルト			SB33
SK189	Ⅴ A18a	28	25	26	円	10YR4/4シルト			SB35
SK190	Ⅴ A18a	60	45	15	椭円	7.5YR4/4シルト			SB26
SK191	Ⅴ A18a	35	30	13	椭円	7.5YR4/4シルト			SB36
SK192	Ⅴ A18a	30	30	35	円	10YR4/3シルト			
SK193	Ⅴ A18a,Ⅴ A19a	100	80	8	椭円	7.5YR4/4シルト			
SK194	Ⅴ A19a	38	32	20	椭円	10YR4/4シルト			SA09
SK195	Ⅴ A19a,Ⅴ A19a	170	90	2	椭円	10YR4/2シルト			
SK196	Ⅴ A19a	80	74	23	椭円	10YR4/4シルト		土師器11-12	
SK197	Ⅴ A19a	24	23	7	円	10YR4/4シルト			SA09
SK198	Ⅴ A19a	23	16	12	椭円	10YR4/4シルト			
SK199	Ⅴ A19a	20	20	9	円	10YR4/4シルト			SA09
SK200	Ⅴ A19a	34	26	8	椭円	10YR4/4シルト			SB31
SK201	Ⅴ A19a	34	22	12	椭円	10YR4/4シルト			SA09
SK202	Ⅴ A19a	25	24	11	円	10YR4/4シルト			SB31
SK203	Ⅴ A19a	35	32	12	四角	10YR4/4シルト			SB29
SK204	Ⅴ A19a	40	35	24	四角	10YR4/4シルト			SB31
SK205	Ⅴ A18a	*35	35	20	椭円	10YR4/4シルト			SB29
SK206	Ⅴ A18a	55	26	5	椭円	7.5YR4/4シルト			SB30
SK207	Ⅴ A18a	66	60	7	椭円	7.5YR4/4シルト			SB27
SK208	Ⅴ A18a	70	30	4	椭円	7.5YR4/4シルト			SB27
SK209	Ⅴ A17a,Ⅴ A17a	50	34	7	椭円	7.5YR4/6シルト			SB27
SK210	Ⅴ A18a,Ⅴ A18a	53	50	5	円	7.5YR4/4シルト			SB29
SK211	Ⅴ A18a	20	*15	13	半円	10YR4/4シルト			SB32
SK212	Ⅴ A18a,Ⅴ A18a	46	43	40	円	セクション図あり		土師器2-3	SB26
SK213	Ⅴ A18a	35	30	26	椭円	10YR4/4シルト			土師器2
SK214	Ⅴ A18a,Ⅴ A18a	36	38	15	円	10YR4/4シルト			SB35
SK215	Ⅴ A18a	50	35	40	椭円	セクション図あり			SB28
SK216	Ⅴ A18a	38	28	30	椭円	10YR4/4シルト			SB35
SK217	Ⅴ A18a	38	30	30	椭円	10YR4/4シルト			SB33
SK218	Ⅴ B5c	31	*13	8	半円	10YR5/4シルト			
SK219	Ⅴ B5c	46	38	30	椭円	10YR4/4シルト			土師器5-6
SK220	Ⅴ B6e	40	35	20	椭円	10YR4/4シルト			SA09
SK221	Ⅴ B5c	28	*20	30	円	10YR4/4シルト			
SK222	Ⅴ B5d,Ⅴ B6d-e	45	35	37	椭円	7.5YR4/4シルト			土師器2-3
SK223	Ⅴ B6d	28	*20	10	椭円	7.5YR4/4シルト			SA09
SK224	Ⅴ B7d	19	19	8	円	10YR4/4シルト			
SK225	矢番								
SK226	Ⅴ B6e	22	20	14	椭円	10YR4/4シルト			
SK227	Ⅴ B6e	16	14	5	円	10YR4/4シルト			
SK228	Ⅴ B6e	19	18	6	円	7.5YR4/4シルト			SB91
SK229	Ⅴ B6e	23	19	6	椭円	7.5YR4/4シルト			SB91
SK230	Ⅴ B6e	17	16	15	円	7.5YR4/4シルト			
SK231	Ⅴ B6e	19	14	13	椭円	10YR4/4シルト			
SK232	Ⅴ B6e	20	20	8	円	7.5YR4/4シルト			
SK233	Ⅴ B6e,Ⅴ B7e	36	35	30	円	10YR4/4シルト			
SK234	Ⅴ B7e	22	20	22	椭円	10YR4/4シルト			
SK235	Ⅴ B7e	20	20	13	円	7.5YR4/4シルト			SB91
SK236	Ⅴ B6f	25	20	7	椭円	7.5YR4/4シルト			
SK237	Ⅴ B6f	20	16	28	椭円	10YR4/4シルト			SB87

遺構一覧表(6)

付表

遺構番号	グリッド	長 軸	短 軸	面 積	平 面 形	用 土	出 土 遺 物	備 考
SK218	V B7e, V B7f	38	■ 35	22	円	7.5YR4/4シルト		SB93
SK219	V B7f	33	33	7	円	7.5YR4/4シルト		SB92
SK240	V B7f	23	22	20	円	7.5YR4/4シルト		SB93
SK241	V B7f	24	20	18	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器3頭底器1	SB92
SK242	欠番							
SK243	V B4b	* 100	70	35	椭円	10YR3/4シルト+7.5YR4/6シルト	頭底器1	
SK244	V B1b	247	■ 38	21	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器2頭底器2	
SK245	V B5d	62	50	10	椭円	7.5YR5/4シルト		SB73
SK246	V B5d	35	30	20	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器2頭底器1	SB74,SB75
SK247	V B5d	30	30	48	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器2頭底器1	SA08,SB73
SK248	V B5d	33	27	16	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混	椭圆2	
SK249	V B5d	30	25	40	円	7.5YR4/4シルト		
SK250	V B4d	30	30	33	円	セクション図あり	e307,309土師器4頭底器1	SB74,SA07
SK251	V B4d	35	30	25	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB75
SK252	V B4d	23	20	37	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e310e311頭底器1	SA08,SB72
SK253	V B4d	23	* 20	40	円	7.5YR4/4シルト	e335	SB72
SK254	V B4d	40	34	40	椭円	セクション図あり	土師器2頭底器2	
SK255	V B4d	35	30	45	椭円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB70,SB72
SK256	V B4d	* 38	* 30	10	椭円	7.5YR4/4シルト炭化物混		SA08
SK257	V B4d	35	28	17	椭円	10YR4/4シルト	土師器2	
SK258	V B4d	20	20	17	円	10YR4/4シルト		
SK259	V B4d	40	30	15	椭円	7.5YR4/4シルト		SB69,SA07
SK260	V B4d	30	24	12	椭円	10YR4/4シルト		SA08
SK261	V B4d	50	50	20	円	セクション図あり		SB73
SK262	V B4d	25	23	20	円	7.5YR4/4シルト		SB71
SK263	V B4d	35	35	60	円	セクション図あり	土師器4頭底器3	SB73
SK264	V B4d	30	26	27	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2	SB71
SK265	V B4d	30	30	17	円	10YR4/4シルト	e312	SB68,SB71
SK266	V B4d	40	34	18	椭円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器1	SB69
SK267	V B4d	50	30	27	椭円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器2	SA07
SK268	V B4d	22	20	20	椭円	7.5YR4/4シルト		SB72
SK269	V B4d	50	31	30	椭円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2	SB70
SK270	V B4d	55	32	17	椭円	10YR4/4シルト	土師器2	SB68,SB70
SK271	V B4d	30	28	7	円	10YR4/4シルト炭化物少量混		
SK272	V B3d, V B4d	* 140	70	9	椭円	10YR4/4シルト	範囲1土師器35頭底器6	SB67,SB69
SK273	V B3c	23	23	17	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器3	
SK274	V B3c	38	22	18	椭円	7.5YR4/4シルト		SB56
SK275	V B3c	40	40	30	円	10YR4/4シルト		SB44,SB57
SK276	V B3c	30	30	30	円	7.5YR4/4シルト		SB54
SK277	V B3c	20	10	13	椭円	10YR4/3シルト炭化物少量混		
SK278	V B3c	43	42	40	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器4	
SK279	V B3c	100	65	10	椭円	10YR4/4シルト		SB53,SB55
SK280	V B2c	34	25	15	椭円	7.5YR4/4シルト		
SK281	V B2c	25	20	11	椭円	10YR4/4シルト		SB52
SK282	V B2c	26	20	33	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混		
SK283	V B2c	25	13	14	椭円	10YR4/4シルト		SB54
SK284	V B2c	60	60	57	円	10YR4/4シルト	頭底器1	SB54
SK285	V B2c	40	35	22	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e413,414,415,416頭底器9	SB45,SB52
SK286	V B2c	57	28	16	椭円	7.5YR4/4シルト		SB53
SK287	V B2c	28	23	6	椭円	10YR4/4シルト		SB44
SK288	V B2c, V B3d	70	48	7	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器6	SB45
SK289	V B4b	35	26	20	椭円	10YR4/4シルト	土師器1頭底器1	
SK290	V B4b	20	20	17	円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		
SK291	V B4b	* 55	38	37	椭円	7.5YR4/4シルト		SB64
SK292	V B4b	23	23	30	円	10YR4/4シルト		
SK293	V B4b	90	53	22	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器3	SB61,SB65
SK294	V B4b	52	37	35	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB63
SK295	V B4b	65	52	22	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器1	SB61,SB65
SK296	V B4b	52	34	35	椭円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器6頭底器2	SB60
SK297	V B4b	84	24	4	椭円	7.5YR4/4シルト		
SK298	V B4a, V B4b	116	85	9	椭円	7.5YR4/4シルト	土師器2頭底器2	SB61
SK299	V B4a	70	62	62	椭円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器6頭底器1	SB65
SK300	V B4a	24	16	7	椭円	10YR4/4シルト	土師器2	SB62
SK301	V B4a	* 130	35	20	椭円	7.5YR4/4シルト		
SK302	V B3b	28	20	9	椭円	10YR4/4シルト		SB63
SK303	V B3b	22	18	18	椭円	10YR4/4シルト		
SK304	V B1a	35	33	30	円	10YR4/4シルト	e314	SB47
SK305	IV B20a	55	40	18	椭円	10YR4/3シルト炭化物混	e315土師器10頭底器2	SB40,SB38
SK306	IV B19a, IV B20a	110	* 80	25	椭円	10YR4/4シルト	e373e408土師器41頭底器5	SB40,SB39
SK307	IV B19a, IV B20a	167	80	10	椭円	7.5YR5/4シルト		SB38
SK308	V A2	30	28	10	円	10YR5/4シルト		
SK309	V A2	* 25	25	28	円	10YR5/4シルト	土師器1	SB49
SK310	V A2	50	30	30	椭円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器3	SB48
SK311	V A2	35	17	半円	10YR4/4シルト		SB48	

遺構一覧表(7)

矢追跡

遺構番号	グリッド	長 埼	幅 埼	深 さ	平面形	測 定	土	出 土 遺 物	備 考
SK312	V A2a	50	40	35	楕円	10YRA4J シルト炭化物大量混	土細器2		SB49
SK313	V A2i	40	35	15	円	10YRA4J シルト炭化物混	e316原生器1		SB49
SK314	Ⅴ B2a-VA1a	*135	*115	23	楕円	10YRA4J シルト			
SK315	V B3c	35	30	43	楕円	10YRA4J シルト	土細器9原生器4		SB35
SK316	V B3c	33	28	8	楕円	10YRA4J シルト			SB53
SK317	V B2b	30	25	16	円	10YRA4J シルト	土細器2		SB46
SK318	V B1a, V B1b	32	32	14	円	10YRA4J シルト	土細器1		SB45
SK319	V B1a	80	33	27	楕円	10YRA4J シルト+7.5YRA4シルト	土細器14原生器1		SB42
SK320	Ⅴ A1b	40	23	8	楕円	10YRA4J シルト			
SK321	Ⅴ A3b	50	*30	3	半円	7.5YRA4J シルト			SB28
SK322	Ⅴ A1b	28	26	8	円	10YRA4J シルト			SB23
SK323	V B3b	21	21	9	円	7.5YRA4J シルト			SB78
SK324	V B3d	20	20	20	円	7.5YRA4J シルト			
SK325	V B5d	30	34	45	円	7.5YRA4J シルト	土細器2原生器1		SB80
SK326	V B5d	40	*34	17	円	10YRA4J シルト			SA09
SK327	V B4d	18	18	10	円	10YRA4J シルト			SB72
SK328	V B4d	32	28	20	円	10YRA4J シルト			SB70-SB66
SK329	V B4c	20	19	10	円	10YRA4J シルト	土細器1		
SK330	V B4c	25	21	18	円	7.5YRA4J シルト			SB69
SK331	V B4c	30	*18	25	楕円	10YRA4J シルト+7.5YRA4シルト			SB72
SK332	V B4c	37	25	20	楕円	7.5YRA4J シルト			SB69
SK333	V B4c	30	28	45	円	7.5YRA4J シルト炭化物少量混	土細器2原生器3		SB67
SK334	V B3c, VB4c	42	38	42	楕円	7.5YRA4J シルト			SB66
SK335	V B4c, VB4d	33	30	29	円	10YRA4J シルト+7.5YRA4シルト	土細器3		SB66-SB69
SK336	V B4c	154	100	20	四角	10YRA4J シルト	土細器8原生器3		
SK337	V B3c	25	23	20	円	10YRA4J シルト			SB66-SB67
SK338	Ⅴ A1b	28	24	31	楕円	10YRA4J シルト			
SK339	Ⅴ A1b	30	27	51	楕円	10YRA4J シルト			SB33
SK340	Ⅴ A1b	37	29	19	楕円	10YRA4J シルト			SB36
SK341	Ⅴ A1b	20	17	10	楕円	7.5YRA4J シルト炭化物混			SB34
SK342	Ⅴ A1b	35	29	13	楕円	10YRA4J シルト			SB33
SK343	Ⅴ A1b	38	34	22	楕円	7.5YRA4J シルト+10YRA4シルト			SB34-SB35
SK344	Ⅴ A1b	72	42	32	楕円	7.5YRA4J シルト	土細器1		SB33
SK345	Ⅴ A1w	36	26	17	楕円	10YRA4J シルト			SB31-SA04
SK346	Ⅴ A1w	30	24	15	楕円	10YRA4J シルト			SA03
SK347	V A2i	50	43	20	楕円	10YRA4J シルト	土細器2原生器2		SB48
SK348	V B5c	28	21	24	楕円	10YRA4J シルト			SB79
SK349	V B6d	14	14	12	円	10YRA4J シルト			SB85
SK350	V B4d	28	20	10	楕円	7.5YRA4J シルト炭化物少量混			SB74
SK351	Ⅴ A16e/Ⅴ A16s	110	100	8	楕円	7.5YRA4J シルト			SB22
SK352	Ⅴ A1w	46	42	13	円	7.5YRA4J シルト			
SK353	Ⅴ A1w	45	45	15	円	7.5YRA4J シルト			
SK354	Ⅴ A1b	30	30	9	円	7.5YRA4J シルト			SB28
SK355	Ⅴ A17s	20	20	35	円	7.5YRA4J シルト			SB34
SK356	Ⅴ A17s	30	27	52	円	セクショナ4回あり	土細器2		SB26-SB25
SK357	Ⅴ A17s	36	33	16	円	7.5YRA4J シルト炭化物少量混			
SK358	Ⅴ A17s	28	28	12	円	7.5YRA4J シルト			
SK359	Ⅴ A2b	33	27	14	楕円	7.5YRA4J シルト			
SK360	Ⅴ A2b	34	34	12	円	7.5YRA4J シルト			
SK361	Ⅴ A1b	20	20	10	円	7.5YRA4J シルト			SB34
SK362	Ⅴ A1b	34	33	37	円	7.5YRA4J シルト			SB33
SK363	Ⅴ A1b	33	46	15	円	7.5YRA4J シルト			SB36-SA02
SK364	Ⅴ A1b	26	26	8	円	7.5YRA4J シルト			SA02
SK365	Ⅴ A1b	20	20	5	円	10YRA4J シルト			SA03
SK366	Ⅴ A1b	40	36	12	楕円	7.5YRA4J シルト			SA03
SK367	Ⅴ A1b	44	26	31	楕円	7.5YRA4J シルト炭化物少量混			SB35-SA04
SK368	Ⅴ A1b	38	30	7	楕円	7.5YRA4J シルト			SA04
SK369	Ⅴ A1b	36	28	28	楕円	7.5YRA4J シルト			SB33
SK370	Ⅴ A1b	30	28	38	円	7.5YRA4J シルト炭化物少量混			SB35-SA02
SK371	Ⅴ A1b	32	32	8	円	7.5YRA4J シルト			SB36-SA03
SK372	Ⅴ A1b	29	25	18	楕円	7.5YRA4J シルト			SB36
SK373	Ⅴ A1b	42	34	18	円	7.5YRA4J シルト			SA02
SK374	Ⅴ A1b	26	23	20	円	7.5YRA4J シルト			SA04
SK375	Ⅴ A1b	32	32	6	円	7.5YRA4J シルト			SB31-SA03
SK376	Ⅴ A1b	37	35	30	楕円	セクショナ4回あり			SB31-SB32
SK377	Ⅴ A1b	*35	35	8	楕円	7.5YRA4J シルト			SB28
SK378	Ⅴ A1b/Ⅴ A19	42	35	4	楕円	7.5YRA4J シルト			SA02
SK379	Ⅴ A1b	16	16	16	円	7.5YRA4J シルト炭化物少量混			
SK380	Ⅴ A1b	50	50	6	円	7.5YRA4J シルト炭化物少量混			SB27
SK381	Ⅴ A1b	30	27	3	楕円	7.5YRA4J シルト			SB30
SK382	Ⅴ A1b	47	37	5	楕円	7.5YRA4J シルト			SB30-SB28
SK383	Ⅴ A1b	30	29	9	円	7.5YRA4J シルト			SB30-SB29
SK384	Ⅴ A1b	26	24	8	円	7.5YRA4J シルト			SB29
SK385	Ⅴ A1b	28	26	32	円	7.5YRA4J シルト			SB30

遺構一覧表(8)

遺構番号	グリッド	長 個	幅 個	深さ	平面形	用 土	出 土 遺 物	備 考
SK386	IV A17s	42	30	22	円内	7.5YR5/4シルト		SB26
SK387	IV A17s	35	32	33	椭円	7.5YR4/5シルト炭化物少量混	土師器5	SB25
SK388	IV A17s, IV A17s	42	35	15	椭円	7.5YR4/5シルト		SB24
SK389	V B3c	33	30	50	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器4灰瓦器4	SB33, SB36
SK390	V B3c	33	27	20	椭円	7.5YR4/5シルト	土師器2	SB44, SB47
SK391	V B3c	35	26	10	椭円	10YR4/4シルト		SB68
SK392	V B3c	22	20	21	円	10YR4/4シルト	灰瓦器1	SB67
SK393	V B3c, V B3d	21	19	14	円	10YR4/4シルト		SB66
SK394	V B3c	26	24	20	円	10YR4/4シルト		SB67
SK395	V B3c	20	*17	13	円	7.5YR4/4シルト		SB57
SK396	V B3c	18	18	13	円	10YR4/4シルト		SB57
SK397	V B7e	22	22	13	円	10YR4/4シルト		
SK398	V B7e	39	34	12	椭円	10YR4/4シルト		
SK399	V B7e	30	27	22	円	10YR4/4シルト		SB91
SK400	V B6f	26	21	42	椭円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		SB46, SB89
SK401	V B3d	19	16	10	椭円	7.5YR4/4シルト		SB66
SK402	IV A17s	34	22	15	椭円	7.5YR5/4シルト		SB26
SK403	IV A18s	18	17	12	円	10YR4/4シルト		SB34
SK404	IV A18s	36	27	7	椭円	7.5YR5/4シルト		SB28
SK405	IV A18s	30	29	16	円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB31
SK406	IV A18s	20	17	8	椭円	7.5YR5/4シルト		SB32
SK407	IV A18s	13	11	7	椭円	10YR4/3シルト		
SK408	IV A17s	113	13	7	椭円	7.5YR4/4シルト		SB22
SK409	IV A17s	18	16	20	円	10YR4/4シルト	中世e37灰瓦器3	
SK410	IV A17s	24	18	27	椭円	10YR4/4シルト	土師器4	SB25
SK411	IV A16s	70	61	3	円	7.5YR5/4シルト	土師器5	SB21, SB22
SK412	IV A16s	35	31	28	椭円	7.5YR4/4シルト+7.5YR5/6シルト		SB23
SK413	IV A16t	17	12	11	椭円	7.5YR4/5シルト		SB22
SK414	IV A16t	26	23	20	円	7.5YR4/4シルト		SB21
SK415	IV A16s	23	19	5	円	10YR5/4シルト		SB23
SK416	IV A16t	41	39	25	椭円	10YR5/4シルト+7.5YR5/6シルト		SB21
SK417	IV A16t	36	23	20	椭円	2.5YR5/4シルト炭化物少量混		SB21
SK418	IV A16s	29	25	5	円	7.5YR5/4シルト		
SK419	IV A16s	22	21	12	円	10YR5/4シルト		SB22
SK420	IV A16s	28	28	13	円	7.5YR4/4シルト		SB23
SK421	IV A15s, IV A16s	33	7	5	椭円	10YR5/4シルト		SB21
SK422	IV A16s	70	13	7	椭円	7.5YR4/4シルト		
SK423	IV A15t	35	26	31	椭円	7.5YR4/5シルト炭化物少量混	土師器4灰瓦器4	SB21
SK424	IV A15s, IV A16s	105	31	7	三角	7.5YR5/4シルト		SB22
SK425	IV A15s	19	17	13	円	10YR5/4シルト		
SK426	IV A15s	19	17	10	円	10YR4/4シルト		
SK427	IV A15s	48	46	13	円	2.5YR4/4粘土	e412.	
SK428	IV A15t	67	54	4	円	10YR7/6粘土炭化物少量混		
SK429	IV A15t	34	30	7	円	10YR5/6粘土		
SK430	IV A14s, IV A15t	180	80	27	椭円	7.5YR5/4シルト炭化物少量混		
SK431	IV A13t	26	25	8	円	10YR5/5シルト		
SK432	IV A13q, IV A13t	100	38	21	椭円	7.5YR5/4シルト炭化物少量混	灰瓦器1	
SK433	IV A13q	90	88	48	円	セクション同様		
SK434	IV A13q	21	18	15	椭円	7.5YR4/4粘土炭化物少量混		
SK435	IV A12p, IV A13q	876	90	2	直角	10YR7/6粘土		
SK436	IV A13q	40	*30	20	円	7.5YR4/4粘土		
SK437	IV A12p	126	79	6	椭円	10YR7/6粘土	土師器4灰瓦器4	
SK438	IV B18a	38	24	4	椭円	7.5YR4/4シルト	灰瓦器1	
SK439	IV B18a	46	21	3	椭円	7.5YR4/4シルト		
SK440	IV B18a	55	44	9	角	7.5YR4/4シルト		
SK441	IV B18a	168	120	12	椭円	7.5YR4/4シルト	近世e14灰土無器7层灰器3	
SK442	IV B18a	60	*40	8	半円	7.5YR4/4シルト	土師器4灰瓦器4	SB40, SB39
SK443	IV B19a	38	36	48	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	e120土無器4	SB38
SK444	IV B19a, IV B19b	82	54	10	椭円	7.5YR5/4シルト	土師器4	SB38
SK445	IV B19b	35	23	6	椭円	7.5YR5/4シルト		SA05
SK446	IV B19b	23	21	5	円	7.5YR5/4シルト	土師器4	SA05
SK447	IV B19b	32	27	8	椭円	7.5YR4/4シルト		SB39
SK448	IV B19b	48	35	25	椭円	7.5YR4/2シルト+7.5YR4/6シルト	土師器4	
SK449	IV B19b	30	20	6	椭円	7.5YR5/4シルト		SB39
SK450	IV B19b	38	37	6	円	7.5YR4/4シルト		SB39
SK451	IV B19b	60	34	8	椭円	7.5YR5/4シルト		
SK452	IV B19b	60	58	8	円	7.5YR5/4シルト		
SK453	IV B19b	38	31	6	椭円	7.5YR5/4シルト	土師器4	
SK454	IV B19b	155	73	7	椭円	7.5YR5/4シルト		SB40, SA05
SK455	IV B19b, IV B20b	*110	110	13	長方	7.5YR4/5シルト+7.5YR4/6シルト		SB40
SK456	IV B20b	80	68	4	椭円	7.5YR4/4シルト		SB39
SK457	IV B20b	25	22	12	円	7.5YR4/4シルト	土師器4灰瓦器3	SB41
SK458	IV B20b	21	19	6	円	7.5YR4/4シルト		SB41
SK459	IV B20b	44	22	12	椭円	7.5YR4/4シルト	灰瓦器1	

遺構一覧表(9)

矢追跡

遺構番号	グリッド	長 埼	幅 埼	深さ	平面形	墳	土	出 土 貨 物	備 考
SK-460	Ⅶ B20b	35	40	6	椎円	7.SYRA4シルト			SB40
SK-461	Ⅶ B20b	111	71	14	椎円	7.SYRA4シルト		土加厚1頭蓋器1	
SK-462	Ⅶ B20b, Ⅷ B20c	42	32	33	椎円	7.SYRA4シルト+7.SYRA4bシルト		土加厚4頭蓋器2	SB41
SK-463	Ⅶ B20c	19	19	7	円	7.SYRA4シルト			SB42
SK-464	Ⅶ B20c, Ⅷ B20c	43	40	35	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混		土加厚9	
SK-465	Ⅶ B20c	32	26	14	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-466	Ⅶ B20c	13	13	3	円	7.SYRA4シルト			
SK-467	Ⅶ B20c, VB1c	48	16	11	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-468	V B2c	20	17	30	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-469	V B1b, VB1c	44	38	18	椎円	7.SYRA4シルト			SB44
SK-470	V B1b	44	36	27	円	7.SYRA4シルト+7.SYRA4bシルト		土加厚3	SB45
SK-471	V B1c	50	44	28	椎円	7.SYRA4シルト灰化物少量混		e321e375土加厚3頭蓋器4	
SK-472	V B1c	26	21	12	円	7.SYRA4シルト			SB43
SK-473	V B1c	31	24	9	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-474	V B1c	36	26	21	椎円	7.SYRA4シルト		土加厚1	
SK-475	V B1c	55	46	30	椎円	7.SYRA4シルト灰化物少量混		e322上頭部11	SB43
SK-476	V B1c	44	40	30	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-477	V B2c	74	67	25	円	7.SYRA4シルト		近地1	SB55
SK-478	V B2c	37	*51	19	円	7.SYRA4シルト			SB53
SK-479	V B2c	31	25	11	椎円	7.SYRA4シルト		頭蓋器1	
SK-480	V B2c	42	40	40	円	7.SYRA4シルト+7.SYRA4bシルト			SB56
SK-481	V B2c, VB2d	30	43	10	椎円	10YRA4シルト		土加厚2	
SK-482	V B2c, VB2d	77	72	7	円	7.SYRA4シルト			SB55
SK-483	V B2d	80	7	12	椭状	7.SYRA4シルト			
SK-484	V B1c-d, VB2c-d	300	106	14	長方	7.SYRA4シルト+7.SYRA4bシルト		土加厚147頭蓋器27	
SK-485	V B2d	77	45	52	椎円	10YRA4シルト灰化物少量混		土加厚7	
SK-486	V B2d	77	45	52	椎円	10YRA4シルト灰化物少量混		土加厚3頭蓋器1	
SK-487	V B2d	37	30	20	椎円	7.SYRA4シルト灰化物少量混		土加厚1	
SK-488	V B2d	19	17	8	円	7.SYRA4シルト			SB57
SK-489	V B2d	32	29	14	円	7.SYRA4シルト			SB56
SK-490	V B2d	27	21	10	椎円	7.SYRA4シルト		e324	SB56
SK-491	V B2d	44	44	20	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混		頭蓋器4	SB56
SK-492	V B2d	34	*24	16	半円	7.SYRA4シルト			SB58
SK-493	V B2d	18	*10	12	半円	7.SYRA4シルト			
SK-494	V B2c, VB2d	45	30	19	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-495	V B2c	18	14	7	椎円	7.SYRA4シルト			SB57
SK-496	V B2c	44	37	28	椎円	7.SYRA4シルト+7.SYRA4bシルト			SB54
SK-497	V B3c	31	28	30	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-498	V B3c	29	26	15	椎円	7.SYRA4シルト			SB55
SK-499	V B3d	19	19	10	円	7.SYRA4シルト		土加厚1	SB59
SK-500	V B3d	31	38	25	椎円	7.SYRA4シルト			SB57
SK-501	V B3d	110	38	7	四角	7.SYRA4シルト		土加厚4頭蓋器4	SB57
SK-502	V B3d	30	21	8	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-503	V B3d	27	24	19	椎円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-504	V B3d	30	30	6	円	7.SYRA4シルト			SB66
SK-505	V B3d	*24	20	12	半円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			SB66
SK-506	V B3d	27	26	9	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			SB56
SK-507	V B3d	50	28	11	椎円	7.SYRA4シルト			SB66-SB68
SK-508	V B3d, VB4d	29	28	13	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混		土加厚2	SB69-SB71
SK-509	V B4d	33	27	37	椎円	7.SYRA4シルト			SB71
SK-510	V B4d	20	20	14	円	7.SYRA4シルト			SB69-SB71
SK-511	V B4d	*57	16	18	椎円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			SA08
SK-512	V B4d	73	17	10	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-513	V B4d	18	16	9	円	7.SYRA4シルト			SB71
SK-514	V B4d	23	17	9	椎円	7.SYRA4シルト			SA07
SK-515	V B4d	20	19	7	円	7.SYRA4シルト			
SK-516	V B4d	25	24	12	円	7.SYRA4シルト			SA08
SK-517	V B4d	27	21	12	椎円	7.SYRA4シルト			SB50
SK-518	V B4d	33	22	12	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-519	V B4d	44	34	25	椎円	7.SYRA4シルト		e325土加厚1	
SK-520	V B6c, VB6f	100	58	11	椎円	10YRA4シルト灰化物少量混		c326-328土加厚2	SB89
SK-521	V B6f	46	35	13	椎円	7.SYRA4シルト			SB87
SK-522	V B6f	38	*28	5	円	7.SYRA4シルト			SB89
SK-523	V B6f	26	20	19	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-524	V B6f, VB7f	22	20	7	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-525	V A13q	24	23	7	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-526	V A17q	26	23	7	椎円	7.SYRA4シルト+7.SYRA4bシルト			
SK-527	V A17q	22	21	9	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-528	V B6f	24	15	6	椎円	7.SYRA4シルト			
SK-529	V B6f	29	25	8	椎円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			SB87
SK-530	V B6f	*30	27	6	椎円	7.SYRA4シルト			SB86
SK-531	V B6f	26	*20	13	円	7.SYRA4シルト灰化物少量混			
SK-532	V B6f	45	34	6	椎円	7.SYRA4シルト			SB90
SK-533	V B6f	45	26	8	椎円	7.SYRA4シルト			SB90

遺構一覧表(10)

付表

遺構番号	グリッド	長 埋	短 埋	深さ	平面形	用 土	出 土 遺 物	備 考
SK534	V B6f	22	20	14	円窓	7.SYR4/2シルト炭化物少量混	頭部器2	SB90
SK535	V B6f	18	16	4	円	7.SYR4/3シルト		SB90
SK536	V B6f	20	18	8	円	7.SYR4/2シルト+7.SYR4/4シルト		
SK537	V B7f	31	30	24	円	7.SYR4/3シルト		SB93
SK538	V B7f	29	27	13	円	7.SYR4/2シルト		
SK539	V B7f	29	24	7	円	7.SYR5/6シルト		SB92
SK540	V B7f	38	37	8	円	7.SYR5/4シルト		SB93
SK541	V B7f	22	20	16	円	7.SYR4/2シルト		
SK542	V B7f,V B7g	25	20	18	椭円	7.SYR4/2シルト炭化物少量混		SB94
SK543	V B7g	27	22	17	椭円	10YR4/3シルト		
SK544	V B7g	19	16	10	円	7.SYR4/2シルト		
SK545	V B7g	22	18	12	椭円	7.SYR4/2シルト炭化物少量混		SB94
SK546	V B7f	30	20	14	椭円	7.SYR4/3シルト		
SK547	V B7f	18	16	10	円	7.SYR4/3シルト		
SK548	V B7f,g,V B8f,g	27	21	20	椭円	7.SYR4/2シルト炭化物少量混		SB94
SK549	V B7g,V B8g	31	26	10	椭円	10YR5/3シルト		SA11
SK550	V B8g	140	27	30	椭円	7.SYR4/4シルト炭化物少量混	e329-331土師器18頭部器3	
SK551	10化4e							
SK552	V B7f	*123	*86	3	四角	7.SYR5/4シルト	頭部器4	
SK553	V B8c	20	19	8	円	7.SYR4/2シルト		
SK554	V B7c	*27	23	4	椭円	7.SYR5/4シルト		SB84
SK555	V B8d	44	25	3	椭円	7.SYR4/3シルト		
SK556	V B8d	36	32	12	円	7.SYR5/3シルト		
SK557	V B8d	55	43	15	椭円	2SY64/4土	土師器4	
SK558	V B8d	60	*50	22	円	2SY54/4土		底部敷石
SK559	V B9c	21	21	10	円	10YR4/3シルト炭化物少量混	頭部器5	
SK560	V B9c	25	19	13	椭円	10YR4/4シルト	土師器5	
SK561	V B7f	27	26	12	円	7.SYR4/2シルト		
SK562	V B7f	24	24	9	円	7.SYR4/3シルト		SB90
SK563	V B8e,V B8e	*95	70	7	椭円	10YR4/3シルト	頭部器5	
SK564	V B2c	17	13	4	円	7.SYR5/4シルト		
SK565	V B2c	50	33	34	椭円	7.SYR4/2シルト+7.SYR4/6シルト		SB45,SB57
SK566	V B2c	120	21	5	椭円	7.SYR5/4シルト		
SK567	V B2c,V N2d	165	89	13	長方	7.SYR5/4シルト+7.SYR6/4シルト	土師器5頭部器4	SB53
SK568	V B2c	44	40	28	円	7.SYR4/2シルト	e332土師器1	
SK569	V B8f	80	60	20	椭円	7.SYR4/2シルト炭化物少量混	e409土師器5頭部器4	
SK570	IV A16s	42	40	8	円	7.SYR4/3シルト	e333土師器8	SB23
SK571	IV A16s	24	22	9	円	7.SYR4/2シルト炭化物少量混		SB24
SK572	IV A16s	25	17	12	椭円	7.SYR4/3シルト		SB24
SK573	IV A17s	50	21	8	椭円	7.SYR4/2シルト		SB25
SK574	欠番							
SK575	IV A17s,IV A17i	68	60	10	円	7.SYR5/4シルト	土師器3頭部器1	SB25,SB22
SK576	IV A17i	38	19	3	椭円	7.SYR5/4シルト		
SK570b	V B2a	55	45	30	椭円	7.SYR5/4シルト		SB50
SK572b	V B3a	38	34	21	椭円	7.SYR5/4シルト		SB50
SD02P01	V B7e	35	24	9	椭円	7.SYR4/2シルト		
SD02P02	V B7e	43	27	12	椭円	7.SYR4/2シルト+7.SYR4/6シルト		
SD02P03	V B7e	15	*14	14	円	7.SYR4/2シルト		
SD02P04	V B7e	22	19	22	円	7.SYR4/2シルト		
SD02P05	V B7e	35	25	5	椭円	7.SYR4/4シルト+7.SYR4/6シルト		
SD02P06	V B8c	13	12	3	円	7.SYR4/2シルト		
SD02P07	V B7d	16	16	13	円	7.SYR4/2シルト		
SD02P08	V B7d	17	16	23	円	7.SYR4/2シルト		
SD02P09	V B7d	22	20	10	椭円	7.SYR4/2シルト+7.SYR3/4シルト		
SD02P10	V B7d	17	16	8	円	7.SYR4/2シルト+7.SYR4/6シルト		
SD02P11	V B7d	25	23	13	円	7.SYR4/2シルト		
SD02P12	V B7d	18	16	6	円	7.SYR4/3シルト		
SD01P01	V B8d	32	23	30	椭円	7.SYR4/2シルト		
SD03P02	V B8d	30	23	17	椭円	7.SYR4/2シルト+7.SYR4/6シルト		
SD03P03	V B8d	24	24	21	円	7.SYR4/2シルト		
SD03P04	V B8e	22	18	8	円	7.SYR4/3シルト		
SD03P05	V B8e	24	18	10	円	7.SYR4/2シルト		
SD03P06	V B8e	36	26	6	円	7.SYR4/4シルト+7.SYR4/6シルト		
SD03P07	V B8e	32	24	23	円	7.SYR4/2シルト		
SD03P08	V B8e	32	26	30	円	7.SYR4/2シルト		
SD03P09	V B8e	30	26	16	円	7.SYR4/2シルト		
SD03P10	V B8e	26	24	16	円	7.SYR4/2シルト		
SD03P11	V B8e	22	20	8	円	7.SYR4/2シルト		
SD03P12	V B8e	18	18	10	円	7.SYR4/2シルト+7.SYR3/4シルト		
SD03P13	V B8e	18	16	5	円	7.SYR4/2シルト		
SD06P01	V B5c	20	16	13	椭円	7.SYR4/3シルト		
SD06P02	V B5c	33	25	13	椭円	7.SYR4/4シルト+7.SYR4/6シルト		
SD06P03	V B5c	38	25	46	椭円	7.SYR4/2シルト		
SD06P04	V B5c	29	28	17	円	7.SYR4/4シルト+7.SYR4/6シルト		

## 矢追遺跡

## 遺構一覧表(11)

遺構番号	グリッド	北 基	南 基	深さ	平面形	埋 土	出 土 貨 物	備 考
SD06P01	VB5c	23	18	20	円	7.SYRA4/2シルト		
SD06P06	VB5c	26	23	17	円	7.SYRA4/2シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P07	VB5c	23	19	13	円	7.SYRA4/2シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P08	VB5c	15	15	46	円	7.SYRA4/2シルト		
SD06P09	VB5c	29	14	15	椭円	7.SYRA4シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P10	VB5c	24	17	26	椭円	7.SYRA4/2シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P11	VB5c	30	19	27	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD06P12	VB5c	40	29	23	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD06P13	VB6c	36	27	8	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P14	VB6c	27	22	15	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P15	VB6c	15	15	20	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD06P16	VB5c	20	19	16	円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P17	VB4b	30	28	8	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P18	VB4b	54	36	10	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD06P19	VB4b	56	30	12	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P20	VB4b	46	30	10	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P21	VB4b	40	29	8	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P22	VB4b, VB5b	40	30	12	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD06P23	VB3b	32	24	10	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P01	VB7c	34	28	22	椭円	7.SYRA4/2シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P02	VB6c	40	26	30	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD08P03	VB6c	15	14	10	円	7.SYRA4/2シルト		
SD08P04	VB6c	14	12	10	円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P05	VB6c	16	14	6	円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P06	VB6c	30	28	16	円	7.SYRA4/2シルト		
SD08P07	VB6c	24	22	8	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P08	VB6c	28	24	8	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P09	VB6c	40	34	28	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD08P10	VB6c	36	36	18	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P11	VB6c	12	12	5	円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P12	VB6c	24	24	14	円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P13	VB6c	20	18	12	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P01	VB6d	31	30	47	円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P02	VB7c,d	23	18	30	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD08P03	VB7c	33	28	10	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD08P04	VB7c	27	21	10	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD10P01	VB7c	25	20	6	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD10P02	VB7c	25	23	15	円	7.SYRA4/2シルト		
SD10P03	VB7d	33	25	30	円	7.SYRA4/2シルト		
SD10P04	VB7d	33	25	18	円	7.SYRA4/2シルト		
SD12P01	VB7c	30	26	7	椭円	7.SYRA4シルト		
SD12P02	VB7c	40	22	28	椭円	7.SYRA4/2シルト		
SD12P03	VB7c	30	23	10	椭円	7.SYRA4シルト		
SD12P04	VB7c	25	24	20	円	7.SYRA4/2シルト		
SD12P05	VB7c	40	25	54	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		
SD12P06	VB7d	36	24	15	椭円	7.SYRA4/3シルト+7.SYRA4bシルト		

## 遺物一覧表(1)

矢追遺跡

回数番号	遺物番号	产地・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考
1	SB01トレンチ	須恵器	杯	残2.2			回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ		前期古段階
2	SB01上層	須恵器	杯?	残1.7			回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ		前期古段階
3	SB01上層	須恵器	杯	瓶11.0	残3.3		回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ		前期古段階
4	SB01	須恵器	杯	瓶11.6	残2.2		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
5	SB01上層	須恵器	杯	瓶2.2			回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
6	SB01上層	須恵器	杯	瓶2.0			回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
7	SB01上層	須恵器	杯	瓶1.6			回転ナデ	回転ナデ		前期古段階か?
8	SB01上層	須恵器	杯?	瓶2.6			回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
9	SB01上層	須恵器	杯	瓶4.3			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ		前期古段階
10	SB01上層	須恵器	杯?	瓶12.8	残4.1		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
11	SB01下層	須恵器	高杯	瓶11.6	瓶1.6		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階~中段階
12	SB01上層	須恵器	泡?	残4.2			調整不明	自然縁	楕円、タキ	?
13	SB01上層	須恵器	楕瓶?	瓶8.0			指ササニ	楕円、タキ	?	?
14	SB01上層	須恵器	柄	3.8	5.6		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
15	SB01上層	須恵器	柄	瓶10.2	残5.1	推10.3	回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ		前期古段階~中段階
16	SB01ペルト	土師器	甌	瓶2.1			調整不明	調整不明		
17	SB01上層	土師器	甌?	瓶2.5			調整不明	調整不明		
18	SB01上層	土師器	甌	瓶2.5			調整不明、回転ナデ?	調整不明、回転ナデ?		
19	SB01上層	土師器	甌	瓶1.8	推3.6		調整不明	回転ナデ?、木綿整紗付着		
20	SB02	須恵器	高杯	瓶3.5			回転ナデ	回転ナデ		前期古段階前後
21	SB02上層	土師器	高杯	瓶9.6	瓶2.8		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階前後
22	SB02上層	須恵器	杯	瓶17.0	瓶6.3		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ		V期古段階
23	SB03上層	須恵器	?	瓶5.3			ヨコハナニ、回転ナデ	回転ナデ、彌力、刺突文		前期以前
24	SB03上層	須恵器	休小広口短脚瓶	瓶3.5			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ		中期~V期
25	SB03最上層	須恵器	杯?	瓶3.7			回転ナデ	回転ナデ		中期~中段階
26	SB03最上層	須恵器	杯	瓶1.5			回転ナデ	回転ナデ		V期古段階
27	SB03最上層	須恵器	杯?	瓶1.8			回転ナデ	回転ナデ		前期古段階~中段階
28	SB03上層	須恵器	高杯	瓶7.4	瓶2.0		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
29	SB03上層	須恵器	高杯	瓶2.0			回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
30	SB03最上層	須恵器	休小広口短脚瓶	瓶4.2			酒瓶、調整不明	酒瓶、調整不明		中期~V期
31	SB03最上層	須恵器	杯?	瓶1.3	4.2		回転ナデ	回転ナデ		中期~古段階
32	SB03最上層	須恵器	はそう	瓶1.7			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
33	SB03最上層	須恵器	甌?	瓶1.5			回転ナデ	回転ナデ		中期~古段階
34	SB03トレンチ	網?	直腹陶片	瓶2.7			鉢	鉢	大束第1段階	
35	SB03上層	土師器	甌	瓶3.4			調整不明	調整不明		
36	SB03上層	土師器	甌	瓶3.0			調整不明	調整不明		中期古段階
37	SB03上層	土師器	甌	瓶36.2			調整不明	調整不明		
38	SB03最上層	土師器	裂厚土器	瓶2.9			調整不明			
39	SB03最上層	土師器	裂厚土器	瓶3.7			指ササニ			
40	SB03上層	土師器	裂厚土器	瓶4.4			調整不明			
41	SB04	須恵器	杯?	瓶1.4			回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ		中期古段階~中段階
42	SB04	須恵器	杯?	瓶1.8			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~中段階
43	SB04	須恵器	杯	瓶10.4	残3.7		回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ		中期古段階
44	SB04トレンチ	須恵器	杯	瓶10.8	瓶2.1		回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
45	SB04	須恵器	杯	瓶11.4	瓶2.6		回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
46	SB04	須恵器	杯	瓶2.3			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~中期古段階
47	SB04	須恵器	杯?	瓶2.2			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~中期古段階
48	SB04	須恵器	杯	瓶1.2			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
49	SB04	須恵器	杯?	瓶1.8			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~新段階
50	SB04	須恵器	杯?	瓶2.0			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~新段階
51	SB04	土師器	甌	瓶1.1	推8.0	瓶10.7	回転ナデ	回転ナデ、切削痕		
52	SB04	須恵器	杯?	瓶2.6	瓶2.1		回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~中期古段階
53	SB04	須恵器	杯?	瓶9.2	瓶3.6		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ		中期古段階~中期古段階
54	SB04	須恵器	杯?	瓶2.8			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ		中期古段階~中期古段階
55	SB04	須恵器	杯	瓶2.7			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~中期古段階
56	SB04トレンチ	須恵器	杯	瓶11.0	瓶3.6		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ		中期古段階~中期古段階
57	SB04	須恵器	杯?	瓶11.4	残2.2		回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
58	SB04	須恵器	杯	瓶13.6	瓶2.0		回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
59	SB04	須恵器	切削?	瓶9.2	瓶2.0		回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
60	SB04	須恵器	高杯	瓶9.4	瓶1.1		回転ナデ	回転ナデ、自然縁		中期古段階
61	SB04	須恵器	高杯	瓶12	推10.2	瓶10.7	回転ナデ	自然縁、回転ナデ		中期古段階
62	SB04	須恵器	?	瓶0.9			回転ナデ	回転ナデ		?
63	SB04下層	須恵器	はそう	瓶1.5			回転ナデ	回転ナデ		中期古段階
64	SB04	須恵器	密?	瓶5.3			回転ナデ	タキ、自然縁		?
65	SB0405.5cmト	須恵器	高杯	瓶6.9			透かしあり、回転ナデ	回転ナデ		中期古段階~中期古段階か?
66	SB0409	土師器	甌	瓶0.2			ヨコハナニ、調整板孔有	調整不明、ス付着		中期古段階~新段階
67	SB04	須恵器	甌?	瓶10.0			指ササニ、ハラケズリ	タキ		密か?
68	SB04	須恵器	甌	瓶2.3			ヨコハナニ	調整不明		
69	SB04	土師器	瓶把手	瓶3.2			指ササニ			
70	SB04	須恵器?	陶丸				指ササニ			
71	SB0405.5cmト	須恵器	杯?	瓶3.1			ハラケズリ、回転ナデ			中期古段階~新段階
72	SB0405.5cmト	須恵器	杯?	瓶2.6			回転ナデ			中期古段階~新段階
73	SB0405.5cmト	須恵器	杯?	瓶2.1			回転ナデ			中期古段階
74	SB0405.5cmト	須恵器	切削?	瓶1.9			回転ナデ			中期~古段階

## 遺物一覧表(2)

国版番号	遺物番号	産地・材質	部	種	口径	器高	底径	内	外	内	外	筋	備考
75	SBD4.0-ベルト	須恵器	高杯			約4.1	重10.8	回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階
76	SBD4.0-ベルト	須恵器	短颈壺			約4.9		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階
77	SBD4.0-ベルト	須恵器	土師器			約4.0		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				Ⅱ期前段階
78	SBD4.0-ベルト	土師器	壺			約2.1	重8.6	調整不明	不明、木葉柄あり				Ⅱ期前段階
79	SBD5	須恵器	瓶			約2.3		回転ナラ	ハラケズリ、回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階
80	SBD5-1	須恵器	瓶			約2.8		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期
81	SBD5-1上端	須恵器	瓶			約2.3		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期-新段階
82	SBD5-1上端	須恵器	瓶			約2.0		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期-新段階
83	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約1.6	重15.0	回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期か?
84	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約1.1		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階
85	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約1.8		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階
86	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約2.1		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期中段階-新段階
87	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約3.9		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階か?
88	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約1.4		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階
89	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約2.3		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階、自然施
90	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約2.3		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期中段階-新段階
91	SBD5-1上端	須恵器	瓶身			約1.2		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階
92	SBD5-1上端	須恵器	はなう		幅12.8	約4.6		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階
93	SBD5-1上端	須恵器	高杯			約5.8		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前後
94	SBD5-1上端	須恵器	高杯			約3.0		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階
95	SBD5	須恵器	無蓋高杯			約3.1		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期
96	SBD5-1上端	須恵器	無蓋高杯			約3.0		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期中段階-新段階
97	SBD5-1上端	須恵器	無蓋高杯			幅17	約2.7	回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階古段階
98	SBD5-1上端	須恵器	無蓋高杯			約6.5		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期中段階-新段階
99	SBD5-1上端	須恵器	高杯			約5.2		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前後
100	SBD5-1上端	須恵器	平底少?		幅9.4	約4.7		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階
101	SBD5-1上端	須恵器	壺			約5.0		回転ナラ	回転ナラ				?
102	SBD5-1上端	須恵器	フラスコ瓶			約5.7		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階古段階
103	SBD5-1上端	土師器	土師器			約2.9		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				Ⅱ期前段階
104	SBD5-1上端	土師器	壺?			約3.2		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				?
105	SBD5-1上端	土師器	壺?			約2.9		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				?
106	SBD5-1上端	土師器	壺?			約2.4		調整不明	調整不明				?
107	SBD5-1上端	土師器	壺?			約2.0	重10.0	調整不明	調整不明				?
108	SBD6	須恵器	瓶		幅11.2	4.0		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期
109	SBD6	須恵器	瓶			約2.8		回転ナラ	ハラケズリ、回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階古段階
110	SBD6	須恵器	瓶			約3.4		回転ナラ	自然施、回転ナラ				Ⅱ期古後期
111	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約2.6		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期中段階-新段階
112	SBD6-1レンチ	須恵器	瓶身			約1.4		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期中段階
113	SBD6-1上端	須恵器	瓶身			約1.3		回転ナラ	回転ナラ				IV期古後期
114	SBD6-1上端	須恵器	瓶身			約1.8		回転ナラ	回転ナラ				?
115	SBD6	須恵器	高杯			約3.5		回転ナラ	ハラケズリ、回転ナラ				Ⅱ期古後期
116	SBD6-1上端	須恵器	高杯		幅13.3	重8.4		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期
117	SBD6	土師器	小門型?			約5.0		回転ナラ	回転ナラ				?
118	SBD6	土師器	壺?			約5.1		回転ナラ?	ハラケズリ				?
119	SBD6	土師器	壺?			約5.1		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				?
120	SBD6	土師器	壺?			約6.2		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				?
121	SBD6	土師器	壺?			約6.8		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				?
122	SBD6-1上端	土師器	壺?			約2.3		調整不明(回転ナラ?)	調整不明(回転ナラ?)				?
123	SBD6	土師器	壺?			約1.4		回転ナラ?	調整不明				?
124	SBD6	土師器	壺?			約6.8		不明	不明				?
125	SBD6-1上端	須恵器	杯?			約1.7	4.0	回転ナラ	自然施、調整不明				Ⅱ期古後期
126	SBD6	土師器	臼付甌			約2.5		調整不明	調査不明、シボリ				?
127	SBD6-1上端	土師器	高杯			約5.0		ヘラケズリ	回転ナラ				?
128	SBD6	土師器	高杯			約6.9			鶴				?
129	SBD6-0.9生土	土師器	壺?			約5.0		調整不明、鶴	調査不明				?
130	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約3.1		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期-新段階古段階
130	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約4.1		回転ナラ	自然施				Ⅱ期前段階-新段階古段階
131	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約2.9		回転ナラ	ハラケズリ?	回転ナラ			Ⅱ期前段階-新段階古段階
132	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約4.1		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期前段階-新段階古段階
133	SBD6-1上端	須恵器	瓶		幅13.0	約3.8		回転ナラ	ハラケズリ?	回転ナラ			Ⅱ期古後期-中段階
134	SBD6-1上端	須恵器	瓶		幅13.8	約2.6		回転ナラ	回転ナラ				Ⅱ期古後期-中段階
135	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約2.4		回転ナラ	回転ナラ				?
136	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約2.3		回転ナラ	回転ナラ				?
137	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約1.6		回転ナラ	回転ナラ				?
138	SBD6-1上端	須恵器	瓶			約1.9		回転ナラ	回転ナラ				?
139	SBD6-1上端	須恵器	瓶身			約1.1		回転ナラ	回転ナラ				?
140	SBD6-1上端	須恵器	瓶身			約2.0		回転ナラ	回転ナラ				?
141	SBD6-1上端	須恵器	瓶身			約2.3		回転ナラ	回転ナラ				?
142	SBD6-1上端	須恵器	高杯			約2.3		回転ナラ	透かしあり				?
143	SBD6-1上端	須恵器	高杯			約6.9	7.0	回転ナラ	回転ナラ				?
144	SBD6-1上端	須恵器	高杯少?		幅11.8	約4.7		回転ナラ	自然施、回転ナラ				?
145	SBD6-1上端	須恵器	高杯少?			約2.0		回転ナラ	ヨコハラ				?
146	SBD6-1上端	土師器	高杯		幅17.0	約5.1		調整不明	調査不明				?
147	SBD6-1上端	土師器	壺?			約2.3		調整不明	調整不明				?

図版番号	遺物番号	产地・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考
148	SB09かまど	土師器	壺		残3.5		調整不明	調整不明		
149	SB09上層	土師器	壺		瓶15.0	残2.5		回転ナデ	回転ナデ	
150	SB09上層	土師器	壺		瓶15.0	残3.6	スヌ付着、調整不明	回転ナデ	調整不明	
151	SB09かまど	土師器	壺		瓶18.2	残12.6	ハク調整	ハク調整		
152	SB09かまど	土師器	壺		瓶13.4		ハク調整	ハク調整		
153	SB09上層	土師器	壺		瓶3.2		調整不明	調整不明	指オサエ	
154	SB09上層	土師器	壺		瓶7.2		調整不明	指オサエ		
155	SB09上層	土師器	壺	瓶15.4	残3.5		回転ナデ、調整不明	回転ナデ、調整不明		
156	SB09	土師器	壺		瓶2.7	瓶7.0	調整不明	調整不明		
157	SB09上層	土師器	壺		瓶21.0	残2.5		回転ナデ	回転ナデ	
158	SB07上層	陶器	舟舟		瓶11.8	残2.3		回転ナデ	回転ナデ、ハクカズリ	前期中段階
159	SB07トレチ	陶器	舟舟		瓶1.5			回転ナデ	回転ナデ	前期新段階～既古段階
160	SB07上層	陶器	舟舟	瓶15.8	残3.8		回転ナデ、焼れ	回転ナデ、焼れ		
161	SB07上層	土師器	壺	瓶18.4	瓶5.0		調整不明	調整不明		
162	SB07上層	土師器	壺		瓶4.2		調整不明	調整不明		
163	SB07上層	土師器	壺		瓶1.7	瓶5.4	調整不明	調整不明		
164	SB07上層	土師器	壺		瓶4.8	瓶4.6	調整不明	調整不明		
165	SB07上層	陶器	瓶小口		瓶5.0					
166	SB07上層	土師器	瓶		瓶5.5					
167	SB12上層	土師器	壺	瓶16.0	残3.9		調整不明	調整不明		
168	SB14上層	陶器	舟舟		瓶3.5		回転ナデ	ハラカズリ、回転ナデ		前期古段階
169	SB11	陶器	舟舟		瓶3.0		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
170	SB11	土師器	舟舟		瓶2.8	6.1	調整不明	調整不明		
171	SB13.5層	陶器	舟舟		瓶1.6			回転ナデ	回転ナデ	前期古段階
172	SB13.5層	陶器	舟舟		瓶2.8			回転ナデ	回転ナデ	前期古段階～中段階
173	SB10.5層	陶器	舟舟か?		瓶5.9			ココハラ、タキ		?
174	SB13.5層	陶器	舟舟	瓶14.4	瓶5.6		回転ナデ	ハラカズリ、回転ナデ		前期中段階
175	SB11	陶器	舟舟		瓶1.7		回転ナデ	回転ナデ		前期中段階
176	SB13.5層	陶器	舟舟		瓶3.0		回転ナデ	回転ナデ		前期中段階
177	SB13.5層	土師器	壺		瓶3.5		調整不明	調整不明		
178	SB13.5層	土師器	壺		瓶5.5		調整不明	調整不明		
179	SB16上層	陶器	舟舟		瓶1.4		回転ナデ	ハラカズリ		前期古段階～中段階
180	SB16.7層	陶器	舟舟		瓶2.6		回転ナデ	ハラカズリ、回転ナデ		前期
181	SB16上層	陶器	舟舟	瓶19.0	残1.1		回転ナデ	回転ナデ		前期
182	SB16上層	陶器	高台壺		残1.1		回転ナデ	ハラカズリ、回転ナデ		前期古段階以降
183	SB16上層	陶器	台舟		残2.3		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
184	SB16上層	陶器	舟舟		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		前期中段階？
185	SB16上層	陶器	舟舟				回転ナデ	回転ナデ		前期中段階～新段階
186	SB16上層	陶器	舟舟				回転ナデ	回転ナデ		前期？
187	SB16上層	陶器	舟舟				回転ナデ	回転ナデ		前期中段階
188	SB16上層	陶器	舟舟		瓶2.0		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
189	SB16上層	陶器	舟舟	瓶10.6	残1.5		回転ナデ	回転ナデ		前期新段階
190	SB16上層	陶器	舟舟	瓶14.4	瓶1.9		回転ナデ	回転ナデ		前期中段階
191	SB16上層	陶器	舟舟	瓶11.6	残3.3		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階～中段階
192	SB16上層	陶器	舟舟	瓶14.2	瓶3.8		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階？
193	SB16上層	陶器	舟舟		瓶2.1		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階？
194	SB16	陶器	舟舟		瓶1.5	瓶11.4	回転ナデ	回転ナデ		前期古段階～中段階
195	SB16上層	陶器	舟舟				回転ナデ	回転ナデ		前期新段階
196	SB16上層	陶器	舟舟				回転ナデ	ハラカズリ		前期新段階～B概念設置
197	SB16上層	陶器	舟舟		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		前期新段階～B概念設置
198	SB16上層	陶器	舟舟		残2.7		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
199	SB16上層	陶器	舟舟		残2.5		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
200	SB16上層	陶器	舟舟		残3.5		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階～
201	SB16上層	陶器	舟舟か？		残4.0		回転ナデ	回転ナデ		前期
202	SB16上層	陶器	舟舟か？	瓶13.2	瓶3.6		回転ナデ	ハラカズリ		前期新段階
203	SB16上層	陶器	舟舟か？		残2.8		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階～中段階
204	SB16上層	陶器	舟舟か？		残2.4		回転ナデ	回転ナデ		前期
205	SB16上層	陶器	舟舟		瓶3.1		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階～
206	SB16上層	陶器	高杯		瓶2.9		透かしあり、回転ナデ？	回転ナデ		前期新段階～B概念設置
207	SB16上層	陶器	高杯		瓶1.1	瓶11.0	回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
208	SB16上層	陶器	高杯	瓶8.8	瓶1.9		回転ナデ	回転ナデ		前期古段階
209	SB16上層	土師器	舟舟		瓶3.7		調整不明	調整不明		
210	SB16上層	土師器	壺	瓶17.8	残2.1		調整不明	調整不明		
211	SB16上層	土師器	壺	瓶15.4	残2.2		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
212	SB16上層	土師器	壺		残2.4		調整不明	調整不明		
213	SB16上層	土師器	壺		残4.0		回転ナデ？、スヌ付着	回転ナデ？		
214	SB16上層	土師器	壺		残2.4		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
215	SB16下層	土師器	壺		残2.4		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
216	SB16上層	土師器	萩佐土器？		残2.6		指オサエ			
217	SB16上層	土師器	萩佐土器		残3.9			調整不明、赤色化		
218	SB16	土師器	萩佐土器		残3.4					
219	SB16上層	土師器	萩佐土器		残4.0			燒熱板？		
220	SB16上層	土師器	土師							
221	SB16上層	土師器	土師							

## 遺物一覧表(4)

国版番号	遺物番号	種類・材質	部	種	口径	器高	底径	内	外	筋	備考
222	S816上端	土師器	土錐								
223	S816上端	土師器	土錐								
224	S816上端	尾衝型	山茶柄			92.8		回転ナヂ	回転ナヂ	高台削落?	
225	S816上端	尾衝型	山茶柄			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ		
226	S816上端	尾衝型	山茶柄			94.3	高7.6	自然縁、回転ナヂ	回転ナヂ	回転系切削	
227	S817上端	土師器	高杯?		盤15.8	94.4		直面が充満して不明	直面が削落して不明		
228	S817上端	土師器	高杯			96.6		調整不明	透かしあり		
229	S819同端	頭忠器	柄蓋	蓋	11.6	94.3		回転ナヂ	回転ナヂ		Ⅳ期古段階
230	S819同端	頭忠器	柄蓋			94.4		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階	
231	S819同端	頭忠器	柄蓋			94.1		回転ナヂ	回転ナヂ		Ⅴ期
232	S819同端	頭忠器	柄蓋			94.3	蓋10.8	回転ナヂ	ヘラケズリ、回転ナヂ	Ⅴ期古段階~一段階	
233	S819同端	頭忠器	柄蓋			94.3		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階~一段階	
234	S819同端	頭忠器	柄身			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期古段階	
235	S819同端	頭忠器	柄蓋		円1.1	蓋10.2		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期古段階	
236	S819同端	頭忠器	柄身			94.4		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階	
237	S819同端	頭忠器	柄身			94.4		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期	
238	S819同端	頭忠器	柄身			94.1		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階	
239	S819同端	土師器	柄(陶)			94.8		回転ナヂ	回転ナヂ		
240	S819同端	頭忠器	柄身			94.9		回転ナヂ	回転ナヂ	ヘラケズリ?	
241	S819同端	頭忠器	柄小陶丸	蓋	15.8	93.4		回転ナヂ、底黒色化物	回転ナヂ	Ⅴ期中段階	
242	S819同端	頭忠器	柄小陶丸			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階~新段階	
243	S819同端	土師器	柄(陶)			94.9		回転ナヂ?	回転ナヂ?		
244	S819同端	頭忠器	柄身			94.3	蓋10.8	回転ナヂ	回転ナヂ、ヘラケズリ	Ⅴ期古段階~新段階	
245	S819同端	頭忠器	柄身			94.0	蓋8.2	回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期古段階	
246	S819	頭忠器	高杯			94.4		回転ナヂ	透かしあり	透かしあり	Ⅴ期
247	S819第2肩	頭忠器	長脚瓶			94.3	蓋13.0	回転ナヂ	回転ナヂ	新段階段階~Ⅴ期古段階	
248	S819同端	土師器	菊隼之印			94.1		調整不明			
249	S819同端	頭忠器	高杯?			94.7		回転ナヂ	回転ナヂ	?	
250	S819上肩	頭忠器	柄身			94.3		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階	
251	S819同端	青滑	片口鉢			94.5		回転ナヂ	回転ナヂ?		
252	S819P	土師器	甕			94.0	蓋4.0	94.7	ヨコハケ?	調整不明	
253	S819同端	土師器	甕			94.9	蓋6.6	調整不明	調整不明		
254	S819同端	土師器	甕			94.8		調整不明	調整不明		
255	S819同端	頭忠器	白付長脚瓶	蓋11.0		94.9	自然縁、回転ナヂ	回転ナヂ			Ⅴ期
256	S819同端	土師器	甕	蓋	23.8	94.4					
257	S819同端	土師器	甕	蓋	24.2	94.0	調整不明(回転ナヂ?)	調整不明(回転ナヂ?)	調整不明(回転ナヂ?)		
258	S819同端	土師器	甕	蓋	24.4	94.3					
259	S819同端	土師器	甕	蓋		94.8					
260	S814	頭忠器	柄蓋			94.4		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階	
261	S814	頭忠器	柄身			94.0		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期古段階	
262	S814束口分	頭忠器	柄身			94.6		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期古段階~一段階	
263	S814	頭忠器	はそぐ			94.6		回転ナヂ	回転ナヂ、ヘラケズリ	Ⅴ期古段階~新段階段階~Ⅴ期古段階	
264	S814束口	頭忠器	組頭彫	蓋7.2		94.7		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期古段階	
265	S814	土師器	甕			94.4	蓋7.4	調整不明	調整不明		
266	S802(束)	頭忠器	柄蓋			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階か?	
267	S802(束)	頭忠器	柄身			94.9		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階か?	
268	S802P	土師器	甕			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ		
269	S803	頭忠器	始の白(片口桝)	蓋11.0	11.6	4.6		回転ナヂ、ヘラケズリ?	回転ナヂ	Ⅴ期前段階	
270	S803	頭忠器	柄かく?			94.6		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階か?	
271	S803	頭忠器	柄身			94.5		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階~下期古段階	
272	S803	頭忠器	柄身			94.0		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階~新段階	
273	S803	頭忠器	柄身			94.5		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階~新段階	
274	S803	頭忠器	柄身			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階	
275	S803	頭忠器	柄蓋			94.3		回転ナヂ	ヘラケズリ、回転ナヂ	Ⅴ期前段階~Ⅴ期古段階	
276	S803	頭忠器	柄身	蓋10.0		94.6		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階~新段階	
277	S803	土師器	甕			94.1		調整不明	調整不明		
278	S803P8	甕生火器	白付蓋			94.7		ヨコハケ。調整不明	ヨコハケ。調整不明		
279	S803	土師器	甕			94.5	蓋6.6	調整不明	調整不明		
280	S803P3	土師器	甕			94.2	蓋7.8	調整不明	調整不明		
281	S809	頭忠器	柄蓋			94.5		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階~新段階	
282	S809%透	頭忠器	柄蓋			94.8		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階か?	
283	S809%透	頭忠器	柄身			94.6		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階	
284	S809%透	頭忠器	柄身			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階~Ⅴ期古段階	
285	S809%透	頭忠器	柄身			94.2		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階~Ⅴ期古段階	
286	S809%透	頭忠器	柄身			94.4		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期古段階	
287	S809	頭忠器	高杯			94.7	蓋10.8	回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階~新段階	
288	S809%透	土師器	高杯			94.7		回転ナヂ	回転ナヂ		
289	S809	頭忠器	甕			94.4		調整不明			
290	S809	土師器	高杯			94.9		調整不明、ヘラケズリ?	調整不明		
291	S809%透	土師器	甕			94.0		調整不明	調整不明		
292	S806%北	頭忠器	柄蓋			94.3		回転ナヂ	ヘラケズリ、回転ナヂ	Ⅴ期中段階~新段階	
293	S806%北	頭忠器	柄蓋			94.6		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期中段階	
294	S806%北	頭忠器	柄蓋			94.5		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階~Ⅴ期古段階	
295	S806%北	頭忠器	柄かく?			94.6		回転ナヂ	回転ナヂ	Ⅴ期前段階~Ⅴ期古段階	

回収番号	遺物番号	遺物名	材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考
296	SD08北清	直筒器	骨	舟形	推10.2	残2.1		回転ナデ	回転ナデ	古墳古段階	
297	SD08北清	土師器	土	?	残1.6			調整不明	回転ナデ、板状伝灰?		
298	SD08東北	直筒器	骨	舟形	残1.4			回転ナデ	回転ナデ	前期新段階	
299	SD08東北	直筒器	土	舟	残4.8			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ?	?	
300	SD08	直筒器	骨	舟形	推14.8	残3.9		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	前期中段階	
301	SD08P5	直筒器	骨	舟形	残3.6	推5.0		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	前期古段階~中段階	
302	SD08P8	直筒器	骨	舟形	残2.0			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階	
303	SD08P4	直筒器	骨	舟形	残1.8			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階	
304	SD08P9	土師器	高井	舟形	残2.3			調整不明	調整不明	中期新段階	
305	SD26	直筒器	骨	舟形	残2.1			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階~新段階	
306	SD26	直筒器	骨	舟形	残1.6			回転ナデ	回転ナデ	中期新段階~新段階	
307	SD26	直筒器	骨	舟形	残1.9			回転ナデ	回転ナデ	中期	
308	SD26船上	直筒器	舟形	舟形	推11.0	残2.5		回転ナデ	回転ナデ	早期前段階~船形段階	
309	SD26	直筒器	舟形	舟形	残1.4			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	中期中段階か?	
310	SD26	直筒器	舟形	舟形	残3.6			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	中期中段階~新段階	
311	SD26船上	直筒器	舟形	舟形	残1.3	推8.2		回転ナデ	自然縁、回転ナデ	中期中段階~新段階	
312	SD26	直筒器	舟形	舟形	残3.4	推10.2		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階~中段階	
313	SK019	直筒器	骨	舟形	残2.4			回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ	中期中段階~新段階	
314	SK020	直筒器	骨	舟形	残1.7			回転ナデ	回転ナデ	中期	
315	SK037	直筒器	骨	舟形	残2.0	推12.6		回転ナデ	回転ナデ	中期中段階	
316	SD11SK40	直筒器	舟形	舟形	残2.2			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	中期古段階	
317	SK043	直筒器	舟形	舟形	残2.5			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階	
318	SK044	直筒器	舟形	舟形	残3.0	推14.2		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階	
319	SK059	直筒器	土	舟形	残2.4	5.0		調整不明	調整不明、筒サエ?		
320	SK055	直筒器	舟形	舟形	残3.1			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	中期中段階~新段階	
321	SK077	直筒器	舟形	舟形	残1.6			回転ナデ	回転ナデ	中期古段階	
322	SK079	直筒器	舟形	舟形	推0.8	推7.4		調整不明	調整不明	中期古段階	
323	SK081	直筒器	舟形	舟形	残1.3			回転ナデ	回転ナデ	中期古段階	
324	SK080	直筒器	舟形	舟形	推11.1	残3.1		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	古墳古段階	
325	SK104	土師器	土	舟形	推14.0	残9.9		調整不明	ハケ調整		
326	SK138	直筒器	舟形	舟形	推9.8	残5.1		回転ナデ	回転ナデ	古墳古段階	
327	SK111	直筒器	舟形	舟形	推2.6			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階	
328	SK139	直筒器	舟形	舟形	推9.8	残1.6		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階	
329	SK250	直筒器	無蓋舟形	舟形	推11.6	残2.3		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階	
330	SK250	土師器	土	舟形	推1.9	推4.8		調整不明	調整不明	中期古段階	
331	SK250	直筒器	舟形	舟形	推1.8			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階~新段階	
332	SK252	直筒器	舟形	舟形	推11.2	残3.4		回転ナデ	回転ナデ	中期	
333	SK252	直筒器	舟形	舟形	推9.6	残2.3		回転ナデ	回転ナデ	中期前段階~中期古段階	
334	SK253	土師器	土	舟形	推2.5			調整不明	調整不明	中期中段階	
335	SK265	直筒器	舟形	舟形	推1.8			回転ナデ	回転ナデ	中期古段階~中段階	
336	SK285	直筒器	舟形	舟形	推11.8	残4.4		回転ナデ	回転ナデ、器物のため調整不明	中期古段階	
337	SK304	土師器	高井	舟形	推4.3			段付瓶	ハラケズリ?	中期	
338	SK305	直筒器	舟形	舟形	推9.4	残4.9		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	中期新段階	
339	SK313	直筒器	舟形	舟形	推2.7			回転ナデ	回転ナデ	中期古段階	
340	SK306	直筒器	舟形	舟形	推3.8			回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	中期古段階	
341	SK306	土師器	土	舟形	推16.0	残8.4		調整不明	ハケ調整		
342	SK437	直筒器	舟形	舟形	推9.4	残1.5		回転ナデ	回転ナデ	中期新段階	
343	SK441	直筒器	舟形	舟形	推11.9	残1.9		回転ナデ	回転ナデ、自然縁	中期古段階	
344	SK443	直筒器	舟形	舟形	推11.8	残1.8		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階~中段階	
345	SK471	直筒器	舟形	舟形	推13.0	残3.2		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階~中段階	
346	SK471	直筒器	舟形	舟形	推16.5	残2.4		回転ナデ	回転ナデ、自然縁	中期古段階~中段階	
347	SK475	直筒器	舟形	舟形	推14.1	推12.2		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階~中期古段階	
348	SK490	直筒器	舟形	舟形	推3.1			回転ナデ	回転ナデ	中期古段階	
349	SK519	直筒器	舟形	舟形	推1.8			回転ナデ	自然縁、回転ナデ	中期	
350	SK468	直筒器	舟形	舟形	推3.0			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階	
351	SK520	直筒器	舟形	舟形	推12.4	3.5		回転ナデ	回転ナデ	中期新段階	
352	SK520	直筒器	舟形	舟形	推2.6			回転ナデ	回転ナデ	中期中段階	
353	SK520	土師器	土	舟形	推2.1			調整不明	調查不明	中期古段階	
354	SK550	直筒器	無蓋舟形	舟形	推15.2	残5.3		回転ナデ	回転ナデ、ハラケズリ	中期新段階	
355	SK550	直筒器	舟形	舟形	推2.3			回転ナデ	回転ナデ	中期新段階~中期古段階	
356	SK550	土師器	土	舟形	推4.0			調整不明	一部脇折	調査不明	
357	SK569	直筒器	舟形?	舟形	推3.9	推4.0		回転ナデ	ハラケズリ	中期古段階~中段階	
358	SK570	直筒器	舟形	舟形	推14.2	残4.4		回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ	中期中段階	
359	SK080	直筒器	舟形	舟形	推11.8	残3.1		直瓶	直瓶	古墳古段階	
360	SK080	直筒器	舟形	舟形	推11.8	残1.4		回転ナデ	回転ナデ	中期古段階~中段階	
361	SK080	直筒器	舟形	舟形	推6.0			調整不明	回転ナデ、調査不明、ス付着		
362	SK409	直筒器	山茶碗	舟形	推14.6	残3.8		回転ナデ	自然縁	中期	
363	SK477	直筒器	山茶碗	舟形	推4.9			直瓶	直瓶		
364	SB04P13	土師器	高井	舟形	推6.0			上2.1、ハラケズリ?	(不明)		
365	SB04P3	直筒器	舟形	舟形	推12.6	残3.8	推9.4	回転ナデ	回転ナデ	古墳古段階~中段階	
366	SB11P3	土師器	土	舟形	推2.0			調整不明	調整不明		
367	SB11P3	土師器	土	舟形	推23.0	残2.5		ス付着	ス付着、調査不明		
368	SB11P7	直筒器	舟形	舟形	推2.2	推7.8		回転ナデ	回転ナデ、回転切削	古墳古段階	
369	SD010	直筒器	舟形	舟形	推11.6	残3.7		回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ、自然縁	中期新段階~中期古段階	

## 遺物一覧表(6)

国版番号	遺物番号	種類	部	口径	器高	底径	内	外	筋	備考
370	SD01	須志器	柄蓋	幅4.4	98.5	回転ナデ	回転ナデ			前期前段階～新古段階
371	SD01	須志器	はそう	幅10.0	98.4	回転ナデ	回転ナデ			IV期古段階～中段階
372	SD01	尾頭型	小鉢	幅9.9	98.0	回転ナデ	回転ナデ、回転系切痕			
373	SD01	須志器	追頭型蓋	幅8.4	93.4	自然輪、回転ナデ	自然輪、回転ナデ			Ⅴ期古段階～新段階
374	SD01	土師器	高杯	幅7.4		調整不明	調整不明			
375	SD01	須志器	無蓋高杯	幅4.4		回転ナデ	回転ナデ、櫛目文、ヘラケズリ			前期前段階
376	SD01	須志器	高杯	幅11.0	98.9	回転ナデ	自然輪、回転ナデ			Ⅳ期古段階
377	SD01	須志器	無蓋高杯	幅17.0	98.2	回転ナデ	回転ナデ、自然輪			前期前段階
378	SD01	須志器	直、輪點か?	幅8.0	97.0	回転ナデ	回転ナデ			前期前段階～新古段階
379	SD01	須志器	追頭型蓋	幅8.8	98.0	追6.0	自然輪、露筋、印花	自然輪、露筋、ヘラケズリ		
380	SD01	土師器	内耳鉢	幅26.2	94.5	調整不明	調整ナデ、調整不明、ススキ着			
381	SD07	須志器	柄蓋	幅4.5		回転ナデ	回転ナデ			Ⅲ期古段階
382	SD07	須志器	柄蓋	幅2.0		回転ナデ	回転ナデ			Ⅲ期古段階
383	SD07	須志器	柄身	幅1.9		回転ナデ	回転ナデ			Ⅲ期古段階
384	SD07	須志器	柄身	幅1.8		回転ナデ	回転ナデ			Ⅲ期古段階
385	SD07	須志器	柄身	幅10.6	93.0	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ?			Ⅲ期古段階
386	SD07	須志器	柄身	幅4.2		回転ナデ	回転ナデ			Ⅲ期古段階
387	SD07	土師器	高杯	幅1.9		調整不明	調整不明			
388	SD07	土師器	土師器	幅4.5		調整不明	調整ナエ、ヘラケズリ			
389	SD02	須志器	杯?	幅2.0		回転ナデ	ハラケズリ、回転ナデ			
390	SD02	須志器	はそう	幅11.8	98.4	回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期古段階
391	SD02	須志器	フラスコ型小平瓶	幅9.6	99.4	回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期古段階
392	SD02	須志器	高杯	幅1.1		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期前段階
393	SD02	土師器	側把手	幅5.3		調整不明	調ナサエまたはヘラケズリ			Ⅳ期古段階
394	SD18	須志器	柄蓋	幅1.1		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期
395	SD20	須志器	柄蓋	幅11.0	92.7	回転ナデ	回転ナデ			新古段階
396	SD20	須志器	柄身	幅3.8		回転ナデ	回転ナデ			新古段階
397	SD20	土師器	高杯	幅3.5		段り瓶? 調整不明	調整不明			
398	SD25	須志器	柄蓋	幅1.9		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期前段階
399	SN01	須志器	柄蓋	幅2.9		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期古段階～新段階
400	SN01	土師器	圓筒形蓋	幅11.8	98.8	灰輪	灰輪			
401	SN01	土師器	杯	幅1.6		調整不明	調整不明			
402	SN01	土師器	無蓋高杯	幅2.4	98.2	回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期古段階
403	SN01	須志器	直・瓶	幅2.6	91.2	回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期中段階～新段階
404	SN01	土師器	横瓶	幅2.4		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期古段階～中段階
405	SN01	須志器	高杯	幅1.0	97.6	回転ナデ	自然輪、回転ナデ			Ⅳ期前段階
406	SN01	須志器	直・瓶	幅2.4	94.4	回転ナデ	自然輪、回転ナデ			Ⅳ期中段階～新段階
407	SN01	土師器	瓶	幅2.4		調整不明 (回転ナデ?)	調整不明 (回転ナデ?)			
408	SN01	土師器	製塩土器	幅3.9			調ナサエ			
409	SN01	尾頭型	山茶碗	幅6.7		回転ナデ	回転ナデ			\$型式
410	SN01	土師器	山茶碗	幅2.0		回転ナデ	回転ナデ			\$型式
411	SN01	土師器	甕	幅3.8	98.4	調整不明	調整不明			
412	SN01	土師器	付口瓶	幅19.8	94.7	調整不明	調整不明			
413	SN02	須志器	柄蓋	幅1.5		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ			Ⅳ期前段階
414	SN02	須志器	柄	幅1.4	98.0	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ			Ⅳ期前段階～新古段階
415	SN04	須志器	柄蓋	幅1.6		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期前段階
416	SN04	須志器	柄身	幅1.9		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期古段階
417	SN04	須志器	杯A	幅10.0	94.0	回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期
418	SK427	須志器向島型	甕	幅5.3	22.0	泡ナサエ	泡ナサエ、砂粒			
419	漫丸	須志器	柄身	幅10.0	93.0	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ			Ⅳ期前段階～新古段階
420	漫丸	須志器	柄身	幅10.6	92.8	回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期前段階
421	楕I	須志器	柄蓋	幅1.4		回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期前段階
422	楕I	須志器	追頭型蓋	幅2.6		灰輪	灰輪			Ⅳ期前段階
423	楕I	須志器	柄蓋	幅1.0		回転ナデ	自然輪、回転ナデ			Ⅳ期
424	楕丸	土師器	甕	幅2.2	96.0	調整不明	調整不明			
425	楕丸	須志器	輪點か?	幅3.4	92.2	回転ナデ	回転ナデ			Ⅳ期前段階
426	SB12 (楕丸)	尾張型	山茶碗	幅1.7		回転ナデ	回転ナデ、回転系切痕			
427	楕I	須志器	圓筒形蓋	幅1.4	93.4	灰輪	灰輪、露筋、灰輪			
428	楕I	須志器	柄蓋	幅1.1	96.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
429	SB06	石製品	菅玉							
430	SB05	石製品	臼玉							
431	SB05	石製品	臼玉							
432	SB05	石製品	臼玉							
433	SB09	石製品	臼玉							
434	SB09	石製品	臼玉							
435	SB07	石製品	臼玉							
436	SB07	石製品	臼玉							
437	SB07	石製品	臼玉							
438	SB07	石製品	臼玉							
439	SB07	石製品	臼玉							
440	SB07	石製品	臼玉							
441	SB01	石製品	砾石?							
442	SB01	石製品	砾石?							
443	SB01	石製品	砾石?							

遺物番号	遺物番号	产地・材質	器種	口径	基高	底径	内面	外面	粘土	備考
444	SB01	石製品	砾石?							
445	SB01	石製品	砾石?							
446	SB01	石製品	砾石?							
447	SB03	石製品	砾石?							
448	SB04	石製品	砾石?							
449	SB05	石製品	砾石?							
450	SB05	石製品	砾石?							
451	SB05	石製品	砾石?							
452	SB06	石製品	砾石?							
453	SB06	石製品	砾石?							
454	SB06	石製品	砾石?							
455	SB09	石製品	砾石?							
456	SB05	石製品	石盤							
457	SB12	石製品	石盤							
458	檢 I	石製品	石盤							
459	檢 I	石製品	石盤							
460	檢出	石製品	石盤							
461	SD06	石製品	石盤							
462	SD09	石製品	石盤							
463	SB14	石製品	石盤							
464	SB18	石製品	石盤							
465	SB19	石製品	石盤							
466	SB13	石製品	使用痕剥片							
467	SB05	石製品	使用痕剥片							
468	SB01	石製品	使用痕剥片							

# 図版

遺構図版 図版 1～10

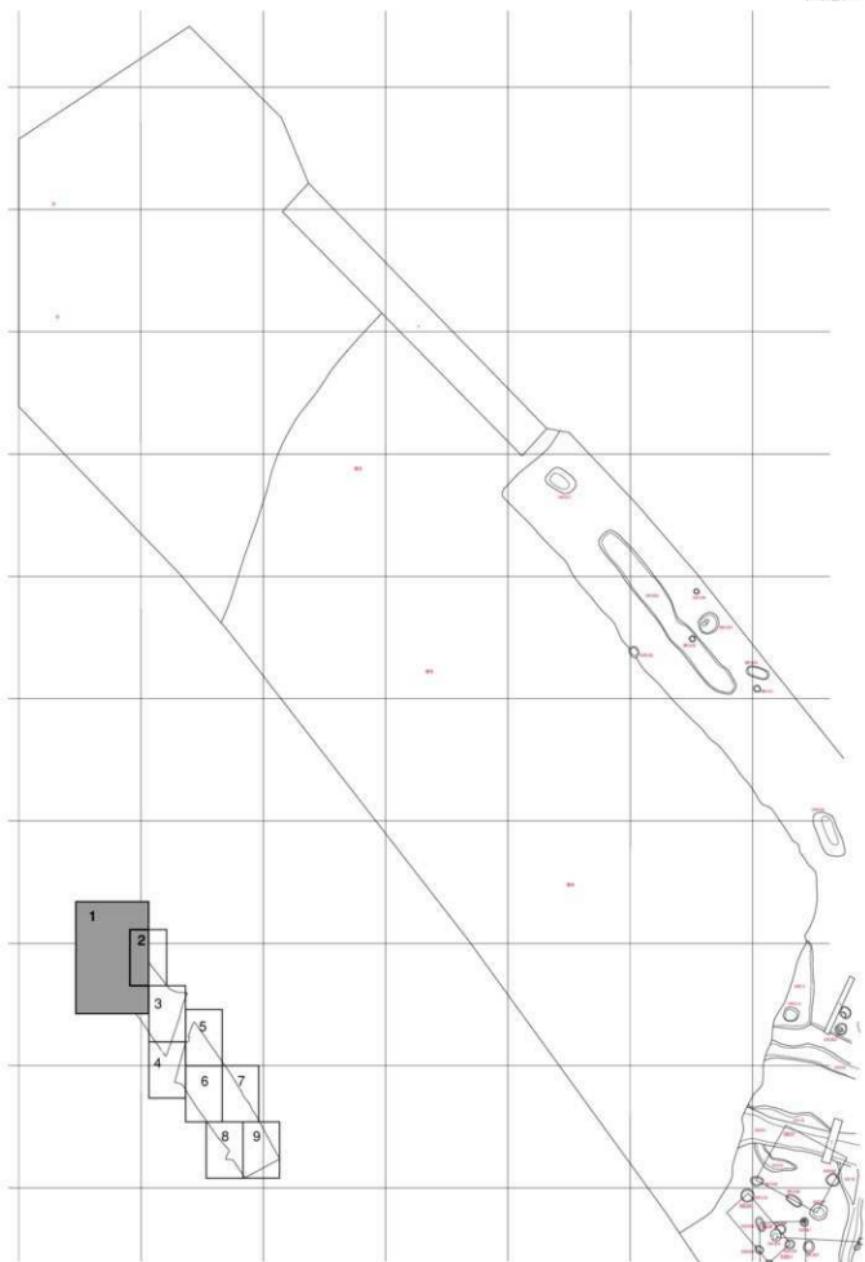
カラー写真図版 写真図版 1～4

白黒写真図版 写真図版 5～16

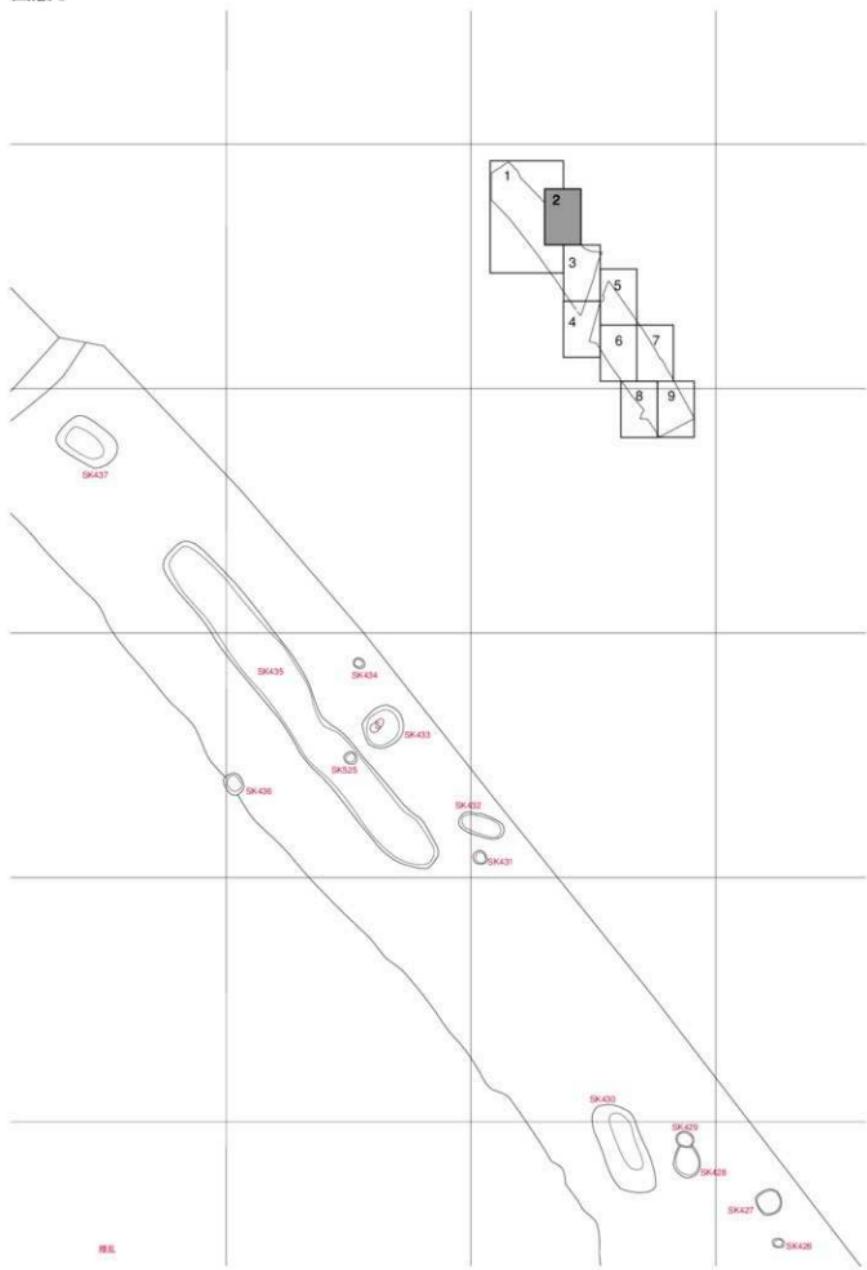
図版 1



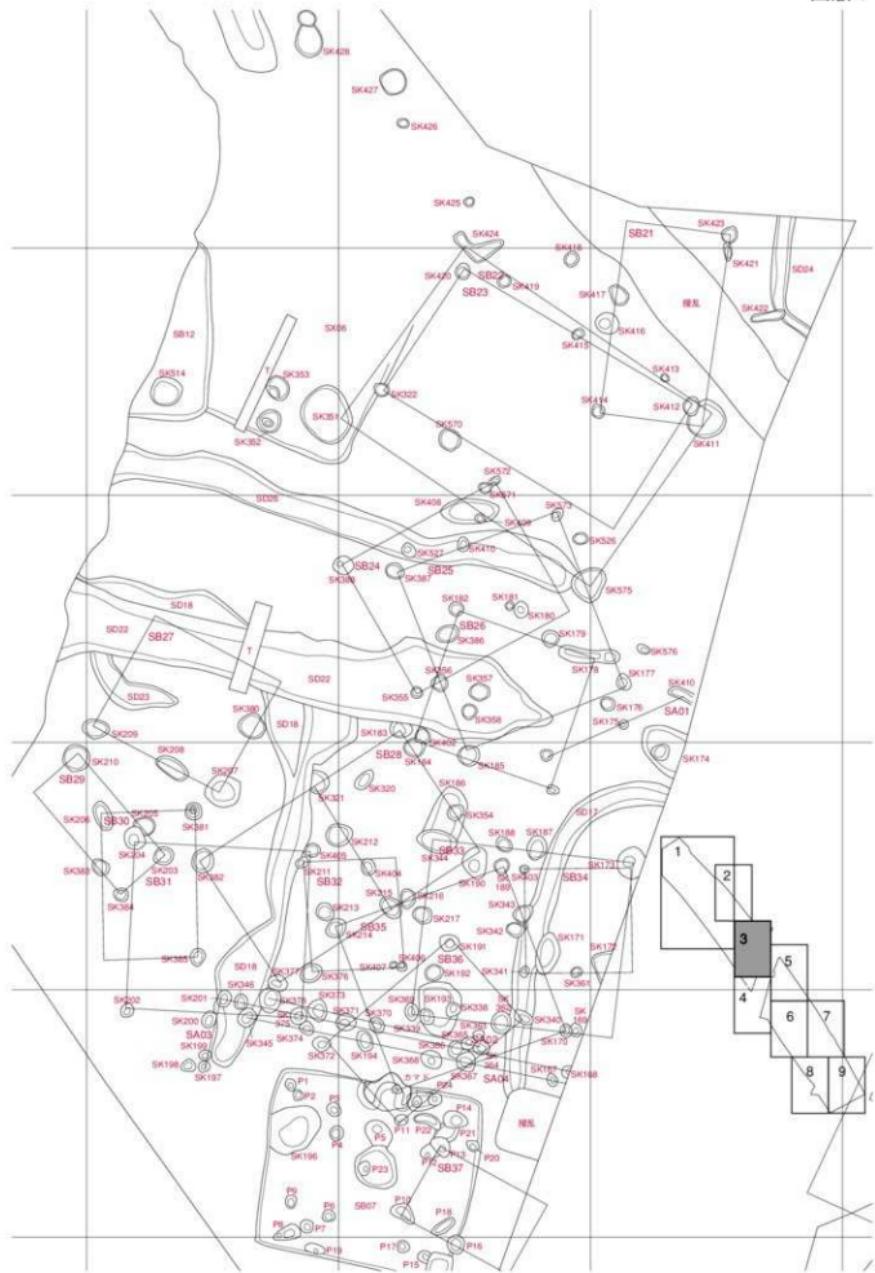
図版2



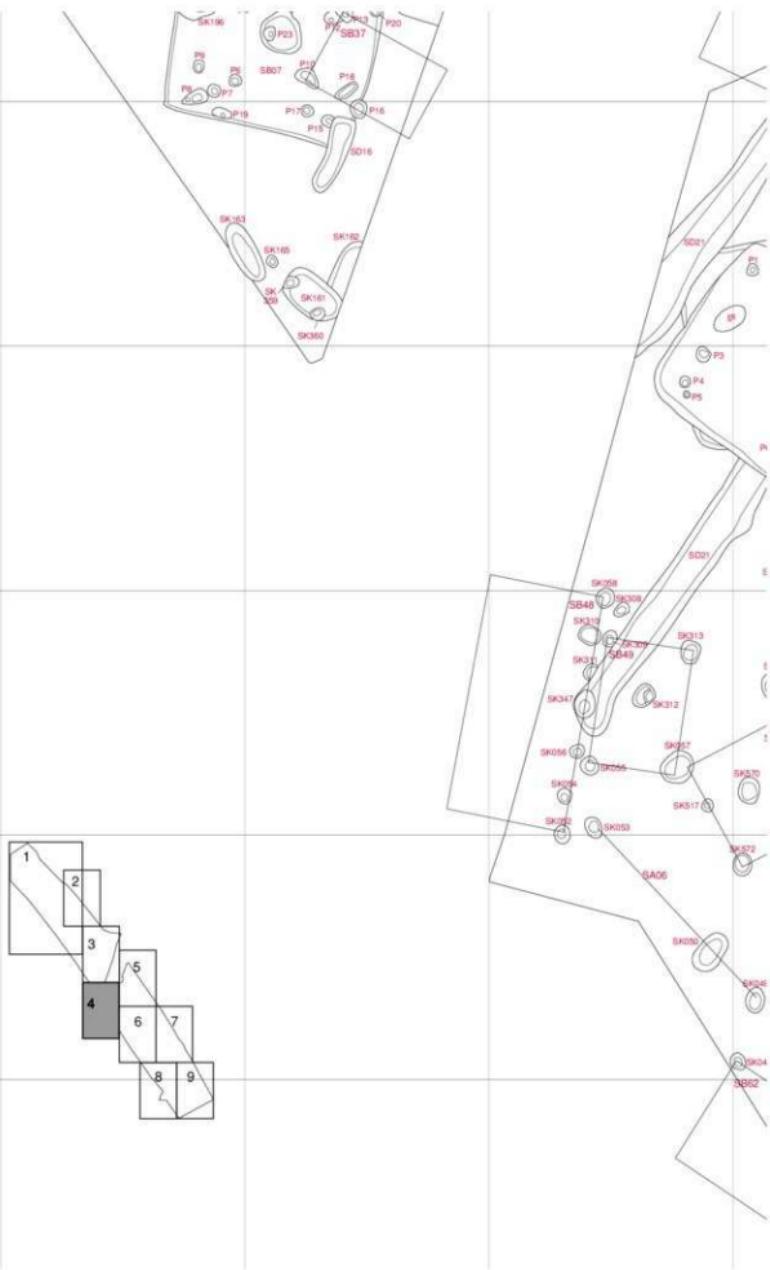
図版3



図版 4



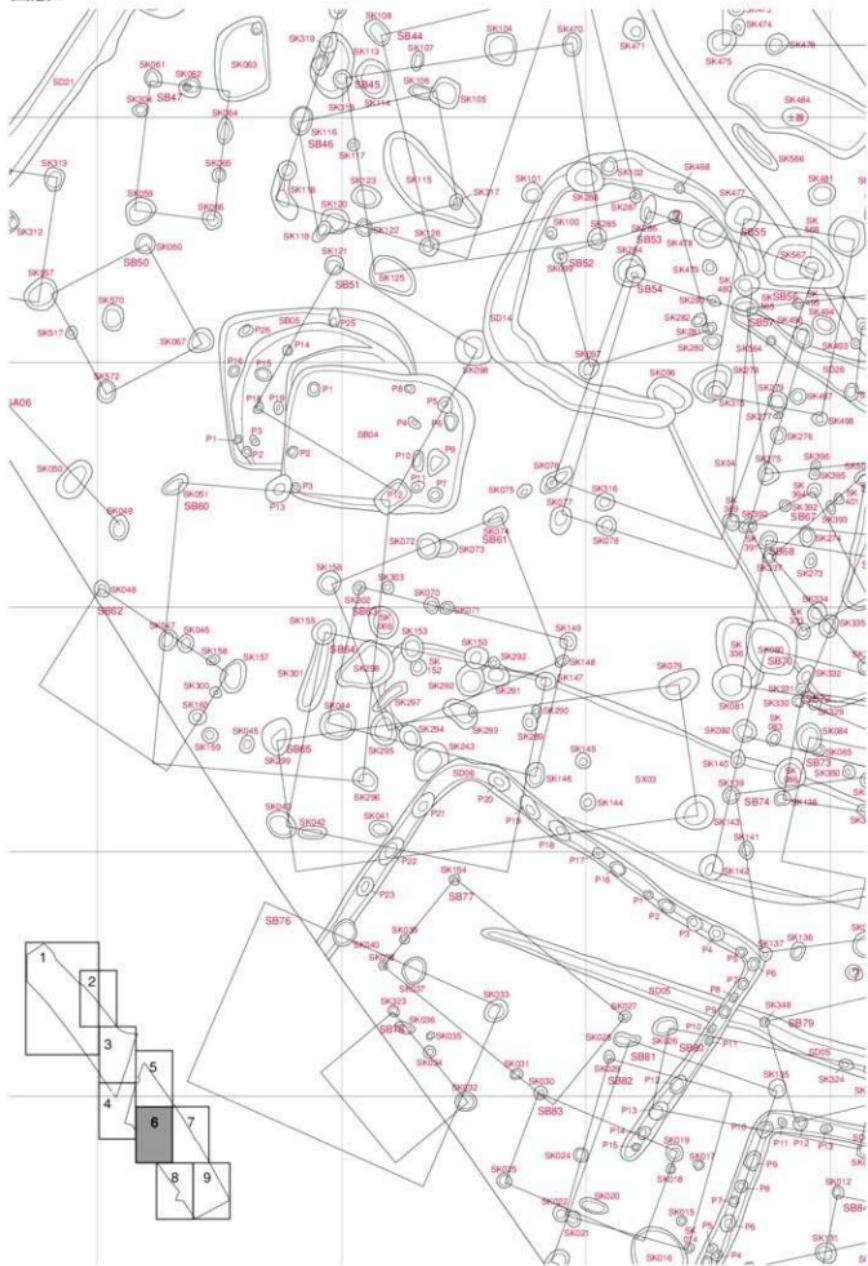
図版 5



図版 6



図版 7

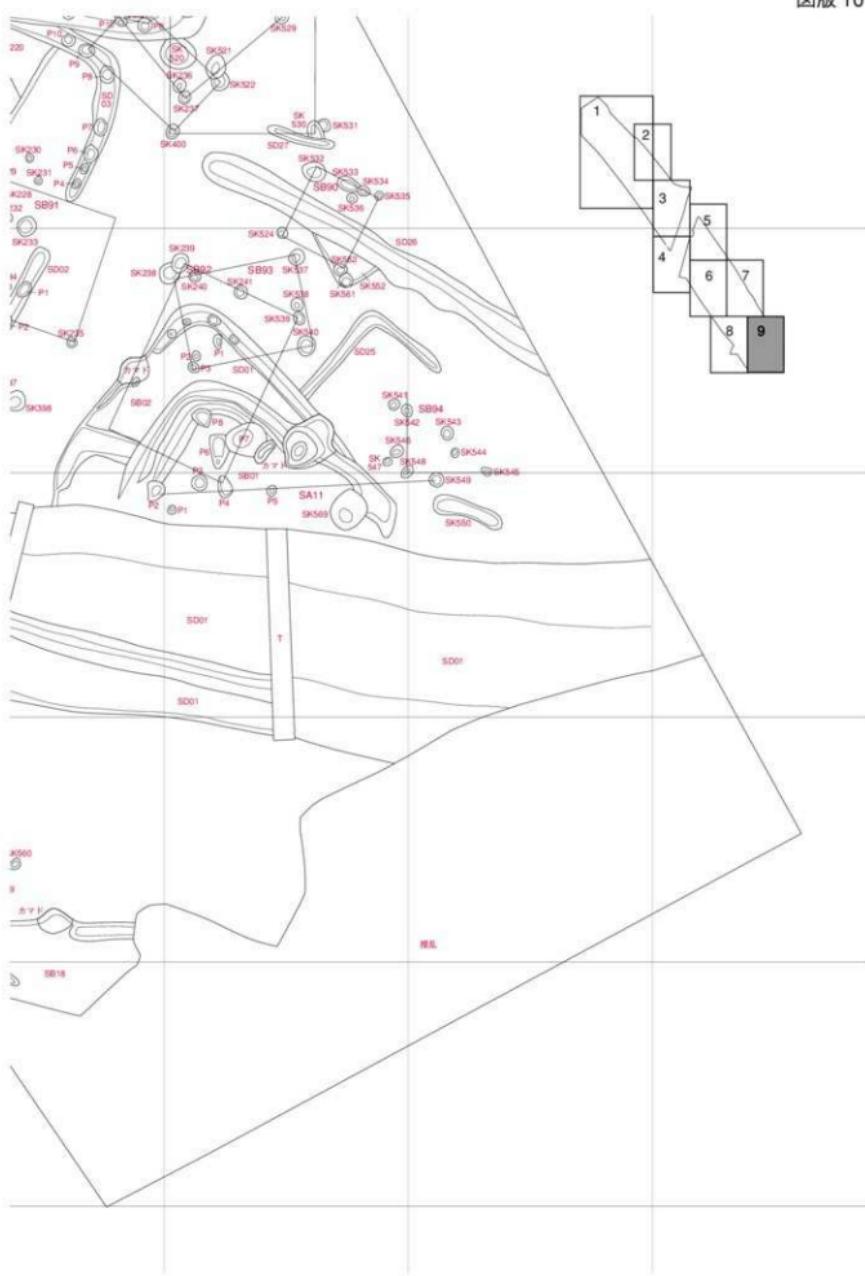


図版 8



図版 9





写 真 図 版



調査区全体（北からみる）中央左寄りの部分に見える林が鶯鴨城跡



南側調査区全体（南東からみる）

写真図版2



大壁建物跡全体（南東からみる）



大壁建物 S B 08 (北からみる)



大壁建物 S B 10・S B 11  
(北からみる)



SB 01・SB 02 完掘（南東からみる）



SB 07 完掘（北東からみる）



SB 04・SB 05 完掘（北東からみる）



SB 16 完掘（西からみる）



SB 06・SB 09 検出（東からみる）



SB 19 完掘（東からみる）



SB 09 完掘（西からみる）



SB 78 完掘（北東からみる）

写真図版 4

S B 04 出土遺物



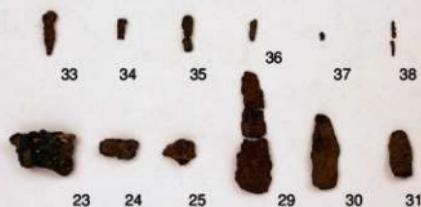
S B 19 出土遺物



石製品



S B 05 出土金属関連遺物





調査区全体（南東からみる）



調査区全体（北西からみる）



調査前の調査区の状況（南東からみる）



北側調査区東壁  
土層断面  
(北西からみる)

写真図版 6



SB 01 遺物出土状態（北東からみる）



SB 01・SB 02 完掘（東からみる）



SB 01 土層断面（南からみる）



SB 01・SB 02 完掘（北からみる）



SB 01 カマド検出状態（南からみる）



SB 02 カマド完掘（南からみる）



SB 01 カマド土層断面（南からみる）



SB 02 カマド土層断面（北東からみる）



SB 03 遺物出土状態（北からみる）



SB 03 カマド検出（北からみる）



SB 03 カマド土層断面（北からみる）



SB 03 鉄製品出土状態（南からみる）



SB 04 完掘（北からみる）



SB 04・05 土層断面（西からみる）



SB 04 遺物出土状態（北西からみる）



SB 05 遺物出土状態（北からみる）

写真図版 8



S B 06 完掘（北東からみる）



S B 06 遺物出土状態（北からみる）



S B 06 地床炉（北西からみる）



S B 09 遺物出土状態（西からみる）



S B 06・09 土層断面（南からみる）



S B 06・09 土層断面（南からみる）



S B 09 遺物出土状態（北東からみる）



S B 12 完掘（北からみる）



S B 07 カマド (南西からみる)



S B 07 カマド検出状況 (北からみる)



S B 07 土層断面 (東からみる)



S B 07 カマド断面 (南からみる)



S B 07 土層断面 (東からみる)



S B 07 遺物出土状態 (西からみる)



S B 13 遺物出土状態 (北からみる)



S B 13 遺物出土状態 (南東からみる)

写真図版 10



SB 15 遺物出土状態（西からみる）



SB 15 完掘（北西からみる）



SB 14 完掘（北東からみる）



SB 16 土層断面（東からみる）



SB 19 完掘（東からみる）



SB 16・SB 19 完掘（南東からみる）



SB 19 遺物出土状態（東からみる）



SB 19 遺物出土状態（西からみる）



SB 17 土層断面 (北からみる)



SB 17 完掘 (南東からみる)



大壁建物跡全体完掘 (南東からみる)



SB 08 東溝 (北からみる)



SB 08 北溝 (西からみる)



SB 08 北溝完掘 (西からみる)



SB 11 西溝 (北からみる)



SB 11 東溝 (北からみる)

写真図版 12



S B 11 北溝（西からみる）



S B 11 南溝（西からみる）



S B 10 西溝（南からみる）



S B 10 西溝（北からみる）



S B 10 西溝完掘（北からみる）



S B 11 東溝（北からみる）



S B 11 南溝（西からみる）



S B 42（北からみる）



SB 11 土層断面（北からみる）



SB 08 北溝土層断面（東からみる）



SB 11 柱穴検出状態（北からみる）



北側調査区掘立柱建物跡群(北からみる)



SD 01 土層断面（西からみる）



SD 01 土層断面（東からみる）

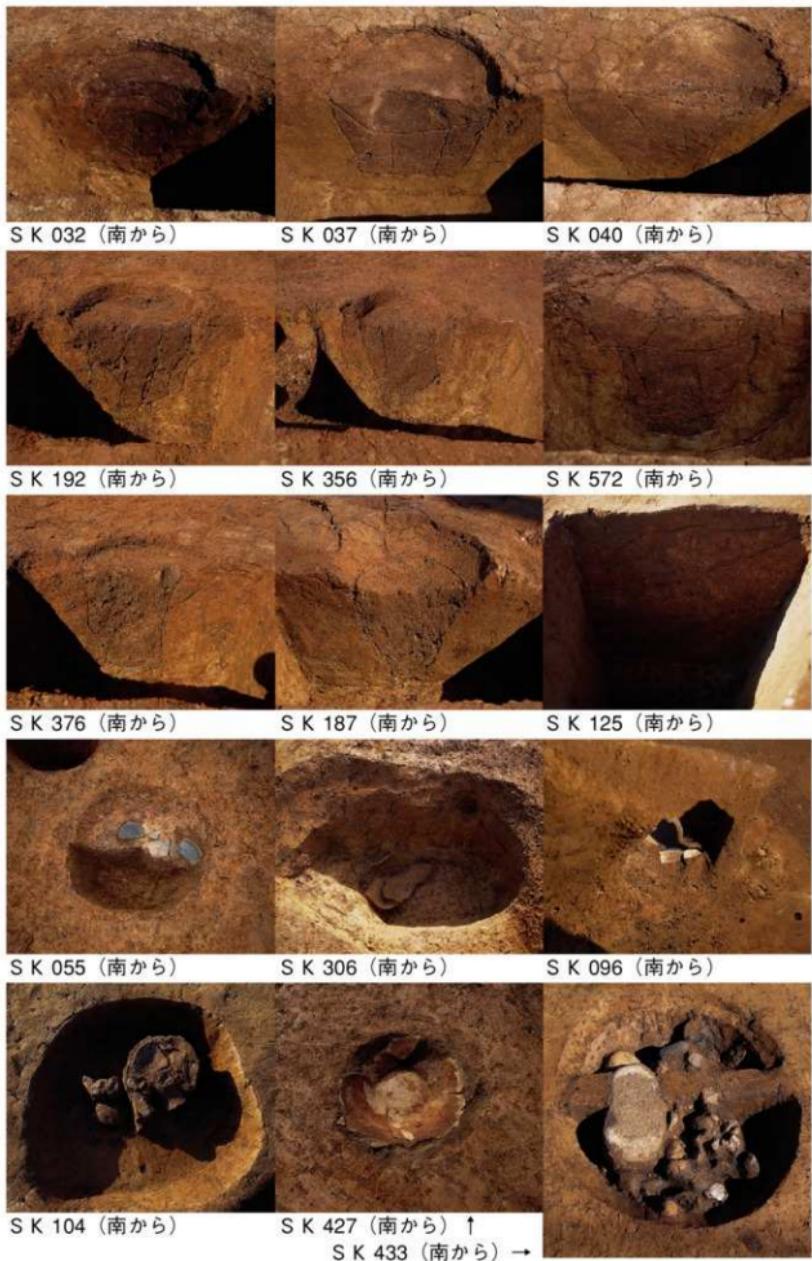


SB 20 完掘（西からみる）



SB 20 遺物出土状態（北からみる）

写真図版 14



S K 520 出土遺物



351

S D 01 出土遺物



369

S B 09 出土遺物



130

S B 08 (S D 03)  
出土遺物

269

S B 06 出土遺物



108

S B 13 出土遺物



174

S K 305 出土遺物



338

S K 570 出土遺物



358

S B 03 出土遺物



22

S D 14 出土遺物



263

S B 01 出土遺物

← 16, 8, 3, 12  
18, 15, 1, 1338, 26, 23, 36 →  
40, 39, 33, 35

S B 03 出土遺物



S B 05 出土遺物

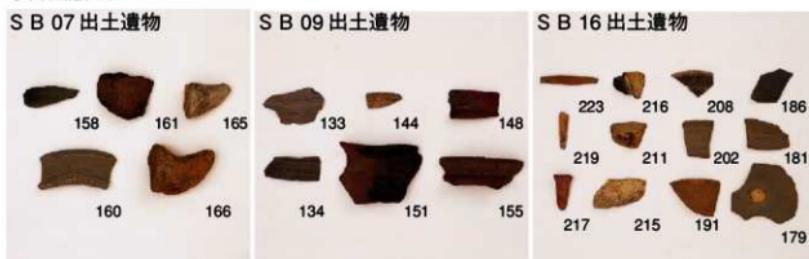
← 104, 103, 97, 96  
100, 101, 91, 92  
99, 98, 93109, 114, 110 →  
126, 119, 115

S B 06 出土遺物



写真図版 16

S B 07 出土遺物



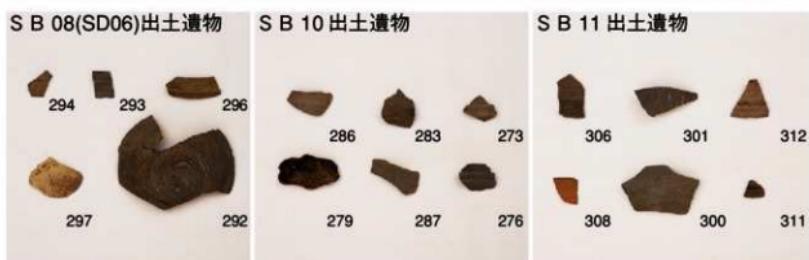
S B 09 出土遺物



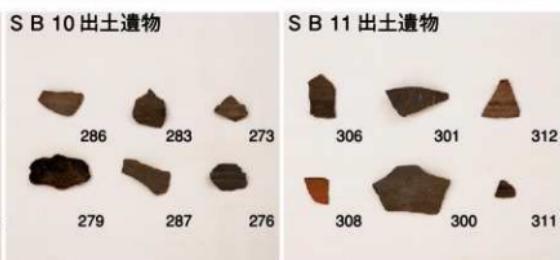
S B 16 出土遺物



S B 08(SD06)出土遺物



S B 10 出土遺物



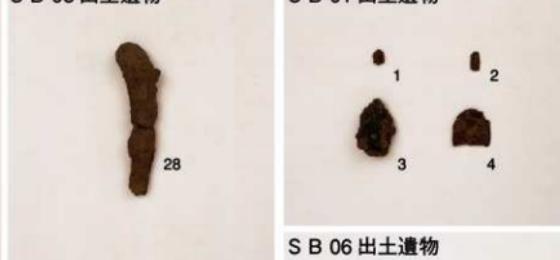
S B 11 出土遺物



出土石器



S B 05 出土遺物



S B 01 出土遺物



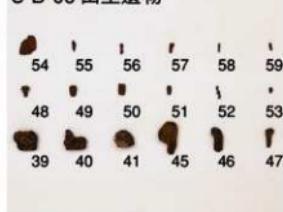
S B 03 出土遺物



S B 04 出土遺物



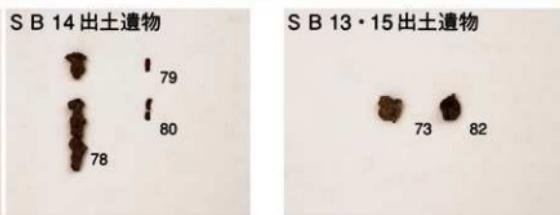
S B 06 出土遺物



S B 07 出土遺物



S B 14 出土遺物



S B 13・15 出土遺物



愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第102集

## 矢 迫 遺 跡

2002年8月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育サービスセンター  
愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 サンメッセ株式会社